

特定教育・保育施設等における事故情報データベース[令和3年5月12日更新]

No	初回掲載年月日	概要		発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面					ハード面						環境面		人的面													
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	死亡 死因	負傷 負傷状況		骨折 受傷部位	診断名	マニピュラルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】		その他要因・特記事項	改善策	教育・保育・支援の状況	その他要因・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・特記事項	改善策						
2027	平成30年6月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18		8	10	2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中				1.負傷											0.負傷											2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左首首の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施
2028	平成30年6月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	46	4	13	29	9	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯臼の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	12	2.基準配置	異年齢構成の遊戯時に、園児に対する職員配置調整に不具合や、音段から運動する際の園児同士の距離(距離)のとりに検討の余地があったと考えられる。	園児年齢構成の室内運動時、面積や園児数、職員配置について危険因子がないか事前にシュミレーションを行う。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	24	2.不定期実施	12	リズム運動時、付近には危険要因となる物はなかったが、年齢に応じた運動の細かい把握が不十分であった。	各年齢ごとのリズム運動の内容と面積を併せて危険性を考えられる。	1.集団活動中・見守りあり	職員間で、恒例のリズム運動の認識があり、園児の行動範囲の観察が欠如していたと考えられる。	1.いつも決まっていたため普段どおりに運動した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	リーダになってリズム運動を進めながら、3歳児全体の動きも見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	0・1歳児担任は、3歳児の運動も観察できる位置に、0・1歳児と一緒にいた。本児の担任は、他の3歳児担任と一緒に運動していたため、転倒時にも必要である。	0・1歳児クラスの担任は、全体の動きも把握し、運動中に気をつける必要がある。	同じ空間(遊戯室)にいる時は、クラス担任に気をつけて全体の保育者として同じ意識をもつ、園児の保育に間を必要ならなければならない。			
2029	平成30年6月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	38		38	2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	2	2.基準配置	体育講師が遊び箱のわきに居れば良かった。	職員がもうひとつ見守りできなかった	2.不定期実施	3	1.定期的実施	24	2.不定期実施	12	遊び箱の安全確認もして、周囲に安全用のマットも敷いてあった	少し自信が足りて、余裕が出てしまった	1.集団活動中・見守りあり	園児、職員共に危険性を考え、いつでも真剣に見守りしていた	1.いつもおどおどした様子であった	真面目に取り組んでいたが、余裕が足りなかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一連の動きの中で、手を間違った	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊び箱と鉄棒を分けていたが、近くにはいなかった	改めて注意事項を子ども達に伝える。	もっと職員の手が足りていなかった		
2030	平成30年6月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	62		27	21	14	23	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左首首の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	給食後で職員が少なく、見守りが不十分だった。	給食後に部屋で見守りを確保する	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	96	給食後で職員が少なく、見守りが不十分だった。	給食後に部屋で見守りを確保する	3.個人活動中・見守りあり	給食後に部屋で見守りを確保する	1.いつもおどおどした様子であった	給食後に部屋で見守りを確保する	4.対象児の動きを見ていなかった	給食後で片付けや他の園児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	給食後で片付けや他の園児の動きを見ていなかった	給食後に部屋で見守りを確保する	給食後に部屋で見守りを確保する	

2035	平成30年6月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	96	34	32	30	5	6	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 5.口腔内受傷 2.顔面(口腔内含む) 前歯 外傷 性歪脱臼 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 1.定期的実施	2.基礎配置	1.定期的実施	3	1.定期的実施	24	1.定期的実施	200	砂や水がなくて滑る可能性のある場所であること 今回も砂や水等の影響はなかったが、子ども達も園庭にでる際には滑りやすい箇所を水を取り除くことの確認を徹底し、より一層の安全配慮を心掛ける。 1.集団活動中・見守り 3.個人活動中・見守り	園庭での遊びや、園児が大勢で活動する時は、担任より園長、副園長、主任保育士の保育士が安全のために子どもの見守りをす。また、危険を予測し、即時に保育士が共通理解できるようにする。 バスを待つ時間が長いので、子どもが先走りや、注意が散漫になる。 1.いつもの様子であった	特に動きの激しい子で、運動的であったが、身体的に弱かった。本園に転入した際に、園庭で遊ぶのが好きで、担任より園長、副園長、主任保育士の保育士が安全のために子どもの見守りをす。また、危険を予測し、即時に保育士が共通理解できるようにする。 バスを待つ時間が長いので、子どもが先走りや、注意が散漫になる。 1.いつもの様子であった	少し離れたところを見ていた。本園に転入した際に、園庭で遊ぶのが好きで、担任より園長、副園長、主任保育士の保育士が安全のために子どもの見守りをす。また、危険を予測し、即時に保育士が共通理解できるようにする。 バスを待つ時間が長いので、子どもが先走りや、注意が散漫になる。 1.いつもの様子であった	担当のバスに乗る子ども達と一緒に遊んでいた。 職員も遊ぶ職員、見守りの職員がきき役割を確保し、何かあった時には対応できるようにする。子ども達には遊び方や安全な使い方等について指導するとともに、職員も定期的に安全について職員会議等で確認する。
2036	平成30年6月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	1.朝(始業3～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内) 5.4歳児クラス	39				2	2	17.5歳	2.女児	2.室内活動中 1.負傷 0.負傷 4.創傷(切創・裂創等) 2.顔面(口腔内含む) 顔面汚染 創 顔面割創 3.子ども同士の衝突によるもの 1.あり 2.不定期的実施	1.基礎配置	1.定期的実施	24	1.定期的実施	24	1.定期的実施	12	ままごとコーナーから廊下、廊下からままごとコーナー共に死角となっていたため、互いに死角から飛び出すことになった。 ままごとコーナー等遊具の向きを変え、死角からの飛び出しを防止する。 3.個人活動中・見守り	園児が思い思いの場所を遊び回っており、保育士が室内を巡回して見守りをしていたこと。 園児には、廊下を歩くことへの危険性を伝えていく。 1.いつもの様子であった	ままごとコーナー等遊具の向きを変え、死角からの飛び出しを防止する。 3.個人活動中・見守り	隣の教室へ遊びを移すことになった。 隣の教室へ遊びを移すことになった。 1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもの特徴について、事前に共有し、担任の学年以外の子でも注意しなければならぬことを確認し、1日の計画を職員全体で把握しておく必要があった。 職員が園児のそばから離れる時は必ずその子の手を握る。また、職員は廊下に分かれた様子を見ておく必要があった。
2037	平成30年6月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内) 3.2歳児クラス	41				7	7	14.2歳	1.男児	2.室内活動中 1.負傷 0.負傷 6.その他 2.顔面(口腔内含む) 外傷性歯牙脱臼 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 1.定期的実施	1.基準以上配置	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	0歳児用の遊具が普及しない場所・すぐに遊具が壊れる場所として使用しているが、活用ができていなかった。 7名の職員で子どもを巡回して見守りを行う。 1.基準以上配置	移動する通路に不要な遊具がある危険性を考慮し、危険性を減らすことを行った。 子どもの動きを考慮し、廊下には不要なものがない。 3.いつもの様子であった(理由を記載)	移動する通路に不要な遊具がある危険性を考慮し、危険性を減らすことを行った。 子どもの動きを考慮し、廊下には不要なものがない。 3.いつもの様子であった(理由を記載)	対象児が当てる瞬間に手を離したため、対象児が倒れた。 1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	廊下に不要なものを置かないこと周知し、園児の動きに合わせて、職員間で連携し声掛けを行い、対応する。
2038	平成30年6月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	1.施設敷地内(室内) 5.4歳児クラス	44				3	2	17.5歳	1.男児	2.室内活動中 1.負傷 0.負傷 6.その他 2.顔面(口腔内含む) 外傷性Lux下唇裂傷 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 1.定期的実施	1.基準以上配置	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	園児自身のつま先で怪我の原因となった。 運動の練習前には、あらかゆる事故を予測し、不要な物を置かない等環境を整える。 1.集団活動中・見守り	事前に園児への注意喚起を行うと共に、園児の動きを予測し、必要に応じて足が掛かると判断した場合は、声掛けを行い、園児の動きを誘導する。 1.いつもの様子であった	園児の動きを予測し、必要に応じて足が掛かると判断した場合は、声掛けを行い、園児の動きを誘導する。 1.いつもの様子であった	全員で縄跳びの練習をするときに、対象児が手を離したため、対象児が倒れた。 1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一人一人の運動能力を把握し、環境を整え、常に全体に目を配り、特に注意が必要な園児に対しては個別に声をかける。

2038	平成30年6月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10.2.午前中	1.施設敷地内(室内) 2.1歳児クラス	34				7	7	14.2歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 6.その他	4.上肢(腕・手・手指) 右母指打撲傷	4.玩具・遊具等設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的実施						12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	子どもの行動を予測し、安全な環境と見守りがなかった。 すぐに雇が閉まらないうちに力をつけ、園児が閉まらないうちに注意を払う。 1.集団活動中・見守りあり 雇の近くに子どもがいた場合、注意して見守る必要がある。 園児の様子を把握し、職員を掛け合い危険を回避する。 1.いつもの様子であった 普段と変わらない様子であった。 2.対象児に近い様子であった 対象児が手を振り、腕間に挟まられた。 1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた) 他児と関わったため、対応できなかった。 雇の危険を常に予測し、周囲の状況に注意を払う。 担当職員のみが閉まらないうちに、周囲に注意を促す確認を行う。雇の周囲に注意を払う。
2040	平成30年6月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10.2.午前中	1.施設敷地内(室内) 6.5歳以上児クラス	19				2	2	17.5歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	3.体幹(首・胸部・腰部・臀部) 左鎖骨骨折、左肩挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施						12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	安全管理には配慮していたが、十分ではなかった。 保育室内外の危険箇所を予知し、危険箇所を固定させたり、危険箇所を標示して示していく。 保育教諭同士で園児の安全確認を行っていたが十分ではなかった。 保育教諭同士でどう動くべきかを再確認し話し合っていく。 「危険」という言葉が、言葉のみで行動を制止することは、看護師は見てもらえない。勝手な判断をせず、いつもと様子が変わる時は、看護師は見てもらう。 目配りを忘れず、危険なものや危険なものを共有し、共通理解し、手前を判断せず、いつもと様子が変わる時は、看護師は見てもらう。 目配りを忘れず、危険なものや危険なものを共有し、共通理解し、手前を判断せず、いつもと様子が変わる時は、看護師は見てもらう。
2041	平成30年6月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	17.午後	1.施設敷地内(室内) 6.5歳以上児クラス	84				5	5	18.6歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右小指基部骨折	8.その他	1.あり	1.定期的実施						12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	365	1.定期的実施	365	木製フロンテで特に問題はなかった。 特になし 1.集団活動中・見守りあり 指先でボールを取っていた。ボールの取り方についての指導が不十分であった。 どの様にボールを取れば良いか実践しながら指導を行う。 3.いつもより活発であった(理由を記載) 意欲的にドッジボールに活発的であった。 2.対象児に近い様子であった 試合中対象児の動きを見ていたが、ボールの取り方までは見ていなかった。 1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた) 担当職員と同様にボールを打っていたが、取り方までは見ていなかった。 室内遊戯室には5名の職員がおり、ボールを取りながら試合を見ていたが、問題はなかった。 ボールの取り方もしっかりと確認ができていた。又、終了後に怪我がなかったことを確認した。
2042	平成30年6月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 6.5歳以上児クラス	31				2	2	17.5歳	2.女児			1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右尺骨近位端骨折、頭部挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.定期的実施						200	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	200	子どもが山を駆け下りた場合、十分なスペースが確保されなかった。 遊具の設置場所が適切か再検討する。 1.集団活動中・見守りあり 集団遊びで山を遊んでいたこと。 集団遊びの際は遊具のそばで遊ばないよう注意を促す。 1.いつもの様子であった 一緒に氷鬼をして遊んでいた。 2.対象児に近い様子であった 一緒に氷鬼をして遊んでいた。 2.担当者・対象児の動きを見た 保育室で他の園児を保育していた。 子どもと一緒に遊ぶ中で、園児一人ひとりの動きに注意を払っていた。 子どもの行動から事故を予測し、注意を促すなど早期対応をする。

2047	平成30年6月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	54													2	2	18.6歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第2趾基節骨骨折	3.子ども同士衝突によるもの	2.なし	1.定期的実施	2.基準配置	整列する際の間の隙、慌てる声かき不足	落ち着いた行動と整列の際の間隔を広くおけるよう指導	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	3.未実施	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	広いところで整列をする。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	人気のホールでの運動遊びの為に、全体として興奮気味であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	整列の為に、すぐそばにいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	整列の為に、すぐそばにいた。	特になし	興奮を鎮めて行動させる。
2048	平成30年6月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)																17.5歳	1.男児	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	事故防止年間計画、学校安全計画	1.基準以上配置	事故場所での安全面の指導、予防策を検討。		1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	危険な場所の角にカバーをかけた。花壇にマットをひいた。	7.その他	普段の遊びの方を見守る。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態も良好で、午後も体操教室等に参加していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員が少し離れた部分から園庭にいた対象児を見ていたが、落下の際に合図がなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離にいたが他の子どもの管理をしていたため、落下した際に合図がなかった。	見守りの数を増やす。危険予知し、目を配る。		
2049	平成30年6月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13	1	5	2	2	1	2								7	7	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨頸上骨折、左肩関節脱臼	1.遊具等からの転倒・落下	1.あり	1.定期的実施	事故防止年間計画、学校安全計画	1.基準以上配置	事故が起こった原因や再発防止に向けて話をした。		1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	人工芝は敷いてあったが遊び方について再度確認するようにした。	1.集団活動中・見守りあり	クラスごとに遊具の遊び方をした。	1.いつもどおりの様子であった	午前中も、室内でも遊びをして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で遊具を片づけをしながらかつて、落下した際に対象児を見ていたが間に合なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員と同じく片付けを促した。他の子どもの管理をしていたため、至近距離にいたが対象児を見ていなかった。	遊具の安全な遊び方を確認するようにした。
2050	平成30年6月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	54		9	11	13	21									6	6	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨頸上部若木骨折	1.遊具等からの転倒・落下	1.あり	1.定期的実施	事故防止年間計画、学校安全計画	1.基準以上配置	遊び方の指導。		1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	遊具及び遊び方の安全性の見直し。	3.個人活動中・見守りあり	普段の遊びの方を見守る。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子で活動していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遠くからうろついて遊んでいたため、落下した際に間に合なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の幼児と混ざり対応していた。	遊具側に保育教諭を配置する。
2051	平成30年6月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	62		30	32											8	8	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	1.意識不明		無熱性けいれん	8.その他	1.あり	3.未実施	1.基準以上配置	痙攣前に気づきやすいたが、人的配置は難しい。今後は直後に判断できたが、非常にわかりづらいので判断が難しい。	いつ、どこで起きるか分からない以上、四六時中目が離せない状況だが、人的配置は難しいので、全職員で見守っていくしかない。		1.定期的実施	12	1.定期的実施	23.未実施	緊急時にかけの医療機関に緊急搬送できないため、救急対応の措置として、主治医と相談しながらかかりつけの医療機関を受診できない。	3.個人活動中・見守りあり	園長・副園長が小学校の入学前検診で不在だったが、前年度に経験していた職員がいたことで冷静に判断ができた。	引き続き緊張感をもって、声を掛け合いながら職員間で連携を図り、園児の安全を確保していく。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わった様子が見られなかった	4.対象児の動きを見ていた	本児の行動を担任だけでなく、園庭にいたすべての職員が見ていた。今回は痙攣発生後に対応ができた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任はもとより、本児の様子をすべての職員が気にかけた。	今回は、保育している子どもが少なく職員も十分にいたため対応できたが、朝夕の時間や土曜日等、職員配置がない時に起きた時の対応を必要とする。	実際にコミュニケーションをし、本園児マニュアルを作成していく。

2052	平成30年6月29日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25	8	8	9	2	18.6歳	1.男児	自閉症スペクトラム	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	12	2.基準配置	なにか起きた時に迅速に対応できるように、子どもに起こりうる事故を把握し、すぐに対応できるように知識を得ていく。	1.定期的 に実施	2.定期的 に実施	2.定期的 に実施	12	いつでも対応できるように子供たちを離さないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	いつでも対応できるように子供たちを離さないようにする。	1.いつも通りの様子だったが、おまが盛り上がり興奮していた。	2.対象児の近所で対象児を見ていた	近くで未満児を抱っこしたまま歩いていたら、本児が靴下で走ったので、いつもの様子で「走らないうでね。」と注意をした。しかし本児は走らず直後転倒。手を差伸べられ距離はあったが、もを抱っこして出た。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	クラスにいる他の園児を対応していた為見なかった。	三月といふ事もあ、年長児は卒園も間近で進級に向け、気持ちが高まり興奮気味の子もみられていた。	けが等の対応について再確認するとともに、子どもたちのお部屋での遊び方を注意をきちんとしていた。
2053	平成30年6月29日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	55	22	33	4	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	肘内障、及び左肘の骨にひび	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	一人ひとりの動きが見えよう空間を設ける。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施		年少児の手伝いをしているときにぶつかる・階段を上るときに打つ・保育室でドローカーにぶつかるような要因が考えられるが不明。	1.集団活動中・見守りあり	活動中の整理、人の動きの整理、誘導。	登園時の健康状態は良かったが、自由遊びの途中、母親に会いたく泣いた。担任がバス乗り、一緒に落ち着いた。10時30分頃に年少女児の降園準備を手伝い、50分頃に保育室に戻った。	2.対象児の近所で対象児を見ていた	保育室に床り降園準備を進めるが、こきなで声をとて動かせないという訴え。「いつかどか何かがあったら」と顧問するが、把握できたのは「今痛くなった」とのことだった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	クラス全体の補助として、活動を見守り援助していた。	一言に動くのではなく、いくつかのグループに分けて、年長・年少それぞれ1名ずつについて動く。		
2054	平成30年6月29日	1.認可	5.幼稚園	11.7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	19			2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	膝上骨折(左大腿骨遠位骨端線損傷)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	・文庫時、マニュアルを参照せず、適切な対応ができなかった。 ・日頃から靴下のままで活動すると転倒する危険性を伝え、上履き・イグザ草履・素足で活動するよう指導する。 ・担任・加配教諭は各々が上司や同僚に報告・連絡・相談をした。園で受傷したが、病院受診に同席する配慮が足りなかった。 ・職員間の連携を図る様子を見守りたり指導しているが、積み木の扱い方、約束について職員間で確認した。	1.定期的 に実施	22	22	22	1.集団活動中・見守りあり	本児は降園準備ができている状態だった。いろいろなおもちゃに興味を持ち、じっとしていることが難しい、言葉だけの指示が入りにくい。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	降園前の絵本を読んでいたが、本児がふれようことを求めて、一緒にふれあっていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の子どもも降園準備を手伝っていたため、対象児の動きは見なかった。	・担任・加配教諭は靴下をはいてジャンプしていても何も思わなかった。 ・担任・加配教諭は怪我と思っていたため、対象児の動きは見なかった。 ・靴下のままだま活動していたら、危ないと言った。 ・園内の怪しい場所、怪しいものや危険なものを始末する職員の見守りをお願いした。				
2055	平成30年6月29日	1.認可	5.幼稚園	1.7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	23			2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指末節骨折、左環指末節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	職員間の連携を図る様子を見守りたり指導しているが、積み木の扱い方、約束について職員間で確認した。	1.定期的 に実施	12	12	12	3.個人活動中・見守りあり	月に一度は積み木を遊ぶようにしている。積み木を積み、遊ぶ様子を見守りたり指導しているが、積み木の扱い方、約束について職員間で確認した。	積み木を積み高さを積み高き、積み高き方について幼児に指導する。	1.いつも通りの様子があった	4.対象児の動きを見なかった	前日から積み木を積み、家に帰って遊ぶ様子を見守りたり指導しているが、積み木の扱い方、約束について職員間で確認した。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	弁当後の片付けを他の幼児にかかわっていた。			

2060	平成30年6月29日	1.認可 6.認可保育所	8.2.午前中	1.施設敷地内(室内) 3.2歳児クラス	12	2	2	15.3歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手指) 右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	事故が起こった都度	1.基準以上配置 ホールの危険性の周知	子どもがけがをす場所を全職員に周知させる	1.定期的 12 2.不定期に実施	1回/週	広いスペースの、走り回りたい衝動を抑制した。 走らないようにスペースにマットや障害物を置く 1.集団活動中・見守り	子どもへの指示が通るように、普段をきちんとしていき事を徹底する 子どもがむやみに走らないように、落ちてくるボールに入る。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の近くで見ていた	2.担当者・対象児の動きを見なかった	普段から元気なお子さんに朝の打ち合わせの時間、活動場所を対しての打ち合わせの時間を必ず取る		
2061	平成30年6月29日	1.認可 6.認可保育所	11.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	12.4 3 1 1 1 2	15	13	15.3歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む) 口腔内受傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置 3	事故予防に関する研修を多くの職員が意欲的に受け、知識を身につける。	1.定期的 1 1.定期的 1 毎日 1.定期的 毎日	1.定期的 毎日	3.個人活動中・見守り	個人活動中の見守り体制(配置)の見直しを行う。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで見守っていた	園庭全体が見渡せるところで遊んでいる様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の職員は2階の保育室で他児の保育を行っていたり、園庭を介して見守っていた。	前回りが必要というふうになり、対応が難しくなる。	
2062	平成30年6月29日	1.認可 6.認可保育所	4.2.午前中	1.施設敷地内(室内) 2.1歳児クラス	11	4	4	14.2歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	3.体幹(首・胸部・臀部) 左上肢痛 左腕骨折	5.他児からの転落・落下	1.あり	1.定期的 1.定期的 毎日	1.基準以上配置 3	配置基準を堅守し、予防研修の受講に努める。	1.定期的 毎日 1.定期的 毎日	毎日	1.集団活動中・見守り	従来より引き続き環境整備に努める。	1.いつもどおりの様子であった	支援ルームから歩いて移動していた	2.対象児の近くで見ていた	保育士1名も3人を介して見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の職員は、保育室で食事を行っていた。	常に事故予防を意識し、見守っていく。
2063	平成30年6月29日	1.認可 6.認可保育所	4.2.午前中	1.施設敷地内(室内) 5.4歳児クラス	40	2	2	16.4歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指) 右第1中足指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的 1.定期的 毎日	2.基準配置 12	歩き方には、十分気をつけるように声をかける。	1.定期的 51 1.定期的 51	1.定期的 51	1.集団活動中・見守り	室内での活動が多いため、エネルギーを消費した。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り登園して、元気な様子で通っていた。	2.対象児の近くで見ていた	つま先立ちをして見守っていた。	多児の対応をして見守っていた。	危険な歩き方をしないよう指導を行う。	
2064	平成30年6月29日	1.認可 6.認可保育所	7.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内) 5.4歳児クラス	40	2	2	16.4歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む) 下口唇挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的 1.定期的 毎日	2.基準配置 12	遊ぶときの机の配置や遊ぶ場所の確保を行うよう指導した。	1.定期的 51 1.定期的 51	1.定期的 51	1.集団活動中・見守り	室内での活動が多いため、エネルギーを消費できなかった。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の近くで見ていた	2.担当者・対象児の動きを見なかった	見守り人員を増やすよう改善。			
2065	平成30年6月29日	1.認可 6.認可保育所	1.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 5.4歳児クラス	40	2	2	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手指) 右腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的 1.定期的 毎日	2.基準配置 2	雲が低く、雨が降る可能性がある。	1.定期的 51 1.定期的 51	1.定期的 51	1.集団活動中・見守り	遊び方の問題で、特に改善を要しない。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りであったが、慌てて落ちてきた様子であった。	2.対象児の近くで見ていた	雲の多い日は、遊びの制限をかける必要がある。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	多児の対応をして見守っていた。	見守りの人員を各遊具ごとに配置する。
2066	平成30年6月29日	1.認可 6.認可保育所	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	10 3 2 2 1 2	10	10	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	3.体幹(首・胸部・臀部) 左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的 1.定期的 毎日	2.基準配置 15	ヒヤリハット記録の記入により園全体の認識として職員会議等で共通意識を高める。	1.定期的 51 1.定期的 51	1.定期的 51	1.集団活動中・見守り	体力不足な場面でも、握り力や体のバランスを崩さないように注意する。	1.いつもどおりの様子であった	リレーができて、運動会を頑張った。	3.対象児から離れたところで見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	他の年齢の児もいたので、本児を見守っていた。	監視の目が少ない時間帯での保育士も少なかった。	各クラスの保育士で各遊具の見守り人員を増やす。

2067	平成30年6月29日	1.認可 6.認可保育所	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃) 2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	61	19 12 30	4	4	16. 4歳 1.男児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 4.創傷(切削・裂創等) 1.頭部 前額部割創、右足関節挫創、右母趾挫創 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	特に危険と思われる箇所には保育士が必ず付くこと。その場を離れるときは、声を掛け合うことの再確認をする。	1.定期的実施 開園時は毎日 1.定期的実施 開園時は毎日 1.定期的実施 開園時は毎日	トンネル山の形状を変え走りやすい環境を作った。	1.集団活動中・見守りあり 友だちと落ちついて遊べる環境を作る 1.いつもの様子であった 興奮し衝動的に走らなくなった 2.対象児の至近で対象児を見つめた トンネル山の手は対象児と他の園児の見えており、転倒しやすくなるに駆け寄り、間に合わなかった。 2.担当者・対象児の動きを見ていなかった 他の職員は、他の園児の戸外あそびを見ていた。	トンネル山で遊ぶ際は走らないよう指導を徹底した
2068	平成30年6月29日	1.認可 6.認可保育所	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃) 2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	117	32 32 30 23	11	11	14. 2歳 1.男児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 4.創傷(切削・裂創等) 2.顔面(口・唇内含む) 顔面裂創 3.子ども同士の間衝突によるもの 1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	走っていた子どもの姿へのその後の危険の予測不足。 外であっても通路ではないことをその都度声掛けする。	1.定期的実施 2.不定期実施 1-2 1.定期的実施 毎日 1.定期的実施 毎日	怪我をした箇所と考える危険箇所へ安全マットを貼る。 各活動場所の子ども数に合った職員配置を考える。 1.いつもの様子であった 戸外から室内へ他の園児と競争して戻っていた 3.対象児から離れたところで対象児を見つめた 2階の保育室・園庭と中間ホールに立ち、行き来する子どもたちを見つめた。 2.担当者・対象児の動きを見ていなかった 戸外、室内とも選択しているため、それぞれに分かれていた。	死角となっている場所を核討し、見守り立つ場所を見直す。	
2069	平成30年6月29日	1.認可 6.認可保育所	3.昼食(おやつ時) 1.施設敷地内(室内) 7.異年齢構成	96	11 14 16 17 14 24	24	18	15. 3歳 1.男児	5.食事中(おやつ含む) 1.負傷 0.負傷 2.骨折 5.下肢(足・足指) 右第一趾骨折 8.その他 1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	特記事項なし 特記事項なし	1.定期的実施 2 2.定期的実施 2 1.定期的実施 2	子どもたちのトラブルになった際に保育士が把握できず、未然に防く事が出来なかった。 全体を見守る職員・子どもにつく声を出し、声を出さずにいる子どもを確認していき	1.いつもの様子であった 体調の変化も無い様子だったが、日常的に給食前には気持が高まる 4.対象児の動きを見つめた 本児が保育室で給食の準備をしている姿は把握出来ていない。 2.担当者・対象児の動きを見ていなかった 本児が保育室で給食の準備をしていることは分かっていたが、その後給食の準備や自分で行った後、全体を見守る職員がなかった	保育者間で声を出し、配置の確認を行うことが出来なかった 子ども同士の間を把握し、職員間で共有しておく
2070	平成30年6月29日	1.認可 6.認可保育所	1.朝(始業~午前10時頃) 1.施設敷地内(室内) 7.異年齢構成	11	5 6	4	4	16. 4歳 2.女児	2.室内活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 3.体幹(首・胸部・腰部) 右鎖骨骨折 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	様々な行動をするを想定しておくべきだった。 全職員に事故のことを周知し、今後気を付ける点などを再確認する。	1.定期的実施 52 1.定期的実施 1 2.不定期実施 1	自損事故のため 自損事故のため 1.集団活動中・見守りあり 踊りの自らの立ち位置に立っていた。 4.対象児の動きを見つめた 1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	様々な行動を想定しておくべきだった。 短い時間でも、座らせなどの安全策をとる。	
2071	平成30年6月29日	1.認可 6.認可保育所	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃) 2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	80	10 17 19 17 17	8	7	15. 3歳 2.女児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 3.体幹(首・胸部・腰部) 右鎖骨骨折 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	子どもを離れながら目が離さないこと、そして立ち位置について再確認を行う。 まずは目を離さないこと、そして立ち位置について再確認を行う。	1.定期的実施 1.定期的実施 1.定期的実施 毎日	点検の更なる徹底 1.集団活動中・見守りあり 子どもか目を離した際に発生している。 まずは目を離さないこと、そして立ち位置について再確認を行う。 1.いつもの様子であった 4.対象児の動きを見つめた 2.担当者・対象児の動きを見ていなかった 子どもから目を離した際に発生している。	まずは目を離さないこと、そして立ち位置について再確認を行う。 子どもから目を離さないこと、そして立ち位置について再確認を行う。	
2072	平成30年6月29日	1.認可 6.認可保育所	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃) 1.施設敷地内(室内) 6.5歳以上児クラス	30		2	2	18. 6歳 2.女児	2.室内活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 右尺骨近位端骨折 右橈骨遠位端骨折 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	普段より気持ちは高揚が行動に現れやすいため、細かい気分の変化に気付き、より安全な見守りをするよう職員間で連携をとる。 教室から戻ってきた高揚した高揚が行動に現れやすいため、細かい気分の変化に気付き、より安全な見守りをするよう職員間で連携をとる。	1.定期的実施 1回/月 1.定期的実施 1回/週 1.定期的実施 毎日	子どもを動かす前には事前に声をかけて、子どもは動きを事前に予測し、落ちて遊んでくる危険な状況(玩具)を警告。 1.集団活動中・見守りあり 男女の活動の予測し、分けて遊んでいくが十分でなかった。 保育室という慣れた空間で、子どもが元気に遊んでいる様子が確認できた。 1.いつもの様子であった 普段通りであったが、学研教室から戻った後、走りだした。走りだした瞬間、保育士が気づいていない。室内を走らないよう声をかけたが、少し離れた間を走っていた。 2.対象児の至近で対象児を見つめた 2.担当者・対象児の動きを見ていなかった おもちゃ遊びを見守る職員と、運動会の練習としてオルガンを演奏する職員が役割分担していた。	子どもか目を離した際に発生している。 まずは目を離さないこと、そして立ち位置について再確認を行う。 子どもも、座らせなどの安全策をとる。 室内遊びの時の心の配りなども運に伝えるなど、細かい配慮が足りなかった。	

2073	平成 30年 6月 29日	1. 認可 6. 認可保 育所	8. 2. 午 前中	1. 施設敷 地内(室 内)	6. 5歳以上 児クラス	19														4	3	17. 5 歳	2. 女 児	特になし	2. 室内活 動中	1. 負 傷	0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢 (腕・手・ 手指)	右第 5 中 手指骨折	2. 自ら の転 倒・衝 突によるもの	1. あり	1. 定期 的に実 施	12	1. 基 準以 上配 置	特になし	特になし	1. 定期 的に実 施	48	1. 定期 的に実 施	毎日	1. 定期 的に実 施	毎日	特になし	特になし	1. 集団 活動 中・見 守り あり	助走距離 が十分 に取れ ていな かった。	運動遊び の際の 補助具 は、助 走が 十分に 取れる 場所に 配置す る。	1. い つお りの 様 子 あ った	助走距離 が短か った。手 をつ くミ ンギ があ わ ず、 右 手 に か か っ た ま ま 跳 び 箱 を 跳 ん で し ま っ た。	2. 対 象 児 の 至 近 で 対 象 児 を 見 て い た。	普通の運 動遊び では本 箱を 跳び 箱の 側を 見守 って いた。	2. 担 当 者・ 対 象 児 の 動 き を 見 な か っ た	跳び箱 の他 に鉄 棒と マッ トの 補助 をし て いた 為、 対 象 児 を 見 な か っ た。	助走距離 について 配慮が な か っ た。	運動遊び を行 う場 所の 広さ を 十 分 に 考 え、 活 動 の 計 画 を 立 て る。
2074	平成 30年 6月 29日	1. 認可 6. 認可保 育所	1. 朝(始 業 時 頃) 5	2. 施設敷 地内(室 外・園 庭・校 庭等)	7. 異年 齢 構 成	100	10	18	13	21	20	18									19	19	16. 4 歳	1. 男 児		1. 屋外活 動中	1. 負 傷	0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢 (腕・手・ 手指)	右小指骨 折	3. 子 ど も 同 士 の 衝 突 によるもの	1. あり	2. 不 定期 に実 施	2. 3	2. 基 準以 上配 置	事故発生 の経過 等を 職員 一 同 で 共 通 理 解 し、 次 の 事 故 防 止 に 努 め る	1. 定期 的に実 施	随時	1. 定期 的に実 施	随時	1. 定期 的に実 施	毎日		子どもの 遊び や活 動を 進 め る た り、 遊 び 方 や 体 を ル ー ル と し て 子 ど も に 示 す こ と が な か っ た。	1. 集団 活動 中・見 守り あり	遊具・玩 具等 につ いて は現 状ど お り 点 検 確 認 を す る	体の使 い 方 を 日 常 生 活 や 遊 び の 中 で し っ か り 習 得 す る よ う 援 助 す る こ と。	1. い つお りの 様 子 あ った	いつもど おりの 様子 であ った	2. 対 象 児 の 至 近 で 対 象 児 を 見 て い た	走っている こと は 視 野 に 入 っ て い た が、 転 倒 も な か っ た。 す ぐ に 怪 我 に 気 づ か な か っ た。	1. 担 当 者・ 対 象 児 の 動 き を 見 な か っ た	走っている こと は 視 野 に 入 っ て い た が、 転 倒 も な か っ た。 す ぐ に 怪 我 に 気 づ か な か っ た。	子どもの 動き を よ く 注 意 し て み る こ と。	
2075	平成 30年 6月 29日	1. 認可 6. 認可保 育所	9. 2. 午 前中	1. 施設敷 地内(室 内)	5. 4歳児 ク ラ ス	22														4	3	16. 4 歳	1. 男 児		2. 室内活 動中	1. 負 傷	0. 負傷 5. 口腔 内 受 傷	2. 顔面(口 腔内 含 む)	上前歯打 撲	2. 自ら の転 倒・衝 突によるもの	1. あり	2. 不 定期 に実 施	6	1. 基 準以 上配 置	移動時は 落ち 着 く こ と を さ ら に 指 導 す る。	1. 定期 的に実 施	12	1. 定期 的に実 施	12	2. 不 定期 に実 施	必要適 宜		運動用具 から運 動用具 に至 る動 線は 広 く 設 定 し て い た が、 目 配 り で き る 範 囲 に で き る か 再 度 見 直 し を す る。	1. 集団 活動 中・見 守り あり	運動用具 から運 動用具 に至 る動 線は 広 く 設 定 し て い た が、 目 配 り で き る 範 囲 に で き る か 再 度 見 直 し を す る。	1. い つお りの 様 子 あ った	平常通 り登 園。体 操教室 中も 普通。	4. 対 象 児 の 至 近 で 対 象 児 を 見 て い た	運動用具 別には 着 用 し て い た が、 用 具 へ の 異 動 は 見 て い な か っ た。 1. 人 は 全 体 を 見 て い た の 丁 度 本 児 の 動 き は 見 て い な か っ た。	2. 担 当 者・ 対 象 児 の 動 き を 見 な か っ た	運動用具 別には 着 用 し て い た が、 用 具 へ の 異 動 は 見 て い な か っ た。 1. 人 は 全 体 を 見 て い た の 丁 度 本 児 の 動 き は 見 て い な か っ た。	事前に移 動する 順序 を 指 導 し て お り、 本 児 も 守 り に た ま に 各 職 員 が 広 範 囲 ま で 留 意 す る。			
2076	平成 30年 6月 29日	1. 認可 6. 認可保 育所	11. 8. 夕 方(16 時 頃～ 夕 食 提 供 前 頃)	2. 施設敷 地内(室 外・園 庭・校 庭等)	6. 5歳以上 児クラス	6														1	1	17. 5 歳	1. 男 児		1. 屋外活 動中	1. 負 傷	0. 負傷 5. 口腔 内 受 傷	2. 顔面(口 腔内 含 む)	前歯打撲	1. 遊 具 等 か ら の 転 落・ 落 下	2. な し	2. 不 定期 に実 施	1	1. 基 準以 上配 置	怪我をし た児 の真 横(す ぐ 側)に 保 育 者 が 付 いて い な か っ た 事 が 要 因 と 考 え ら れ る。	1. 定期 的に実 施	12	1. 定期 的に実 施	12	1. 定期 的に実 施		鉄棒で遊 んでい た が、 3 箇 所 あ る 鉄 棒 を 全 て 使 っ て 遊 ん で い た が、 保 育 者 が す ぐ 側 に 付 け な い 環 境 が 出 来 て し ま っ た。	1. 集団 活動 中・見 守り あり	鉄棒での 遊びは 危 険な 為、 保 育 者 が 1 名 の 場 所 のみ 使 用し、 そ う す る 事 で、 す ぐ 側 に 付 け て いた。	保 育 者 の 人 員 に 合 わ せ た 形 で 活 動 が あ っ た。	保 育 者 の 人 員 に 合 わ せ た 形 で 活 動 が あ っ た。	1. い つお りの 様 子 あ った	いつもど おりの 様子 であ った。	2. 対 象 児 の 至 近 で 対 象 児 を 見 て い た	保 育 者 が 見 守 る 中 で、 鉄 棒 で 遊 ん で い た が、 誤 っ て、 口 く 上 顎 前 歯)を 打 つ た。 保 育 者 は 対 象 児 に 居 近 か く、 付 いて お ら ず、 未 然 に 防 げ な か っ た。 結 果、 も っ と 至 近 距 離 で 保 育 し て い れ ば 防 げ が し れ な い。	2. 担 当 者・ 対 象 児 の 動 き を 見 な か っ た	他の保 育者 は、 対 象 児 以 外 の ク ラ ス の 園 児 を 保 育 し て いた が、 対 象 児 の 保 育 は 未 確 認。	対 象 児 の ク ラ ス は、 保 育 者 1 名 で 保 育 し て お り、 対 象 児 に は、 至 近 距 離 で 保 育 が 出 来 て い な か っ た。	保 育 者 の 人 員 を 増 や す とい う 対 応 は、 活 動 の 内 容 や 活 動 時 の 保 育 者 の 配 置 等 を 改 善 す る。	

2081	平成30年6月29日	1.認可 6.認可保育所	9.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	31	11 10 10	40	30	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折	3.体幹(首・胸部・腰部) 左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	気の合う友達と鬼ごっこをしている時の出来事だが、夢中で走って転んでしまった。その時、カーブを走っている時に、バンスがとれず手につかず転倒したと思われる。	1.定期的実施	12	12	12	12	活発で運動も良くてできる子である。他に固定遊具がなく、その遊具を遊べるようになってきたが、あまり速く走ると上向きに倒れる。その時、バンスがとれず手につかず転倒したと思われる。	引き続き遊具の点検を行う。又、事前の計画・配座を再度確認する。	1.集団活動中・見守り	力一杯走り回るとぶつかり、遊具に衝突するので、回りをよく見て常に声を掛けはしている。この日は雨とあって、保育士は遊具を拭く保育士といた。	屋上に上る前に一度声をかけてから上る様にすると、職員も見て、再確認する。	1.いつもの様子であった	変わりなく登園し、運動は好きなので、午前中の活動(運動あそび)は、特に張り切って行っていた。その後、自分からクラスへ戻り、クラス担任とクラスの友だちと給食の準備が出来るまでの間、屋上へ行き遊んでいる。	子ども達の動きを見守れる場所での固定遊具での遊んでいる補助をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任はその時一人であった。もう一人は、同じクラスの園児の子で、部屋にいた。	運動会が近く、本児をばらばらと運動会に向けて高ぶっていた。又、色んな事が出るようになり、自信にあふれており、動きが益々活発になってきた時の出来事だ。	屋上に上がると、一度声をかけてから上る様にすると、職員も見て、再確認する。
2082	平成30年6月29日	1.認可 6.認可保育所	7.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等) 7.異年齢構成	12	8 3 1	3	3	15.3歳	2.女児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折	3.体幹(首・腹部・腰部) 左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 2.不定期実施	1.基準以上配置	十分な人員配置でも油断せず観察する。事故がなくとも定期的に事故防止及び事故発生時の対応について確認する。	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	平坦な地面で、使用前の確認でも石や突起物は見当たらなかった。	散歩先到着時点で毎回危険個所の点検をしているが、今後も欠かさない。異常を発見した場合は、すぐに保育者が共有し対応する。	1.集団活動中・見守り	・遊びに入る前に、約束事だけでなく準備運動(体操や身体遊び)を行う。 ・転びそうになった時に自分で体をかばうことができるように、日常的に体を使う遊びを取り入れていく。	1.いつもの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	3.対象児の担任の代替で主任保育士が加わっていた。保育経験は、それぞれ13年目、7年目、1年目の保育士だった。	日常的に保育で関わっている5歳児担任であったり主任ではあるが、園外保育ではいつも緊張感を持つことを忘れない。							
2083	平成30年6月29日	1.認可 6.認可保育所	11.7.午後	1.施設敷地内(室内) 7.異年齢構成	33	15 18	2	2	17.5歳	1.男児	2.室内活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右手中指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの 1.あり 2.不定期実施	1.基準以上配置	・保育士の配置については、子どもの動きなどを考慮し、その都度臨機応変に対応する。 ・子ども同士の間で、その場から目を離す場合は、別の保育士に声をかけ付けたりなどし、常に子どもの動きを見守る。 ・子どもの遊びの様子を見て、時には介入し安全に遊ぶためのルールを伝えるなど	2.不定期実施	1.定期的実施	1.定期的実施	午睡前は、落ち着いた遊びを提供し、保育室が使用しない時はホールで遊べる玩具を用意する。	・怪我をした園児は、安静に保護者のお迎えを待つよう配慮する。 ・怪我があったことを知り(朝の会)で知らせ、クラスでも子どもたち同士で話などし、子どもたちにも安全に遊ぶ意識を持つよう促す。	3.個人活動中・見守り	・怪我をした園児は、安静に保護者のお迎えを待つよう配慮する。 ・怪我があったことを知り(朝の会)で知らせ、クラスでも子どもたち同士で話などし、子どもたちにも安全に遊ぶ意識を持つよう促す。	1.いつもの様子であった	いつも通りに、友だちと戦いをしていました。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児のトラブル対応していたためいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体的に注意して、戦いごっこをしていくことには、怪我をしたところをみていた。	いつもは遊びなので、特に気に留めずには見ていた。	・遊びに入る前には、怪我をした園児は、安静に保護者のお迎えを待つよう配慮する。 ・怪我があったことを知り(朝の会)で知らせ、クラスでも子どもたち同士で話などし、子どもたちにも安全に遊ぶ意識を持つよう促す。			

2088	平成30年6月29日	1.認可	6.認可保育所	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	44	5	5	17.5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	特になし	2.不定期に実施	15	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	15	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	1.いつもおりの様子であった	戸外でいつも元気に走り回っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	居残り保育中で数名を見守っていたが対象児がけがには見えなかった	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	他の子ども達を他方に分かれ見守っていた。	今まで以上に職員の配置に気を配る。				
2089	平成30年6月29日	1.認可	7.小規模保育事業	8.朝(始業8～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15	4	5	6	14.2歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	3.火傷	5.下肢(足・足指)	2度以上熱傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	気温が高いため、園外活動を絵の具遊びに変更し、園児の身体を水洗いする事を決め、水温が低かったため、急速温水の準備を行った。保育計画の変更を施設長が把握していなかった。クラス(年齢分)組でクラス間の繋がりが無かった。担当クラスだけを考え保育内容になっていた。	事故防止マニュアルの再構築を行う。保育計画の変更を施設長がチェックする。クラスごと、横の連携を取り、園児の安全を最優先にする。	1.定期的に実施	12	3.未実施	1.定期的に実施	12	園活動に使用していないため、給湯設備が無いペランダを園活動変更により使用した。	ペランダは、園活動には使用しない。	1.集団活動中・見守りあり	水温を上げる間、園児を同じ場所待たせていた。	集団活動中の職員配置と職員の徹底、職員間の声を聞き実施する。	1.いつもおりの様子であった	園児2人がタライの近くにあった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	通常の業務、担当クラスを見ていたが、タライの近くにいた園児2名について危険だと思わず、止めなかった。	1.担当者・対象児の動きを見守っていた(至近距離にいた)	園児が近くにいたが、電気がポットからお湯をこごととしていた。	電気がポットで水温調節をしようとしたが、ポットのフタが外れることを予測できなかった。	役割分担を明確にし、安全確保を。調理室以外での電気ポットの使用禁止、温水を使用时は、給湯の温度調整した温水を使用する。
2090	平成30年6月29日	3.その他	14.子育て短期支援事業(ショートステイ・トワイライトステイ)	27.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	12(うち事業利用者1)	4(うち対象業支援員1)	4(児童指導員)	21.9歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折(全治1ヶ月)	2.目らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	事故対応マニュアルは整備されており、今回の事故でも手順通りに進めることが出来た。	引き続きマニュアルの徹底周知を職員に行い、事故対応を可能な限り迅速に行いたい。	施設外行事の際、連絡徹底し、行事の進捗状況をきちんと報告するよう徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	朝集会時の体調確認、移動中も友達と賑やかにして特段変わった様子はない。	行事の最中だけでなく、常に児童らの体調に目を配り、十分配慮するよう職員に周知を行った。	1.いつもおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	最後尾で滑走していた。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	先頭で滑走していた。	児童の体調などに配慮が欠けていた。最終滑走という場面でも、もっと配慮し、滑走するよう配慮すべきであった。	切り上げる時間帯をもっと早くし、児童の体力があるうちに終了させると、児童の体調にもっと配慮し、ケガのリスクを可能な限り軽減する。								
2091	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11.7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	38	4	2	19.7歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	2.基準配置	特になし	マニュアルや研修の実施	1.定期的に実施	3	2.不定期に実施	2.不定期に実施	毎	遊具は学校の物なので学校が実施している。	特になし、遊具は学校がチェックしているため。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	1.いつもおりの様子であった	普段通り遊んでいた	4.対象児の動きを見守っていた	普段通り見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	普段通り見守っていた	怪我の箇所を人念に調べた。	危険事項が予測される場所にはなるべく職員を配置するようにする。		

2092	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26	6	6	18.6歳	1.男児	8.その他	1.負傷	0.負傷	6.その他	3.体幹(首・胸部・臀部)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	マニュアル、研修、職員配置等子どもたちが安全・安心に過ごせるよう安全対策を講じているが、徹底できていなかった。	研修等により安全対策の徹底をはかる	1.定期的	1.定期的	12	2.不定期に実施	使用の際毎回	階段の手すりは、障害物が何もなかつたが、また滑り降りる状況があった。	階段の手すりに障害物を配置し、また滑り降りないようにした。	1.集団活動中・見守りあり	以前より、踊り場には行かないよう指導する。階段の危険性についても指導しているが、指導が不十分であった。	子どもたちへの指導をさらに徹底する。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	対象児童が放課後児童支援員より先に部屋を出て水飲み場へ行った。	4.対象児童の動きを見なかった	3階階段付近で3階にあると2階との踊り場に見えなくなった水飲み場の両方が見える場所へ、子どもたちを見守っていたが、本児が放課後児童支援員より先に部屋を出て水飲み場へ行ったため、本児が階段から転落したは見えない。	2.担当者・対象児童の動きを見なかった	当該時の確認等他の子どもたちの対応をしていた。	水飲み場へ行った際、放課後児童支援員による見守りが十分ではなかった。	水飲み場へ行く際は、階段の危険性を再認識し、見守りを怠らぬように配慮する。
2093	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9.夜間・早朝(泊り保育)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	110	9	2	19.7歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左頭骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的	職員配置はしているが、子どもが急に走り出したため	よく話を聞いてから次の行動に移れるよう配慮する	3.未実施	3.未実施	3.未実施	3.未実施	下り坂で、アスファルトがめづらかった	走らないで落ち動いているよう声をかける	1.集団活動中・見守りあり	日が暮れはじめて足元が見えにくくなった	懐中電灯を使用し、足元を照らすようにする	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	トイレを我慢したため	3.対象児童から離れたところへ対象児童を見つけた	2.担当者・対象児童の動きを見なかった	本人が疲れていた	事前にトイレの声を聞いて、移動は走らないようにする			
2094	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	37	6	5	21.9歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)		1.あり	1.定期的	対象児が転んだときを見なかった。日頃から成長痛を訴えていたもので、痛みをそのせいかもいれなかった。その後スキーのクラスを落とす性格からブライドと言っているのは思った。	子どもとの発する「痛い」という気持ちを先入観を持たず受け止める。	1.定期的	1.定期的	365	365	1.集団活動中・見守りあり	スキー遠征に参加した37名の児童のうち、初心者が22名いたために支障を多く配置してしまっ	支援員の立ち位置をもう少し考え、たとえ子ども達がスキー経験者でも人数を配置する。	1.いつも通りの様子であった	成長痛があった音の通りであった	3.対象児童から離れたところへ対象児童を見つけた	2.担当者・対象児童の動きを見なかった	スキー経験者と初心者の場所が離れていた	普段から成長痛があったため、転ぶときを守るために返って膝を控えてしまった。	児童の体調面に不安は申し出たが、病状の悪化やケガなどがある場合は、参加について保護者と充分相談し対応することとする。					
2095	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	75	7	4	20.8歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	3.子ども同士によるもの	2.なし	2.不定期に実施	ミーティングで校庭の状況を把握することや、声をかけることを指導員1人1人が意識を促すことを話し合う		1.定期的	1.定期的	12	1.定期的	雨降った後、完全に乾いていなかった	冬場に雨が降った後は完全に乾いていない可能性があるため、十分に確認をする	1.集団活動中・見守りあり	指導員の見守りがなかつたため、児童たちがサッカーに熱くなりすぎた	遊びに出る前に声をかける	1.いつも通りの様子であった	サッカー中に転んだ	3.対象児童から離れたところへ対象児童を見つけた	2.担当者・対象児童の動きを見なかった	他の遊具や場所での遊んでいる児童の見守りをしていたため	遊びの中でも、声かけを頻繁に行う			
2096	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	87	7	2	20.8歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	怪我をした子どもへの適切な処置と報告を支援員間で意識づけ		2.基準配置					1.集団活動中・見守りあり	校庭遊びは児童が様々な所で遊んでいるので、適切な配置をして声掛け等で見守りや事故防止に努める。	怪我が常に起こる可能性があるため、子ども達に声掛け等で見守りや事故防止に努める。	1.いつも通りの様子であった	普段と変わらず元気に校庭を回っていた。	突き指を見つけた。本児より報告を受けて冷やした。	2.担当者・対象児童の動きを見なかった	他児の遊び場や場所での遊んでいる児童の見守りをしていた。	情報共有、危機管理の徹底。				

2101	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	16	11	5	19.7歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第四中節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1.基以上配置	3	現地の自然環境を周知し、子供たちの行動に注意をしておくことが必要。	職員体制や、事前に注意事項を子供たちと確認すること。	1.定期的	13.未実施	1.定期的	10.園外での事故のためなし。	園外での事故のためなし。	1.集団活動中・見守り	園外という環境であったが、行き慣れた場所であったため注意を怠った。	子どもたちの言い伝えや、危険性を認識してもらえない心掛ける。	1.いつもどおりの様子であった	担当職員で遊んでいた。	4.対象児の見えなかった	ほかの子とをれ、事故発生時に現場を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	学室内での児童の保育を行った。	児童全員が把握できるように複数の職員で対応するか、広く全体を見守る必要がある。	複数体制をとる。
2102	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	41	4	3	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕上腕部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的	1.準配置	1	遊具場の全体を見守る支援員を配置し、危険に気付きかけた。	遊具場の全体を支援員で見守る。危険に気付きをす。	1.定期的	12.3.未実施	1.定期的	12.特になし	危険箇所や児童への注意喚起の再付けなど、日常的に行う。	1.集団活動中・見守り	腕の力が不十分だった。	皆、同じように遊んでいても、学年や個人の体力によっては危険になることがある。遊具では見守りを強化し、すぐに移れるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらない様子で遊んでいた。	4.対象児の見えなかった	児童が落下後、周囲が知らずの来たのを受け、児童の怪我の状況を確認した。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	対象児以外の子と遊んで見守りを行った。	支援員及び補助員の人数不足はなかったが、その見守り、全体を見守っている支援員がなかった。	全体を見守る配置をする。
2103	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	77	7	3	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕上腕部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的	2.準配置	1	遊具場、遊具の使用方法について、児童・支援員間で再確認を行う。	遊具場と遊具の正しい使用方法について、児童・支援員間で再確認を行う。	1.定期的	12.3.未実施	1.定期的	12.遊具の正しい使用方法についての認識不足。	遊具の使用で危険を感じることがあれば、その都度児童へ周知を行う。	3.個人活動中・見守り	遊具場の見守り支援員不足。	遊具場の見守り支援員を配置する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りで、他の児童と遊んでいた。	3.対象児から離れたところで見守りを行っていた	遊具場の全体を把握するため、遊具場の方で対象児を入れて見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	それぞれの担当場所にて見守りを行っていたため、担当者・対象児の動きは把握しなかった。	遊具場で走りが止まることがなかったこと。	遊具場で走り回ることが危険だと、児童・支援員間で周知を行う。
2104	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	79	8	2	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的	1.準配置	1	見守りの位置配置が悪く、調整音が聞こえていない最中の怪我	支援員一人一人の安全確保を児童に促すためのスキルアップ	1.定期的	12.3.未実施	1.定期的	12.設備の不備は無かった	集団遊びの中で他児童同士でのトラブルや遊びの見守り、通年児童に加えて43名の夏季児童保育の見守りも必要だった。支援員の見守りが手薄になりがちだった。	支援員自身のスキルアップ、又、児童の受入定員をこえて、支援員を確保して見守りを実施すること。	1.いつもどおりの様子であった	他学年のお兄さん達を高いところから捕まえてしまった。	3.対象児から離れたところで見守りを行っていた	見守り方法を他支援員と確認やりとりをして、対象児を視界に入れないように見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他集団の見守りを行っていた。	うち合わせを離れる。他の場所を見守っている支援員をその場に配置するが、危険に児童の安全を確保したところから見守る必要があった。			

2105	平成30年6月29日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	7. 7. 午後	2. 施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8. 学童	39																3	19. 7 歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	5. 下肢(足・足指) 足首の剥離骨折	3. 子ども同士衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 準配置 2. 基配置	支援員1人でバスケットとサッカーで遊ぶ児童を見ていた。	1つの遊びに1人支援員がつくよう体制を考える。	1. 定期的に実施	12. 3. 未実施	1. 定期的に実施	12	使用していない(特になし)	1. 集団活動中・見守り	運動場でサッカーをしたため(特になし)	1. いつもの様子であった 2. いつもの様子であった	3. 対象児童から離れたところで対象児童を見ていた	バスケット(3名)とサッカー(6名)をすする児童両方を、バスケットコートとサッカーコートの間で見っていた。	2. 担当者・対象児童の動きを見なかった 3. 補助員1名は室内係員、もう1名は外で一輪車を走らせていた	1. 人の支援員が2つの遊びについて	グループを1つにまとめて遊ばせる。			
2106	平成30年6月29日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8. 学童	42																5	18. 6 歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指) 骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1. 準配置 2. 基配置	年に1回研修を行い、登壇や病気にに対する危機管理を学んでいる。		1. 定期的に実施	12. 3. 未実施	1. 定期的に実施	12	いつも遊んでいる遊具の為に、気を付けて遊ぶことが少なくなった。	何が起こるかわからない事を全支援員・補助員・児童に伝える必要がある。	1. 集団活動中・見守り	その他の要因は特に考えずらい	1. いつもの様子であった 2. いつもの様子であった	2. 対象児童まで対象児童を見ていた	遊具の回りで対象児童を含めて遊んでいた。対象児童が落下する瞬間は見えなかった。	2. 担当者・対象児童の動きを見なかった 3. 補助員は園庭で遊んでいたため、見なかった。	2年生以上が下校してくる時間帯だったため、補助員2名しか外に出れなかった。	職員が少ない時間帯など制限を必要と感した。		
2107	平成30年6月29日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	90																9	22. 10 歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指) 右前腕骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2. 準配置 3. 基配置	職員配置については、体育館に行くことで、多めに人数を配置し問題はなかった。	職員は、児童対応をしながらも周囲に目を配り、常に全体を見ることができている。	1. 定期的に実施	12. 1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	12	遊びの予定表のホワイトボードが小さく、遠くから見えない。	ホワイトボードのサイズを見直しとともに、予定の書き方ホワイトボードが小さく、遠くから見えない。	1. 集団活動中・見守り	場所が体育館であり、走りやすく、またスピードも出やすい状況だった。	思いきり走れる場所・状況ではあるが、スピードや障害物などに気を付けるように適宜声かけを行う。	1. いつもの様子であった 2. いつもの様子であった	2. 対象児童まで対象児童を見ていた	一緒に遊んでいた見守りしていた	2. 担当者の動きを見なかった	それぞれ担当者の見守りをしていた	体育館という場所を考慮し、危険な状況で走り出す児童へ人や物にぶつかると可能性がある声かけをしていた。	放課後児童支援員が危険予測を徹底し、目録を記す。
2108	平成30年6月29日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	35																4	20. 8 歳	2. 女児	1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指) 左手首骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	1. 定期的に実施	2. 準配置 3. 基配置	事故対応マニュアルの見直し研修等への積極的な参加を心掛ける。		2. 不定期に実施	2. 不定期に実施	2. 不定期に実施	安全点検が足りていなかった。	指導員の共通理解として、安全管理の意向上に努める。	1. 集団活動中・見守り	職員がポイントにいたが、3人では遊び場所が広がった。	遊び場所の範囲を定め、職員全員が子ども達全員を把握できるようにする。	1. いつもの様子であった 2. いつもの様子であった	3. 対象児童から離れたところで対象児童を見ていた	対象児童が乗っているところを見つけた。しかし、対象児童が乗っていた一輪車に乗っていた。	2. 担当者の動きを見なかった	児童が遊ぶポイントごとに職員配置をして見守っていた。	外遊びの際の危険性を再認識し、見守りつづける事故や怪我の予測などについて、適切に声掛けをしていた。	支援員が外遊びの際の危険性を再認識し、見守りつづける事故や怪我の予測などについて、適切に声掛けをしていた。	

2109	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	17.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	16	2	21.9歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	腰椎分離症	1.あり	3.未実施	2.基準配置	複数の支援員で見守っているが、時々まで十分に目撃できていないことがある。	児童の外遊びを支援員が定期的に見守り、支援員同士の声を増やす。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	2.不定期実施	30	鉄棒には問題はなかった。	特になし。	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒で「コウモリ」をしているのは分かっていて、遠くから見守っていた。	鉄棒遊びでは、極力手放しをしないよう声掛けを行う。行方を見つけた場合は、その場で十分な喚起を行う。	1.いつもの様子であった	いつもはサッカーをしているが、当日は5年生から障害物競走をしようと言われ、言われるままに鉄棒をした。	1.いつもの様子であった	4.対象児の動きを見なかった	全体をまんべんなく見守っていたが、対象児が落下する時は、他の児童を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	各クラブより1名ずつ3名の支援員で全体的な見守りを実施したが、当該児童の落下時は、全支援員が他の児童の視線に伺っていた。	児童から「大膽をほしい」と頼まれたり、「一緒に遊ぼう」と言われたりすることがあり、児童全員が行き届かないことがある。	児童の安全を最重視し、児童全体へ目が配られるよう、支援員の配置場所を再確認する。
2110	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	24	4	19.7歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯1本完全脱臼、1本破折、1本陥没	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期実施	2-3	1.基準以上配置	ジャングルジムでの遊び方の見直し、安全に遊べるよう職員・子どもで確認しあう。学校と話し合いの機会を持つ。	1.定期的実施	1	2.不定期実施	数	2.不定期実施	数	学校の固定遊具のため、使用時に目視を確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	いつも遊んでいるジャングルジムの遊びであり、いつものように慎重に遊んでいた。歩いた隙間を移動しながら上ったり下ったりしていた。	ジャングルジムのそばで、ジャングルジムで遊んでいる子どもたちの様子を見守っていた。倒れた瞬間は見えていたが、あつという声で駆けつけた。ジャングルジムの中で、職員が倒れた瞬間に気づき、あつという声で駆けつけた。ジャングルジムの中で、職員が倒れた瞬間に気づき、あつという声で駆けつけた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	ジャングルジムのそばで、ジャングルジムで遊んでいる子どもたちの様子を見守っていた。倒れた瞬間は見えていたが、あつという声で駆けつけた。ジャングルジムの中で、職員が倒れた瞬間に気づき、あつという声で駆けつけた。	危険箇所には職員を配置して、危険と思われる行動に注意していく。						
2111	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	42	6	19.7歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	1.あり	1.定期的実施	12	2.基準配置	職員を子どもに合わせ配置し、視野を広げること。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	円形花壇の周りで鬼ごっこをしていたため、バランスを崩して転倒し、転倒した際に足指を骨折した可能性がある。	鬼ごっこをする際は、職員が必ず付き、いつでも声掛けを出来る状況にしておく。	1.集団活動中・見守りあり	長靴を履いて鬼ごっこをしていた。	長靴で遊ぶ際に長靴を履き、足指を骨折した。	1.いつもの様子であった	朝、雨が降っていたため、長靴を履いて遊んでいた。	公園の手前側を見守っていた職員が、他の児童の対応を待っていたため、転倒を見守ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	グランドで遊ぶ子どもたちを見守っていた。	鬼ごっこを、長靴で行ったため、特に注意して見守らなければならないが、手に見守れなかった。他の児童の対応を待っていた。	鬼ごっこな遊んでも、危険が伴う場合を職員で再確認し、常に見守れる体制を取った。		
2112	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	29	3	22.10歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	危険な可能性がある場合を想定した研修等を強化する。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	1	2.不定期実施	1	廊下を滑りにくくする対策を検討する。	1.集団活動中・見守りあり	児童が活動中は、数箇所に分かれて遊んでいるので、全体に行き届くよう支援員が適切な場所にて見守りをする。また、危険な場合には注意喚起を徹底する。	1.いつもの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見守っていた	対象児等を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の児童の見守り等をして見守っていた。	数箇所に分かれて遊んでいるので、全体に行き届くよう支援員が適切な場所にて見守りをする。また、危険な場合には注意喚起を徹底する。					

2113	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2.8.夕方(16時頃-夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	17	2	1.20.8歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	定期的な職員への事故予防に関する研修を行い、子ども達の安全確保に努める。	2.不定期に実施	3.未実施	1.定期的に実施	定期的な安全点検を行い、危険箇所や改善に努める。	1.集団活動中・見守り	室内、屋外で遊んでいる子ども達の見守りを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ている	離れたところから、複数人も遠くを見守っていたため、事故の瞬間は目撃していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	当日職員は2名で、一人は室内にいたため、対象児の見守りは行っていない。	支援体制について、支援員の増員も含め検討していく。	
2114	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.8.夕方(16時頃-夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	46	6	4.22.10歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	今回の事故に対しクラブ会議で事故の状況を共有した。その際、当日の応急手当の処置が適切であったと病院で言われたこともあり、当日手当をした支援員に処置を再現してもらい全員の対応の仕方を確認し合った。	1.定期的実施	12.定期的実施	12.定期的実施	12.特になし	校庭の遊具、砂場、植物、銅管については、常に学校との連携を取り共有している。施設内や遊具については日常的に点検している。	1.集団活動中・見守り	今回の事故は遊具の使い方を間違えておき、この遊具が「もう一回」と言ってタイヤとびをした。その際に発生した遊具は正しく使われていたものの、患部を見てショックを受けて泣き始めた。	1.いつもどおりの様子であった	17時を過ぎて室内に戻る途中であったが、児童が「もう一回」と言ってタイヤとびをした。その際に発生した遊具は正しく使われていたものの、患部を見てショックを受けて泣き始めた。	児童に室内に戻るよう声をかけ児童を背中に抱きかかえていたところ、児童が腕を振り回して、児童の顔に当たった。直後に児童が目を閉じたため、児童の顔を確認し室内に入れた。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	外に居た他の職員4名は室内に戻りかけたため、対象児の動きを見守っていた。	どのような状況でも事故は起こり得るということも児童に伝え、自らも危険回避できるような働きかけをしていく。
2115	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	33	2	1.19.7歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部外側骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	外遊び時には子どもが予想外の行動をすることがあるので、これまで以上に注意する。	2.不定期に実施	2.不定期に実施	児童が遊具で遊ぶ際は、正しい使い方を徹底する。	1.集団活動中・見守り	児童が遊ぶ際は、正しい使い方を徹底する。	3.いつもより活発であった(理由を記載)	高学年の児童と遊ぶことで高ぶっていた面があった。	2.対象児の近距離で見守っていた	児童の近くで見守っていたが、運動場の多くを遊んで遊んでおり、全体を見守る必要があった。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	多くの児童が運動場であり、全体を見守る必要があった。	外遊び時の児童への安全指導に努める。	
2116	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.8.夕方(16時頃-夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	43	6	5.21.9歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯臼 亜脱	3.子ども同士による衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.基準配置	クラブ舎周囲には樹木が多く、その為クラブ舎まわりの道が狭くなっている。鬼ごっこには適していなかった。	1.定期的実施	12.3.未実施	1.定期的実施	12.特になし	使用していないため。	クラブ舎周囲には走らないように指導する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わりなく鬼ごっこをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ている	一輪車には1人、鬼ごっこには1人、ドッジボールは1人1人についていた。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	2名は室内保育、1名は外で泥だんごを作っていた。	クラブ舎裏は狭く、クラブ舎裏には必ず支援員を配置する。

2117	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	43	6	5	20.8歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	「人咬傷」右眉部挫傷(顔面(右こめかみ)裂傷)	3.子ども同士の間突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.基準配置	クラブ舎周りに樹木が多く、その為クラブ舎まわりの道が狭くなっている。鬼ごっこには適していなかった。	クラブ舎周りで走らないように指導する。	1.定期的実施	12.3.未実施	1.定期的実施	12.特になし	使用していないため。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	クラブ舎周りで走らないように指導する。	1.いつもおどりの様子であった	いつもと変わりなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一輪車には1人、鬼ごっこに1人、ドッジボール2人ついていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2名は室内保育、もう2名は外で泥んこ遊びをしていた。	クラブ舎裏は狭くなっているところがあるのを把握し、対策を取ってこなかった。	クラブ舎裏には必ず支援員を配置する。
2118	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	40	4	4	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	児童の見守りと事故防止のための児童への注意を徹底する。	児童の見守りと事故防止のための児童への注意を徹底する。	1.定期的実施	44.1.定期的実施	45.1.定期的実施	44	安全点検に努め危険箇所を発見し、修繕等を行なっていく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の見守りと事故防止のための児童への注意を徹底する。	1.いつもおどりの様子であった	ドッジボールで、ボールを取り損ね右手小指を骨折した。	2.対象児の至近対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室やクラブ室での児童の見守り等、細心の注意を払っていた。	突然の危険な行動による事故防止のため、日頃から注意を徹底する。		
2119	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	29	4	2	18.6歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期実施	1.基準以上配置	新年度が始まったばかりで、新1年生も利用しており、児童も支援員も慣れなかった。事故発生時、担当の支援員は別の児童に話しかけて対応していた。	部屋にいる全員を見守る必要があるため、1人との間引きを長引かせることは対応を呼ぶ。	1.定期的実施	12.2.不定期実施	2.不定期実施	日常的に点検を実施しているため、今後とも点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	部屋にいる全員を見守る必要があるため、1人との間引きを長引かせることは対応を呼ぶ。	1.いつもおどりの様子であった	いつも通で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童に話をして泣き声が聞こえてきた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の部屋や、外遊び等で全員の児童が別の場所で見守りをしていなかった。	職員1人で部屋にいる必要があるため、児童1人との間引きそうときは対応を呼ぶ。		
2120	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31	3	2	20.8歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	3.子ども同士の間突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	今回の事例を職員で共有する。	今回の事例を職員で共有する。	1.定期的実施	12.3.未実施	1.定期的実施	特になし	学校遊具の使い方について、危険かどうかをしっかり見守る。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	手を守るため、サッカー用のクラブを準備する。	1.いつもおどりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	校庭で他の児童とかがわいとながら遊んでいた。本人が痛みを訴えたため見守りをする。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭にいる職員が見ていたが、室内の児童も見守りをしていなかった。	室内外に職員を配置し児童の様子を把握してありますが、今後、しっかりと打ち合わせを行い、危険な行為がなくなるよう、見守りを行うよう、意識を高める。		
2121	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	20	2	2	19.7歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	児童たちを周りをよく見て行動するよう声をかけていく。	児童たちを周りをよく見て行動するよう声をかけていく。	2.不定期実施	1.定期的実施	2.不定期実施	特になし	1.集団活動中・見守りあり	春休み期間中は通常より利用人数が多く、見守りの負担が大きくなる。	支援員の適時配置や児童の過ごし方による見守り負担の軽減を目指す。	1.いつもおどりの様子であった	他の児童とドッジボールをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	体育館内でドッジボールの様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体育館とクラブ室で行っていた。	春休み期間中は通常より利用人数が多く、見守りの負担が大きくなる。	支援員の適時配置や児童の過ごし方による見守り負担の軽減を目指す。	
2122	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	47	7	3	20.8歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	事故が起きたときの危機感を持って、事故防止マニュアルの整備ができていた。	策定している危機感を持って、事故防止マニュアルの整備ができていた。	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	事故が起きたとき、対象児を見ていた	1.いつもおどりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の児童の中、対象児も見ていた。	事故が起きたとき、対象児を見ていた。	今後も、危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。			

2123	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	110	10	6	23.11歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	事故が起きたときに、事故防止マニュアルの整備ができていた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが、事故が起きてしまった。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
2124	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	132	9	6	18.6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上腕顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	事故が起きたときに、事故防止マニュアルの整備ができていた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近距離を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが、事故が起きてしまった。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
2125	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	3	1	1	18.6歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘上腕顆部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準配置	園全体としての、危険察知・事故防止する力が不十分だった。	園内研修の充実及び、園外研修にも積極的に参加し、園全体としての資質向上に努める。利用児童が理解しやすいように、危険と安全について知らせる。	1.定期的 に実施	12.定期的 に実施	12.定期的 に実施	園全体としての、危険察知・事故防止する力が不十分だった。	1.集団活動中・見守りあり	園内研修の充実及び、園外研修にも積極的に参加し、園全体としての資質向上に努める。利用児童が理解しやすいように、危険と安全について知らせる。	園内研修の充実及び、園外研修にも積極的に参加し、園全体としての資質向上に努める。利用児童が理解しやすいように、危険と安全について知らせる。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園全体としての、危険察知・事故防止する力が不十分だった。フロンテの床で、靴下を履いたまま活動をした事で、バランスを崩しやすくなり、転んだと考えられる。	園内研修の充実及び、園外研修にも積極的に参加し、園全体としての資質向上に努める。利用児童が理解しやすいように、危険と安全について知らせる。フロンテの床で過ごす際は、基本的に「裸足」を徹底させる。
2126	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	41	4	3	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の脱臼(2本)、顔面挫創	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	事故後の対応について研修を行う。事故後の対応マニュアル検討。	2.不定期 に実施	2.不定期 に実施	2.不定期 に実施	1.集団活動中・見守りあり	加害者の子について特別な配慮が必要なことは指導員間で伝え、当日にも危険性を新しい指導員に伝えていたが、注意が欠落していた。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近距離を見ていた	非常勤(採用1か月目の指導員が目の前で見ていた)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	バスケットをして遊んでいる子の動きを制御する(遊具の方に行かないよう)	当該男児の見守りをする子には、経験年数が1か月目の指導員だった。	特別な配慮を必要とする子には、経験年数がある指導員が見守りを行う。	

2127	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	33	5	3	20.8歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨 左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	子どもの個性・特性に応じた配慮の必要性。	個々の発達段階に応じた見守りや配慮の徹底をする。	1.定期的 に実施	290	1.定期的 に実施	290	1.定期的 に実施	290	新しい遊具での遊び方がなかった。	毎日の点検のチェックリストを見直す。	1.集団活動中・見守り	危険を予測して予め回避させたり、事前に注意喚起をする。予測していても事故が起きる場合もあるので、その時にはその場で抑止させる。	発達を踏まえ、個々の心身の状態しながら育成支援を行う。	1.いつもどおりの様子であった	園庭へ出てすぐに補助輪を見つけた。	2.対象児の至近で見ていた	園庭へ出て子どもたちの遊びをしながら、本児の活動も見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	各部署でそれぞれの活動を見守っていた。	子どもと共に分かち合う「ケアの支援」、子どもの安全を守るための「保護的支援」、子どもの育ちを引継いでいく「教育的支援」が関わる総合的な支援が必要。	子どもが危険に気付いた等に遭った場合に、被害を最小限にするための「安全管理能力」を身に付けられるよう援助する。
2128	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	50	5	19.7歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	3.体幹部(首・胸部・腹部・臀部)	頸外傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	2.基準配置	・遊ぶ場所や遊具の使い方、遊び方のルール等を徹底する。 ・育成の遊ぶ場所を変更。	1.定期的 に実施	毎	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	毎	遊具が密集していた為に定元が不安定であったと思われる。	・常設遊具付近で、鬼ごっこやサッカー等走り回らないようにする。 ・ボールを立て、立ち入り禁止の場所を設けることを検討中。	1.集団活動中・見守り	鬼ごっこ等走る遊具の転倒は、手立っていないのが現状。	・定位置においた見守りだけでなく、巡回しながらの見守りや遊びの指導を行う。 ・支援員間の見守りの距離をしっかりと見守る。	1.いつもどおりの様子であった	学校が常設している飛び板付近で、友だちと鬼ごっこをして走り回っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	支援員5人で、全体的に児童の様子を見ていた。	外遊び時の見守り支援員が目が行き届くように監視エリアを定め、巡回しながら遊びの見守りや遊び方の指導を行う。					
2129	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	23	2	18.6歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	多重骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置		2.不定期 に実施	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	1	2.不定期 に実施	50	7.その他	バランスを崩して転倒であり、環境面を改善することは困難である。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見なかった	同室にいたものの、事故が起きた時は対象児が目を離していた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	同室にいたものの、事故が起きた時は対象児が目を離していた。	児童が来た時点で怪我をしないよう呼びかけ、意識させる。						
2130	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	63	6	20.8歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左横骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1.基準以上配置	遊具の使い方を児童に周知徹底する。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	特になし	特になし	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	今後も、遊具の点検を行う。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯の1段抜かしをする為にジャンプして揺るうとした時にすべって落ちた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	雲梯の手前の側で見ていたの、すぐに怪我の対応を行うことができた。	1.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	事故発生後、すみやかに対応を行った。	特になし	今後も、事故に対応できるような支援員による見守りを行う			

2131	平成30年6月29日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	5. 7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	35	4	2. 18. 6歳	1. 男児	頭部の打撲はない様子だった。	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	5. 他児から危害を加えられたもの	1. あり	1. 定期的実施	1. 基準配置	2. 基準配置	1. 定期的実施	12. 3. 未実施	1. 定期的実施	側面が板壁になっている階段なので、建物の構造上死角になる。	1. 集団活動中・見守り	職員不足のため、階段見渡せる場所に支援員を配置しなかった。2階に児童がいたが、対応できなかった。	児童が混みあう時は支援員が立ち位置を考え、見守る。	1. いつもの様子であった	いつもと変わりなく、2階へ荷物を持っていった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	備室して児童全員に荷物を置き、連絡帳を出すよう声掛けしていたので、対象児個人だけを見ることができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名はおやつ台所。1名は全体の出入り口付近。1名は対応で宿題を始めた見守り。1名はフロアで備室時の声掛け。	特になし	特になし
2132	平成30年6月29日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4. 7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	28	4	3. 20. 8歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折(左手小指)	8. その他	1. あり	1. 定期的実施	1. 基準以上配置	2. 基準以上配置	1. 定期的実施		特記事項等なし	発生場所が園外での事故であり、施設の問題は、改善策は特になし	1. 集団活動中・見守り	特記事項等なし	ボール遊び自体は問題なく遊んでいた。当該時、他児も含めて注意すべき点は無かった。しかし、その後の処置の際には、突き指以外の可能性を疑い、対応すべきと考えた。	1. いつもの様子であった	遊び自体に楽しみながら取り組んでいた。ボールに対しても集中していた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	当該児童を含め8名も遊んでいた。個々の様子も注視していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	その遊び以外の子どもも遊んでいた。今回も時々入っていた。	特記事項等なし	処置の際には、あらゆる事態も想定し対応が必要である。今回は突き指以外の可能性を疑い、対応すべきと考えた。
2133	平成30年6月29日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4. 2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	72	6	3. 21. 9歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	鼻骨不全骨折(ひび)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的実施	2. 基準配置	2. 基準配置	1. 定期的実施		遊戯室で遊ぶ際には、濡れタオルなどで靴の裏の埃を取り、準備運動についても、入念に行うよう努める。	1. 集団活動中・見守り	遊戯室で遊ぶ際は、高まった児童に対しては十分に声をかけよう。	普段から、危険が及ぶような声をかけ、たまたま茶室に近づく児童に対しては、自由注意の声をかけよう徹底する。	1. いつもの様子であった	特になし	特になし	遊戯室全体を見渡せる位置に配置し、自由遊戯を見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の部屋で活動していた。	普段から、危険が及ぶような声をかけ、たまたま茶室に近づく児童に対しては、自由注意の声をかけよう徹底する。		
2134	平成30年6月29日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4. 7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	74	6	3. 19. 7歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	1. 基準以上配置	2. 基準以上配置	1. 定期的実施	12. 1. 定期的実施	12. 1. 定期的実施	本事故については、施設・玩具上の異常はなかったため、対応なし	1. 集団活動中・見守り	遊戯室と専用室では、それぞれ3名の職員を基準配置で確保していた。本事故については、施設・玩具上の異常はなかったため、対応なし	遊戯室と専用室では、それぞれ3名の職員を基準配置で確保していた。本事故については、施設・玩具上の異常はなかったため、対応なし	1. いつもの様子であった	対象児は一輪車に習熟しており、事故当日も普段の様子であった	集団遊びのため、全体を見渡せるよう離れたところで見守っていた。対象児は、対象児を見守る瞬間に合っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	集団遊びのため、全体を見渡せるよう離れたところで見守っていた。対象児は、対象児を見守る瞬間に合っていた。	特になし	集団活動中において、一輪車など落下のおそれがあることを認識し、使用させる際は必ず至近距離で職員による見守りを行う	

2135	平成30年6月29日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	3.2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	40											3	3	23.11	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	職員は適正な人数を配置しており、問題がない。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	施設には不備がなかった。	1. 集団活動中・見守りあり	児童に対し注意喚起を行い、事故防止に努める。	1. いつも通りの様子であった	ホールで自由遊んでいた児童を4人の指導員が見守っていた。常日頃からホールでは走らないことでの約束をしていたが、当該児童は音の響きや、おもちゃの感触が、約束を忘れてトイレに行くため走り出し、その勢いで立ったまま滑り出し入り口に衝突したものの、	4人の指導員が見守っていたが、突然走り出したので近くにいる指導員が走ろうと注意したが、当該児童は走り続けた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	狭いホールでの見守り指導員は、声をかけられなく、トイレの入り口の角に衝突した。	突然の行動による事故を防止するため、職員間で連携し、児童への注意、声かけを行う。
2136	平成30年6月29日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	64			7	7	19.7	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施	1. 基準以上配置	特になし	職員配置は基準を満たしたため特に改善策はない。	1. 定期的に実施	毎	1. 定期的に実施	毎	1. 定期的に実施	毎	特になし	周囲に障害物はなく、校庭の状態もよく、周辺の子どもの特異な危険な遊びをしていなかったため特に改善策はない。	1. 集団活動中・見守りあり	支援員は適正に配置され、見守り体制はいたため改善策は特になし。	1. いつも通りの様子であった	いつものように、心を許して友達と話を楽しんでいた。目元が赤い様子があった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	室内で保育していた。見ていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児を眺め、児童全体を見ていたが危険な行動はしなかった。支援員は目の前で遠目に見ていたため、受傷状況を詳細に把握できなかった。	氷裏で冷えやすいため、児童全体を見ていたが危険な行動はしなかった。支援員は目の前で遠目に見ていたため、受傷状況を詳細に把握できなかった。	本児の手の痛みを訴え、泣き止まなかったため、適切に対処できなかった。				
2137	平成30年6月29日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	72			5	2	21.9	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨端線損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	校庭の隅に行った児童にも目を向けられる立ち位置につく。	段差等のある場所に、一輪車では行かないよう声をかけをする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	30	校庭に出る際の安全確認の必要性。	こどもも遊ぶ直前に行う。	1. 集団活動中・見守りあり	広いところへの誘いかけをしなかった。	狭いところの一輪車に入らないよう見守る。	1. いつも通りの様子であった	日頃から一輪車に乗っていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	散在している児童5～6人を見ていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内へ戻るよう誘っていた。	職員の指示を聞いて動くことの声をかけ。	個々の児童の特徴を把握する。			
2138	平成30年6月29日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	35			2	2	21.9	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施	2. 基準配置	私物は各自目録に入れないように徹底する。	室内では走らないなどのルールを徹底する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 集団活動中・見守りあり	室内では走らないなどのルールを徹底する。	いつも通りの様子であった。気がつき過ぎたため、唐突に走り出した。注意を促さなかった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の傍で様子を見ていたが、唐突に走り出したため、注意を促さなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、外遊はしていない。室内には4人しかいなかったため、1人で対応してもらった。	室内では走らないなどのルールを徹底する。								

2143	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	16	2	21.9歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の打撲・損傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	・園庭遊びを行う際の見守り体制が常であったがマンニアルに沿った行動が出来ていなかった ・運動遊びを行う際は複数で見守りを行うようにする ・支援員が働きかたも園から様子を見ようとする ・マンニアルを徹底する	1.定期的 に実施	50	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	毎日	・各環境における安全管理を見直し、工夫し、それぞれの場面に適切な対応を行い、再発防止を徹底して行う ・支援員が講じた水飲み場周辺の安全対策が適切でなく、不十分であった ・ボール遊びが激しくなっている状態を止められていなかった ・ボール遊びが激しくなっている状態を止められていなかった ・学童における安全対策を工夫し、再発防止を徹底して行う ・学童における安全対策を工夫し、再発防止を徹底して行う	1.集団活動中・見守りあり	1.いつもおりの様子であった	ゴールキーパーが激しくボールを見てドリブルしながら前進していた	3.対象児からバスが激しくボールを見てドリブルしながら前進していた	園庭の築山やその周囲にあるタイヤがボールの妨害となり出たことがあったから、園庭の川側にタイヤを撤去して見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	クラブ建物の室内で残っていた児童7名を見ていた	・各環境における安全管理を見直し、工夫し、それぞれの場面に適切な対応を行い、再発防止を徹底して行う ・支援員が講じた水飲み場周辺の安全対策が適切でなく、不十分であった ・ボール遊びが激しくなっている状態を止められていなかった ・ボール遊びが激しくなっている状態を止められていなかった ・学童における安全対策を工夫し、再発防止を徹底して行う ・学童における安全対策を工夫し、再発防止を徹底して行う	・危険な場所における支援員が、ボールや動いている児童の近くで状況を把握できるように動いていなかった ・支援員の危険管理についての意識を高めるように、児童らも安全について考える機会を十分に作っていく ・危険な行為は徹底して止め、常に声をかけ促す
2144	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	71	8	21.9歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨折	3.子ども同士の間でぶつかった	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準以上配置	児童が転倒した際に立ち上がりたため、他児とぶつかった。 児童が転倒した際に立ち上がりたため、他児とぶつかった。 児童が転倒した際に立ち上がりたため、他児とぶつかった。	2.不定期に実施	1	1.定期的 に実施	毎	1.定期的 に実施	毎	サッカーに夢中になると激しい動きになった場合転倒した際、他児とぶつかる可能性がある サッカーに夢中になると激しい動きになった場合転倒した際、他児とぶつかる可能性がある サッカーに夢中になると激しい動きになった場合転倒した際、他児とぶつかる可能性がある	1.集団活動中・見守りあり	1.いつもおりの様子であった	サッカーが人気で、集団でサッカーの試合をしていた。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	職員1名が大人気のサッカーを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	他の場所で行っていた	外遊びの終了時間が迫っているときに起きた事故で、子どもも興奮気味になっていた。 外遊びの終了時間が迫っているときに起きた事故で、子どもも興奮気味になっていた。 外遊びの終了時間が迫っているときに起きた事故で、子どもも興奮気味になっていた。	
2145	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	176	15	21.9歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	事故が起きたときに、事故防止マニュアルの整備ができていた。 策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	特になし	1.いつもおりの様子であった	3.対象児の動きを見ていた	3.対象児の動きを見ていた	1.担当者・対象児の動きを見守っていた(至近距離にいた)	2.対象児の動きを見ていた	支援員が見守りをしていたが、事故が起きてしまった。 支援員が見守りをしていたが、事故が起きてしまった。 支援員が見守りをしていたが、事故が起きてしまった。				
2146	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	117	16	21.9歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	事故が起きたときに、事故防止マニュアルの整備ができていた。 策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	特になし	1.いつもおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	4.対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	2.対象児の動きを見ていなかった	支援員が見守りをしていたが、事故が起きてしまった。 支援員が見守りをしていたが、事故が起きてしまった。 支援員が見守りをしていたが、事故が起きてしまった。				
2147	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	84	17	20.8歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位骨端部損傷	3.子ども同士の間でぶつかった	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	事故が起きたときに、事故防止マニュアルの整備ができていた。 策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	特になし	1.いつもおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	4.対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	2.対象児の動きを見ていなかった	支援員が見守りをしていたが、事故が起きてしまった。 支援員が見守りをしていたが、事故が起きてしまった。 支援員が見守りをしていたが、事故が起きてしまった。				

2148	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	36	3	20.8歳	2.女児	15:18 登所 15:25 着替えを済ませ、宿題に取り組む。 16:30 おやつ 17:00 各自好きな遊びを開始。 当該児童はドッジボールをして遊んでいた。 17:05 ドッジボール中に投げられたボールを避けた際に転倒。泣き声に支援員が気付く、室内に運び応急処置。 17:15 保護者へ連絡。保護者をお迎え後に病院受診。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	改善点なし 理由:外遊びに支援員1名、補助員1名を配置しており、配置は十分だった。	2.不定期に実施	3	3	3	3	3	1.集団活動中・見守りあり	改善点なし 理由:当時運動場で遊んでおり、遊ぶスペースとして十分な広さが確保できていた。	改善点は、広範囲での見守りになるため、遊び場の範囲を子どもたちと一緒に考えていく。	1.いつもどおりの様子であった	ボールを使って遊んでおり、ボールが当たるときのため、遊び場を避けた。遊行動をとった。	4.対象児の動きを見守っていた	対象児とは別の児童を近くで見守り、対象児が転倒した際に気が付いた。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	それぞれ近隣の保育士が対応していた。事後は他の児童も室内に誘導。	改善点なし 理由:外遊びに支援員1名、補助員1名を配置しており、配置は十分だった。
2149	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	26	2	20.8歳	2.女児	7:55登所 8:45保育室内の畳の上に移動する際、畳の縁にて右足をつまづく。 転倒はしなかったが、右足薬指が赤くなり薬指の付け根に痛みがあったため、しばらくの間患部を冷やす。 (その後、湿布を貼り様子観察) 17:00幹部の内出血と腫れが足首まで広がっていたため、お迎え時に保護者へ状況説明。その際、患部が腫れて紫色になったため病院受診。	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	なし 理由:事故当時は支援員1名、補助員1名を配置しており、土曜日の登所人数も少なく十分に対応できていた。(事故当時は9名が登所)	1.定期的実施	12	4	1.定期的実施	12	1.集団活動中・見守りあり	日頃からつるくとして遊んでいる状況ではあるが、何かに夢中になっている可能性もあるため、配置を核討する。	なし 理由:登所人数も少なく、遊びの範囲も室内で3ヶ所ほどだった。朝の自由時間もゆとりとした時間を過ごしていた。	畳の上で座っていた友達と向き合っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見守っていた	事務機の児童が歩いている姿を見ていると、児童が歩いている姿を確認。児童が歩いている姿を確認し、冷却をした。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	別の児童の対応をしており、対象児の動きは見守っていた。	なし 理由:事故当時は支援員1名、補助員1名を配置していた。(基準配置)		
2150	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	41	7	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折 近位部骨端線損傷	3.子ども同士の間で衝突によるもの	1.あり	3.未実施	1.基準以上配置	今後、考えられる事故について職員全員で話し合い、周知する。	2.不定期に実施	3.未実施	3.未実施	3.未実施	1.集団活動中・見守りあり	遊びの種類によって危険のないように、グラウンドの明確な分界を確保していたが、グラウンドの中で、ボール遊びをする場所など、ゾーンを重なり合っている状態になっていた。	外遊びの危険防止の細かな約束を提示していた。	再度、遊びの種類によって危険のないように約束やルールなどを提示する。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	支援員が2人いたが、児童に誘われて少人数で遊ぶことがあった。全体を見守るよう指示していたが、指導員全員の体として見守ることが出来なかった。	このような状況の場合、早めに対応して少人数で遊ぶことが出来たように、再度指導員全員に人数だけでなく、全体を見守るよう指示する。			
2151	平成30年6月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	140	10	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	事故が起きたときのために、事故防止マニュアルの整備ができていた。	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見守っていた	対象児の近くで見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見守っていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で、対象児も見守っていた。	支援員が見守りを注意を促していたが、支援員が気づいていなかった。	見守りが必要な場面では、引き続き支援員が行っていき、			

2152	平成30年6月29日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	4.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	90	0	0	0	3	6	0	0	0	2	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1-2	2.基準配置	マンユアルの更新頻度を高め(細かい修正も含め都度実施すること)	ミーティングによる危機意識の向上を図り、事故を未然に防止する。また、発生時の対応を確認する。全職員で再発防止の徹底を行う。	1.定期的実施	4	1.定期的実施	1	1.定期的実施	1	各年齢が使用できる遊具しておくことが必要	現地到着時での危険箇所の事前確認	1.集団活動中・見守りあり	外部研修などに参加し、事故事例などから事前に環境面に注意を払う	戸外活動場所に着時、園児・スタッフ共に「危険箇所」の共有。さらに、職員間において活動内容について密に連携しておく。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	新年度開始にあたり、園児の行動も落ち着きがない状況であった。	3.対象児からどこで対象児を見ていた	職員も突然(駆け出し)した行動で園児に衝突した。山の斜面に下りた際にスピードが出ていたと思われる。	2.担当者・対象児を見ていなかった	他の職員も担任同様、園児を運ぶ際に山を下ることに予測ができていなかった。	園を出発する際、活動場所以外の注意事項に知らせるべきだった。	子どもの活動中は常に目を配り、危険な行動をしていないようには、サポートしたり、注意を促す。事前に心がけを園児に知らせるべきだった。危険と予測される場合は声をかける。活動前に約束もたちらし始める。
2153	平成30年6月29日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	9.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	6								2	16.4歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯根骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1-2	1.基準以上配置	安全面でも英語講師に任せ、職員の見直し、園児の悪ふざけについては保育士が注意し、転倒等の事故が起こらないよう見守る。	研修内容の見直し、園内研修にて情報共有を行う。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	密集した状況で怪我が起こりやす状況であった。	椅子・机等の配置を見直す。	2.集団活動中・子ども達のみ	ダンス等、身体を動かすには部屋が狭い上、椅子の配置が悪く、園児が密集しやす状況であった。また保育士は次の保育の準備をしていたが、園児がしつこく悪ふざけをしていて見守っていた。	英語レッスン中も保育士による安全管理を徹底して行う。	1.いつもおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	担当以外の保育士が室内に待機していたが、保育教材の片付けのため退室していた。また担当保育士は次の保育の準備をしていたが、園児がしつこく悪ふざけをしていて見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当以外の保育士が室内に待機していたが、保育教材の片付けのため退室していた。	いつ事故が起きるかという意識を園児にも見せたい。また、常に状況を想定し言葉かけ等を行う。			
2154	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	70						29	41	4	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左第5指挫創	8.その他	1.あり	3.未実施	1.基準以上配置	園の点検表は施設の状態のみをチェックする内容のため、児童の動きに対する危険箇所の認識が薄れていた。	児童の動きによる想定危険箇所を職員共通の認識とするため、職員会議等で話し合い周知徹底させる。	1.定期的実施	24	1.定期的実施	27	24	施設(門扉)の危険箇所は認識していたが、児童がその箇所を想定して触れた。	施設上危険と思われる箇所へ近づけないよう配慮するとともに、児童にも危険であることを認識させる。	1.集団活動中・見守りあり	遊具遊びをしている児童には注意していたが、他の児童への注意が疎かになっていた。	エリアを決めて児童の動きに注意する。	1.いつもおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の肘に当たったため、当該児童の動きに気が回らなかつた。当該児童の申告により、怪我を確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	少し離れた所で見守っていたが、他児の動きも見ていなかった	自分の近くに児童の動きに気が回らなかつた。他児の動きに気をつけて見守っていた。	職員同士声をかけるとともに、エリアを決めて児童の様子に注意するなど、誰も見えていない児童がいないようにする。			
2155	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16							1	18.6歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	職員会議で当該事故について周知し、事故防止策について話し合った。ハンカチ落としは白旗から遊んでいられず、お尻から座るよう、マニュアルに書き込む。	職員会議で当該事故について周知し、事故防止策について話し合った。ハンカチ落としは白旗から遊んでいられず、お尻から座るよう、マニュアルに書き込む。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	特になし	引き続き安全点検を定期に行う	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どものそばで見守っていたが、滑り込んで骨折したと予測していた。	特になし	ハンカチ落としで滑り込むと予測し、子どもからお尻から座るように指導することを、マニュアルに書き込む。				

2156	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	1.朝(始業-午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17									1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	特になし	事故の現場を再現し、保育教諭の配置が良かったかを振り返り、改善する必要があるかを話し合う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	朝の低温の気候で地面が水分を含んだようになり、滑りやすくなった。	地面の現象に気づかずに、子どもたちの遊び内容を明確にしようとする。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの行動が著しく活発になっていて、これを把握できていない。	負傷した子どもと保育教諭で話をすることで、今後のルールを確認する。	園庭にて遊んでいる子どもが、築山に登ろうとした際に、足で蹴られ、丸太階段に顔をぶつけた。	保育教諭2名が園庭で子どもたちを見ていたが、事故現場付近を保育教諭は歩いた。現場は築山の死角になっていた。本児は泣き声を確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	年長の担任は6人と離れたところであった。	週初めの月曜日は、子どもの日常生活が鈍いように思われる。	死角になる部分で踏まえて、保育教諭の配置を行う。
2157	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃-夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	28									2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数	1.基準以上配置	遊び方指導に即応せず、子ども達の遊びを見守ってしまっただけで、注意喚起と共に行き届いて見守るべきだった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	転倒時床に敷いていたマットは、厚さ0.8cm、材質は発泡樹脂製、断熱効果のあるゴムマット。	遊具玩具による事故ではないため、左記事項を継続実施	1.集団活動中・見守りあり	部屋の大人数、職員配置数には問題なく、遊べるスペースも確保し、十分な広さも確保できている。	部屋の大きさ、職員配置数に問題ないため、現行通り継続	1.いつもおどりの様子があった	いつも通りの様子があった	4.対象児の動きを見ていた	一瞬目を離した(机の角に倒れかけた)	2.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同室内別コーナーにて遊んでおり、園児同士で遊んでいた。	子どものそばを離れる際、保育士及びパート職員との連携不足	子どものそばを離れる際の、保育士及びパート職員との連携について話し合う。	
2158	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25									2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	職員会議や研修会を通して、事故等の事例を話し合い、全職員が安全な実践に向けて意識が高まるよう努めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	現在、巧技台の収納場所が狭く、遊びにくい場所があるため、経験不足になっている。	巧技台を折り入れ、遊びやすい環境づくりに努める。	1.集団活動中・見守りあり	巧技台を用いた遊戯不足が気になる。	巧技台の安全な遊び方について子どもと話し合いをし、再確認を促して安全に遊べるよう指導する。また、いろいろな道具を使った遊戯を増やす。	朝の視診では変わった様子はなく、元気に登園して遊んでいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもたちを把握できなかった。	保育教諭2人の位置関係と子どもへの援助の仕方	遊びの中で的確な援助ができるよう保育教諭同士の連携を図る。				
2159	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	26									2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕外側骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	13	1.基準以上配置	事故予防についての研修を基に、これからはもう少く、もう少しでタッチするところの転びそうを事前に予測できなかった点を反省する。また、子どもには体幹のトレーニングを行ったり、危険予知能力を高める活動を行う。	1.定期的に実施	2(業者) 12(職員)	1.定期的に実施	1(業者) 12(職員)	12(職員)	事故の前でハンド面について環境を変えなければならない。	活動中の見守りを丁寧にし、危険予測ができるようになる(理由を記載)	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	別の遊びをしていて遊んでいた	2.担当者・対象児の動きを見ていた	保育室にて活動準備をしていた。	本児が友だちを追いかけて触ったという思いが強くなり、もう少しでタッチするところの転びそうを事前に予測できなかった点を反省する。また、子どもには体幹のトレーニングを行ったり、危険予知能力を高める活動を行う。					

2165	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	174										56	58	60	24	22	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	3.体幹(首・胸・腕部・腰部)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2	1.基準以上配置	親子遠足中、保護者監視下での事故。	当該所り滑り場所についても、重大なけがをすることを恐れているので、利用の際には職員や保護者に対して注意喚起を行う。	1.定期的実施	1	1.定期的実施	1	3.未実施	親子遠足中、保護者監視下での事故。	当該所り滑り場所についても、重大なけがをすることを恐れているので、利用の際には職員や保護者に対して注意喚起を行う。	1.集団活動中・見守り	親子遠足中、保護者監視下での事故。	当該所り滑り場所についても、重大なけがをすることを恐れているので、利用の際には職員や保護者に対して注意喚起を行う。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	遠足で興奮し、普段より活動的であったと推測される。	4.対象児の動きを見失った	当該遊具所と認識しておらず、職員がいない。	2.担当者・対象児の動きを見失った	他の個所に配置された見回り担当者発生当時はこの場所を見回っていない時間帯であった。	当該所り滑り場所でも事故が発生することを周知し、利用の際には職員や保護者に対して注意喚起を行う。また、担当職員を配置する。	
2166	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25																1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨類上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	危険予測を意識していなかった。	安全対策の研修に出席し、危険予測を高める。また、朝礼に子どもに対する意識づけを行う。	1.定期的実施	24	1.定期的実施	24	1.定期的実施	12	日頃から使い慣れている遊具であるため、安心して遊んでいたが、職員は気づかなかった。	保育者自身も遊具を使い、危険性や安全な遊び方を確認して遊ぶ。	1.集団活動中・見守り	本児は運動遊びに対しては積極的に、危険を冒さずチャレンジしようとする機会が多い。そのことを理解していただいても関わらず、勝手に付いていた。	年齢や体力、運動能力に合った遊具での遊びが選ばれる。保育者が注意して遊ぶ。	1.いつもより活動的であった	友達と一緒に遊ぶように、遊びを清らした。	3.対象児から離れたところで対象児を見失った	少し離れたところの子どもたちと見失った。対象児が滑るようになっているのは見ていた。パランスを崩したことで対象児を見失った。「危ない！」と声をかけたら、聞かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見失った	落下した後に走り寄った。	日頃慣れている遊具なので、大丈夫かと思っていた。	危険な行動や行為をしないよう子どもたちの様子をよく見ることが必要である。
2167	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	42																2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の垂脱臼	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2~3	1.基準以上配置	ドッジボール時、後ろ向きで動いていく音が聞こえなかった。	後ろ向きで動いていくことを、園児に声かけていく。今後、今回事業において子どもに対する意識づけを行う。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	特になし(遊戯室に異常はなかった)	特になし	1.集団活動中・見守り	ドッジボールをしているときの様子を見失った。また、遊びの種類が多すぎて、職員の目が行き届かなかった。	声かけをすることがある。遊びの種類が多すぎて、職員の目が行き届かなかった。	1.いつもより活動的であった	園児5人対5人でドッジボールをしていた。	2.対象児の動きを見失った	ドッジボールの遊びをみていた。	2.担当者・対象児の動きを見失った	ドッジボール以外の遊びをみていた。	園児たちがみだらうとしていた。	危ない動きや行為をしないよう子どもたちの様子をよく見ることが必要である。
2168	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	30	10	10	10													2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨類上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	3	2.基準配置	危険がある遊びに気づかず、先生が叫ぶまで気づかなかった。	滑り台付近の子どもの遊びについては、特段の注意を要する。また、声をかけて、先生が不足するようであれば、応援の先生を呼ぶ。	1.定期的実施	3	1.定期的実施	3	1.定期的実施	3	遊具、玩具の遊ばせが、危険を生じやすい遊びに気づかず、先生が叫ぶまで気づかなかった。	危険に気づかずに遊んでいて、危険を生じやすい遊びに気づかず、先生が叫ぶまで気づかなかった。	1.集団活動中・見守り	担当の職員が、おまわりをしながら遊ぶ。状況に応じて、職員は見守りをする。状況に応じて、職員は見守りをする。状況に応じて、職員は見守りをする。	1.いつもより活動的であった	特に変わった様子があった。	3.対象児から離れたところで対象児を見失った	ホールで園児が遊ぶように注意していたが、園児の動きを見失った。	2.担当者・対象児の動きを見失った	ホールでの遊ばせで、対象児の動きを見失った。	休日明けで子どもたちが遊ぶのに、月曜日の発生した。月曜日は事故が多いと注意すべきであった。	全体を把握する職員の声を聞いていく。ドッジボールの端にいる子どもが、多めに注意すべきであった。	
2169	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	125	3	9	27	30	34												8.その他	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ関節骨折(ひび)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	3	1.基準以上配置	親子で行動する際の、遊具が年齢にあてはまらないなど、職員の見守りの体制も周知徹底する。	親子で行動する際の、遊具が年齢にあてはまらないなど、職員の見守りの体制も周知徹底する。	1.定期的実施	1	1.定期的実施	1	1.定期的実施	1	利用する施設内に危険箇所はないが、安全点検については事前の徹底を図っていく。	親子で活動中という事で、保護者の見守りを期待するが、子どもについては、保育者の積極的な見守りも必要であり、職員に対して周知徹底していく。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	行事中という事で、うれしさをあつちた。活動的であった(理由を記載)	4.対象児の動きを見失った	遊具の近くには職員が配置していたが、対象児が落ちた瞬間は見失った。	2.担当者・対象児の動きを見失った	遊具の近くには職員が配置していたが、対象児が落ちた瞬間は見失った。	遠足の行先である施設について事前に見守りもしたが、事故防止の意味で各職員がつくた見守りの体制を強化したい。			

2175	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	26										3	3	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 2.不定期に実施	1~2	2.基準配置		遊びの中で、様々な体験、経験をすることで自分の身を守るべきを身に付けられしつていく。そのような環境を作れるような保育の見直しや、子どもの遊びを見て異変や危険がないか、又注意すべき点がないか気を付けて保育していく。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	床に異常がないか(滑りやすい等)気を付けて見ていく。	1.集団活動中・見守りあり		特にホールの広い所では、保育者同士の連携を密に取りながら、全体に目を配るように行き、一人一人見取りを行い、異変に早く気付くように行く。	1.いつもの様子であった	元気に登り、走り回っていました。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ホールで本児の隣のグループの遊びながら見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホールに担任以外名おり、子ども達と一緒に遊んで見守っていた。全体を見守っていた。	全体を注意して見守り、子ども達にも気付くよう、職員全体で注意喚起していきたい。
2176	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	28										2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指にひびが入った	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 2.不定期に実施	24	1.基準以上配置		遊びの中で、様々な体験、経験をすることで自分の身を守るべきを身に付けられしつていく。そのような環境を作れるような保育の見直しや、子どもの遊びを見て異変や危険がないか、又注意すべき点がないか気を付けて保育していく。	1.定期的 に実施	48	1.定期的 に実施	48	1.定期的 に実施	48	床に異常がないか(滑りやすい等)気を付けて見ていく。	1.集団活動中・見守りあり	接触児が多くて気が持たなかった。少くくダウンさせなければならない。	広いホール内で、思い通りに走り回るのを防ぐため、周りを遊ばないように注意喚起していく。	1.いつもの様子であった	普段通り鬼ごっこを遊んでいた。	2.対象児の動きを見ていた	鬼ごっこをして見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員は、子ども達に周りをよく見て状況を伝えるが、さらに声をかけていく必要があった。	
2177	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	32										2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨肘頭側部若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 1.定期的 に実施	3	1.基準以上配置	対象児に遊び方(ルール)を伝えていたが、対象児が遊び方を守らなかった。	対象児を含め、子どもたちへ繰り返し遊び方(ルール)を伝える。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	5	1.定期的 に実施	5	室内遊具毎日	ウレタンブロックを二つ折りにして使っていた。	ウレタンブロックを含め、遊具の遊び方ももう一度確認する。	1.集団活動中・見守りあり	異年齢児の子ども達がおそろいの中、お気に入りブロックを二つ折りにし、ジャンプをして遊んでいた。	1.いつもの様子であった					
2178	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25										2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨通頸骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 1.定期的 に実施	3	1.基準以上配置	鬼ごっこをする際にステップを利用した。	遊戯室で鬼ごっこをする際にステップを利用しない。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	5	1.定期的 に実施	5	室内遊具毎日	上靴が大きい転倒した。	サイズの合った上靴を履いて活動する。	1.集団活動中・見守りあり	友達や保育者と鬼ごっこをするときに、大きい上靴を履きすぎて、バランスを崩してしまった。	1.いつもの様子であった	一緒に鬼ごっこをしていたが、対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	状況は見えていたが、他児の援助をしようとしたため、助けることができなかった。			
2179	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	40										3	3	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり 1.定期的 に実施	1	1.基準以上配置	マニュアルの作成もされており、研修にも参加している。職員配置も問題ない。	マニュアル、研修報告書を再度見直し、更なる事故防止に努める。	1.定期的 に実施	3	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	事故発生となった。積み木について、遊具点検を行い、問題は無い。	安全点検に努め、職員の共通理解や体制づくりを図っていく。	1.集団活動中・見守りあり	遊具の使い方等安全に遊ぶよう見守りを行った。	さらに園児自身に安全意識が高まるよう指導していく。	1.いつもの様子であった	母親がまだ迎えにきたため、遊戯室で待たされていた。	2.対象児の動きを見ていた	遊戯室で、対象児と一緒にソフト積木で遊んでいたが、対象児がソフト積木に乗った瞬間、手を差し伸ばすことができなかった。	遊戯室には、基準の職員が配置されているが危険が回避できなかった。	事故防止のため、常に危険がないか確認意識していく。

2180	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	24												24	1.定期的 に実施			椅子や机等にくつきが無いか、高さなども合っているかについて再度点検する。		3.個人活動中・見守りあり	おやつを食べている子が、片付けをしている状態に転倒した状態で、食卓周りの空間に転倒したままおやつを食べていた。	1.いつもどおり様子であった	園外保育等の話しながら、おやつを食べていた。	3.対象児から離れたところへおやつを見ている対象児を見た	食後終わりの掃除・片付けの時の安全を促しながら様子を見ていたが、側についていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ることができなかった	カバンを置いて行く子について、その場にはいなかった。	慌ただしい時間帯であるため、それを把握し、保育者間で声を掛け合う。													
2181	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18			3	5	2	3	5				7	6	16.4歳	2.女児		1.遊具等からの転落・落下	2.不定期に実施	2.不定期に実施	遊ぶ前に職員の見守りをしていないため、おやつを食べていた	3.対象児から離れたところへおやつを見ている対象児を見た	職員は少し離れた場所へおやつを見守っていたが、側についていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ることができなかった	多くの園児が砂場に行き、様子を見ることができなかった	監督ミス	遊び方の確認を徹底し、職員の配置を怠らない。														
2182	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20											3	2	17.5歳	2.女児		1.遊具等からの転落・落下	3.未実施	1.基 礎以上配置	事故予防研修を実施、事故マニュアル再検討。	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	48	運動器具の安全点検チェックシート作成	1.集団活動中・見守りあり	園と体操教室とコミュニケーションをとり安全に配慮していた。	1.いつもどおり様子であった	いつもどおり様子であった	1.対象児の動きを見ることができなかった	本児が跳箱から落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった	1.担当者・対象児の動きを見ることができなかった(至近距離にいた)	飛び箱等を行う時はインストラクターを1名増員で対応する。					
2183	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	50			12	20	18						5	5	18.6歳	2.女児		4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	ホール内で職員の見守りがなかった	保育教諭の中で声を掛け合って全体を見る保育教諭を配置する。	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	ホールという範囲の中で遊びをしていた。	1.いつもどおり様子であった	数人の子とも鬼ごっこをしていた	4.対象児の動きを見ることができなかった	はじめは本児と一緒に遊ぶ子を見守っていたが、近隣の職員に声をかけてもらう必要があった	鬼ごっこなど、スペースを使う遊びが行われる時は、ホールで行う場合は、クラス単位で行う。また、運動遊びをするのであれば、固定遊具(鉄棒・パラソル・ブランケット等)を準備しておく必要がある。	配置する保育教諭のなか、ホール全体の動きを見ることができる保育教諭がいたら事故当時の状況は避けられた。	保育教諭のなか、ホール全体の動きを見ることができる保育教諭がいたら事故当時の状況は避けられた。
2184	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	28											2	2	15.3歳	2.女児		5.下肢(足・足指)	左脛骨遠位骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 に実施	園庭での職員の見守りがなかった	園庭での職員の見守りがなかった	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	48		3.個人活動中・見守りあり	事前に園庭での危険を知らせたため、園庭に出て、一緒に遊具を見て危険を認識する。	3.いつもどおり様子であった	遊びの中で友達と弾み、いともよがり気持ちは活発であった(理由を記載)	3.対象児から離れたところへおやつを見ている対象児を見た	他児と鬼ごっこをしていたため、本児が転倒したところを近くで見守っていた。走った際に、本児の近くに行くと、他児が早く気づき本児に声をかけた。	園庭で他児のうんちを見守っていたり、他児と砂遊びをしていた。泣き声が聞こえ、転倒に気づいた。	担当職員の見守りがなかった。	近くにいる職員が声を掛け、危険を知らせる。園庭に出る前に注意を促す。	

2190	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	24												2	2	17.5歳	2.女児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.定期的実施	3	2.基準配置	安全計画が不十分であり、職員の間でも徹底されていない。 マニュアルに沿った共通理解ではなく、危険予知、危険意識を高める研修会を園内で行う。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	毎日	園内に段差のある多日場所は、日常生活を行う上で危険な個所はない。	施設や設備に老朽化等の問題は特になし。	職員同士の声掛けが不足していたため、安全面の配慮や職員間の連携が不十分であった。	安全な環境を確保するために、子どもも動きも移動の際には再確認し、職員間の連携や声掛けを明確にする。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	仲良しの子たちと一緒に遊んでいて、いつも以上に活発な行動をとった。	バスや迎えの子どもたちを呼びながら玄関にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスから子どもたちを呼び取りバスに搭乗するための位置にいた。	子どもたちの遊びを十分に確認出来ていない状態だった。	各園所の担当者は、子どもたちを遊んでいるか、危険な行動がないかを確認すること。	
2191	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	16												2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.定期的実施	2	1.基準以上配置	公園から帰園する際、先頭の保育教諭が子どもたちの様子を見ながら歩いていた。また、事故予防マニュアル作成の必要性を感じ、早急に対応する。	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	点検は随時行っているが、特になし。	集団活動中、歩行速度を速くせず、慌てないようにする。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	他児と二人で手を繋ぎ、歩行も安定して走り回り、仲良く遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていなかった	園児の様子を見ながら、列の後尾に歩いていった。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	園児の様子を見ながら、列の後尾に歩いていった。	先頭の保育教諭が全体の園児の様子を見ながら、早く歩かずに歩かせるよう配慮する。後方の保育教諭は全体の園児の様子を見ながら先頭の保育教諭に伝えるようにする。			
2192	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	40					18	4	18						5	5	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.定期的実施	1	1.基準以上配置	遊具の傍には職員がおり、遊ぶ子どもたちの様子を見ながら歩いていた。また、事故予防マニュアル作成の必要性を感じ、早急に対応する。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	職員同士で声を掛け合いながら見守り、それぞれが立ち位置に留意する。・傍で見守る際に落下等の危険性を予測し、すぐに手助けできるようにする。	1.いつもより活動的であった	公園内を活発に動き回り、自分の好きな遊びを選んで遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	遊具で遊んでいたにも関わらず、事前の安全確認が不十分であった。	・遊ぶ前には必ず職員間で危険箇所を確認しておく。・柵に上ったり、遊具の使い方が間違っていたりする子どもには、危険なことや安全な遊び方を知らせる。					
2193	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	9					2	4	3						4	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上部の骨折	8.その他	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	・まだ新年度という事もあり、12名の園児に対して4名の大人がいた。・いつも3名と比べると、1名増えたことにより、バランスが崩れる。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	3	1.定期的実施	随時	人工芝の芝が長いことで足を取られるケースがみられる。	小学校と話し合い、芝を剪草する作業を行う。	1.集団活動中・見守りあり	・園児の状況を見て、遊びを切り替えた。・遊具の状況を確認し、安全な遊び方を考える。	1.いつもより活動的であった	運動神経がよく、遊具を上手に活用していた。他の子どもたちと仲良く遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていなかった	グラウンド全体を見渡しながら立ち位置を確認していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊んでいる園児を周囲に注意しながら見守り、安全な遊び方を指導していた。	・声の掛け合いを徹底する。・友だちへの関わり方を必要に応じて指導できるように十分配慮する。
2194	平成30年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5													2	2	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	右母趾捻挫	8.その他	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	延長保育時間に慣れない使用していたため、保育者がそばにつき使用するようにする。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	300	1.定期的実施	300	普段使っている玩具だったので、扱いに慣れていなかった。	持ち上げると危険な玩具のため、正しい使用法を知らせるとともに、保育者がそばにつき使用するようにする。	持ち上げると危険な玩具のため、正しい使用法を知らせるとともに、保育者がそばにつき使用するようにする。	他の子どもの保護者が迎えに来たのを見ようとして、他児3人と保育者が離れた後、玩具を引っ張って行った。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	移動する前は他の職員がそばにいた。	本児が遊ぶのを想定していたが、保育者がそばにつき使用するようにする。	持ち上げると危険なため、玩具の使用法を知らせるとともに、保育者がそばにつき使用するようにする。			

2195	平成30年9月28日	1.認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	1. 朝(始業-午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	17																	3	3	14. 2歳	2. 女児	2. 室内活動中	1. 負傷 0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり 2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	安全面に気を付けて保育を行う。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12	保育人員が子ども自身で遊ぶようになり、感情的に泣いてしまったり、話しが聞き取れないことなどが発生している。保育計画の中に子ども自身で遊ぶようになり、感情的に泣いてしまったり、話しが聞き取れないことなどが発生している。	1. 集団活動中・見守りあり	年齢や発達段階に応じた保育を行う。	1. いつもの様子であった	4月入園で思うように泣いてしまったり、感情的に泣いてしまったり、話しが聞き取れないことなどが発生している。保育計画の中に子ども自身で遊ぶようになり、感情的に泣いてしまったり、話しが聞き取れないことなどが発生している。	2. 対象児の動きを見ていた 2. 対象児の動きを見ていた	楽しんでボールを使った。対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラスみんなでボール遊びをした。	ボールの遊ばせ方について、発達段階に考慮して安全を心がけて保育する。
2196	平成30年9月28日	1.認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	1. 朝(始業-午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	22																	4	4	15. 3歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷 0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり 2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	環境設定時の安全確認の徹底。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12	保育室内環境構成だけが要因となるものを排除する。	1. 集団活動中・見守りあり	衣装を着替えるにあたり、服を脱いで片付けていない状態であった。一人ひとりに集中し、全体を見つめていた。	1. いつもの様子であった	普段から活動的である。	4. 対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員が指示に従い、衣装の調整に目が行ってしまいがちで、本人には痛くないと判断された。また、当日は着て練習する計画であった。	担当職員は計画通り保育を行う。他担当職員と連携を図るよう関係を構築する。	
2197	平成30年9月28日	1.認可	2. 幼稚園型認定こども園	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	18 28 46 37	15	15	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3	2. 基準配置	遊具の使用の仕方・遊び方・遊び場所について、高くなる遊具については、保育者がついていき、天候による状況判断を要する。	3	2	3	ジャングルジムに類似した遊具であり、高い所にのぼっている様子が見られる。この際は、保育者がそばに立ち、天候による状況判断を要する。	毎朝のチェックだけでなく、天候による状況判断を要する。また、職員がついていき、天候による状況判断を要する。	雪が降った後の寒さにより、遊具の滑りやすさや防寒対策を講じる必要がある。	雨や雪など、気温の変化による状況判断を要する。	1. いつもの様子であった	小園庭で遊び、バスを待っていた。	4. 対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の子の遊びを見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他のクラスで室内の遊具を見ていた。	転んだ時には、手を握るよう声をかける。																			
2198	平成30年9月28日	1.認可	2. 幼稚園型認定こども園	6	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	8 9 9	1	1	17. 5歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腰部)	鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり 2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	マンニアルの作成もしており、研修も受けている。職員配置にも問題はない。	1. 定期的に実施	300	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	今回の事故に関して、施設、設備は全く影響していない。	再発防止に努める。	3. 個人活動中・見守りあり	園児の見守りが不足していた。	再発防止に努める。	1. いつもの様子であった	小園庭で遊び、バスを待っていた。	4. 対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の子の遊びを見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他のクラスで室内の遊具を見ていた。	転んだ時には、手を握るよう声をかける。														
2199	平成30年9月28日	1.認可	2. 幼稚園型認定こども園	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	8 7 6 8	5	3	18. 6歳	1. 男児	6. 水遊び・プール活動中	1. 負傷 0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腰部)	鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり 2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	マンニアルの作成もしており、研修も受けている。職員配置にも問題はない。	1. 定期的に実施	300	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	遊んでいて途中で水量が増え、水が浅いところから、水量が減っていた。	途中でも水量を増やし、水の浅いところから、水量が減っていた。	3. 個人活動中・見守りあり	園児の見守りが十分であった。	再発防止に努める。	1. いつもの様子であった	2. 対象児の動きを見ていた	2. 対象児の動きを見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	違う場所から全体の様子を見ていた。	転ぶ時に、手を握るよう声をかける。															

2200	平成30年9月28日	1.認可	3.保育所型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	3					3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨類状骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2	1.基準以上配置	様々な遊具に対する認識のすり合わせをする。(対象年齢、使い方、安全対策)お散歩に出る前に必ず施設長と「行動の使用目的(活動の内容等)、子ども達の様子に適切な遊具を準備し、職員を確認する。お散歩ルート、公園の道、遊具に対する職員の配置、予測されるリスク等のミーティングを実施する。	1.定期的実施		2.不定期実施	1.定期的実施	12			1.集団活動中・見守りあり			公園の遊具の適正年齢を事前に職員全員で使用方法について話し合う。その結果をお散歩マップに記載する。	適正年齢に満たない遊具を事前に職員全員で使用方法について話し合う。その結果をお散歩マップに記載する。	1度2人登らせてしまった。注意の必要な遊具に活動を行ってしまっていた。	今後は保育者が1人ずつ手を添えて登らせる。活動目的を確認し、遊具を事前に確認する。	1.いつもどおりの様子であった	遊具のつり方など、遊びかまが手でもらった。	2.対象児の近接で対象児を見た	同じ遊具でいたもう一人の児と本児が見え、遊具が落下する際に手を伸ばし合った。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の注意場所(すべり階段)を見なかった。	遊具を手で握らず、肘をついて登っている様子を見つけた。保育者がサポートできるように指導した。子ども達も安心して遊べた。	遊具が正しく使用できているか一人ひとり確認する。注意すべき遊具を使用する際は、必ず3人以上で遊ばせる。お散歩に出る前に必ず施設長と活動内容の打ち合わせを行い、安全を確認し、安全を確認して使用する。
2201	平成30年9月28日	1.認可	3.保育所型認定こども園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	11					1	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	2	2.基準配置	一度6段が飛べたので、次に少し高い方の6段に挑戦したところ上手に飛べなかったで、安心して本児に手を添えればよかった。	1.定期的実施	6	1.定期的実施	48	1.定期的実施	毎日		4.体育教育室の箱、飛び板、マットを使用し、取り組んでいる。	安全な教具を使用している。対して丁寧な補助が必要。	一度飛べたことで安心して、手を置く位置に手を入れ確認しながら補助をする。	1.いつもどおりの様子であった	飛び箱に手を付く位置が印より手前過ぎた。	1.対象児とマンツマンの状態(対象児に接していた)	一度飛べたので、手を添えずに見守った。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	彼はインストラクター。職員はいない。	ブライド本児なので、飛べたことに気づかずに安全のためには補助が必要だった。	安全の為に、手を添えること達全員の周知しておく。				
2202	平成30年9月28日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12	2	3	7	3	3	13.1歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎右側乳切歯の完全脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	本児の行動の特性を理解し、早めに対応できるように見守る必要がある。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	2	2.不定期実施		6.食事中(おやつ)中	危険箇所洗い出しを行い、職員全体で危険箇所の確認・改善を行う。	本児の行動を把握できなかった。必要時に声をかける必要がある。	子ども達の動線にある機材などには、必要に応じて取り除く。必要に応じて声をかける必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	食事が終わったところから離れ開放されていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見つけていた	対象児の様子を見ながら、言葉かけはしていたが、声をかけずに距離が近かった。	1.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	走らなように担当保育士と一言に言葉をかけてはしたが、本児の行動が予測し、すぐに止めるようにする必要があった。	子どもの心理や行動を理解し、安全に保育できるように研修を行う。						
2203	平成30年9月28日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18					1	1	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕の橈骨と尺骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	12	1.基準以上配置	簡単にできるレベルから始めたが、ゴールデンドライクというもともと低レベルまでで終わっていたが、良い方向で進んでいくことができていない	1.定期的実施	保育室等毎日	1.定期的実施		業者点検年1回自主点検週1回	1.定期的実施	0~2才児毎日3~5才児月1回	少くクッション性があるとはいえず、床の上で転ぶ、手がつかないから	室内で側転練習をする時は、必ずマットの上でやるようにする	1.集団活動中・見守りあり	マット等を適切に使用して指導する	1.いつもどおりの様子であった	午前中の体操で、側転の練習をした	2.対象児の近接で対象児を見つけた	対象児が直転する瞬間に手を差し伸べることができなかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	他の子供指導をしていなかった	休日明けの練習方法の見直し				
2204	平成30年9月28日	1.認可	3.保育所型認定こども園	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	4					4	4	17.5歳	1.男児	特記事項無	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右足(親指人差し指間の)骨折	3.子ども同士の間際の衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	6	1.基準以上配置	今後は、職員会の際に、定期的な研修を行う必要がある。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12		1.集団活動中・見守りあり	体操の終了後、集合の際に集まることができず、急いで戻ってきた。急いで戻ってきた。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はいなかった。	2.対象児の近接で対象児を見つけた	1.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	子どもたちが機敏な動きができるように、日頃から十分な練習時間を設けて指導する必要がある。	子どもたちが機敏な動きができるように、日頃から十分な練習時間を設けて指導する必要がある。							

2211	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	30							3	3	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1	1.基準以上配置	教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」及び園独自の「事故発生防止のための指針」について、回覧並びに職員会議での読み合わせを行い、戸外活動時の注意事項等について再度、全職員で確認を行った。また、一人一人が意識をもって保育するよう指導した。	1.定期的実施	2	1.定期的実施	2	2.不定期実施	数	園外のためなし	1.集団活動中・見守りあり	異年齢児活動の際の留意事項について、「事故発生防止のための指針」を確認し、園長及び主任より留意事項を伝え、職員会議の場を用いて全職員で話し合いを行った。複数だからではなく、一人ひとりの意識や重要性などを話した。異年齢児で手をつなく、それ	1.いつもの様子であった	いつもありで変わった様子はなかった。	2.対象児近所で対象児を見ていた	当該児のすぐ後ろを歩いていた。段差や障害物など何もない場所を転倒したことを確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	散歩、歩行中は先頭、中間児童の安全確認、状況を把握していたため。	「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」及び園独自の「事故発生防止のための指針」について、回覧並びに職員会議での読み合わせを行い、活動時の注意事項等について再度、全職員で確認を行った。異年齢児からの絡りや割に歩くとペースが速かったため、それを注意し徹底する。		
2212	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	13							2	2	18.6歳	2.女児	8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左母趾中節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	3	1.基準以上配置	特になし	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	6	・階段の踏み面と側面(踏上げ)の色調の違いはあるが目立ちにくい	・視覚による階段の工夫を行う	1.集団活動中・見守りあり	特になし	3.いつもありで活動的であった(理由を記載)	当日はクリスマス行事のため、普段より高揚しており、階段を走っていた。	園庭から室内に入るときに、最後の子どもと一緒に上りたため、本児とは離れた状態になっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	室内での制作用の準備をしながら園庭で子どもを待っていた。	・行事への期待が高まっていること、予測できなかった。	・階段を上る際は走らずに上るよう繰り返し伝えていく。	
2213	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36	0	0	0	12	12	0	3	2	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下唇及び右上前歯ぐきからの出血、右上前歯の揺れ	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	何かあればその都度	2.基準配置	普段の様子から落ち着きが見られていた。夕方の保育開始前に個別に気をつけて声を掛けなければならないことがあった。	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	何かを必ず本児に個別の声掛けが必要であると思われる。	1.集団活動中・見守りあり	飛んできた虫を追い、虫を見ていたので、他の物人等目に入らなかった。	突然の行動で、先に虫を払い、声を掛けなければならない。	1.いつもありの様子であった	登園時、保護者から変更の連絡があり、日中も変わらずに過ごしている。	2.対象児近所で対象児を見ていた	飛んできた虫を追い、虫と共に逆走してしまっていた。後にお友達とぶつかり、本児の動きを取ることが出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で他の遊びを見ていた。対応できなかった。	園児の人数に対して、職員が確保しているが、本児の行動が読み取れなかったことが、要因と思われる。	本児の行動を読み取るの難しい所もあるが、夕方担当保育士が、行動を察知出来なかったのが、原因と思われる。
2214	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	1.0歳児クラス	5							2	2	13.1歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的実施	2	1.基準以上配置	マニュアルの確認や研修を実施し、職員の見直しを行い、乳児に適切な対応をする。	1.定期的実施	1	1.定期的実施	52	1.定期的実施	2	指等をはさまないような対策がなかった	欄に安全クッションを設置する	1.集団活動中・見守りあり	保育活動中の乳児の様子を確認しながら職員に配慮する	1.いつもありの様子であった	ハイハイと歩き始めが安定せず、職員を後追いかけてしまったり、そのまま指を挟んだ	4.対象児の動きを見ていた	他児の身支度を本児に目をつけて確認した	2.担当者・対象児の動きを見ていた	散歩中、子どもを準備する場から離れた	他クラスを散歩に出かける予定であったが、待たせていることに気づいた	子どもの動きの様子をよく見て、職員同士声を掛け合い、子どもから離れ、他の準備をするときも子どもの様子を見る

2219	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	51	3	8	9	8	12	11	25	23	15.3歳	2.女児	7.登園・降園中(来所・帰宅中)(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	1.頭部	頭蓋骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	なし	駐車場に向かう際は、保護者となぎ安全に気を付けて歩かせる。	1.定期的実施	52	1.定期的実施	244	1.定期的実施	244	なし	なし	7.その他	なし	なし	1.いつでもおりの様子であった	保護者に抱かれていた	4.対象児の動きを見なかった	保護者に引き渡したため、見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	駐車場から園舎から離れた見えていなかった。	兄弟が保護者の足元で動き回り、こざれた抱きかかっていたため、保護者と兄弟の3人が転倒した。	登降園時は保護者となぎ安全に気を付けて歩くことを啓蒙していく。
2220	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	110				24	39	47	8	8	18.6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨不全骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	7	2.基準配置	なし	職員が近くについて対応したが、今後とも目に届く場所が連携を図り安全面に配慮する	1.定期的実施	10	1.定期的実施	3	1.定期的実施	毎回	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	給食後の戸外遊びでも、子どもも向きを向けていたため、逃げた様子はないか	転んでからの対応として、代替職員が担任した後、子どもも向きを向けていたため、逃げた様子はないか	1.いつでもおりの様子であった	戸外でドッチボールの当たらぬように向きを向けていた	2.対象児の動きを見なかった	コート外のセンター付近で見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の職員は、遊ぶ場所に分かれて見守っていた	普段の生活の中にも転ぶことばあるが、子どもは転んだ時に集中してしまっている	転ぶという事は普段の生活にもあるが、子どもは転んだ時に集中してしまっている
2221	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	11							1	1	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2	3.基準以下	保育室での活動が終了した後、保育士2名で屋上で遊びを見守る。	2.不定期実施	6	1.定期的実施	13	1.定期的実施	12		遊具の使い方の指導。	1.集団活動中・見守りあり	常時は、職員2名で2名で見守る。	1.いつでもおりの様子であった	遊具に腰をかけていた	2.対象児の動きを見なかった	対象児とは至近で対象児を見ていた	対象児は、遊ぶ場所に分かれて見守っていた	対象児から離れた、他の子どもを見ていた	遊具の使い方や遊び方を指導し確認する。			
2222	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	14							4	4	15.3歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯の脱臼	8.その他	1.あり	2.不定期実施	2	1.基準以上配置	その時は1対1で関わっていた	乳幼児事故防止等の園内研修を行う	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12		施設の設備上の問題はなかったが、手洗いで手を拭くよう、近くにタオルかけを置いたためいつもより汚れていた。	3.個人活動中・見守りあり	本児がズボンをはきおろして、ズボンがまだひざ下あり、身支度が途中であった。	1.いつでもおりの様子であった	本児の体調、機嫌は悪く、排泄を済ませられず、トイレから出てきたが、ズボンがまだひざ下あり、身支度が途中であった。	対象児とマンツマンの状態(対象児に接していた)	対象児が誕生日だったので、いつも以上にオーバーに盛り上がったため、その先の動き、危険予測が来ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	対象児以外に遊ぶ外遊びの状況に気を配っていた。	周囲の状況、本児の状況を把握し、安全を確認する。	本児の用意が整い、落ちて安全を確認したうえで、周囲の状況を確認する。	
2223	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	15							4	3	13.1歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	3.火傷	3.体幹(首・胸部・腹部)	火傷	8.その他	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	どこの場所でも様々な場を想定し、安全確認をしっかりと	1.定期的実施	48	1.定期的実施	48	1.定期的実施	48		子どもが一人で自由に行き来することはないが、子どもの居る高さにはジャグラーが置かれていた。	お湯の入ったポット等、ジャグラーに湯や熱いお茶を入れていない。	3.個人活動中・見守りあり	年度替わりで泣く子どもも多く、個別対応のため、職員が向きを向けて見守っていた。	1.いつでもおりの様子であった	保育室から事務室に来たことで、様々な物や興味をわき、身支度が途中であった。	1.対象児とマンツマンの状態(対象児に接していた)	事務室内で泣いている子どもが多く、トラブルや怪我が発生する状況と判断し、登園児童の人数報告のタイムリミットも迫っていたため、事務室に連れて行く。保育士は、子どもを離れ、人数報告の方法を再検討する。	事務室内に園長と主任が、本児と担任の動きはなかった。	一時的だが、園児の状況を把握し、安全を確認する。	職員同士の本児の対応についてお話しする。(役割分担・連携)		

2238	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	9	夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	71	0	0	11	23	17	20	0	6	6	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	事故への対応を周知する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	安全点検後の改善を行う	1.集団活動中・見守りあり	約束を守って使用するよう声をかける。	1.いつものように友だちと一緒に遊んでいた。	2.対象児の近所で対象児を見守っていた。	近くで対象児の動きを見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の5名の職員が他の遊具を見ていた。	子どもの動きに気を付けて、事故を予想して声を掛ける。	
2239	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	10	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18		10	8					4	4	14.2歳	2.女児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指の骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	マニュアルの周知が徹底していなかった。	全職員にマニュアルの内容を再度周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	保育室が廊下を挟んでの活動であったことから、建物環境を検証する。	7.その他	布団を敷く際に布団を敷いた。そのごさにつまみずして転んだ。	子どもが全員いなくなるとごさの片付けを薄手の寝巻マットを購入し使用する。	1.いつもの様子であった	昼寝後、おやつに行き部屋を走り回っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	おむつ交換をしていたり、おやつ準備をしていたり、おむつ交換を待たせて居る時間があった。	昼寝から起きる準備ができていたが、部屋にいたときに職員が子どもが部屋に入ってきた。
2240	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業-午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	30			12	10	8			5	4	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指基部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.集団活動中・見守りあり	集中出来る環境を確保する必要がある。	跳び箱がある。必ず一人の職員が跳び箱の側についている。手付き方には手付き方に関する職員も見守るしかなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	あそびたい様子があった。	危険を伴う意図的な活動は行われていない。安全な遊び方を指導する。			
2241	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.6.5歳以上児クラス	22							2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ龜裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1-2	1.基準以上配置	事故防止のためのマニュアルがあり、職員にも周知されている。保育士の配置も基準以上で保育し、特に戸外遊びでは、児童に目が行き届くように主任やパート保育士も出て見守っている。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	所庭の状態も良く、対象児が乗った三輪車の状態も良かった。	年長児なので、主体的に友達と遊ぶ姿を見守り、危険な行動や友達とのトラブルに対して対応できるように見守っていたが、対象児は特に関心を持って遊んでいなかったため、見守っていた状態であった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	戸外で遊ぶ際には、様々な場所で遊んでいる児童の動きや様子を見守り、他の職員も近距離で様子を見ていた。	主体的に遊ぶ姿を見守りつつ、児童の運動能力や性格等を考慮し、三輪車で走り始めた時に、スピードを出さないよう声をかける。転倒後は腫れはなかったが、ぶつかなどした場合は、その後の状態を確認する。						
2242	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業-午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	2							2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手第3指第2関節部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	ヒヤリとさせるような状況は、指はさみ防止のロープを使用するよう設置した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎	3.個人活動中・見守りあり	園児が出たため使用する場合は、指はさみ防止のロープを使用するよう設置した。	子どもの動きを見守り、不慮の事故につながるような状況は、いっつも変わらなかつた。	1.いつもの様子であった	登園時に視診、保護者からの健康状態の伝言を聞き、いっつも変わらなかつた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育室に入室する際は、声をかけた。用事を済ませた後も確認した。	保育室の戸の閉け閉めの際には、子ども達に十分気を配り、落ち着いて行く様子の子どもを含めてクラス全体に話を合した。			
2243	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	53			16	20	17		5	5	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果刺離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	事故後は、安静にし様子を見る	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎	1.定期的に実施	毎	準備体操は行っていないが、足首や手首回しなど行っている。	園児全員で練習をするのではなく、半分又は1/3の人数で練習する。保育士の目が行き届くようにする。	1.いつもの様子であった	保育士の玉入れの練習は、全員で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全員での玉入れの練習のためはなかった。	大好きな玉入れの練習なので、心が浮き立っていた。心を落ち着かせてから行う。				

2249	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業-午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	24	2	22										5	4	14.2歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	無し	事故発生マニュアルのみなので、事故予防マニュアル作成も検討する。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	295(毎日)	小走りでの転倒のため、ハード面で改善策はなし。	1.集団活動中・見守りあり	自由あそびについて再度検討する。	1.いつもの様子であった	移動あそびをいれた。	2.対象児の動きを見ていた	移動あそびをしていては把握していたが、突然の転倒した手さしを差すことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は荷物整理(カバン)から帳を出し、その他の職員はあそんでいた。	子どもたちが十分に楽しめるあそびが提供されていた。	子どもたちがしっかり組みあそびを提供し、一緒に楽しむこと。	
2250	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16												2	2	18.6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果骨折・右足関節捻挫	3.子ども同士によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	2	1.基準以上配置	無し	福井県において事故の発生状況・再発予防を全職員が共有した。園児同士の接触による事故であるので、子どもたちの動きを予測し監視をしていきます。また、ふざけや不注意等で園児同士がぶつかる事のないよう日頃から指導・注意を行っています。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	260	特に無し	環境面が事故原因の不要	1.いつもの様子であった	保育士の指示おたが、他児と接触した際に足首をねった。	園児同士の間接による事故であるので、子どもたちの動きを予測し監視をしていきます。また、ふざけや不注意等で園児同士がぶつかる事のないよう日頃から指導・注意を行っています。	園児同士の間接による事故であるので、子どもたちの動きを予測し監視をしていきます。また、ふざけや不注意等で園児同士がぶつかる事のないよう日頃から指導・注意を行っています。					
2251	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業-午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	28		14	14									2	2	16.4歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈尺骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	3~4	2.基準配置	通常保育とは違った体制(異年齢児会)は特に安全とゆとりを考慮する。	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	毎日	施設・設備については特に改善点はなし。	3.個人活動中・見守りあり	通常の保育室ではなかったため、もしも落ち着かなくなった場合に合間合間に合間合間を合間合間にする。	1.いつもの様子であった	保育士のお手伝い、通じがなかった。	本児の近くで見ていたが、転倒した様子を見てしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	他の男児おしゃべりしながら、本児が歩いている間に、あつと手を出して転倒した。	子ども達の行動が落ちてから行動させる。	気をつけるように声掛けをしたり、落ち着く時間帯に待つよう行動させる。		
2252	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	101	12	12	19	17	22	19							18	18	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	園外保育の計画が無理があった	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	50	破損部分を確認する	気がついたら主任に報告し、クラス園生全体で確認	1.集団活動中・見守りあり	子どもの発達に合わせた遊び方かどうかを深く考慮する	1.いつもの様子であった	帰りの時間でも、遊びが夢中で、そりすべりやめなかつた	3.対象児の動きを見ていた	子どもたちのやりやりの空気、2人で遊ぶ様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	少しく離れたところから様子を見ていた	保育士が危険な遊び方を安全に認めていない	3歳児として遊ぼうという遊び方が危険か担任同士で事前に話す
2253	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	4	夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13	0	1	5	1	3	3	0						4	4	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷	2.骨折	1.頭部	右目頭蓋骨骨折	1.遊具等からの転倒・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	1.定期的 に実施	52	1.定期的 に実施	52	1.定期的 に実施	52	小屋の周りの地面がコンクリートでむき出しである。	1.集団活動中・見守りあり	夕方の時間帯は保育者が少ない見守りが行き届いていない。	夕方の時間帯は保育室で過ごすように改めた。	3.いつもより活発な活動であった(理由を記載)	4.対象児の動きを見ていなかった	4歳女児が元気がない様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えに来た保護者へ対応していたため。	園児数の少ない時間帯ではあったが、広範囲に遊んでいたことも、それぞれが個別に対応してしまつたこと。	夕方の時間帯は保育室で過ごすように改めた。
2254	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	8	夕方(16時頃-夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	17												5	5	14.2歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨通頸骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数	1.基準以上配置	児童が落ちてきた行動をすばやく見守り、指導するが、マットが滑る事に気が付かなかった。	2.不定期に実施	数	2.不定期に実施	数	2.不定期に実施	数	保育室内に柔らかいマットを敷いている。今回の事故はマットが滑ることで生じた事故という訳ではないが、今後、マットが滑る事に気が付かないように対応する。	1.集団活動中・見守りあり	夕方の時間帯は保育者が少ない見守りが行き届いていない状態であった。	小さいクラスの児童に対して保育士が手を繋ぐ対応をする。	1.いつもの様子であった	トイレへ行く児童に気が付いていないが、転倒への注意が足りなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	着替えや付けた靴を履かなくなった。	児童の誘導の際にグループに分けて保育士がグループの児童を注視し、危険に對する予測行動できるように改めた。			

2255	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業-午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・家庭等)	7.異年齢構成	25	0	0	6	8	5	4	2	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	2	2.基準配置	職員研修において事故の要因を共有し、児童が手をつないで走っていったため、受け手が十分であった可能性。 職員研修において共有し、児童が手をつないで走っていったため、受け手が十分であった可能性。	1.定期的実施	50	1.定期的実施	50	2.不定期的実施	特になし	ハード面での問題は確認されなかったため、現行の対応を継続する。	1.集団活動中・見守りあり	随時、児童が登所するため、注意をそなえなければならない。	これまで、子どもたちの活動中に注意を払って保育することを徹底して、子どもたちの安全を確保している。	1.いつもどおりの様子であった	朝から、2歳児女児上手に走り回ったため、園庭を見ながら見守っていた。	砂場に2歳児クラスもたまたま遊んでいるため、対象児の行動は認識して、近くにはいなかった。	1.担当者、対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	滑り台やジャングルジム等、園庭の固定遊具の傍にいた	朝の時間帯は、クラス担任がいなかったことから、登所した子どもを朝対応職員全員がしっかりと確認し、声をかけていく。			
2256	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	25	0	0	14	11	0	0	5	5	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	12	1.基準以上配置	職員配置を見直し、子どもを観察を怠らなくする。	2.不定期的実施	2.不定期的実施	2.不定期的実施	園の施設等では他の公園に行った場合も危険はないように注意している。	1.集団活動中・見守りあり	他の団体が多く、周囲に気を配っていたため。	そのような場所に行くときは気を付けて注意する。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらない様子であった。特に興奮を起していない様子であった。	2.対象児の動きを見ていた	園児の間で支えあっていた。園児の動きを見ていた。	2.担当者、対象児の動きを見ていた	担当職員と同様に配置して、他の職員も見ていた。	他の団体がいる中で、集団での行動の難しさ。	もう少し職員配置を増やす。			
2257	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・家庭等)	5.4歳児クラス	36						3	3	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折	3.子ども同士によるもの	1.あり	2.不定期的実施	1	1.基準以上配置	園児の密集状況を回避するため、クラスごとに時間帯をずらし、混雑する状況を作らない。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	児童が密集している状況であった。	1.集団活動中・見守りあり	園児個々の把握不足	活動力の比較的高い児童を把握し、その行動エリアを限定し、衝突のリスクを下げ、近接を防止する。	1.いつもどおりの様子であった	朝の預診では異常なかった。保育中も特記すべきことはなかった。	3.対象児の動きを見ていた	園庭に全体を把握していたため、対象児の動きを見ていた。	2.担当者、対象児の動きを見ていた	職員各々の配置に気を配っていた。対象児の動きを見ていた。	衝突を防ぐことができた。職員間の連携が行った。	当該園児を目標とする職員が常時複数いるよう連携を行う。	
2258	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	2	夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・家庭等)	7.異年齢構成	130	4	22	23	29	28	24	25	20	18.6歳	1.男児	事故後、整備治療を行ったが、適正な(後遺症のない)治療の行うため、整備手術を行った。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨・尺骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期的実施	1	1.基準以上配置	原因が自らの転倒であるが、遊びや安全について子ども達と話し合い、注意喚起する。また、早い動きをしている子どもには、職員の見守りを注ぐことが大事。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	遊具周辺にクッション性のマットを敷くことや飛び超えられない柵を設置することも考えられるが、職員の見守りを注ぐことが大事。	1.集団活動中・見守りあり	特記事項なし	広い園庭であるが、安全のことについて、子ども達と話し、注意喚起する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもとおりの子であった。	2.対象児の動きを見ていた	とっさのことでの対応であった。	2.担当者、対象児の動きを見ていた	とっさのことでの対応であった。	事故時の職員配置は適切であったが、動きの速い子どもや、注意が必要な遊具の近くで遊んでいる場合には、職員の見守りを注ぐ必要がある。	動きの速い子どもや、注意が必要な遊具の近くで遊んでいる場合には、職員の見守りを注ぐ必要がある。
2259	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業-午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・家庭等)	4.3歳児クラス	23						4	4	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的実施	1	1.基準以上配置	子どもに対する職員数は十分対応できる人数であった。事故予防のためのマニュアルの作成	1.定期的実施	1	1.定期的実施	290	1.定期的実施	290	遊具の安全点検について、確認項目や頻度が決まっていなかった。	3.個人活動中・見守りあり	1-2歳児クラスも園庭で自由遊びを促しているため、職員、子どもも人数が多くなっていた。保育士間では、注意すべき遊具や場所等共通認識を共有し、具体的な職員の配置や遊具の使用については取り決めていた。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	一人で犬の遊具(高さ1m程度)に座っていたがバランスを崩して落ちた。	2.対象児の動きを見ていた	対象児の座る遊具の側で保育士1人、3人程度の児童に座っていた。	2.担当者、対象児の動きを見ていた	砂場、複合遊具等、園庭で他対応していた。	各々の保育士が園庭に設置された遊具に対するリスクやハザードの認識はあったが、統一した使用方法について取り決めていなかった。	遊具の正しい使用方法について、職員間で共通認識をもち、児童に促していく。		

2269	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	12	夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	9					1	1	17.5歳	1.男児				1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・手指)	右第3中足骨骨折	4.玩具・遊具等施設の安全不備によるもの	1.あり	1.定期的実施	12	2.基準配置	当該園児の様子から、担任の判断が必要と認められた。園長、他職員は本件について、把握していた。このため、当該園児の観察や保護者からの聞き取り等、細やかな対応ができていなかった。 今回の事故を再度検証し、原因と再発防止策を全職員で共有し、危機管理意識を高めるとともに、必要に応じて、検証結果をマニュアルに反映させる。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	使用している保育用品の劣化や用途に問題ないか等、園児が使用するものは、使用頻度の多少にかかわらず、使用前に安全確認を行う。 翌日、発表会のため、室内のテーブル等が撤出され、テラスに置かれた。通常とは異なる環境の中での活動だった。 予定している園児の活動内容も踏まえながら、環境を予め点検し、活動を実施することを確認した。 テラスにて、本児と友だち2人で大型ブロックで遊んでいた。保護者が来たので、大型ブロックを倉庫の棚の箱の中に片付けた。 1.いつもの様子であった 1.いつもの様子であった	2.対象児に近い位置で見ていた 2.対象児の動きを見ていた 2.対象児の動きを見ていた その、幼児クラスの子どもたちが園庭から室内に移動するように保育していた。	片付けを行いながら、園児の動きや環境を把握していく。					
2270	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	26	2	2	18.6歳	1.男児	体重増加が著しく、過食傾向	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	2	1.基準以上配置	本児の体重を助支えきれなかった。 保護者との連携のもと、体重増加を抑える。	1.定期的実施	3	1.定期的実施	3	1.定期的実施	3	1.定期的実施	3	特記事項なし	特記事項なし	1.集団活動中・見守りあり	特記事項なし	特記事項なし	1.集団活動中・見守りあり	特記事項なし	特記事項なし	1.いつも通りの様子であった 本児が自分で進んで、本遊具で遊んでいた。 3.対象児から離れたところで見守っていた	保育士1名が本児から10メートルほど離れた場所から遊具を確保していた。保護者が園庭遊びの様子を見ていた。 2.対象児の動きを見ていた 2.対象児の動きを見ていた 当日は室内で保護者説明会を実施していたため、園庭では保育士1名で見守っていた。	特記事項なし	特記事項なし
2271	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24	3	3	17.5歳	1.男児	特記なし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口・腕・手・手指)	上BAA 外傷性亜脱臼 右側 右側 右側 右側	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期的に実施	5	2.基準配置	本児は鬼役で、狙いを絞った1人を追いかけて走っていた。周囲が見えなかった。衝突した相手も走っていたので急に止まる事が出来なかった。 子どもが危険に気がつかないまま、体当たりを繰り返していた。周囲が見えなかった。衝突した相手も走っていたので急に止まる事が出来なかった。	1.定期的実施	1	1.定期的実施	1	1.定期的実施	1	遊具がある一部をエリアで展開していたので、視覚的に全体が把握しにくかった。このため、見通しのよいエリアを利用して共に保育者が把握しやすくなるように工夫する。 見通しのよいエリアを利用して共に保育者が把握しやすくなるように工夫する。	安全に周囲を見通せるエリアを確保し、遊具の設置に工夫する。 1.いつも通りの様子であった 1.いつも通りの様子であった 本児は鬼役で、狙いを絞った1人を追いかけて走っていた。	3.対象児から離れたところで見守っていた 2.対象児の動きを見ていた 2.対象児の動きを見ていた 園庭にいた3人目の職員は、配属が1対1で見ていた。	園庭には木や遊具が一部死角があるが、遊びの中で大人の立ち位置を見直す必要がある。										
2272	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業-午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	19	4	4	15.3歳	1.男児	事故発生前日に保護者と公園で遊んでいた際に自転車で転倒した。転倒時に真の下を擦りむいたことや手をついていたという事実を保護者から聴取した。骨折との因果関係は不明である。保育園では明らか外傷を認めず、発生日時が不明である。疼痛が出現した時点の発生状況を事故発生の状況として記す。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手第5基底節骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	12	1.基準以上配置	事故発生前日に自転車で転倒していることが知らなかった。疼痛を訴えた時点で本児が打った、ぶつかった、などを否定しており、痛みが原因か要因がなかったため外傷を打撲と判断してしまっていた。 他覚症状に乏しい所見であった。身体を訴える児に対しては観察を担任保育士のみで行わない。急な受診を要しないと判断したとしても、児が疼痛を訴える際は保護者へ連絡し状況説明を行う。	1.定期的実施	1	1.定期的実施	12	1.定期的実施	260	遊具周囲の危険箇所を把握し、保育者で共有する。 1.集団活動中・見守りあり	活動前に体調も含め外遊びが出来る状態を確認していく。子どもが遊びの内容を全職員が把握する。 2.いつもより元気な様子であった(理由を記載)	疼痛訴え時のみ元気がなかった。 2.対象児の至近で対象児を見ていた	1.子どもを見守りながら見ていた 1.子どもを見守りながら見ていた 1.子どもを見守りながら見ていた 1.子どもを見守りながら見ていた 1.子どもを見守りながら見ていた	それぞれの保育士が園を監督し、見守り下で活動できるように保育士の見守り範囲を外に出る前に確認する。痛みを訴える児に対しては一度みてもらったら、再度看護師に見てもらった。									

2278	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	18										3	2	15. 3歳	2. 女児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	頭部外傷(右眼瞼上部)	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	3. 未実施	2. 基準配置	危機対応についてのマニュアルを整備し、事故予測等について職員教育を行うとともに、遊びについても話し合いを重ねていく。また危険個所の改善や危険予測等について職員間で話し合いを行い、書面等で情報共有を行うこととする。	1. 定期的実施	12	2. 不定期実施	2. 不定期実施		滑り台の階段が急すぎ3歳児には無理があり安全に遊ぶことができなかった。	園外保育年々増加しているため、園外保育には年齢に合った遊具を準備する。3つのおもちゃを使い、滑り台をみるようになった。	滑り台等の大型遊具は職員が最低2人はつきつき配置する。つけられない場合は遊びのグループを分けない等配慮する。	1. 1つのおもちゃがあった	いつも変わらない。	2. 対象児に近いところで見つけた。	階段と滑り台の両方をみることができるようになった。立ち止まると滑り台の間に立っていた。	1. 担当児を見つけた(至近距離にいた)	子どもと追いかけていた。職員が滑り台の後ろから見えなくなると、声をかけ、大に間に合った。	4月当初は職員も慣れていないことや園児もまだ行動も十分に把握できていないことなど、園外保育については、普段の職員を配置するだけでなく、安全に十分配慮した保育を行う。	
2279	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	22										2	1	16. 4歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首機軸骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的実施	2	2. 基準配置	事故予防マニュアルに基づき、柔軟・臨機応変に対応する力を身に付け予防に努める。ヒヤリハットを記入し、職員間で情報を共有し、毎回事例を振り返り、再発予防についてみんなで考えていく。	1. 定期的実施	12	1. 定期的実施	12	1. 定期的実施	12	定期的な子どもが遊ぶ場所の点検をする。	1. 集団活動中・見守りあり	子ども達の危険管理について教育し、繰り返し伝え、繰り返さうなうなうた自分を守れるようになり、転ぶ方向や危険から身をかわさず走り、全身運動で体を鍛え、丈夫な体作りをしていく。	遊歩道で、「よーい、どん」と声をかけ、一斉に走ることになった。走り出すと、周りを見ずに走り出し、他の職員に声をかけ、他の職員の手をかり、足が踏んで転倒。	担当がケガへの対応をする間、危険のないうちを子どもたちを集め待機。	子ども達から常に目を離さず見守る。職員の安全管理能力を高める。			
2280	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	4	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55	0	0	0	0	20	19	16	0		6	6	17. 5歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨類上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	3	2. 基準配置	5歳児の身体的な発達を確認し、その子どもに合わせた指導を行う。	1. 定期的実施	12	1. 定期的実施	12	1. 定期的実施	12	うんていを使用する際は握り棒の状態を確認し、やりをマットなどでより安全に活動できるようにした。	1. 集団活動中・見守りあり	子ども達の運動力等についても職員間で共有し、安全に遊ぶ方法を検討した。	いつも元気に過ごして、やりがけをする方法を出して遊んでいた。	2. 対象児に近いところで見つけた。	本児に対して、体を支えたり、声をかけたりしながら遊んでいた。	2. 担当児を見つけた	それぞれ担当する子どもの見守りをしていく。	うんていができるようになった子どもも、常に危険があることを考え、子どもが安全に遊ぶように十分注意して見守りをする。
2281	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	51	0	0	0	17	17	17				6	6	17. 5歳	2. 女児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘外顆骨骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的実施	5	1. 基準以上配置	職員が遊具の遊び方やルールに対して、慣れから危険認識が薄れてしまっていた。	公園や遊具の危険個所を把握し、職員が共有する。危険に対する意識を高めていく。	子ども達の年齢に合った遊び方であるか、それが事故につながるかどうかを職員一人一人が危険性を考える力を内部研修や保育士同士の声掛けで身に付ける。	1. 集団活動中・見守りあり	滑り台の形態が、富士山型のコンクリート製で高さは急勾配であり、滑り降りる際に速度が速いため、注意が必要だった。	戸外活動中に必要職員を配置し、子ども達の動きをみながら声をかける。	1. 1つのおもちゃがあった	友達と手を繋ぎ滑ったところ、また再度滑ってしまった。	2. 対象児に近いところで見つけた。	園児たちを滑り降りてきたと近くで見つけた。	1. 担当児を見つけた(至近距離にいた)	公園内の危険個所をそれぞれ職員が分かれ配置し、見守りしていた。	手を繋いで滑る園児が理解していないこと、保育士は声掛けはしたが、重大な事故という危機感が薄かった。	公園での遊び方、危険性を園児が理解すること、保育士は声掛けはしたが、重大な事故という危機感が薄かった。		

2290	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	1	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	71	0	0	0	0	40	31	0	4	4	18.6歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3回以上随時	2.基準配置	体操指導手順もあつたが、実際に補助の付き方の判断ができていないか確認をしたうえで補助につかせるべく、	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	周りに遊んでいる子がいる状況ではなく、集中して取組める時間、周りの環境を整えて、自らの体操の指導は行わない。	1.集団活動中・見守りあり	使用していたマットは問題なく、着地の際に補助の付き方がなかったが、使用していたものは見られなかった。	周りに遊んでいる子がいる状況ではなく、集中して取組める時間、周りの環境を整えて、自らの体操の指導は行わない。	1.1つもの様子であった	体操に対してやる気もあり、特に異常は見られなかった。	補助について、園中の子も見ていた。2.担当・対象児の動きを見ていた	他の職員も見ていた。3.担当・対象児の動きを見ていた	担任は練習中の子も見ていた。4.担当・対象児の動きを見ていた	補助を入れてもよいので、予断せぬ失敗に備えて、常に園児の様子を注視し、必要に応じて補助を行う。5.園児の様子を注視し、必要に応じて補助を行う。	
2291	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	15	0	0	0	5	5	5	0	2	2	18.6歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指) 左足小指剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	なし	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	なし	安全点検チェック表の点検項目を増やし、細部まで安全確認を行うようにする予定。	1.集団活動中・見守りあり	近隣公園の有をクラス間で共有する。	1.1つもの様子であった	いつもと変わらずおにご遊びをしていた	3.対象児から離れたところで見守っていた	集団の遊びのため、安全に留意しながら対象児から離れたところで見守っていた	1.担当・対象児の動きを見ていた(近距離にいた)	対象児から離れたところで見守っていた	事故・保健に関する研修等を行い事例研究などを行い啓発を図る予定。
2292	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24							1	1	18.6歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指) 剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	7	2.基準配置	他クラスへお手伝いをするというイレギュラーな場面ではあつたが、以前からお手伝いをする機会が多々あつたので安心してしまつたことが原因である。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	毎日	水道の形状を把握し、本児に事前に注意を必要があつた。	3.個人活動中・見守りあり	午後という時間帯は疲れもあるが、時間を区切ったりペースを決めたりする必要があつた。	子どもの状態を把握し、危険の伴う行動(活動)が予想される場合は声をかけたり、見守りの徹底をする。	1.1つもの様子であった	他クラスでの活動で自己発揮する本児であり、気分が高揚していた。	2.対象児の動きを見ていた	いつも手伝いを真面目にきちんとしていた。声かけ等は見守り、本児に任せさせていた	2.担当・対象児の動きを見ていた	他児の排泄補助が午後に付けた。	2歳児の担当職員は4名いたが、年長の本児にも慣れができて安心して見守ることができた。	異年齢を際の配慮事項を担任間で確認する。
2293	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地外(園外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24	0	0	0	14	10	0	3	3	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指) 右足蹠剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	子供の人数に対して職員配置は適切であつた。日頃より遊んでいても必ず事前に遊びの安全性を予測し、確認できるようにしておく。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	砂場は鬼ごっこをしているときは行ってはいけない場所になっていたが鬼ごっこに夢中になり約束を守れなかったため	1.集団活動中・見守りあり	ドッチボールと鬼ごっこを一緒にしていたため、遊んでいる子供たちが鬼ごっこに夢中になり約束を守れなかったため	遊びが混雑しないように、遊ぶ場所や内容を考え、遊ぶ場所を確保する。遊具の境界線がわかるように白線を引くなど、事前に環境を整えておく。	3.1つもの様子であった(理由を記載)	年未年始の休み明けに登園したこともあり、気分が高ぶっている様子であった。鬼ごっこをしているときも夢中になっていて段差に気付かなかった。	2.担当・対象児の動きを見ていた	一緒に鬼ごっこをしていて、対象児から離れた場所に行ったので、対象児の動きを確認出来なかった。	全体を見守っていたが、近くにいた子供たちと関わっていたため、対象児の動きを確認できなかった。	事前に保育士間で連携し遊びの内容、場所、立ち位置などを打ち合わせる。遊び始める前に必ず遊びの約束事項を確認し、子供たちに伝えておく。遊びながら、危険な場面を見つけたら、保育士が声をかけ、安全な場所に誘導する。		
2294	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	45	5	8	8	7	9	7	11	11	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	職員の危機管理能力を高める。いざというときに適切な対応ができるよう努める。	2.不定期 に実施	10	2.不定期 に実施	12	2.不定期 に実施	12	特になし	1.集団活動中・見守りあり	大縄で遊ぶようとしていたが、本児が縄に足を引っかけて、転倒してしまつた。	活動の前には、予断せぬ失敗に備えて、常に園児の様子を注視し、必要に応じて補助を行う。	1.1つもの様子であった	転倒前は普段通り活発に遊んでいる	3.対象児から離れたところで見守っていた	対象児から4メートルほど離れた場所を走り、本児を抱き起こし、外傷の有無を確認した。	2.担当・対象児の動きを見ていた	対象児から離れたところで見守っていた	遊び始める前に、危険な場面を見つけたら、保育士が声をかけ、安全な場所に誘導する。	
2295	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	11							5	5	13.1歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	1.頭部 右側頭葉骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	今回の事例を、全職員で共有し、再発防止に努める。また、保育内容についても検証し、安全を確保した保育を実践していく。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	園児等が使用する遊具の使い方を全職員で確認し、危険な遊具については、危険な遊具の使用を中止する。	7.その他	・昨夜、咳き込んで睡眠不足で、眠りが浅かったが、ゴロゴロしていた。	1.対象児とマンマンの状態(対象児に接していた)	・保育士とマンマンの状態(対象児に接していた)	2.担当・対象児の動きを見ていた	園児と関わっていた	・過信は禁物である。予断せぬことには、常に園児の様子を注視し、必要に応じて補助を行う。				

2296	平成30年9月28日	1.認可 6.認可保育所	3	1.朝(始業~午前10時頃) 2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	54	16 15 23	5 5	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 右等換側(右肘)骨折 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 1.定期的を実施	12	2.基準配置	毎月ごとの怪我検討・集計結果を活かし、更に毎月の乳児・幼児会議にて発生状況の検証を必ず実施する。 1.定期的 12 1.定期的 毎日 1.定期的 毎日	1.集団活動中・見守りあり 特に活動時子ども自身も興奮しやすくなるので、職員の見守り位置の見直しが必要。(職員同士の声のかけあいを始める。 1.いつもどおりの様子であった 2.対象児の登園し、張り切って園庭に出てきた。他児に促されおんぶを始めた。 3.いつもどおりの様子であった 4.園庭遊びに移行する保育進行をしており、おんぶをしてみた様子を見せておんぶを拒否した。 5.園庭遊びの準備や対象児のフォロー・見守り・保護を行った。 6.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・他児をおんぶしたのを見て声をかけてたが、おんぶをやらなかったかどうかの確認も必要だった。 ・児童の動きや発症による事態に発展する可能性を予測し、危険を未然に防げるように全職員の意識統一を図ることが重要。
2297	平成30年9月28日	1.認可 6.認可保育所	1	1.朝(始業~午前10時頃) 2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49	10 7 17 15	6 5	17.5歳	2.女児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 4.創傷(切創等) 2.顔面(口内含む) 左頬裂傷 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 2.不定期に実施	1 2	1.基準以上配置 職員配置は問題なかった。 2.不定期に実施 2 2 2 2	鬼ごっこ等の遊びで、日頃、遊びの中で入らないエリアであったが、鬼ごっこ夢中になってしまった。 鬼ごっこが始まった際には、危険につながらない場所に入らないよう、声をかけたりした。 一人一人の普段の遊び、他児には体験学習等の環境を把握し、より注意深く保育に臨む。 本児は通常、園庭でもしつくり遊びができていたが、前日からは鬼ごっこ楽しんでいて、鬼ごっこ夢中になってしまった。 3.いつもより活動的であった(理由を記載) 本児は通常、園庭でもしつくり遊びができていたが、前日からは鬼ごっこ楽しんでいて、鬼ごっこ夢中になってしまった。 一人一人の普段の遊び、他児には体験学習等の環境を把握し、より注意深く保育に臨む。	担任に問わず、目の前の対応を常に持ち合わせて連携よく保育に臨むこと、テンションが上がりやすい状況に気を配りながら指導する。	
2298	平成30年9月28日	1.認可 6.認可保育所	3	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15		1 1	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 5.下肢(足・足指) 右肘骨遠位端骨折 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 2.不定期に実施	1 12 1 12	2.基準配置 園庭遊びの前後に、しっかりと体を動かさないよう注意し、園庭全体の見守りを徹底する。 1.定期的 12 1.定期的 1 1.定期的 12	1.集団活動中・見守りあり 砂場周りで定期的に環境整備をする。 1.いつもどおりの様子であった いつも通っていた。 3.対象児から離れたところで対象児を見ていた。 2.担当者・対象児の動きを見ていなかった 室内保育をしていた。	園庭は担任だけでなく他の職員も一緒に保育する場面も多いので、注意する子どもについて安全に保育していく。	
2299	平成30年9月28日	1.認可 6.認可保育所	2	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	5		1 1	17.5歳	2.女児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 若木骨折 3.子ども同士の衝突によるもの 2.なし 1.定期的を実施	12	2.基準配置 散歩先で、遊び始める前に危険物の点検を再度確認した。 1.定期的 2.不定期 1.定期的 48回/年	1.集団活動中・見守りあり 5歳児のみの活動で外遊びの場、遊びの内容を主任がチェックする。ケガ発生時はすぐに園に連絡・報告する。職員一人の担当はすぐに園園する必要を相談する。 1.いつもどおりの様子であった おにごっこに喜んで参加していた。 2.対象児の至近で対象児を見ていた おにごっこを見ていた	事故発生時の対応の再確認をした。遊楽作成時に年齢にあった遊びの内容であるかをチェックする。ケガ発生時はすぐに園に連絡・報告する。職員一人の担当はすぐに園園する必要を相談する。	
2300	平成30年9月28日	1.認可 6.認可保育所	4	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	90	22 21 22 25 0	15 15	15.3歳	2.女児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 右肘骨折 1.遊具等からの転落・落下 1.あり 1.定期的を実施	1	1.基準以上配置 大型遊具には、必ず保育士が見守りしているようにしたが、前回は怪我をしたステップや登り棒側において、本児が上ったロープ側の保育士は現場から少し離れた場所であった。 保育士の見守り役と補助役をしっかりと意識して見守る。立ち位置など、死角を作らないようにしていく。 1.定期的 12 1.定期的 12 1.定期的 12 特になし 特になし	1.集団活動中・見守りあり 大型遊具には、必ず保育士が見守りしているようにしたが、前回は怪我をしたステップや登り棒側において、本児が上ったロープ側の保育士は現場から少し離れた場所であった。 保育士の見守り役と補助役をしっかりと意識して見守る。立ち位置など、死角を作らないようにしていく。 1.いつもどおりの様子であった おっとりとした様子で遊ぶ傾向があり、当日もゆとりとゆったりと遊んでいた。 2.対象児の至近で対象児を見ていた 事故があった工メッシュスペースに1名、その付近の主任保育士がおり、遊具の様子から事故があった瞬間、すぐ保育士が駆けつけ、園長に伝達した。	複数の職員が見守り、遊びの役割を意図していき、園庭の様子を把握して、配置場所を移動する。その際、必ず保育士同士声をかける。	

2309	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	29															職員全員で各種マニュアルを再確認し、施設内の家具遊具の配置と子どもの動線を検証していく。	2.不定期に実施	4	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	1.いつもどりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くの本児を見ながら他の園児の横について歩いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	列の前後を他の園児に付添って歩いていた。	本児は、耳の両側からバランスがとりにくく転びやすい。	保育の中で、平衡感覚を養う運動遊びを取り入れ、保育士は行動しやすきに援助しやすくな配慮をする。								
2310	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	30															不可抗力による事故であるが、子どもの動きの把握をしっかりすることを再確認し、配慮事項に加筆する。	1.定期的実施	52	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	施設や設備では問題はない。	1.集団活動中・見守りあり	1.いつもどりの様子であった	おやつ後、椅子を片付けた後降園しようとして、自分のロッカに入った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラスの子どものおやつ片づけを見ながら、順番待ちを促して促している。こぼるに気が付いた場合に合った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1人担任なので、他に職員はいなかった。	降園準備に遅れられること、おやつ片づけ降園準備を促したが、もう少し時間をあけた必要があった。	全体的な子どもの動きを見ながら、適切なタイミングを図る。								
2311	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	8															・園バス乗車利用マニュアルを見直し、職員で周知し研修を行い職員の安全意識を高める。 ・保育士が危険に対して意識を高め、保育士の立ち位置、目のむけ方を見直し実践していく。 ・マニュアルに沿っての共通理解だけではなく危険意識を高める研修会を園内で行う。 ・園バス乗車利用マニュアルが不十分であり、職員の周知も徹底されていない。	1.定期的実施	4	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	25	24	25	24	24	今回の事故発生は、13年前に購入。走行距離82344km車検は今年に受けているが老朽化は見られるが、安全面は確認できている。	1.集団活動中・見守りあり	園児の活動の妨げにならないよう場所を確保し、バスを駐する。園児の活動の妨げにならないよう場所を確保し、バスを駐する。	1.いつもどりの様子であった	・園バスに乗る前から降り、保育士のそばで待機していたが担当職員がバスの扉を閉めようとした時、不意に走り出し保育士間で安全面の配慮を十分話し合った。	・全園児の安全確認をし、担当職員がバスの扉を閉めようとした時、不意に走り出し保育士間で安全面の配慮を十分話し合った。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・子ども達の安全を確認するための認識が不足していた。対象児は、普段から予測できない動きが多かった。保育士も、本児の性格や行動傾向を予測しての配慮が不足していた。保育士間の連携や声掛けが不十分であった。	・保育士の立ち位置を確認し、子どもの状況を観察し適切な対応をする。 ・子どもの行動把握を行いながら、職員動作も一つ一つ危険意識を持って行動する。 ・職員間の連携を密にする。					
2312	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	31															日頃から鉄棒に関しては集中して取り組むようにつづけているが、本児は鉄棒が得意な方なので、気のゆるみがあったのかもしれない。	1.定期的実施	4	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	48	24	48	24	24	24	24	48	遊具を設置する際の安全対策を確認する(マットを多めに敷くなど)	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒を片付けるときは、他のものは速やかに片付ける。	1.いつもどりの様子であった	登園時の機嫌もよく、活動に対しても意欲を見せていた	対象児がとらうたの状態で、保育士も一緒に移動し、対象児のそばにいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒練習でも気にならないうえに、集中力を欠いていた。	子どもが集中して活動できるように声かけを行う。
2313	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	9															園児同士の偶発的な事故であり、ソフド面での改善点はなし。	1.定期的実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	50	1.集団活動中・見守りあり	施設設備・遊具・玩具を介さないため、改善策はない。	園児同士の偶発的な事故であり、環境面での改善点はなし。	おにごっこで一斉に走り出した。鬼の鬼ごっこは鬼の鬼ごっこが複数あった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育教諭が目で見守りしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配職員は他の園児(おにごっこを遊んでいる)の対応を促していた。	おにごっこを見守る職員、子どもの中には安全に配慮する職員と分けるべきであった。									
2314	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	16															今回は何もない所で転び起きた事故だが、毎月の安全点検に加え、園庭には必ず柵に危険な物が落ちていないか、また危険な箇所がないか、気をつけて見る。	1.定期的実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	250	1.集団活動中・見守りあり	特になし	1.いつもどりの様子であった	園庭で他の児童とおにごっこをした	2.対象児の至近で対象児を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童の鬼ごっこをしていなかった	引き続き、基準以上配置に努める。										

2324	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	22					2	0	15.3歳	1.男児				2.室内活動中	1.負傷 0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左小指基礎線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	12		2.基準配置	毎月の事故予防の話し合いを確実に伝え、危機管理意識が高まるようにする。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	ステージは歌ったたり踊ったたりできる空間であったが、ステージが人数のわりに狭かった。又、段差のあるステージだった為飛び降りるといった遊び方に変わってしまった。	ステージをなくし、落ち着いて遊べるコーナーを作った。	3.個人活動中・見守りあり	曲がヒーローアニメの音楽に合わせて踊りだした。ヒーローアニメの音楽に合わせて踊りだした。ヒーローアニメの音楽に合わせて踊りだした。	ステージの使用方法を確認する。	3.いつより活動的であった(理由を記載)	ヒーローアニメの音楽に合わせて踊りだした。	2.対象児の近見を促して見守っていた。	保育士はステージを見ていた。他も一緒にステージの上の子を見守っていた。	2.担当・対象児の動きを見ていた	加配担当保育士は、加配をして見守っていた。	子どもの動きがエースタイムに合わせた動きを察知し、遊びを変化させていくとよかった。	保育士の危機管理意識を高め、実際に子どもと関わりながら、子どもに合わせた動きを察知し、遊びを変化させていくとよかった。
2325	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17					2	2	17.5歳	1.男児				1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	8		1.基準配置	ヒヤリハット報告等で、職員間で危険な事例を共有しているもの、子どもの行動についての見通しがあった。また、一人一人の保育士の危機管理意識が高かった。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	6	1.定期的実施	毎日	業者による遊具点検において雲梯には特段異常はなく、地面には衝撃吸収マットが敷いてあり、事故につながる要因は認められなかった。	長時間の戸外遊びでも子どもの意識が低下し、活動的にならなっていた。そのため子どもに休憩等と一旦落ち着いた後に、再び活動的になるように工夫した。	子ども達に落ち着いて遊べるよう時間配分を取り入れる必要がある。子ども達に落ち着いて遊べるよう工夫した。	登園時いつも通り健康状態が良かった。園庭で遊ぶ。園庭で遊ぶ。園庭で遊ぶ。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の近見を促して見守っていた。	雲梯は保育士が見守る中に行っている。保育士は目をつけて見守っていた。保育士は目をつけて見守っていた。保育士は目をつけて見守っていた。	戸外でそれぞれ好きな遊びを楽しんでいた。保育士は目をつけて見守っていた。保育士は目をつけて見守っていた。保育士は目つけて見守っていた。	対象児の動きを見ていた。保育士は目をつけて見守っていた。保育士は目をつけて見守っていた。保育士は目つけて見守っていた。	雲梯ができる子でも、落下する危険性があることを常に頭に入れておく必要がある。保育士は目をつけて見守っていた。保育士は目をつけて見守っていた。保育士は目つけて見守っていた。			
2326	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	19					2	2	17.5歳	1.男児				1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸・腕部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	8		2.基準配置	ヒヤリハット報告等で、職員間で危険な事例を共有しているもの、子どもの行動についての見通しがあった。また、一人一人の保育士の危機管理意識が高かった。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	6	1.定期的実施	毎日	晴天が続き、園庭の地面が乾いた。園庭の地面が乾いた。園庭の地面が乾いた。	冬から春へと気候に伴い、子ども達の間気分が開放的になり、鬼ごっこ(通せんぼ)の遊びが気持よく行われていた。また、園庭の地面が乾いた。園庭の地面が乾いた。園庭の地面が乾いた。	一人一人の運動能力の差を把握し、適切な指導ができるように工夫した。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の近見を促して見守っていた。	対象児を含めた数名の子が「通せんぼ」を行っていた。対象児は鬼ごっこ(通せんぼ)の遊びを楽しんでいた。対象児は鬼ごっこ(通せんぼ)の遊びを楽しんでいた。	戸外でそれぞれ好きな遊びを楽しんでいた。保育士は目をつけて見守っていた。保育士は目をつけて見守っていた。保育士は目つけて見守っていた。	対象児が「通せんぼ」の場所には担任保育士が見守っていたが、他の職員も積極的に見守っていた。保育士は目をつけて見守っていた。保育士は目をつけて見守っていた。保育士は目つけて見守っていた。	対象児が「通せんぼ」の場所には担任保育士が見守っていたが、他の職員も積極的に見守っていた。保育士は目をつけて見守っていた。保育士は目をつけて見守っていた。保育士は目つけて見守っていた。				
2327	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45		10	14	21	6	6	15.3歳	2.女児				1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左尺骨遠位端骨折、左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1		2.基準配置	3歳児は未満児クラスから持ち上げられた。園庭に慣れていた。3歳児として生活初日であることへの配慮が足りなかった。	1.定期的実施	2	1.定期的実施	5回/週	2.不定期実施		園庭に植えられる木の根が地面から出てきた。木の根が地面から出てきた。木の根が地面から出てきた。	木の根が地面から出てきた。木の根が地面から出てきた。木の根が地面から出てきた。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていた	最後に外に出る子と一緒に出たため、対象児より早く外へ出ていく。	複数の保育士が一括に外に出るが、遊びの環境を整えながら子どもを見守っていた。保育士は目をつけて見守っていた。保育士は目をつけて見守っていた。保育士は目つけて見守っていた。	常に子どもから目を離さないよう、保育士や役割分担を再確認する。						

2328	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	3	夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	72							21	25	26			4	4	18. 6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左下歯1及び右歯1	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	1.定期的に実施	毎	1.定期的に実施	毎・6	1.定期的に実施	毎			特になし	1.集団活動中・見守り	年長児の保育最終日ということで保育士や園児とあそびながらの保育であった。	保護者対応が特にならぬことと、保育に専念する職員の配置に配慮する。	3.いつでも活動的であった	保育最終日で他児の迎えにきた保護者にジャングルから降りることができると同時に上に気持が高かった。	4.対象児の動きを見守っていた	他児の話す声に、対象児の動きを把握していた。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	職員間で声掛けの不十分で対象児の動きを把握できていなかった。		複数の保育士が位置について声掛けを行う
2329	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	3	夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42					6	20	16					6	3	17. 5歳	2.女児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	事故防止マニュアルを再度読み直し、職員に周知する	1.定期的に実施	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2			施設、遊具など不備はないか、随時確認していく。	3.個人活動中・見守り	保護者と会話しながら、子どもの動きに注意していく	1.いつでもおりの様子であった	保護者の迎えがあり、本児が室内から靴を履いて出て行き、ブランコの支柱に両手をつかまわっている時に右肩に落下した。	3.対象児から離れたところで対象児を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	室内にいる他の子どもの保育をしていた	遊具の危険性を再確認し、子どもの動きに留意して、見守りを怠らぬようにする				
2330	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	4	夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	34												2	2	17. 5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	延長保育時のディスプレイボードの中に、子どもたちが移動する時間帯の留意事項も組み込むようにする。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	48			今後も園庭のへこみや石の落下など、定期的な点検を継続していく。	1.集団活動中・見守り	事故発生時間帯は、園庭には、年長児が残って遊んでいるだけであり、適正人数での保育であった。	1.いつでもおりの様子であった	特にテンションが高いことも、いつも通りであった	3.対象児から離れたところで対象児を見守っていた	対象児に片付けの声をかけた後、他児を見守っていたため、転んだのは見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	自分の担当クラスの子に声をかけていた	勝負にこたわらず、年齢の異なる子どもと並んで遊ぶという気持ちで取り組む。常に、子どもの特性を保育士が意識し、声をかけようとする。	事前に何時になったら片付けて廊下で待つ子どもにわかりやすく伝えておく、子どもが行動できるような声かけをする。また、「ゆっくり」と声をかける。常に、子どもの特性を保育士が意識し、声をかけようとする。	
2331	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	21												2	2	16. 4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨遠位端骨折	5.他児から加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	職員配置については問題はないが、その場の状況に応じた保育士の立ち位置について見直す。	1.定期的に実施	51	1.定期的に実施	292	1.定期的に実施	51			職員間で安全点検箇所を確認し、今後危機管理意識をもって点検を行う。	3.個人活動中・見守り	気持ちをコントロールが難しい子が数人いるので、トラブルが起こることが多い。	子ども同士の距離間、感情、表情に変化がないかと把握し、一人一人が安全な環境づくりや援助をする。	1.いつでもおりの様子であった	特にテンションが高いことも、いつも通りであった	3.対象児から離れたところで対象児を見守っていた	他児とかわりなげに目を向け、対象児を見ていたが、突発的に引っ張られたため、引き止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	他児のトラブルに対応していた	トラブルが起きたときに手を差し伸べられる位置に保育士がいた	活動や子どもの様子に合わせて可能な限り、加配保育士及び園庭やバス・トイレなど、ケガにつながるような援助をする。
2332	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	4	夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	74												27	25	17. 5歳	2.女児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第4中足骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	保護者に向けて降園後遊具で遊ぶ際には十分注意してもらうよう再度周知する。子どもや遊具の遊び方について再確認した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	5	1.定期的に実施	12			7.その他	特になし	1.いつでもおりの様子であった	保育時間中は、いつも通り、走り回り、鉄棒などの遊具で遊んでいた	4.対象児の動きを見守っていた	4時まで降園する子どもを保護者へ引き渡した後、保育室の掃除や翌日の準備をする	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	4時まで降園する子どもを保護者へ引き渡した後に、保育室の掃除や翌日の準備をしていた	特になし			

2333	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	38							2	2	17.5歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右示指中節骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	45	2.基準配置	子どもの行動が予測できなかった。	子どもの姿を把握しその都度声かけや適切な援助をする。	1.定期的 に実施	1回/月	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	毎日	トイレの扉には、手指を挟まないよう、スポンジを布ガムテープで覆ったガードがあつたが、劣化もあつく指が挟まれた。	スポンジを覆くし、手指が挟まれないようにした。	1.集団活動中・見守りあり	トイレの扉(覗き窓)を閉めると危険だと指を挟まれた。	トイレを使用する前に、マナー(覗き窓)を閉め、身につくようにする。	1.いつもどおりの様子であつた	扉を開けてトイレに入っていた子から、覗き窓を閉めたため、手を挟んだ。	トイレ入り口で他にトイレに入っている本児を見て、話を聞かされたが、瞬間的に被火を防止できなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の職員にはいなかった。	子どもたちが移動する時は、保育士が2人以上で見守る必要がある。
2334	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	2							2	2	16.4歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左人差し指第2関節骨折	3.子ども同士の間で衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	2	2.基準配置	定期的な見直しやヒヤリハット等を職員間で定期的に出し合う機会を月1回設けることにより、職員の見直しを高める。	定期的な見直しやヒヤリハット等を職員間で定期的に出し合う機会を月1回設けることにより、職員の見直しを高める。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	子どもの動きを予測した危険箇所の改善(ままごの流し台の裏に入れないようにする。)子どもの遊びの興味や発達に合わせた遊びの見直しを実施。	子どものやり方や動きから危険を予測したり、提供の仕方が適しているかを観察する。	1.いつもどおりの様子であつた	体調・情緒面で特に変わりなし。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見なかった	サポート係とのブロック遊びに併せて、対象児に対しては離れたところで保育を実施。	子どもも遊びながらも全体の動きに目を配る。また、保育士が2人以上の位置関係や向き等も考え、お互いの保育士から子どもが遊べるよう体制を行う。				
2335	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28							1	1	17.5歳	1.男児	なし	7.登園・降園中(来宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨近位端骨折(浅野整形外科)左腕骨上腕骨骨折(江南厚生病院)	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	なし	どんな場面においても、事故につながることを職員で確認しあひ、子どもの様子を見守り、きめ細やかに見守る。	雲梯の下に敷いたある風戸用マットを固定するようにした。	お迎え後必ず目を見守るように保護者にした。	1.いつもどおりの様子であつた	保護者のお迎え後、雲梯をしてから帰るところであつた。	4.対象児の動きを見なかった	保護者のお迎え後、本児はそばにはいなかった。	保護者のお迎え後、本児はそばにはいなかった。	保護者や子どもなどを気をつけるようにする。										
2336	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20							1	1	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	24	2.基準配置	職員配置については問題ないが、その場の状況に応じて保育士の立ち位置について見直し、子どもに合わせ声をかけていく	煙の囲みの硬い面を衝撃吸できるものを付ける	1.集団活動中・見守りあり	ドッジボールが複数で追いかけていたこと。園庭の中にあること。	子どもたちが複数で追いかけていたこと。園庭の中にあること。	ドッジボールの外野で、ボールを追いかけていたこと。園庭の中にあること。	1.いつもどおりの様子であつた	ドッジボールの外野で、ボールを追いかけていたこと。園庭の中にあること。	ドッジボールの外野で、ボールを追いかけていたこと。園庭の中にあること。	ボールを追いかけて走るときは、危険な動きをしないようにする。	ボールを追いかけて走るときは、危険な動きをしないようにする。									
2337	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38	0	0	0	0	19	19	0	2	2	18.6歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘関節部打撲傷 右腕骨上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	12	2.基準配置	マニュアルに基づき、職員間の連携で迅速に対処できたため改善点なし	日頃、当たり前になっている遊具の使用方法を安全に遊ぶようにしていく。	3.個人活動中・見守りあり	園庭の環境には、十分に配慮して遊べる環境を確保していく。	1.いつもどおりの様子であつた	友達と一緒で遊んでいた。	2.対象児に近づく様子が見えなかった	職員は近くにいたが、一瞬の出来事だったので、腕が打つた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	4歳児の職員も戸外遊びが、クラスでも楽しんでいた。	園庭など、広い場所でも、どの職員も子どもを十分に把握できるよう連携をとる。								

2344	平成30年9月28日	1.認可 6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	26	3	2	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指) 左足首のくるぶしの骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	4	2.基準配置	年齢別担当で、園外遊具の配置など十分な確認はなかった。 園外遊具使用時の職員配置について危険箇所を含め再確認を行なう。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	2.不定期実施	公園遊具の危険箇所については把握してはいたが、遊具内で子どもが起きる危険な行動については予測できていなかった。 公園遊具の危険箇所と遊具間で子どもが起きる危険な行動について全職員へ周知を行なう。 1.集団活動中・見守りあり 危険なことはいまひとつ子どもたちに伝えられず、具体的な危険な行動については注意できなかった。 子どもたちには危険なことはいまひとつ伝えられず、具体的な危険な行動については注意できなかった。 1.いつもの様子であった 本児が飛び移れるように動いた。 4.対象児の動きを見守っていた。 2.担当・対象児の動きを見守っていた 本児がいた網状の遊具では反対側の台付近辺で他児らの遊びを見守っていた。	公園の遊具で遊ぶ際、職員間で子どもを位置を事前に確認し合う。また、子どもは声かけしなから配置をとる。		
2345	平成30年9月28日	1.認可 6.認可保育所	3	1.朝(始業-午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	79	7	7	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 左橈骨遠位部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2	1.基準以上配置	児童の安全対策の中で遊びのマットの厚さが適切であった。 マンユアルを見直し体育器具の注意事項を付け加え全職員で確認を行う。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	2.不定期実施	幼児に飛び箱をとばせるとの厚さが適切であった。厚みが10センチ 専門家に伺い、硬さを合わせて購入する 1.ひとりの職員で判断し遊べる自由遊びの時間帯に子どもを遊ばせていたため、職員等確認できていない。 ひとりの職員が判断し遊ばせていたため、職員等確認できていない。 ひとりの職員で判断し遊べる自由遊びの時間帯に子どもを遊ばせていたため、職員等確認できていない。 ひとつのおもちゃの子であった 周りの友だちや職員に動いてつづき、とびに当たった。 1.対象児とマンマンの状態(対象児に接していた) それまで遊びの時間帯に上り、お尻をつけて下りたため危険だと思っていた。 2.担当・対象児の動きを見守っていた 3.対象児が転ぶのを防止するための対策を講じた。 飛び箱に、ついでに危険な状態に陥っていた。 担当していた職員も、飛び箱の介助の仕方、どのような危険があったか等の知識がなかった。	全職員で研修を受ける。		
2346	平成30年9月28日	1.認可 6.認可保育所	3	夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	48	3	7	11	10	6	11	0	8	2	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指) 脛骨1/2折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	特になし 危機管理マニュアルの中には、「事故対応」が重点的に書かれており、「予防」についての内容が薄いので、充実させる。 使っていたバカゴに破損箇所は見当たらず、事故現場も穴が開いていることではなかったため、遊具の改善はされない。 ・園長・主任保育士が数名が会議の場、現場から出て、「お迎えの時間帯だったため、怪我目から軽傷と判断してそのまま保護者に渡した。」 見えた目が軽傷でも、子どもを見て対応できなかった。怪我目から軽傷と判断してそのまま保護者に渡した。	・転び方を見て大丈夫だと判断してしまっていた。事故10分後に保護者に来て迎えてくれた。様子を観察できなかった。また本児の対応をしていた職員が、担任や園長に報告したのが遅くなった。	
2347	平成30年9月28日	1.認可 6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	29	2	2	18.6歳	2.女児	8.その他	1.負傷 0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指) 膝関節・脛骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的実施	12	1.基準以上配置	特になし 特になし	1.定期的実施	3	1.定期的実施	3	1.定期的実施	3	特になし 特になし	何も言わずに他児の玩具を取り上げた。他児が引かれた時に振り向き、両手で持っていたため膝からこける。 1.いつもの様子であった 何を言わずに他児の玩具を取り上げた。他児が引かれた時に振り向き、両手で持っていたため膝からこける。 1.対象児の動きを見守っていた 2.対象児の動きを見守っていた 3.対象児の動きを見守っていた 1.集団活動中・見守りあり 特になし 特になし	日頃から子どもたちの様子を見守り、トラブルが発生したら、子どもたちに寄り添って対応する。子どもたちがトラブルに言葉で解決できるように、日頃から助言していく。
2348	平成30年9月28日	1.認可 6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	23	4	4	14.2歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 左第四指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期実施	4	2.基準配置	担任間の声掛け合い不足 常に安全意識を持って子どもと接する	3.未実施	1.定期的実施	3	2.不定期実施	3	施設設備・遊具・玩具の目を見守る時、遊んでいられる時間だけでなく、どんな時も安全かを常に確認し、安全に片付けよう伝えていく。 1.いつもの様子であった 遊んだ遊具を自分で片付けた。片付けようとしていた。 3.対象児から離れたところで見守っていた 1.集団活動中・見守りあり 特になし 特になし	見通しの悪い物を片付ける際は子どもと一緒に手を入れる。壁や扉、乗用車などの狭い所には手を添えるように注意して片付けていく。 1.集団活動中・見守りあり 特になし 特になし		

2349	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	4	夕方(16時頃-夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	0	3	4	2	0	0	0	3	3	13.1歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腰部)	鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的実施	週1	1.定期的実施	週1	1.定期的実施	週1	安全を考慮して下敷いたが、1歳児には高すぎた。	年齢ごとではなく、個人の発達を考慮して遊具方法を替える。	3.個人活動中・見守りあり	土曜日保育士が不在の時もあり、また異年齢保育の為に園児の引き継ぎが不十分であった。	土曜日保育士も通算する子ども達を各クラスで引継ぎを行った。	土曜日保育士も通算する子ども達を各クラスで引継ぎを行った。	マットの上に置かれた、スポンジ遊具(組木遊具)から降りた際、お尻から、その時に左手から倒れる。	1.いっもどおりの様子であった	担任保育士にいたが、全体を見ていた。対象児の転倒に気が付く様子を見ることができた。	1.担当者・対象児を見ていた(至近距離にいた)	幼児担任保育士が至近の姿を見ていた。全ての対象児の様子を確認した。	転倒の後にも十分に観察して、判断するべきであった。	土曜日保育士の人員を1名増やし、乳児を分けて別の部屋で行った。
2350	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業-午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33			11	11	11		2	2	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期実施	2.不定期実施	2.不定期実施	特になし	特になし	手洗い場・足洗い場・遊具置き場の辺りは、遊び場として使用しない。子ども達も遊び場の約束として、手洗い場・足洗い場・遊具置き場の近くで遊ぶことは遊ばないよう伝えていく。	手洗い場・足洗い場・遊具置き場の近くで遊ぶ場所、段差のある場所などで、大きな動きをする・ぶつかる事が考えられる。	3.個人活動中・見守りあり	手洗い場・足洗い場・遊具置き場の辺りは、遊び場として使用しない。子ども達も遊び場の約束として、手洗い場・足洗い場・遊具置き場の近くで遊ぶことは遊ばないよう伝えていく。	1.いっもどおりの様子であった	元気に登園後、いつも通り園庭で遊ぶ。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭を走っている対象児を見ながら園庭で遊んでいた。転倒した瞬間は他児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で遊んでいる子どもの見守りしていた。	特になし	特になし				
2351	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	34						4	3	16.4歳	1.男児	特になし	8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	12	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	数	トイレから帰ってくる際に、普段は上靴を履いて歩いているが、この日は履かずに入っていたが、本児に気づき、靴を履き直した。	トイレ後、上靴を履き直した。	1.集団活動中・見守りあり	上靴を履くことをクラス全体に周知する。	1.いっもどおりの様子であった	トイレ後、上靴を履き直した。	2.対象児の動きを見ていなかった	午睡あけの為に、本児の近くにはいたが、布巾を片付けていた。この日は履かずに入っていたが、本児に気づき、靴を履き直した。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	一名がトイレの見守り、一名がテラスにて子どもの様子、援助をおこなった。	対象児が上靴を履いていなかったことに、保育者が気づくまでは、上靴を履かせる傾向がある子どもであったため、靴下を履かせるようにした。				
2352	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	20						3	3	15.3歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上下前歯打撲・下口唇切創	8.その他	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	今回は戸外活動中(歩道)での事故のため、ハード面での要因は考えられる。	道路は本園に面した見通しの良い直線道路であり、天候も良好視界も良好であった。散歩の際にはよき通り、子ども達も歩き慣れていた。公園の側溝(鉄製のグレーチング)の上を通ったが、くづつきなどの不安定さは無かった。安全と判断したが、グレーチングは網目状の構造であり、	道路は本園に面した見通しの良い直線道路であり、天候も良好視界も良好であった。散歩の際にはよき通り、子ども達も歩き慣れていた。公園の側溝(鉄製のグレーチング)の上を通ったが、くづつきなどの不安定さは無かった。安全と判断したが、グレーチングは網目状の構造であり、	1.集団活動中・見守りあり	道路は本園に面した見通しの良い直線道路であり、天候も良好視界も良好であった。散歩の際にはよき通り、子ども達も歩き慣れていた。公園の側溝(鉄製のグレーチング)の上を通ったが、くづつきなどの不安定さは無かった。安全と判断したが、グレーチングは網目状の構造であり、	2人組で手を繋ぎ、10列で歩いた。本児は前列目(公園側)にいたが、一歩に手を繋いでいた女の子(車道側)が転倒し、引っぱられるように倒れた。列は等間隔であり、開いて急いだ様子などは無かった。	1.いっもどおりの様子であった	十字路にさしかかった所で、車道側に立ち止まり、安全を確認しながら歩いた。後方等から車両等が来ないことを確認しながら、子ども達を進行方向に誘導していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	先頭(1列目)にいた保育士および対象児の安全を確保するため、先頭の子どもの手を繋いでいた。後方(10列目)の子どもの手を繋いでいた。対象児は先頭の子どもの手を繋いでいた。対象児は先頭の子どもの手を繋いでいた。	先頭(1列目)にいた保育士および対象児の安全を確保するため、先頭の子どもの手を繋いでいた。後方(10列目)の子どもの手を繋いでいた。対象児は先頭の子どもの手を繋いでいた。	道路は本園に面した見通しの良い直線道路であり、天候も良好視界も良好であった。散歩の際にはよき通り、子ども達も歩き慣れていた。公園の側溝(鉄製のグレーチング)の上を通ったが、くづつきなどの不安定さは無かった。安全と判断したが、グレーチングは網目状の構造であり、			
2353	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地外(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21						2	2	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口唇裂傷左前歯打撲による歯根の損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的実施	4	1.定期的実施	12	屋上遊技場が狭い中2つを鬼ごっこしていた。	活動的な遊びが重なっているときは遊びの数を制限する。	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこでの活動的な遊びの際の遊びの数を制限する。	鬼ごっこでの活動的な遊びの際の遊びの数を制限する。	1.いっもどおりの様子であった	対象児の横手3メートル程離れたところから、急いで鬼ごっこを始めたため、何も出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	他職員も鬼ごっこの6メートル程離れたところから、急いで鬼ごっこを始めたため、何も出来なかった。	遊びが混在していたため、走り回っている児童の注意ができていなかった。	より全体状況をよく把握し、遊び場を見守り、危険を予測して、遊び場への注意喚起の声をかけようとする。						

2358	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58	3	6	7	14	14	7	7	16.4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨頸上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	外あそびと他の保育士が新年度準備をしていた。担任が準備にあたり、全児だっただけあてに互いの見方をしなかつた。	保育士は全体に目を向け危険な遊び方をしないか確認しながら保育をする。保育士も声をしながら確認していく。	1.定期的	12	1.定期的	50	1.定期的	50	なし	ベンチそのものは危険ではなかったが跳ぶという遊び方があった。遊び方も考えなければならない。	3.個人活動中・見あり	新年度を迎える前の子どもの様子で、高揚している様子があった。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の動きを見ていた	いつかは跳んで大丈夫だろうと思っていた。	2.担当・対象児の動きを見ていた	他児と遊んでいたため。	保育士は全体に目を向け危険な遊び方をしないか確認しながら保育をする。園児が興奮している場合は落ち着くまで待つ。		
2359	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20						1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	複雑骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	安全な遊び方を知らせる	安全な遊び方を知らせる	1.定期的	12	1.定期的	12	1.定期的	12	12	特に問題なし	1.集団活動中・見あり	遊びのルールや決まりを知らせていた	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこで鬼になって友達を追い回していた	4.対象児の動きを見ていた	園庭に出て見届かずに、保育士の見守りが足りなかった。	2.担当・対象児の動きを見ていた	いない	危険な行動となる姿勢を予測し、声をかけるなどして、見守りを行うようにする	
2360	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19						9	9	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨頸上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	1	1.基準以上配置	鉄棒で遊ぶことが、大きな事故につながるという認識がなかった。	鉄棒の上には危ないということも教えず、座らないように指導する。	1.定期的	12	1.定期的	12	2.不定期に実施	24	鉄棒の下に敷いているマットがある程度衝撃を吸収していたが、意外に硬く感じた。	鉄棒の下に敷いているマットがある程度衝撃を吸収していたが、意外に硬く感じた。	1.個人活動中・見あり	鉄棒の下に敷いているマットがある程度衝撃を吸収していたが、意外に硬く感じた。	1.いつもどおりの様子であった	同じクラスの友達と3人で遊んでいた。鉄棒に1人が座り、本児も隣の鉄棒に座っていた。	2.対象児の動きを見ていた	5歳児クラスの子どもの様子を見ていた。友だちと一緒に座っている本児の姿を見て、危ないと感じた。注意を促さず、子どもたちも手を離すことを促さなかった。	1.担当・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	各クラス子どもたちも付いて遊んでいた。	5歳児なので鉄棒での活動に安心感を持って遊んでいた。	鉄棒は危ないという意識を持って、できるだけ鉄棒を避けているようにしている。子どもたちも手を離すことを促すように促していく。
2361	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18						1	1	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨頸上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的	12	2.基準配置	事故防止チェックは周知していたが、徹底できていなかった。	ミーティングで話し合い、周知徹底に努める。	1.定期的	12	1.定期的	24	1.定期的	2	特になし	1.集団活動中・見あり	鉄棒で前回りができるようになった。3日目で、自信を持ち、前回りをしてきた。	1.対象児の動きを見ていた	本児のすぐ後ろで見ていたため、転倒時に手を添えようとしたが、間に合わなかった。	2.担当・対象児の動きを見ていた	加配対象児と加配保育士が遊んでいた。	前回りができるようになった。本児が自信を付けていたため、保育士は手を添えず見守っていた。	出来るようになったと言っても、鉄棒で滑り落ちる手が滑りやすくなる。常に見守りを行う。			
2362	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	18	8	10				4	4	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	1.頭部	左側頭部頭骨陥没骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的	1	1.基準以上配置	遊んでいる子どもと、園に帰る子どもと、幅広く広がっている状況であった。	活動の切替時は、子どもたちの行動範囲を狭めていく。	公園スロープに設置してあるフェンスの危険を認識していた。	フェンスの網掛け部分に網掛けを要望した。(自治体が転落防止ネットを設置)	1.集団活動中・見あり	園内の広い公園で、死角が多い。	死角になるスロープに、子どもが倒れかけた。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで見守っていた	事故数分前にはスロープ近くに位置した子どもたちを見守っていた。他児が来て、呼んだので、担当職員が移動した瞬間に事故が起きた。他の職員の声で現場に行く間に間に合わなかった。	1.担当・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	公園内の危険箇所には、職員配置できなかった。	公園内の危険箇所には、職員配置できなかった。	公園内の危険箇所には、職員配置できなかった。						

2368	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55	6	6	15	0	14	8	8	16.4歳	2.女児	天候：晴れ	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的実施	4	2.基準配置	これまで遊んで遊ぶことはあっても、登って落下する事例がなく、保育士が見守ることができなかった。	ブランコ安全柵には登った様子もなく周知徹底と見守る。	2.不定期的実施	3	1.定期的実施	12	2.不定期的実施	6	鉄棒のようになって、つい鉄棒遊びのように触れる可能性がある。適切な注意喚起も必要かと思ふ。	近寄り遊ばれた遊具と遊ばないことを周知する。	1.集団活動中・見守りあり	保育士が中心で見守る傾向があり、常に広がり居場所ができていなかった。	保育士がそれで見守ることに全体も忘れないうようにする。	1.いつもの様子であった	最近家庭高登りとうとうの傾向があったこと	2.対象児の近寄りを見ていた	2歳児の子が触れたので、かわらせたため、本児を伸べることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	以前にも触れていた様子があり、興味があったこと当日は見守っていた。	年齢に応じた遊びなど常に職員配置を考慮し、常に安全確認をいく。	保育士間連携をとりながら、慣れた遊具であっても職員配置を考慮し、常に安全確認をいく。
2369	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	15						3	3	13.1歳	1.男児	環境の変化に戸惑い、行動に落ち着きなくなることがあった。またつまずき走りやすくなり転倒しやすくなり危険であるため、本児に声掛けなどをするが行動範囲が広く、保育士の体を受けとめて制止していた。現在以前より落ち着きのある行動がとれ、言葉の理解力がつき始めている。	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	6	1.基準以上配置	事故予防マニュアル等が職員間で浸透していない。事故予防に関する研修を実施しているが対応不足であった。	ヒヤリハットや事故事例等を分析しているが、職員間で十分に改善策を話し合い、園児の状況を確認し予防対応ができるよう連携を図る。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	畳上に障害物があったが走り回れる環境であった。	多動傾向の園児がいた場合、職員間で連携を取り、園児と室内周囲の観察を行い、安全な空間を確保する。	1.集団活動中・見守りあり	午睡後のため、まだ覚醒しきれていない子、排泄中の子、排泄後手洗いなど保育士の連携が不足している。	起床後は活動が多岐にわたるため、たまたま落ち着きながら、排泄後は本児も好きな絵本等を見て過ごさせている。	1.いつもの様子であった	いつもと変わった様子があった。	2.対象児の近寄りを見ていた	クラス担任は3名いた。それぞれ別の準備の片付け、排泄の世話をしており、視線に入らなかったものの、他園児の介助などで本児の制止がうまくいかなかった。	保育士間の役割分担の明確化を図る。布団片付け、排泄の準備など保育士がそれぞれ他業務に気がまわらない。	本児が自由時間に走り出す予兆を察し、突発的な行動を未然に防ぐ。		
2370	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	26						2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	上顎A-A外傷性歯牙脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	12	1.基準以上配置	朝の冷え込みが厳しく、靴下を履いたままフロアリングに滑り、滑って転倒する予測が十分出来なかった。	フロアリング面において危険予測を立てたり、他園児が同一場所の有無等を分析する。職員間で共有する。	1.定期的実施	3	1.定期的実施	1	1.定期的実施	4	フロアリングであるため滑りやすい。	3歳以上児であるため遊びのコーナー以外の床は、フロアリング面が多くなっているが、全面絨毯を敷くことができないので、移動時は気を付けて移動しやすく移動しやすく危険であることを日頃から園児に伝える。	一人一人が好きなき遊びの時間であり、園児も楽しんで移動しやすくなることも考えられた。	低温時期は、登園前から早くに寒気を察知し、園児たちが遊ぶときに脱いで遊ぶことができる環境作りをする。	1.いつもの様子であった	元気に挨拶をしてきた。	3.対象児から声をかけた。	遊びのコーナーに、朝の支度で本児に「おはよう。」と声をかけた。	支度のコーナーで、他児の支援していた。	低温や空気の乾燥でフロアリング面に滑りやすくなり、職員間で情報共有し、園児に声掛けができていなかった。	靴下を履いていない状態を、滑るといふ予測を立て、職員間で情報共有し、園児に声掛けができていなかった。		
2371	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25						3	3	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第4中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	3人で対応していたが、加配保育士とパート保育士が特定の子と接していたため、全体の把握が担任1人になってしまい、活動体制に手薄さがあった。	数人で対応し、危険と思われる箇所には必ず目を見守る。園内で事故再発防止学習をする。	2.不定期的実施	1	1.定期的実施	6回/週	1.定期的実施	2	竹馬の大きさを、本児の体になかったのではないか。	竹馬の安全チェックをし、一人一人の技術、精神面の力を把握する。又、体調の変化にも気を付けながら指導していく。	乗馬が高くなることに、一人一人の技術、精神面の力を把握する。又、体調の変化にも気を付けながら指導していく。	1.いつもの様子であった	友達と一緒に通った練習会をした。	3.対象児から声をかけた。	担任は、スタート地点で竹馬を持ってスタートさせていたため、落下地点にはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	各年齢の運動会など、それぞれの活動をした。	担任一人で行っていたため、見守りに手薄さがあった。	見守りを増やし、ゴール地点には必ず職員がいて、子どもに声をかけた。			
2372	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	27						1	1	17.5歳	2.女児	特記事項無し	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5趾趾骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期的実施	数年単位で実施	・保育中は常に危険回避意識をもって保育する。園内で事故再発防止学習をする。	・保育中は常に危険回避意識をもって保育する。園内で事故再発防止学習をする。	1.定期的実施	1回/月	1.定期的実施	1回/月	1.定期的実施	2-3	ボールが落ちてくる子どもたちが群がってボールを捕らうとするので通常の心理状態とは違う興奮状態になった。	上靴を履くよう指導することにした。	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちとボールのやり方を考え、危険が伴わないようルールにしている。ゲームをするべくフリー保育士が一緒に見守る体制を整える。	1.いつもの様子であった	いつものように、ボールが落ちてボールを蹴っていた。	3.対象児から声をかけた。	全体の子どもを見ながら、ドッチボールの審判をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	別室で保育業務を行った。	ボールを追いかける時は、慌てないように保育士が声かけや注意喚起する様にした。職員が一度はボールを投げられるようルールを変えていく。			

2373	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	5																			この日の朝は雨が降っていたので、長靴で登所していた。靴よりやすく、不自由だったと思われる	2.基準配置																					この日の朝は雨が降っていたので、長靴で登所していた。靴よりやすく、不自由だったと思われる
2374	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	3	6																	保育者の立ち居地や、使用していない玩具の取り扱いについて、細心の注意を払う。	2.基準配置																					保育者の立ち居地や、使用していない玩具の取り扱いについて、細心の注意を払う。
2375	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	2	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	16																			子どもの行動を極力予測し、すぐに対応できるよう保育士の配置等再度職員間で確認し合う。	1.基準配置																					子どもの行動を極力予測し、すぐに対応できるよう保育士の配置等再度職員間で確認し合う。
2376	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22	10	12																	子どもの行動を見て、危険を予測し、手の届く範囲で動ける職員がいなかった。	2.基準配置																					子どもの行動を見て、危険を予測し、手の届く範囲で動ける職員がいなかった。
2377	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23	0	0	11	6	6	0													保育士の人数は足りていないが玄關付近が死角になる部分があった。	2.基準配置																					保育士の人数は足りていないが玄關付近が死角になる部分があった。
2378	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	4	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	15																			職員間で危険管理意識は充分であったか?	1.基準配置																					職員間で危険管理意識は充分であったか?

2379	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41	0	0	0	17	11	13	3	3	17.5歳	1.男児	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折 右尺骨遠位部骨折 右手挫傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	送迎途中の安全については、保護者が責任をもって預けよう入園式(しおり)や通だよりにて折に触れお伝えしているが、結果的にお迎え後の安全の周知徹底ができていなかった。	降園の際の規則と対応を、職員やケース会議やケース会議で確認し、保護者参加の行事や園で行事により保護者に周知する。また、担任園児についての確認をする。	1.定期的 に実施	295	1.定期的 に実施	295	1.定期的 に実施	295	保育中は遊具遊びでの動きを想定していたが、降園途中の園内での遊びを禁止していたので、落ちて右前腕を骨折したと思われ。	日頃の保育場面での運動発達を促し、特に固定遊具での安全を確認する。	7.その他	4,5歳児には体育教室及び戸外遊び等で後継性、対応性を養うため指導を行っているが、児童は一回だけ約束が逸ったことや靴を下げたまま下駄下駄で遊んだこと、保護者が抱きかかえていたことで転落の防止ができていなかったと思われ。	1.いつもどおりの様子であった	児童は一回だけの約束で気が逸ったこと、保護者が抱きかかえていたことで転落の防止ができていなかったと思われ。	4.対象児の動きを見ていなかった	お迎えに来た際に保護者にお知らせしなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	退動する保育職員が近づく際に園児を驚かせた。園児は驚き、泣き出した。心息処置をして受診を促した。	職員は常日頃から保護者との信頼関係をつくり送り迎え中の安全についての周知をする。さらに予想や見通しを立てていく。	
2380	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	27							2	2	16.4歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	事故防止について、研修等を受けていたが、それを意識して保育を行うことの意識が不足していた。	研修を踏まえ、職員会議等で再度、保護者に周知徹底を行う。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	子どもとの両手がふたがる状態で移動させた。	移動する際は、子どもが転ぶのを防ぐ。環境を整える。	1.集団活動中・見守りあり	予想される子どもの姿を個別に対応する態で対応する。できる限り荷物を少なくする方法を検討する。	クラスまでの移動は、階段を上るため、並んで移動している。本児が前に並び急いで転ぶ。	2.対象児の動きを見ていなかった	子どもにも保育室に戻す声かけを行ってすぐの出来事だった。荷物を安全に声掛けが不足していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児があわてている状態を把握していた。事故を想定できなかった。	あわてていなくなるリスクを減らすこと、声をかけたり、個別に対応を行う。		
2381	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23							1	1	16.4歳	1.男児	以前ほぼ同じ部位を骨折していた。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折 右腓骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	使いなれど、特に出っ張りの遊具でも落ちて遊ぶ子どもにも十分に注意して活動前に、園庭の状態を確認すること徹底する。	遊具を遊ぶ際は、けがにつながるリスクが高まるため、その発達に合わせた場所での確認と慣れを促す。活動中は、園庭の状態を確認し、必要に応じて声をかける。また、遊具の点検も行う。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	遊具を遊ぶ際は、けがにつながるリスクが高まるため、その発達に合わせた場所での確認と慣れを促す。活動中は、園庭の状態を確認し、必要に応じて声をかける。また、遊具の点検も行う。	1.いつもどおりの様子であった	以前家庭において骨折して完治していた。	2.対象児の動きを見ていなかった	園庭には、他クラスの保育士もいたが、各クラスの子どもたちを中心に遊んでいた。本児が泣いていたので、異変を主任保育士に知らせた。	道具を使って遊ぶ際は、けがにつながるリスクが高まるため、その子の発達に合わせた確認と慣れを促す。また、遊具の点検も行う。					
2382	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	45				17	18	10	4	4	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕 上腕骨折	5.他児から危を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	他児が入園口で当該園児を押したことで、他児4歳は散歩の後、早くトイレに行こうとして急いで、思わず手が出た様子である。	外から部屋に入る子ども達も保育士が先導して2階保育室に入れる。	1.定期的 に実施	4	1.定期的 に実施	4	1.定期的 に実施	4	出入口付近の往来が頻繁	部屋の出入り口付近では、ゆっくりに通る。	1.集団活動中・見守りあり	一旦、足を1階で洗い高橋した心で2階保育室へ誘導する。	いつも通り登園した様子であった	いつも通り登園した様子であった	3.対象児の動きを見ていなかった	1人が先に保育室へ向かい、ロッカーなどの指示をしていた	1人は2階階段付近にいて上の子どもの声掛けに気づいた。1階で他の子どもの足洗いを見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士が打合せ、声掛けをし連携をとり全体に行きとどくようにする
2383	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業-午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	39							3	3	16.4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第一足趾趾基節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	階段に保育士は配置していた。見守りも行って行こうとしていたため	階段に保育士は配置していた。見守りも行って行こうとしていたため	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	今回は異物などが落ちてしまった様子であった	階段を昇降する際は、手すりをつかまり十分に気を付けて行うように声をかけていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り登園した様子であった	2.対象児の動きを見ていなかった	階段に降りる際に、足指を踏んで見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	階段に降りる際は、大きくバランスを崩す事もなく手すりも持っていたが、階段を降りる時は気を付けていく。			

2389	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	24	0	0	0	0	10	14	2	2	18.6歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首刺離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	本児は内股の為、他児と比べ転倒しやすいため、その点を十分考慮し、本児のすぐ側に保育士が付く等の配慮が必要だった。	特に園外保育時は、職員を最大限に増やし、且つ配置を最善とする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	怪我をした園児のすぐ側に職員が付いていなかった。	定期的な点検、整理整頓の徹底、園庭等の整備をこまめに実施する。	1.集団活動中・見守りあり	本児が内股でつまづきやすいため、職員の見守りや、本児のすぐ側に職員が付く等の配慮が必要だった。	内股の治癒等保護者にも伝えていく。活動中、出た来たるだけ職員が側に付くように心掛ける。	1.いつもどおりの様子だった	3.対象児から離れたところ対象児を見た	職員がすぐ側に付いていなかった事と考慮される。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員が、対象児の動きを見ていなかった。	本児が内股である。転倒した際、本児のすぐ側に保育士が付いていなかった。	怪我をした園児は、内股の為、つまづく事や、転倒しやすいため、園外保育という事もあり、職員配置や等々の配慮が必要だった。
2390	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60	0	0	0	20	20	0	5	5	15.3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上前歯打撲	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	2	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	2~3	1.定期的に実施	290	2.不定期に実施	4~5	特になし	鉄棒の下にマットを敷くようにしているが、もう少し厚めのマットを検討する	自由遊びのため、鉄棒の下にマットを敷くようにしているが、もう少し厚めのマットを検討する	1.いつもどおりの様子だった	普段と変わらず遊んでいた	配置された場所が、職員も視野に入れないままに遊んでいたが、他児に気づいて対応していたため、現場を見ることができた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの子どもの対応、迎えに来た保護者の対応をしっかりと見ていた	特になし	園庭での職員配置の確認を行った。		
2391	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	13							3	3	13.1歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯打撲及び上唇小帯の損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	怪我をした園児のすぐ側に保育士が付いていなかった事と考慮される。	出来るだけ、職員が側に付いて活動する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	怪我をした園児のすぐ側に保育士が付いていなかった。	出来るだけ複数の職員で対応する。	1.集団活動中・見守りあり	すぐ側に職員が見守れていた。	出来るだけ、職員が側に付いて活動する。	1.いつもどおりの様子だった	3.対象児から離れたところ対象児を見た	職員がすぐ側に付いていなかった事と考慮される。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員が対象児の動きを見ていなかった。	手洗いの際、園児2~3名ずつを1名の職員が対応していたため、	出来るかぎり複数の職員で保育していく。また、園児の数を少なめに調整する。
2392	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	12	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	26							6	6	14.2歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯のぐらつき	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1~2	1.基準以上配置	砂場の玩具を砂場以外の所で持ち歩いていた。	玩具の使用場所や使い方を声掛けをする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	施設的には問題ないと思われる。	引き続き、安全点検を定期的に行い、保育中も危険な場所がないか見守る。	1.集団活動中・見守りあり	1歳児の年齢にあった遊具を合わせた保育を行う事で、怪我が防げた。	常に子ども達の発達段階に合わせた保育を行う事で、怪我が防げた。	1.いつもどおりの様子だった	園庭で砂場の玩具を持って遊んでいた。	対象児の至近で対象児を見た	対象児が園庭で、両手に砂場の玩具を持って歩いていたら転倒した。その際、対象児の顔が地面にぶつかった。	園庭で遊んでいる子、室内で排泄をしていた子に合わせた対応を、室内にいる子達を見守っていた。	見えにくい場所には、目を配らせ、子ども達一人ひとりの室内に怪我を未然に防ぐ。	病気や怪我の発生を常に確認し、迅速な対応ができるように努める。
2393	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	52							5	5	18.6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	子どもの行動や障害物となる物を危険を予測し、手の届く範囲で動く職員がなかった。	事故予防に関する研修、講習をより多くの職員が意欲的に受け、知識を身につける。	1.定期的に実施	292	1.定期的に実施	292	1.定期的に実施	292	床の段差や障害物の配置をなく、事故を予測できていなかった。	日々の施設、設備等の整備と、事故の周知徹底を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	事故発生後、保護者との話し合いの中で、保護者が本児の歩き方(すり足で歩く)が少なくなったこと、これからはその情報を共有することができず、注意して対策をとることができていなかった。	保護者とも常に良い状況でのコミュニケーションを図り、子どもの情報を共有する事ができるように努める。また、子どもへ危険な事を予測し伝え、安全な行動を徹底する。	1.いつもどおりの様子だった	園発表の時間ではあったが、本番の発表は数日前に終了しており、慣れた環境で精神的にも余裕のある状態で発表していた。	本児を含め年長児19名の発表から年長児の発表を先導していた職員1名。ホール内の正面、隅から全体を把握しながら見ていた職員がそれぞれ1名ずついた。	ホール隅に年長児の発表を見ていた年少・年中児の側に付いて職員1名、歩いて移動する年長児を誘導していた職員1名。ホール内の正面、隅から全体を把握しながら見ていた職員がそれぞれ1名ずついた。	園児が転倒した際、手が届く範囲で職員が手を差し伸べる事が間に合わなかった。	職員同士の声掛けや室内での立ち位置などを確認し合いながら、職員間の連携をとり保育を行なう。	
2394	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	31							4	3	18.6歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	モノを取り合う状態では、不慮の出来事がある可能性がある。	取扱いにおいて、本来の大きさから大きく変化する可能性がない。高く上げない。強く引く引かない。	1.定期的に実施	53	1.定期的に実施	359	2.不定期に実施	53	椅子を移動させるのに、園児への負担が大きい。モノの重さや大きさ、引っ張り合うことなどがある。	椅子を持つ時は、一人で持つことを基本事項として定める。	1.集団活動中・見守りあり	素足保育であるため、足にモノが落ちた場合、ダメージが大きい。	椅子を園児同士で取り合う状況はない。	3.いつもより活発であった(理由を記載)	椅子の取り合いの状態も普段より多かった。	対象児の動きを見ていなかった	2.対象児の至近で対象児を見た	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外の子ども達を見守っていた。	椅子の取り合いが発生した時点で、その状態を回避させるようにする。

2395	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	8	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31	0	0	0	0	8	10	13	0	23	23	16.4歳	1.男児	特になし。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	亀裂骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	12	1.基準以上配置	特になし	職員で再発防止に向けて、改めて遊具の使い方を確認した。	1.定期的実施	1回/月	1.定期的実施	毎日1回	1.定期的実施	毎日1回			引き続き定期的に安全点検を行い、事故防止に努めていく。	3.個人活動中・見守りあり	個人活動中の体制(配置)の見直しを行う。	1.いつもどおりの様子であった	遊具の途から飛び降りた。	4.対象児の動きを見なかった	他児の状況を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の状況を見ていた。	保育士が同じ場所に重ならないように、気をつけて保育に取り組み、園児の状況を見て、補助が必要と思われれば、保育士がつくようにする。		
2396	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	2	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	5	0	0	0	0	0	5		1	1	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左中足骨第1趾若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	3	1.基準以上配置	特になし	安全管理マニュアルを職員で再チェックし見直す。職員の監視体制を強化。	1.定期的実施	1	1.定期的実施	2	2.不定期実施		特になし	ハード面での改善はなし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	環境面での改善はなし。	1.いつもどおりの様子であった	園庭でサッカーをしており、変わった点はない	2.対象児の動きを見ていた	見通しの良い園庭でサッカーをしており、よく見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	戸外活動、室内活動、保護者伝達担当者、職員はバラバラに配置	特になし	最近の子ども達の身体を考慮し、事故予防の事故予知徹底を図る。		
2397	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17								1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	6	2.基準配置	準備運動が足りなかった	足の指先まで使う準備運動を行う	2.不定期実施	12	1.定期的実施	50	2.不定期実施	50			何もないところでの怪我だったので施設、設備等は危険なし	1.集団活動中・見守りあり	一人遊び要因不明	遊戯室での活動の為、危険物なし	1.いつもどおりの様子であった	元気がボール遊びをしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ている	クラスの保育中、集団での活動していた指導と見守り	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスで保育をしていた	担当保育士がいる中で、怪我、人員配置には問題なし		
2398	平成30年9月28日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	1								1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	2	2.基準配置	マニピュールの整備に努め、マニピュールは各保育士が保育室に常備している。職員の配置は適正であった。	事故の分析要因等を職員全員が共有し、保育に当たる。いろいろなかれが起きることを想定しておく。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12			面種基準を満たしていた。機、備品等の配置は適切であった。	常に保育室の整理を心がけていた。通常のペースを広くとる。	1.集団活動中・見守りあり	一言に自分の整列へと動き出した。	一言に動き出す際に声かけ等注意を払い、衝突・転倒に気を付ける。	1.いつもどおりの様子であった	天気が悪かったので室内で自由遊びを行っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育士は、体操が終わった状態から子どもを集める朝の会をして、保育室の中央付近から前方に移動し、怪我をした園児に背を向けた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスそれぞれ保育中であった。	保育士は、保育室の前方から小走りで移動してきた子どもを予測しながら見守ることができた。	
2399	平成30年9月28日	1.認可	7.小規模保育事業	1	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	2	6	1					3	3	15.3歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕上骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	子どもの動きはあつたことを理解する	個々の子どもに合わせた見守り	1.定期的実施	244	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12			自由遊びの際、動き始めた元児の玩具は取り除く等、安全な環境を整える	遊具・玩具については一定期間毎に点検を行っている(概ね月1回程度)ため、最終点検時に点検を加えて毎日に点検へ変更	1.集団活動中・見守りあり	高揚し始めた段階で声を掛け、落ち着かせる	1.いつもどおりの様子であった	保育室中央付近で、児がダンスのようなことを始めた。その足がもつれ、バランスをくずし、右側に肘の順番で転倒。	2.対象児の動きを見ていた	楽しそうに踊る保育士がみえていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、他の児をみていた	各職員は、近くの児をパートナーにみえていた	保育士同士、声を掛け合いながら見守る	
2400	平成30年9月28日	1.認可	7.小規模保育事業	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10								3	3	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨折左橈骨頭脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	遊びに夢中になりトイレに行くのがぎりぎりだったため、あわてて転倒してしまつた。	5歳児ではあるが、本児については早めの声掛けが必要であった。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12			遊びに夢中になりトイレに行くのがぎりぎりだったため、あわてて転倒してしまつた。	5歳児ではあるが、本児については早めの声掛けが必要であった。	1.集団活動中・見守りあり	遊んでいると楽しくなり、トイレに行くことがおそれる。	個々の声を掛け、危険は知らせる。	1.いつもどおりの様子であった	転倒した後、トイレに行き、排尿をして出てきた。	2.対象児の動きを見ていた	転倒時に、対象児を見つけた。大丈夫かの確認がしつていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	腫れが見られたため、腫れが見られる箇所を冷やした。園長に電話連絡し、病院に電話連絡する。	本児に対しては、早めに行き、早めの対応が必要。	本児が転倒したときに、早めの対応が必要。

2477	平成30年9月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	3.施設教地外(園外保育先・公園等)	8.学童	40	10	3	20.8歳	2.女児	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷 0.負傷 4.創傷(切創・裂創等) 5.下肢(足・足指) 右膝挫創 5.他児から危害を加えられたもの	1.負傷 0.負傷 4.創傷(切創・裂創等) 5.下肢(足・足指) 右膝挫創 5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的実施	2	1.基準以上配置	1年生には学校までのお迎え体制をとっていたが、2年生以上に対しても下校の見守りができるような職員の見守り体制を変更した。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1年生は学校までのお迎え体制をとっていたが、2年生以上に対しても下校の見守りができるような職員の見守り体制を変更した。また、下校中の行動について日頃から指導する。	4.個人活動中・子どものみ	一緒に下校するグループは定まっておらず、日によってメンバーが違う。	2年生以上の児童の下校もできるような職員を配置し見守り体制を強化した。下校中の行動について日頃から指導する。	路上を歩行中に急にランドセルを掴まれ、その後バランスを崩して転倒してしまっ(本人および他児への聞き取りからの情報)	1.いつもどおりの様子であった	先にクラブへ来所した児童から、事故の発生を聞き、学校の手で当該児童と接触し状況を把握した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	学校にてたから職員から受け、下校時に備し病院受診の必要があることを、保護者へ電話連絡する。	保護者から児童を引き取る際、保護者から皮膚科でも診てもらえらと思っ。」とのことだったので、保護者へは電話連絡をした時点で皮膚科を受診する予定であった。あわせて保護者が実施されたため、支障の状態を確認して、医療機関にて診察の結果処置が必要	2年生以上の児童の下校も見守りできるような職員を配置する。また、下校中の行動について日頃から指導を徹底する。		
2478	平成30年9月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設教地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	86	5	2	21.9歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	スポーツ活動をする際の事故防止に関する研修を受けて再度安全策を講ずるよう努める	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	1	1.定期的実施	毎日	今後も定期的に施設、遊具の点検を行い、安全に配慮するように努める	1.集団活動中・見守りあり	特になし	好きなサッカーを数名の児童と楽しんでいた。ボールの取り合いは、思っようにならないとイライラする様子も伺えた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事務室1名、館庭担当1名、図書室担当1名、集会室担当1名、ホール担当1名、玄関対応1名	職員配置の徹底を今後も務め、事故防止のために声掛け指導をする					
2479	平成30年9月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設教地内(室内)	8.学童	39	8	1	22.10歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指)	打撲・骨折	8.その他	1.あり	2.不定期実施	5	2.基準配置	職員会議での見守りポイントの確認と周知	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	施設設備については問題なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	見守り方法の再確認	1.いつもどおりの様子であった	バスケットボール中に発生した。	4.対象児の動きを見ていなかった	通常の活動の中で、特別な見守りをしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の活動であったので、特別な見守りをしていなかった。	怪我の申し出があった際、部位をよく確認し対処する	
2480	平成30年9月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設教地内(室内)	8.学童	36	4	3	20.8歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指)	右上前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	事例検討を行うなど、研修の充実を図る	1.定期的実施	240	3.未実施	1.定期的実施	12	今回の事故は施設、設備に直接起因するものではないが、引き安全の確保に努めたい。	3.個人活動中・見守りあり	突起部分へのクッション等緩衝材の設置を検討	1.いつもどおりの様子であった	クラブ室内を移動中に誤ってカウンター(棚)の角に右ひじをぶつけた	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児は移動中で、特に見えていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児は移動中で、特に見えていなかった	注意喚起の徹底			
2481	平成30年9月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設教地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	55	9	2	20.8歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 6.その他 5.下肢(足・足指)	左足踵骨骨折及び左足首靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	数回	2.基準配置	外遊び等広範囲にわたり見守りを実施する状況下において、樹木等の高所により登る、遊具等から飛び降りる等の事故発生を予見し、児童に対し安全への指導を徹底する。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	1	2.不定期実施	12	施設、遊具等の安全点検については、定期的に実施しており、今後も継続して実施し、必要に応じて改修等を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊び等広範囲にわたり見守りを実施する状況下において、樹木等の高所により登る、遊具等から飛び降りる等の事故発生を予見し、児童に対し安全への指導を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	外遊び中、他の児童とおしゃべりをするなど変わらぬ様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	外遊びの見守りをしていたが、他の児童の対応等、本件事故を予見できず、対象児から目を離していた。目撃児童が対象児に声掛けし、児童が転倒している状況を見	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の対応をしていなかった。	特になし	外遊び等広範囲にわたり見守りを実施する状況下において、樹木等の高所により登る、遊具等から飛び降りる等の事故発生を予見し、児童に対し安全への指導を徹底する。
2482	平成30年9月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設教地外(園外保育先・公園等)	8.学童	44	5	2	19.7歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指)	右手腕骨折	1.遊具等からの転落	1.あり	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	小学校に遊びに行く際、職員が児童を見守りできなかった。	2.不定期実施	1	3.未実施	2.不定期実施	1	学年ごとに使用できる遊具を小学校と共有理解する。児童は、遊具を遊ぼうとすることができず、遊具を遊ぼうとすることができなかった。	1.集団活動中・見守りあり	事故が起きた遊具は、職員が救うために、周を見渡すことができなかった。	2-3人の支援員がなるべく離れて見守りをするようになり、遊具を見渡すことができなかった。	1.いつもどおりの様子であった	友達6-7人と遊んでいた。	鉄棒をしようとしたが、補助をしようとしたため、見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊び担当職員は他に2名いたが、中庭遊具をグラウンドにいた。	児童には、遊具を遊ぶときは、ケガに注意するように説明する。			

2498	平成30年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	48	3	7	6	13	14	5					12	7	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2	1.基準以上配置	職員が立寄り適切な対応を行った。	園児に対する職員の見守り位置について、職員同士が共通理解を図る。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12		・体に合った遊具であったかどうか。 ・よじ登った際、運動靴についている砂により滑ってしまったと思われる。	高さのある遊具の安全管理を図る。	1.集団活動中・見守りあり	異年齢構成の園児の体格や動きが年齢により差があるため、十分に配慮しながら、園児への援助を行う。	年齢により体格や動きが異なるため、十分に配慮しながら、園児への援助を行う。	1.いつもどおりの様子であった	活発な本児と同じような上での元気で遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の近くに担任や職員もいたが、落下した際に目を向けていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児も近くにいたため、本児の動きを見ていなかった。	土曜日の預かり保育で、異年齢構成での自由遊びであったこともあり、職員は園児の動きを十分に監視していたが、年上の園児と一緒に遊具の上によじ登って遊んでいた本児の安全管理が手薄だったと思われる。	異年齢構成の時の遊びにおいて、年上の園児に対する目配りの徹底。
2499	平成30年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	57		7	14	14	22					6	6	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕前腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2	2.基準配置	よく鉄棒遊びをしており、本児的にも慣れた状態だったが、バランスを崩し、前に滑り落ちてしまった。	園児の立ち位置について、職員同士が共通理解を図る。	1.定期的実施	3	1.定期的実施	25	2.不定期実施	24		近くで職員は声をかけていたが、鉄棒のそばにはついていなかった。遊具のそばにはついていないが、目視をすまうようにしておかないかった。	園児の近くで遊んでいる本児の存在確認もしていた。見守りしながら遊んでいたが、本児が手を瞬間的に見失った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の近くで遊んでいる本児の存在確認もしていた。見守りしながら遊んでいたが、本児が手を瞬間的に見失った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の対応をしながら見ていた。	鉄棒が好きで何度も挑戦して遊んでいたが、本児のそばにはついていなかった。互いに慣れているという思いがあり、バランスを崩した際にすぐに手が滑り落ちてしまった。慣れた遊具であっても必ずしも見守ることが出来なかった。慣れているという思いから過信していた。	園児に対しては「安全の日」を増やし遊具や用具、園庭での遊び方について確認し合う。ヒヤリハットや事故発生記録をもとに職員会などで事故防止の周知を、事故防止の研修会を増やし、危機管理意識を高めていく。						
2500	平成30年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17			8	5	4					2	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施		2.基準配置	園児が帰った後の毎夕、庭の片付けと一緒に小石を取り除く。		1.定期的実施	12	3.未実施		1.定期的実施	12		園児が帰った後の毎夕、庭の片付けと一緒に小石を取り除く。		1.いつもどおりの様子であった	いつも通りクラスの人と遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていなかった	事故の数分前まで対象園児を見守っていたが、一緒に活動していた3・4歳児の片付けが済んだため、数分対象園児から目を離してしまった。	3・4歳児を中心に、事故発生時は3・4歳児と片付けを行っていた。	パート保育補助との役割を分担し、同じ場所に来ないように連携していく。						
2501	平成30年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25			9	11	5					3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	1	1.基準以上配置	3歳児クラスで「綱のはしご」の遊びをする際、遊具の「綱のはしご」の最上部は、高さ90cmであった。	園庭の大型遊具の使い方を繰り返し伝えていく。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	13	1.定期的実施	12		(1歳児から使える遊具)を「綱のはしご」を取り外し、撤去パネルで塞いだ。	大型遊具での遊びにも慣れ、綱のはしごを早く登ろうとすることがあった。	大型遊具の使い方を伝え、またその部分を塞いだ。	1.いつもどおりの様子であった	走っている他児に気が取られ、手を滑らせて登ったため、早急で登ったため、ジャンプした可能性がある。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一人は離れたところの子を保育しており、もう一人は尿を漏らした園児の対応をしていた。							
2502	平成30年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20										3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施		2.基準配置	戸外遊びの後だったので、静かな遊びへ誘導することを考慮すべきであった。	夕方の遊び方について検討する。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	3		ビニールボールの大きさに合わせてボールの数が少なかった可能性がある。	ビニールボールを利用して遊びの仕方を検討する。	戸外遊びの後だったので、疲労感があった可能性がある。	個々の様子を見て、遊びの仕方を見守る。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ビニールボールを踏んで怪我をする、という可能性を予測できていなかった。	どのような遊びでも怪我は起こり得る、との認識を持つ。					

2503	平成30年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12									約3か月前に右足関節骨折発症。3週間で治療は終了した。靭帯が伸びていた可能性があり、骨折を起こしやすい要因はあった。	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果刺離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	園児の人数が少ない時間帯の職員配置に配慮不足があった。	事故後ヒヤリハットに関する園内研修を行い、職員配置や机位置等環境面と選長保育の内容の見直しを行った。	1.定期的	2	1.定期的	48	48	玩具箱を部屋の隅に置いたために空気が足りず、当該児が走り回りながら小走りになった。	使ったおもちゃが廊下や部屋に落ちていたため、当該児が走り回りながら小走りになった。	片付けを片付けている間に、当該児が走り回りながら小走りになった。	使ったおもちゃが廊下や部屋に落ちていたため、当該児が走り回りながら小走りになった。	1.いっぽり様子であった	普段から活発な子供が、いつもと変わらず遊んでいた。	「お片付けだよ」と声を掛け、当該児を含め全員の子と一緒に片付けを始めた。当該児は嬉しそうに片付けていた。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていた	17時から夕方合同保育は、3-5歳児(通常20名)を職員2名で保育体制があるが、当該児の人数が少なく、保育体制が不十分であった。	洗濯干し等の雑務で保育室を離れないよう、常に2人体制での徹底させる。	
2504	平成30年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	56		20	15	21						1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的	1.基準以上配置	マニュアルに従い、本児や保護者へ対応した。	1.定期的	2	1.定期的	2	1.定期的	毎日	玩具自体の安全性の低下や損傷箇所はなかった。	1.集団活動中・見守り	鬼ごっこ中のため、他児が鬼に追いかけてる様子から、本児が鬼の場所を伝えることに熱中していた。	1.いっぽり様子であった	3.対象児の近くで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていた	保育教諭が子どもの言動に寄り添い、危機意識をもって声掛けをする。					
2505	平成30年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8		2	3	3						2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨近位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	職員の事故防止マニュアルの見直しと周知徹底。子どもにも危険について、あそびの仕方について指導する。	安全点検の再確認。事故報告書、ヒヤリハットの記録を残し、検証して再発防止を職員間で周知する。	1.定期的	1	1.定期的	12	1	乳児靴箱が足がかりになるようになってしまった。また、靴箱の上から乳児靴が落ちてきた。子どもが靴を履くようになるよう指導している。	1.集団活動中・見守り	・靴箱付近を遊ぶこと。 ・アトリエやエントランスでの約束事が定まっていたこと。	・他の遊び場を提案して、危険箇所を職員で確認し、定着させ、安全に過ごさせている。	1.いっぽり様子であった	2.対象児の近くで対象児を見ていた	他にも手をかけてあげられる園児がいたこと 子どもの行動から事故を予測し、注意を促す声かけだけでなく、靴箱から落ちた靴という危険への意識が低かった。					
2506	平成30年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	37										1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左膝骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	本児の身体的特徴を把握し、運動遊びをとおして、しなやかな体をつくるようにする。	教育・保育活動の中で、方向転換や動きの変化がスムーズに行えるように、運動遊びをとおして、しなやかな体をつくるようにする。	1.定期的	24	1.定期的	12	12	人工芝は濡れると滑りやすい特徴がある。事故当日の天気は曇り時々雨が降っていたため、子どもたちの靴の底が濡れていたと考える。	1.集団活動中・見守り	前日に家族で福引けに出掛けたため、疲労が残りやすかった可能性がある。	休み明けは体調を崩す可能性がある。	1.いっぽり様子であった	3.対象児から離れたところで見守っていた	担当職員2名を全員がら子どもと遊んでいた。	年長になり、身体が大きくなっている。いつもよりも動きの負担が大きい。				
2507	平成30年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	17										1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	外果骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的	2.基準以上配置	担当職員は、園児と共にペラングに出てから、片付けの準備とマッパをペラングに置いておくが、その時点で園児が目を離して片付けの準備も、近寄らないように園児に声を掛ける方法を選んだ。	園児が遊ぶ際の安全確認が、園児とペラングに出る。	1.定期的	毎日	2.不定期に実施	毎日	1.定期的	毎週	ペラングで遊ぶ際に、現場に置かれた安全点検を怠った。また、マッパをペラングに置いておくが、その時点で園児が目を離して片付けの準備も、近寄らないように園児に声を掛ける方法を選んだ。	3.個人活動中・見守り	広いペラングで子どもが分岐して遊んでいた。環境面は適正であったと思われる。	1.いっぽり様子であった	3.対象児から離れたところで見守っていた	0歳児前のペラングにあるプル用止まりマットに近寄ったところまで見守っていた。その安全確認のため、他児に目を移した際に転倒していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた	細長いペラングで、等間隔で職員が担当職員を見守っていた。	まんべんなく園児に目を配り、対象児から目を離さない。0秒未満の出発であった。人的面も適正であったと思われる。		
2508	平成30年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外公園等)	6.5歳以上児クラス	45										2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準以上配置	園外での行事実施の場合、園児の安全確保について研修を実施する。	1.定期的	1	1.定期的	1	1	1.定期的	1	雨天のため、運動会の開催から体育館に変更となった。	雨天時の対応について、研修を実施する。	1.集団活動中・見守り	上靴を履いて、運動会の準備中だった。	1.いっぽり様子であった	リレー、トラックで遊んでいた	3.対象児から離れたところで見守っていた	トラック内で、待機している子どもが、床で走っている様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	トラック内で、待機している子どもが、床で走っている様子を見ていた。	個々の子どもの動きに十分注意を払う。

2509	平成30年12月28日	1.認可 1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室内・校庭等) 6.5歳以上児クラス	19											2	2	17.5歳	1.男児			1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右上腕骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 2.不定期に実施	4	1.基準以上配置 2.基準配置	1.定期的に実施 1.定期的に実施	12 48	1.定期的に実施 1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.集団活動中・見守りあり 職員が鉄棒から離れた場所でも速を見ていた。 遊具を使用する際の人配置場所や入員の数を数えた。 1.いつものおりの様子であった 逆上がりの練習中に鉄棒の支柱付近に寄りかかったりしていた。 対象児のことは見ていたが、少しところから対象児を見ていた。 2.担当者・対象児の動きを見なかった 他の遊具を使用する際も見ていた。 前もって遊具の使用について注意事項を子ども達に伝えていた。 今回は不慮の事故の側面が強いように思うが、遊具を使用する際にも事前確認や準備体操を行って怪我を予防する必要がある。
2510	平成30年12月28日	1.認可 1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室内・校庭等) 7.異年齢構成	110	24 24 34 28										17	13	17.5歳	1.男児	当該事故については、当日のレントゲン撮影でははっきりと映らず、翌日再度レントゲンを撮る。結果「骨折」であったことが判明するが、事故発生時、治療に要する期間が30日以上に及ぶと判断できず、第1報に時間を要した。	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 左第2中手骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり 1.定期的に実施	3	2.基準配置 2.基準配置	1.定期的に実施 1.定期的に実施	12 12	1.定期的に実施 1.定期的に実施		毎日		プランコが動いている状態では、安全確認を徹底し、マットの状況を見て入れ替えを行ったり、遊べない時間帯では使用不可を貼りおす。 園児に対しては、遊ぶためのルールを再確認すると共に、保育者に対する立ち位置について十分な理解を促すことと、安全に遊べることを再確認する。 この時点では、安全確認を徹底し、マットの状況を見て入れ替えを行ったり、遊べない時間帯では使用不可を貼りおす。 園児に対しては、遊ぶためのルールを再確認すると共に、保育者に対する立ち位置について十分な理解を促すことと、安全に遊べることを再確認する。 ブランコが動いている状態では、安全確認を徹底し、マットの状況を見て入れ替えを行ったり、遊べない時間帯では使用不可を貼りおす。 園児に対しては、遊ぶためのルールを再確認すると共に、保育者に対する立ち位置について十分な理解を促すことと、安全に遊べることを再確認する。 運動会の準備や園児の誘導が主となり、テントの周りにある遊具は使用できないことを十分に理解させなかった。 今後とも遊具の点検及び安全確認を徹底し、マットの状況を見て入れ替えを行ったり、遊べない時間帯では使用不可を貼りおす。	
2511	平成30年12月28日	1.認可 1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内) 7.異年齢構成	26						15 11					2	2	16.4歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 骨折	8.その他	1.あり 1.定期的に実施	5	2.基準配置 2.基準配置	1.定期的に実施 1.定期的に実施	1 3	1.定期的に実施 1.定期的に実施	3 3	1.定期的に実施 1.定期的に実施	3 3	活動終了後、全体に活動の様子を確認し、全員の安全を確認する必要がある。 活動終了後、全体に活動の様子を確認し、全員の安全を確認する必要がある。
2512	平成30年12月28日	1.認可 1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内) 7.異年齢構成	20						1					1	1	16.4歳	2.女児			8.その他	1.負傷 0.負傷 4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部 ふんりゆの腫れ	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり 1.定期的に実施	12	2.基準配置 2.基準配置	3.未実施 1.定期的に実施		毎朝	毎週	面積としては十分なスペースがあったが、多目的の部屋で遊ぶに当たり平坦な場所を確保しなかった。 自由遊びだったのが、特に遊ぶ場所がなくなった。 面積としては十分なスペースがあったが、多目的の部屋で遊ぶに当たり平坦な場所を確保しなかった。 自由遊びだったのが、特に遊ぶ場所がなくなった。 面積としては十分なスペースがあったが、多目的の部屋で遊ぶに当たり平坦な場所を確保しなかった。		
2513	平成30年12月28日	1.認可 1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等) 2.1歳児クラス	9						2					2	2	13.1歳	2.女児			1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 6.その他	5.下肢(足・足指) 急性薬物中毒の疑い	8.その他	1.あり 2.不定期に実施	5	1.基準以上配置 1.基準以上配置	1.定期的に実施 1.定期的に実施	12 12	1.定期的に実施 1.定期的に実施		1.集団活動中・見守りあり 散歩時以外使用しない場所であった。 散歩時でも使用しないようにする。 1.いつものおりの様子であった 他の園児と遊んでいたとき、よって植木鉢の受け皿を踏んでしまった。 3.対象児の動きを見なかった 2.担当者・対象児の動きを見なかった 他の園児と遊んでいたとき、よって植木鉢の受け皿を踏んでしまった。 3.対象児の動きを見なかった 2.担当者・対象児の動きを見なかった 他の園児と遊んでいたとき、よって植木鉢の受け皿を踏んでしまった。		

2539	平成30年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15												小学生などの兄弟がお迎えに来る場合は、廊下などで待ってもらおう等の対応をしよう	1.定期的 に実施	12							現在の点検の仕方・実施頻度で問題ないので継続していく	1.集団活動中・見守りあり	保護者以外(兄弟等)も保育室に入りやすい状況にある	保護者の元に園児を運ぶまでは目を離さない事を徹底していく	1.いつでもおりの様子であった	保護者から体調に話をつけていないが、保育教諭は当該の様子をしっかりと確認した	3.対象児から離れたところで対象児を見た	当該児より年齢が大きい、またその保護者もいた	2.担当者・対象児の動きを見なかった	保育室の配置は隣の保育室に隣接しているが、隣の保育室の様子が見えていた	保育室の配置は隣の保育室に隣接しているが、他のクラスの事に対しては、保育教諭が連携を深めていく	職員会議等を通じて、保育教諭のコミュニケーションを取り合うように意識し、連携を深めていく	
2540	平成30年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	19												急いで靴下と靴を履こうとする時に足に体重を乗せてしまった	1.定期的 に実施	12						体操教室で使用したマットには異常はなかった	1.集団活動中・見守りあり	サッカー・体操教室など運動的な活動の保育は担任以外に保育教諭が指導しているが、靴下は自分で履けるのでそばに付いていた	引率者が園児に行動させておいた	1.いつでもおりの様子であった	いつも通り楽しんでいる様子で園児と友達と一緒に遊んでいた	終わりの挨拶をする為、遊戯室の遊戯をしていて整頓が靴を履いて戻ってくるのを待っていた	1.担当者・対象児の動きを見なかった	園児の様子を自覚し、園児に目を離さないように注意した	担任は指導より当日の反省や次回までの改善点などの打ち合わせをしっかりと園児の行動から目を離さないようにするべきだった	引率者が園児と共に行き動すべきだった			
2541	平成30年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24												ホッピングの遊びを始めたが、本児が体験するのは初めてだった	2.基準配置	12						ホッピングの個数や高さ、園児の身長からみて、適切だったかどうか	3.個人活動中・見守りあり	多様な遊び(竹馬・ホッピング・縄跳び・ボール・固定遊具)をしており、全体を見守ることは難しいではない	遊びの数を制限する	1.いつでもおりの様子であった	竹馬遊びをしていの子のところにいて、全体が見れた	2.担当者・対象児の動きを見なかった	雲梯遊びをしていの子のところにいて、全体が見れた	広い運動場で園児の遊ぶ姿が見えないうつ園児の死角があったか	死角がないように遊ばせる場所を設け、今後徹底する				
2542	平成30年12月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	22												プール活動後着替までの流れを確認し、多くの職員が見守る	2.不定期 に実施	2-3					施設、設備には異常はなかった	7.その他	突発的な対応を再び再発防止に努める	活動の合間の移動等の安全を確認する	1.いつでもおりの様子であった	元気にプール活動を楽しんでいた	2.対象児の動きを見なかった	職員の間で、園児の動きを見なかった	職員が連携し、応急措置、医療機関へ連絡した	怪我を負った園児以外の職員が対応した	多くの職員が対応した				
2543	平成30年12月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)		22	10	21	14	17									1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.定期的 に実施	1.基準配置	1.定期的 に実施			1.集団活動中・見守りあり	雲梯やタイヤなどおりの様子であった	3.対象児から離れたところ対象児を見た	別の園児との対応が重なったため、対応できなかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	別の保護者(1名)・毛虫の処理に環境整備(2名)・全体の見守り(1名)	その場から離れたときは必ず全員の対応が完了する	その場を離れる際は、園児の安全に配慮し、保護者の対応は1名が対応し、同時に2名が対応しないようにする	
2544	平成30年12月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40	13	10	9	8									マニュアルの作成済み、マニュアルの見直し、再発防止に努める	2.基準配置	300					マニュアルの見直し、再発防止に努める	3.個人活動中・見守りあり	園児の見守り、声掛けが十分だった	再発防止に努める	1.いつでもおりの様子であった	2.対象児の動きを見なかった	園庭で他の園児と水をまきながら遊んでいた	2.担当者・対象児の動きを見なかった	室内で他の園児の見守りを受け入れをしていく	対象児は普段より運動神経がよいので、大丈夫かと思うが、声掛けが見えなかった	どんな園児であっても大丈夫かと思わず、声掛けをしていく			
2545	平成30年12月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35	12	13	10										1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.定期的 に実施	2.基準配置	300			3.個人活動中・見守りあり	園児の見守り、声掛けが十分だった	園児の見守り、声掛けが十分だった	1.いつでもおりの様子であった	園庭で他の園児と遊ぶ機会がなかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	園庭で他の園児の見守りを受け入れをしていく	遊具の危険に対する意識が低い、見守りや声掛けが不十分だった	遊具で園児が一人でも遊んでいる場合は必ず見守り、他の職員で徹底する
2546	平成30年12月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40	11	12	17										一人サッカーを片付けようとした園児の動きや本児の安全確保ができた	1.定期的 に実施	1					重量のあるサッカーボールで、転倒した	1.集団活動中・見守りあり	設置した地面も特に安定性が高いものはなかった	配置職員が安全面を確保できるように遊具の種類や数、配置の仕方などを考える。(活動中や片付けも含めて)	1.いつでもおりの様子であった	本児も関係した園児も体調不良等なく園庭で遊んでいた	先に園児だけで片付けようとする行為を予測できず、他の園児の声がかった	先に園児だけで片付けようとする行為を予測できず、他の園児の声がかった	サッカー片付け、運搬は必ず職員が行うことを伝える。事故発生時の状況を見ることができたため、今後一人一人を見守ることを確認する	サッカー片付け、運搬は必ず職員が行うことを伝える。事故発生時の状況を見ることができたため、今後一人一人を見守ることを確認する				

2547	平成30年12月28日	1.認可 2.幼稚園型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	22	2	2	4	8	8									2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	22	2	2	4	8	8									1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 5.下肢(足・足指) 右足関節外果骨折 2.自らの転倒・衝突によるもの 2.なし 2.不定期実施	1.定期的実施 2.不定期実施	1.定期的実施 1.定期的実施	1	1.定期的実施	260	木が盛って上り立って倒れようとした。三角コーナーで立ち止らした。今日盛り上げた根っこをどうするかは検討中 つまづいて転ぶのを見た職員も周知されなかった。環境の一部に配慮がなかった。 木の根っこが盛って上り立って倒れようとした。三角コーナーで立ち止らした。今日盛り上げた根っこをどうするかは検討中	性格的に注意力散漫な面があることに加え、急いで逃げることで定元への注意がなかった。子ども達に注意を促し、木の根っこが盛って上り立って倒れようとした。				
2548	平成30年12月28日	1.認可 3.保育所型認定こども園	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	17		5	8	4										2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	17	2	2	4	4										1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 左上腕骨顆上骨折 1.遊具等からの転落・落下 1.あり 1.定期的実施	2.基準配置 事故防止マニュアルはあるが、内容が具体的ではなかった 事故予防に関する研修参加又は園内研修の取り組みを強化する	1.定期的実施 1.定期的実施	12	1.定期的実施 1.定期的実施	12	12	1.定期的実施	12	滑り台の両サイド(手すり部分)が長く、活発な以上児が自由遊びの際には危険だった 職員間で各遊具の使用方を再度確認する	途中まで確認していたが、他児が関わっていた(ケンカの間、仲間の事故現場は見えていなかった) 2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	使用遊具が十分に把握できていない。職員の見守りや、今後の職員配置人数を確保するように努めたい。
2549	平成30年12月28日	1.認可 3.保育所型認定こども園	7	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内) 4.3歳児クラス	20	2	3												1.施設敷地内(室内) 4.3歳児クラス	20		3												1.定期的実施 1.定期的実施	1.定期的実施	2	1.定期的実施		・商品名と成分表を献立表に記入し、保護者、担当者、他職種の目で確認できるように可視化を図り、提供後にも記録する。 ・「除去なし」「除去あり」の口頭内容について、改めて職員全体で確認する。 ・アレルギー児への対応認識が不十分だった。会議等でアレルギーの確認頻度が少ない。職員全員が理解していると思っていた。 ・アレルギー児への対応認識が不十分だった。会議等でアレルギーの確認頻度が少ない。職員全員が理解していると思っていた。	・調理師と担任保育士間において、「除去なし」という言葉を受けたいな。この時は担任保育士の確認がなかった。 ・調理師と担任保育士間において、「除去なし」という言葉を受けたいな。この時は担任保育士の確認がなかった。 ・調理師と担任保育士間において、「除去なし」という言葉を受けたいな。この時は担任保育士の確認がなかった。	・アレルギー児への対応について、成分の確認、献立の目視確認を行なった。 ・調理師と担任保育士間において、「除去なし」という言葉を受けたいな。この時は担任保育士の確認がなかった。 ・調理師と担任保育士間において、「除去なし」という言葉を受けたいな。この時は担任保育士の確認がなかった。				
2550	平成30年12月28日	1.認可 3.保育所型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	23	4	4	3											2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	23		4	3												1.定期的実施 1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	三輪車に早く乗りたくて走り出し、走って三輪車に向かっている際、足がもつれ転倒する。 三輪車に早く乗りたくて走り出し、走って三輪車に向かっている際、足がもつれ転倒する。	児童が急ぐ様子が見られた。転倒したため、言葉をかけていく。 児童が急ぐ様子が見られた。転倒したため、言葉をかけていく。	安全確保のため、児童の体調や睡眠の様子を確認し、保育を実施する。		
2551	平成30年12月28日	1.認可 5.幼稚園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	19	2	2	17.5	5										1.施設敷地内(室内)	19		2	2	17.5	5										1.定期的実施 1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	3	1.集団活動中・見守りあり 全園児に対して、歩行時の足元や周囲への注意を促す。また安全指導。 1.いつでもおりの様子であった	特に変わった様子が見えなかった。 2.対象児の至近で対象児を見ていた	急に転倒したため、支えがなかった。 2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ室内にはいたが、他児が関わっていたため、直接転倒した見えない。 2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもに対して、歩行時の足元や周囲への注意を促す。また安全指導。
2552	平成30年12月28日	1.認可 5.幼稚園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	11	10	10	17.5	5										2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	11		10	10	17.5	5										1.定期的実施 1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	登り棒の土が固かった。 定期的に振り返し、やわらかくして衝撃を和らげようとしておく。	園庭が広く、遊びが分散していたため 安全な遊び方について再確認	最近、登り棒に登るようになったことがうれしく、毎日高い所まで挑戦していた。対象児が登ると近くには友達がいなくて、友達をよけて手が離れてしまった。 園庭が広く、遊びが分散していたため 安全な遊び方について再確認	登り棒やジャングルジムなど危険を伴う遊具を、最低1名は近くで見守る。 危険を伴う遊具を、最低1名は近くで見守る。	

2577	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5歳以上児	19		2	25歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1		2.基準配置			1.定期的に実施	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施					1.集団活動中・見守りあり	特に当該滑り台部分にはガードがはさまって危険を伴う	子どもたちが、高橋している様な状況では、子どもが遊び方を制限することも考慮しながら、保育する。	3.いっもより活発な活動であった(理由を記載)	運動はあまり得意でなく、積極的に動かない方だ、この日は活発に遊んでいた。	4.対象児の動きを見なかった	大型遊具の滑り台と反対側の滑り台で他の子どもが遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	大型遊具の雲梯を滑っている子どもたちを見守っていた。	子ども達の全状況を把握し、適切な声かけや配慮ができていない	常に子どもたち全体を見るように立ち位置を考えた、目の届く範囲はせめて、目を離さず見守った。											
2578	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(園庭・校庭等)	7.異年齢構成	104	14	26	31	33				13	126歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	太鼓橋からの落下による「右手指首骨折(右橈骨遠位端骨折)」	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	12		2.基準配置				3.個人活動中・見守りあり	遊具点検を継続的にを行い安全管理を要する。	太鼓橋をからしなで登っていた。	遊具の安全な遊び方を指導し、安全な遊び方を示す。	3.いっもより活発な活動であった(理由を記載)	太鼓橋を登る側から落下したため、活動中であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見守っていた	担当クラスの子供たちの位置を確認しながら全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	担当クラスの子供たちの様子を危険を見守っていた。	児童の様子を見て声をかけ注意を促す。												
2579	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	19							3	24歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨折	3.子ども同士との衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1		1.基準以上配置				1.集団活動中・見守りあり	床で頭など打撲をためマットを敷いているが、引きマットを敷いて安全面に気を付ける。	だんご状態になるのを避けるため、輪になり座った状態で同方向に走り出す子ども3人から人間隔にし、子ども同士も同士の衝突を避ける。	1.いっもより活発な活動であった	当該園児も意欲を持っており、講師の指示に従っていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	隣が1児の園で一緒にカリキュラムに参加していた。	プログラムの内容を把握し、子どもの動きを見守った配慮・援助を行なう。個別の配慮も必要だが、全体の動きを捉え、広い視野も持って保育する。																
2580	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(園庭・校庭等)	7.異年齢構成	71	3	9	15	14	14	16		17	175歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	12		1.基準以上配置				1.集団活動中・見守りあり	毎朝早番の保育士が遊具点検を行っている。遊具の安全を確保している。当日天気も良く雲梯が濡れているなど異常はなかった。雲梯の下にはクッションを敷いている。	安全マニキュアルの整備し、事務所にマニュアルを常備している。また、危機管理チームを編成し研修を努める。職員配置は適正である。職員会議、昼礼等を活用し安全意識を高め、指導に反映させていく。	職員会議、昼礼等を活用し安全意識を高め、指導に反映させていく。	1.定期的実施	毎朝	1.定期的に実施		1.定期的に実施						遊具の子ども動線を確認している。遊具の安全を確認している。保育士には、子ども同士の衝突を防止し、安全な遊び方を指導している。保育士が戻るといって役割を交代していき。	「落下するかもしれない」、「衝突するかもしれない」というリスクマネジメントができていない。付近で自視するだけでなく、危険が予測される場所には保育士が見回るといった役割を分担していき。	1.いっもより活発な活動であった	いつも通り	2.対象児の見守り	雲梯の近くに他児の園児が遊んでいると見守っていた(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見なかった	雲梯の近くに他児の園児が遊んでいると見守っていた(至近距離にいた)	保育士が付添いしていたが、落下した子どもが雲梯をわたり降りたことより、保育士全員に注意を要する。
2581	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	18							3	32歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	6		2.基準配置				1.集団活動中・見守りあり				保護者が仕事を休んだため、いつもの生活リズムと違っており、登園時から戻った。	2.いっもより活発な活動であった(理由を記載)	保護者が仕事を休んだため、いつもの生活リズムと違っており、登園時から戻った。	対象児は、滑り台が大好きで何回か滑っているところを見守っていた。その後他の園児を見ていた。落下するところはない、滑り台の近くでうずくまるといって動かないと見守る。	1.担当者・対象児の動きを見なかった	他の園児を見守っていた。	保育士3人で園児の見守りを担当し、遊具の安全を確保して周回の見守りを行うものとし、遊具で危険な行動をとった時は、速に対応できるように見守り体制とする。													

2586	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等) 5歳以上児	17	3	35歳	1.男児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 右上前骨折 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 2.不定期に実施	1.基準以上配置	物を手に持ったまま歩行することは危険な可能性があることを各保育士が認識し、園児の行動に注意するよう周知徹底する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	公園で台車に乗る準備が済んだ状態で、レジャーシートを敷いた状態から、園児が座る場所を見つけた。他児も同じ動きを始めた。リュックは背負った。地面は公園の広場である。	園児が転倒したところを見て、両手をついた痛みの場所を指さして、園児のそばに寄りかかると、園児の顔がシートに当たった。園児は痛みを訴えた。園児のそばに寄りかかると、園児の顔がシートに当たった。園児は痛みを訴えた。	1.担当者・対象児の動きを見て(至近距離にいた) 他児のシートを広げをしていいた。	普段より、転んでも大きな泣きを取り入れ、保育士が泣き止むのを待たず、すぐ近くに保育士が寄りかかると、園児の顔がシートに当たった。園児は痛みを訴えた。	高い場所や固定遊具から押すような危険があるのと、園児の動きを見て、すぐ近くに保育士が寄りかかると、園児の顔がシートに当たった。園児は痛みを訴えた。
2587	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	53	20 17 16	5	55歳	1.男児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 左腕両骨骨折 1.遊具等からの転落・落下 1.あり 2.不定期に実施	2.基準配置	事故予防や、危機管理の研修を積極的に受ける。会議でヒヤリハットを報告し、全職員で危険箇所などを共有し把握する。	1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12	2.不定期に実施	本児はたらいに遊んでいた。他児が後ろから本児をふいに押したため、手が離れた。落下してしまっ。	園庭園舎側の水遣付付近にいた。片付けを知らせる曲を聴いて、園庭を離れてしまった。園庭から離れたところで見つけた。	2.担当者・対象児の動きを見て(至近距離にいた) 砂場に1名、ブランコに1名、園庭園舎内に1名、遊具に1名、園庭を遊んでいる園児が後ろから本児をふいに押したため、手が離れた。落下してしまっ。	すぐ近くに保育士が寄りかかると、園児の顔がシートに当たった。園児は痛みを訴えた。	高い場所や固定遊具から押すような危険があるのと、園児の動きを見て、すぐ近くに保育士が寄りかかると、園児の顔がシートに当たった。園児は痛みを訴えた。
2588	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内) 4.3歳児クラス	19		1	13歳	1.男児	2.室内活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 5.下肢(足・足指) 8.その他 1.あり 2.不定期に実施	2.基準配置	子どものトラブルに丁寧に対応できる人員配置	1.定期的 12	1.定期的 12	2.不定期に実施	原因が施設、遊具ではないので、ハード面での改善策は持たせません。	他児とのトラブルが多く、感情の起伏が激しく、時にコントロールが難しい状況が複数あった。子どもは穏やかな顔も見えていた。馬乗りになって弾んでいた本児を素早く離すよう、園庭を引寄せた。園庭から離れたところで見つけた。	2.担当者・対象児の動きを見て(至近距離にいた) 夕方まで職員が減っていく時間でもあつた。園児、2名、1人を担当していた。	とっさではあったが、本児を下す際に丁寧に対処できなかった。		
2589	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内) 4.3歳児クラス	28		2	23歳	2.女児	2.室内活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 顔面(口腔内含む) 鼻骨骨折 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 2.不定期に実施	1.基準以上配置	マニュアルの点検	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施	行事の準備の為に、園庭に設置されたが、周りには何も置かずに、位置の問題がないと思われ。	行事の準備の為に、園庭に設置されたが、周りには何も置かずに、位置の問題がないと思われ。	1.担当者・対象児の動きを見て(至近距離にいた) フリー保育士が補助に走ってきた。本児の動きを見て(至近距離にいた)。 1名は、先頭に立ち、園庭を遊んでいた。1名は、園庭を遊んでいた。1名は、園庭を遊んでいた。	事故が起った後、子どもは泣き止まずに、園庭を遊んでいた。園児の動きを見て(至近距離にいた)。 園児の顔がシートに当たった。園児は痛みを訴えた。	事故が起った後、子どもは泣き止まずに、園庭を遊んでいた。園児の動きを見て(至近距離にいた)。 園児の顔がシートに当たった。園児は痛みを訴えた。	

2601	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25	9	8	8	3	3	5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右拇指末節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1	1.基準以上配置		1.定期的実施	12	2.不定期実施	12	2.不定期実施	12	職員A: 対象児がトイレに行くとき、受傷部位を確認し、隣のホールで他児を集めて保育をしていた。怪我の報告を職員Bから聞き、保育終了後に状況を確認する。翌日の受け入れ予定時間は中早当番の予定だが、念のため翌日の早番に引継ぎをする。そして翌朝園長にすぐに報告をした。 職員B: 職員Aより報告を受け、受傷部位を確認し、冷やしタオル(保冷剤)で冷やした。その後職員Bと共に怪我の様子と発生状況をお伝えし、謝罪する。その後、腫れがみられないことや指の動きを確認し、クーラーの効率やトイレからの引継ぎをお伝えする。 職員C: 職員Aからの報告を受け、現場に目撃者がいなかった。 職員D: 職員Bより報告を受け、受傷部位を確認し、冷やしタオル(保冷剤)で冷やした。その後職員Dと共に怪我の様子と発生状況をお伝えし、謝罪する。その後、腫れがみられないことや指の動きを確認し、クーラーの効率やトイレからの引継ぎをお伝えする。						
2602	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10	2	0	4	1	2	1	0	3	3	3歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕橈骨・尺骨骨折	3.子どもとの衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	他作業(オムツ交換等)をしながらの保育の実施 保育士配置の増員、子どもも全体をみる職員の配置	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	240	子ども全体を見ることができず、子どもも個別に様子を見て、落ち着いた環境を設定する。 子どもが走り回り、見守り 1.集団活動中・見守りあり	他作業(オムツ交換等)をしながらの保育の実施 保育士配置の増員、子どもも全体をみる職員の配置	保育士配置の増員、子どもも全体をみる職員の配置 職員A: 対象児がトイレに行くとき、受傷部位を確認し、冷やしタオル(保冷剤)で冷やした。その後職員Aと共に怪我の様子と発生状況をお伝えし、謝罪する。その後、腫れがみられないことや指の動きを確認し、クーラーの効率やトイレからの引継ぎをお伝えする。 職員B: 職員Aより報告を受け、受傷部位を確認し、冷やしタオル(保冷剤)で冷やした。その後職員Bと共に怪我の様子と発生状況をお伝えし、謝罪する。その後、腫れがみられないことや指の動きを確認し、クーラーの効率やトイレからの引継ぎをお伝えする。 職員C: ホールで他児と玩具の片付けをしていたので、対象児を見ない。
2603	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午午前	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	18				3	3	4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的実施	1	1.基準以上配置	足で上手に着地せず、前にめりついて着地してしまった。 遊び慣れた公園の遊具であったが、常に危険性を認識する必要がある。	安全に対して慎重な対応が必要である。 1.集団活動中・見守りあり	保育士から離れて開放的になり、子供たちの気分も高揚していた。 危険な遊びになっていないか、しっかりと見守る。 1.いつもどおりの様子であった	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当保育士1名が対象児を台所で見つけた。 2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の保育士は別の遊び場に行っていた。 着地の時に前に転び、手を着地させるという予測が出来なかった。 いかなる状況にも対応できるような必要であった。							
2604	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午午前	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	29	10	9	10	3	3	4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指指先骨折及び創傷	8.その他	1.あり	2.不定期実施	12	1.基準以上配置	ベテラン保育士が給水に使用していたコップをリュックサックに入れており、その保育士の死傷へ2名の保育士が移動していた。活動前に危険箇所を確認していた安心感から、視線を切った事が考えられる。 危険が無いといった先入観が事故の要因となった事。当該公園に限らず危険箇所を洗い直さず。 1.園での危険予知活動はおこなっていない。また、広い視点で、あらゆる角度から発見を努める。	公園での危険予知活動はおこなっていない。また、広い視点で、あらゆる角度から発見を努める。 1.集団活動中・見守りあり	給水からの活動再開のタイミングで、正に「静」から「動」へ活動が変化する際の保育士の見守りが弱かった。また、片付けの際には視線を切った事に因る。 準備や片付けを済ませた後、活動再開を前に、立ち位置を付ける。 1.いつもどおりの様子であった	普段から好奇心旺盛で活発に動く印象が強く、活動再開のタイミングで虫探しも意欲的であった。 4.対象児の動きを見なかった	当該園の近くには給水の場所があり、園児の視線が切られていた。 2.担当者・対象児の動きを見なかった	給水後園児は公園に散開した為、2人の保育士は立ち位置をずらして見守っていた。 1人片付けと2人見守りの役割分担は暗黙の了解で、各自が自らの位置を確保して、声を出さず、時間内に完了した事。 お互いに見守りの守備範囲について、声を掛け合う事を意識して、活動中に計画的に実施する。								

2615	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	23									2	24歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置		事故予防に関する研修を定期的に行い、事故の状況・対策を全員で共有する	1.定期的に実施					1.定期的に実施				ハード面に問題なし	1.集団活動中・見守りあり	練習時間を短くし、集中して運動を行う。	1.いつもの様子であった	特に体調不良はなく、元気に運動していた。	2.対象児の至近で対象児を見守っていた	保育士2人で対象児を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見守っていた			基礎体力を付ける活動計画をする。		
2616	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	103	10	25	35	33			一時預かり	16	16歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腰部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置												1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		園庭に円形テーブルを置いているが、テラスとの間に子どもが通れるほどのすき間があるような置き方をしていた。子どもがこの場所が大好きなこと承知していることなので、子ども達の遊びによつて、テーブルを動かして安全スペースを確保したうえで遊ばせる必要があった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		他の職員はそれぞれ自分のクラスの子どもの動きを見守っていた。(砂場でのあそび、総合遊具付近、鉄棒の補助など。同クラスの他の1名の保育士は障がい児について1対1でついで砂場にあそぶ1名も保育士は鉄棒付近に)
2617	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	17									3	2歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置		本来3名の担任だが、この日は子ども人数が少なかったため2名で保育をしていた。人数は少なかったが新年度が始まって間もないことや、子どもの性格等を考え職員の人数を決めきだすのはないかとヒヤットの園内研修で話し合い、職員間で確認した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12			小雨が降っており濡れ滑りやすいう状況だった。	一度は降りた後に雨は降りが、他児数名もいたため、また濡れた遊具で足を滑らしたのではないか。	1.いつもの様子であった	午前のおやつ後、他児と一緒に戸外へ出た。	4.対象児の動きを見守っていた	ジャンブルジムに登り降りした。本児が降った後、園庭の隅に居た。他クラスの職員も近くにはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	もう一人の担任は保育室にて他児の着替えなどを行っており戸外での様子を見守っていた。保育室からジャンブルジムがある方向へいく行動が把握できていなかった。他クラス近頃は職員も近くにはいなかった。	準備のため全員の声掛けや担任2名で外へ出た。担任2名で担当していた。	いつもと違う職員体制であったため担任や他の職員への協力体制が必要だった。				
2618	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28	0	0	0	0	28		一時預かり	1	15歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腰部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士への衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置												1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		園児がいつも飲みたい時に水筒から水分補給するということになっているが、水筒をどこに置くか、子どもの動きをよく考えて置く場所を決める必要がある。	1.いつもの様子であった		水筒置き場に当たって園児が倒れてしまった。	2.対象児の動きを見守っていた	ちょうど給食前となり、小さいクラスへ戻ったため、発生時は担任保育士1名であつていた。	今回のような活動の時には子ども同士の間はあらかじめ想定できることなので、リレーを始めの前には担任保育士がけがで水分補給をさせ、その後は保育士1名であつていた。	今回のような活動の時には子ども同士の間はあらかじめ想定できることなので、リレーを始めの前には担任保育士がけがで水分補給をさせ、その後は保育士1名であつていた。
2619	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37				19	18				3	34歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ挫傷・上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的な実施	12	2.基準配置		職員は配置をしつかり行うことに加え、研修等で職員の事故予防に対する意識の向上を図る。	1.定期的な実施	12	1.定期的な実施	12	1.定期的な実施		前年度末に雲梯を設置した。安全マットを敷き、ケガの予防を行っている。	3.個人活動中・見守りあり	雲梯でふざけないことを伝えていたが、慣れたこともあり、危険な行為を行ってしまった。	再度雲梯で遊び方を分けて実践して見せ、危険な行為を伝える。危険行為は禁止する。	1.いつもの様子であった	仲の良い友達と一緒に遊んでいました。	3.対象児から離れたところで対象児を見守っていた	トマトの水を飲んだので、水道の調節をしなが雲梯遊びをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	3歳児クラス担任2名は、自分のクラスの子どもを見ていたため、雲梯を見守っていた。	担任は、危険な行為を防止、ケガを防ぐ場所にいるようにする。場所を離れる時は他の保育士に声をかけるか、遊びを見守るなどする。					

2621	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	17	0	1	4	4	6	2	0					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首関節部骨折(仮)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	1	1.基準以上配置	保育士が側に付いていないが、危険な場を離れた際に起こった。	引き続き側について、目が行き届くよう、保育士を配置し、その場に留まり、声をかけ、全体で子どもを見守るようとする。											
2622	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	19					11	8					6.水遊び・プール活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	1.頭部	右外傷性鼓膜穿孔	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	状態確認ができていない	安全管理マニュアルの再確認を要する												
2623	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内) 7.異年齢構成	30				9	10	11					2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折・右橈骨近位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	10	1.基準以上配置	園児動きを抑制する体制が不備であった。	再度、預り保育時間における注意点を確認し、子どもにも伝える												
2624	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等) 3.2歳児クラス	7	0	0	0	0	0	0				いつものように午前10時から園庭で遊ぶ鬼ごっこをして楽しんでいた。暑かったので水分補給し呼吸を整え再度遊び始めて直ぐのこととした。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外側骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	職員側の活動把握が不足していた。	今回の事故を含めた原因検討と職員への安全意識を高める。												
2625	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	50				20	12	18					1.屋外活動中	1.負傷	5.口腔内受傷			顔面(口腔内含む)	LAB外傷性歯牙脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	4	1.基準以上配置	全体を見ている保育士が被災現場を見ることができていなかった。	遊び方を工夫し、全体を見ているように保育士が行く。											
2626	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内) 7.異年齢構成	59				26	16	17					2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折		顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	・朝の園児受け入れは手短かにし、周りの子どもにも目を向けるよう意識統一した。 ・その場に離れたときからは声をかけ合せて、安全に子どもを遊ばせることができる。 ・保育士は規定どおりに配置されていたが、朝の園児受け入れと時間帯が重なったことから、比較的保育士の目が行き届かなかった可能性がある。												
2627	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内) 7.異年齢構成	10				3	5	2					2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕上骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	施設・遊具の安全点検はしているが、8:00~8:30までは1つ目の部屋で幼児10名程度を一人で見ていた。隣の部屋の保育士と更に連携をとり、丁寧に見ていく。													

2628	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	11	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	95	4	12	14	19	21	25	0	21	16	5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 前腕骨折(右橈骨骨折・右尺骨骨折)	1.遊具等からの転落・落下 2.なし	2.不定期実施	1.基準以上配置	特になし	会議やミーティングを行い共通認識を持ち、同じことが起こらないよう話し合う。職員間で全体を見逃せる位置はどこを確認し、見落としのないよう連携をとる。	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施	特になし	遊ぶ前に危険物が落ちていないか確認して安全をはかる	7.その他	特になし	どこに子どもたちが危険があるかを保育者がしっかりと把握し、引き保育士の見守り	1.いつもどおりの様子であった	遊具に付いているテープなどに登ろうとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	誰がどこで遊んでいるのか把握する為に目視で確認して見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊具のあるところ(うねり)の近くに見守っていた。	職員同士連携を取り、見落としのないよう十分に気をつけて、全体を確認できるよう工夫する。		
2629	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	18								4	4	2歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 5.下肢(足・手指) ・右脛骨骨折・右大腿打撲傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	特になし	特になし	雨天で、登園後保育室での室内遊びをした後、広いホールに移動したため、開放的になっていた。	1.集団活動中・見守りあり	雨降りの日、登園後保育室での室内遊びをした後、広いホールに移動したため、開放的になっていた。	忍者に近づき、入室するなどの配慮が、さらに危険が及ぶ恐れがあった。	1.いつもどおりの様子であった	広いホールに入ってしまったので、制止はしたが、本児が描くように走りつづめてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	数人が走り出したので、制止はしたが、本児が描くように走りつづめてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	ホール内に複数の保育士がいて、全体の様子を見守っていた。	広い場所でも同じ方向に走り出したが、スピードを出さず、危険を感じた場合、見守りが必要ではない。					
2630	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	13	1	5	3	4				3	3	5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 右上前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	特になし	雨天であり、戸外遊びが出来なかったため、鬼ごっこを遊戯室で実施した。警察に通報された時、つかまらないように真剣に走りつづめていた。(本児は、夢中になると周りが見えなくなる傾向がある)	1.集団活動中・見守りあり	体格の良い年長児が真剣に走りつづめていた。鬼ごっこを遊戯室で実施した。警察に通報された時、つかまらないように真剣に走りつづめていた。(本児は、夢中になると周りが見えなくなる傾向がある)	3.いつもどおりの様子であった(理由を記載)	夢中になり、本児が他児にぶつからないように至近で声をかけていたが、スピードが速くなり、他児の腕にぶつかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1歳児や2歳児と一緒に遊んでいた。	当日は年長児担当保育士が足りず、必ず2人体制で保育する。									
2631	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	8	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	12								1	1	4歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 右肘頭骨骨折(みぎちゅうこっせつ)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	なし	なし	遊び始める前に子ども達全体に走らないように約束していたが、走って自らの転倒によるもの。	3.個人活動中・見守りあり	対象児が走っている方向を見守っていたが、離れたところから対象児を見ていた	対象児が走っている方向を見守っていたが、離れたところから対象児を見ていた	走っていることに気づいたが、離れたところから対象児を見ていた	活発な遊びをしていて、その間は重点的に見守っていた。		
2632	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	43	4	5	6	7	11	10	0	4	3	6歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 6.その他 5.下肢(足・手指) 右骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	足をひたしたと気づき、視診のみになる。	保育士が視診のみで対応し、手当を必ずするよう職員に指導・周知した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	60	1.定期的に実施	260	特記事項なし	施設・遊具には問題ないため改善策記載なし。	1.集団活動中・見守りあり	ブロックを広い範囲に散らしていた。	ブロックを広い範囲に散らしていた。	1.いつもどおりの様子であった	近くにいた友達と元気があつたところから移動した。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	近くに居た他児を見ていたため対象児が転倒したところからブロックが点状に散らされていた。	異年齢の子どもの大型ブロックで遊ぶとき、各自が自由に遊ぶので、床に落ちたブロックが点状に散らされていた。遊びに夢中になり、原因が分からず危険が及ぶ可能性がある。

2633	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	43	0	0	0	0	21	22	0		2	2	5歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第5趾基節骨骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12		2.基準配置	想定外の状況による怪我であったため、3.、5歳児が激しい運動をする際の注意点を職員に周知していただけた。	マニュアルに運動についての項目が入っていたため、運動面への取り組みを踏まえ、新しいマニュアル「事故防止のための取り組み」を作成した。また、転倒した際にも患部の確認を行うよう、マニュアルの見直しを図った。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	50	特になし	1.集団活動中・見守り	・全体をみる職員はフリスビーの動きに集中せず、園児の動きを見えるように立ち位置を調整する。 ・園児同士がぶつかわないようにフリスビーを工夫する。(外野をエリア(両サイド)に分け、園児がフリスビーを取るエリアを決めて、多数の園児が集まらないようにする等。)	1.いつもどおりの様子であった	朝の状態は著変なく、活気も良かった。ドッチビーのゲーム中、フリスビーの動きに視線を向けたところ、本児が床に倒れてしまった。近くには「大丈夫？」と声をかけたところ、「痛い」と返事があり、本児の動きがなくなったことを確認した。	4.対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	審判をしていない保育士は、フリスビーがある方向を向いていた。	転倒した本児に対して、患部の確認等は行わなかった。	事前の説明だけでなく、ゲーム開始後も人が集まるときには、ゲームを中断して、落ち着いてゲームが再開できるように注意を伝える。ヒートアップしすぎた時には、ゲームを再開する。
2634	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10	0	1	3	4	1	1	0		5	5	3歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	事故防止マニュアルの一部が、高さ棒が3連連なっている鉄棒であったこと、真ん中の棒にのみ、表示がなかった。	休日保育用の事故防止マニュアルと危機管理マニュアルを作成し、休日の担当園の職員がいつでも閲覧できるようにした。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	・鉄棒は、使用しないよう表示があったが、高さ棒が3連連なっている鉄棒であったこと、真ん中の棒にのみ、表示がなかった。 ・鉄棒の全て(3箇所)に、使用しないよう表示をつける。 ・3歳以上児組の子どもの連立は、全員が靴を履いて待つことができるようとする。保育士が全員を見守りながら園庭へ出る。	1.いつもどおりの様子であった	・本児より先に靴をはいた4歳児が鉄棒に行き、すくりに鉄棒で前向きをした。	4.対象児の動きを見ていなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	・1.2歳児と一緒に砂場に移動した職員は、本児たちが砂場に来たのを見て、先に4歳児が鉄棒を回したので「鉄棒じゃないよ、砂場だよ。」と声をかけたところ、本児がさっと鉄棒に移動した。3歳児であること、左ひじが抜けやすい本児であるため危ないと感じ、駆けつけたと同時に鉄棒から落下した。	・テラスで全員が靴を履き、待たずに砂場に移動する。 ・1.2歳児だけを先に誘った。				
2635	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	7	3.昼食時・おやつ時	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	19								1	1	4歳	1.男児	8.その他	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	職員会議の中で、今回の事故の経過と検証を行い、今後の対策を講ずる機会を作り、危機意識を高めた。		1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	3.個人活動中・見守り	タイル製の流しに、クッション材などを取り付け、衝撃時のダメージを減らすようにした。 保育士がトイレの中が見通せるまで、付き添い、安全に配膳し、言葉掛けを行うようにした。	1.いつもどおりの様子であった	落ち着いて給食を食べているところから、保育士に認められ、トイレに移動して、トイレに入った。	3.対象児から離れたところで見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	給食後の片づけが終わった後、保育士がトイレに移動した。	トイレを使用する時間帯には、トイレの入り口に保育士を配置し、トイレの中も見守るようにする。					

2643	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	7	7.午後	1.施設敷地内(室内) 3.2歳児クラス	8						1	12歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 5.下肢(足・足指) 左脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 2.不定期に実施	2.基準配置	「遊びの約束」についての見直しを行う(フリースペースで走る、飛ぶなどの遊びをしないようにする)	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	保育室の床の状況は、実際に子どもが同じように裸足になり、手で触れたりしながら点検を行う。	1.集団活動中・見守り	フリームは、今が寒い時など、体操やリズム遊びなど体を動かして遊ぶことがあったが、室内で走る飛ぶなどの活動をする際は、落ちやすい時間帯に複数人が保育にすることで、危険な場面に対応できるようにする。	1.いっ つもお のの様 子であ った	保育士が 弾く曲を 聞いて、 友達と一 緒に保育 室を回し ようを していた。	3.対象 児から 離れた ところで 対象児 を見て いた	子供達の 動きを見 ながら合 わせて ボード を弾いて いた。	2.担当 者・対 象児の 動きを 見てい なかつ た	隣の保育 室で4- 5人ずつ の子供達 と一緒に バスルや ままごと の遊びを していた。 トイレに 行きたい 子どもは 保育士と 同じフロ アに行っ ていた。	おやつ後は 食器類の片 づけや、保 護者の迎え があり子供 たちが落ち 着かない時 間帯である ことを保育 士は意識し ておく、引 き続き子供 たちは少な い人数で過 ぎるように する。保育 士は互いに 声をかけあ い、複数で 対応する ようにする。
2644	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	47	18 16 13					4	3.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 1.定期的 に実施	1.基準以上配置	職員は立ち位置は常に死角をなくすことを意識し、子どもの動きや事故の把握ができるようにする。事故防止について日頃からの気づきを伝え合う場(ミーティング、会議など)を作り、共に考え改善する体制を確立する。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	二方向から子ども達がブランダに上るため、衝突や転倒が起きる。事故が起きたらブランダの下(人工芝)と上を並べ、ホール出入口に向かう正面側を向くようにした。	3.個人活動中・見守り	ブランダーを置いた状態を見せ、ホール出入口に向かう時は正面側の一方通行であることを知らせた。段差のある場所には横すずき防止策として人工芝が敷いてあり、子ども達が走り回ったり遊んだりしているか、日々確認していく。	1.いっ つもお のの様 子であ った	所庭では、活発に体を動かす遊びよりも虫探しをしたり砂遊びなどを楽しみ、事故当日も園で遊んでいた。	4.対象 児の動 きを見 ていな かつた	他の子 ども達 と中央 部でゲ ーム遊 びをし ていた。	1.担当 者・対 象児の 動きを 見てい た(至 近距離 にいた)	ホールへ の出入り は、広範 囲に出入 口に子 ども達 が集中 するため 事故が起 きやすい という認 識が薄か った。所 庭のコン クリート 部分で子 ども達 が走り 回ったり 遊んで いること も大きな 事故につ ながると いう認識 が薄かっ た。	ヒヤリハッ トを検査 し、職員 が危険予 測する力 を高め、 安全に遊 べるよう 毎日の点 検を行い、 情報を共 有して環 境を整備 する。		
2645	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)		18					2	15歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指)	4.玩具・遊具等施設設備の安全上の不備によるもの	1.あり 1.定期的 に実施	1.基準以上配置	ドアの開閉には危険が伴うことを念頭に置き、ドアの側には必ず大人がつくようにする。見守りが困難なときは他クラス非常勤職員にも声を掛け合い安全にできるようにする。施設管理チェックリスト「ドアストッパー確認」の項目を入れる	1.定期的 に実施	4	1.定期的 に実施	300	1.定期的 に実施	48	ドアのストッパーが壊れていた	1.集団活動中・見守り	配慮の必要な児の食事を先に食べさせるようにする。心配の少ない飲料は、非常勤職員に代わって見守りをする。見守りが困難なときは他クラス非常勤職員にも声を掛け合い安全にできるようにする。	1.いっ つもお のの様 子であ った	おやつを 食べてい る子や帰 り支度を している 子が混在 している 状況だっ た。通園 かばんを テラスの キャタ ーにかけ 、室内に 戻り支度 をしようと して指を 挟んだと 、思われ る。	4.対象 児の動 きを見 ていな かつた	おやつを 食べてい る子や帰 り支度を している 子が混在 している 状況だっ た。通園 かばんを テラスの キャタ ーにかけ 、室内に 戻り支度 をしようと して指を 挟んだと 、思われ る。	2.担当 者・対 象児の 動きを 見てい なかつ た	食事後の 片付けや 下痢を行 っていた ので、一 人で対応 が難しい ときに、 隣のクラ スに声を かけ応援 体制をもら う等、安全 に配慮し ていく。	子どもの動 きや職員の 動きが激 しくなる 時は、全 体を支 えること にも注意 を払うよ うにする。 一人で 対応が難 しいとき は、隣の クラスに 声をかけ 応援体制 をもらう 等、安全 に配慮し ていく。		

2650	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	8	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等) 7.異年齢構成	15 0 0 0 5 10 0 0	2	2.5歳	1.男児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手指) 左上腕骨 左上腕骨 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 1.定期的実施	3~4	1.基準以上配置 想定されたい遊びの動きと、それに伴う想定されるリスクを軽視していた。 研修等を通じて、想定されるリスクと人員配置を再検討する。 1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	公園内の遊具に対する危険認識が低かった。 一般的に安全とされる遊具でも想定外の危険性があることを認識する。 1.集団活動中・見守り 年中児であること、自由を遊ばせていた。 1.定期的実施	土曜日の午前中の園外保育での事故。平日と担当保育士と、異年齢がこども等が高ぶっていた。 3.いつも活動的であった(理由を記載) 1.いつおりの様子であった 転倒しづらい遊具を反らせ、約束を守る。 2.対象児の近くで対象児を見ていた 大型遊具の下で園児たちが転ばないよう走っていた。走っていた園児を見ていた。 1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた) 大型遊具の上におぼろげに遊んでいた他の児童を注視していた。 滑りやすい砂地であり、通常の運動靴であったことから転倒事故を誘発しやすい環境であった。 さらに1名保育士を配置している園児を別の遊びに誘導する。
2651	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・家庭等) 5.4歳児クラス	11	2	2.5歳	1.男児	6.水遊び・プール活動中 1.負傷 0.負傷 5.口腔内受傷 顔面(口腔内含む) 右上歯ヒビある 右折 3.子ども同士の衝突によるもの 1.あり 2.不定期的実施	3	1.基準以上配置 事故後の対応マニュアルは整備できていたが、予防マニュアルや保育士同士の立ち位置の確認、指差し確認が不十分だった。 園児の動きに応じて、監視役と遊具と役割分担の確認を徹底する。 1.定期的実施 毎日	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施 1 1.定期的実施 随時	子どもの人数、遊具の遊ばし方、遊具の面積を考慮し、遊ばし方を考える。 人数では園児の年齢に応じてビニールプールの面積を考慮し、遊ばし方を考える。 1.集団活動中・見守り 1.いつおりの様子であった ビニールプールの数と大きさの見直し。 ビニールプールに入らないうえに、入ることを配慮する。 プール内で周囲の様子を見ながら、突がなかった。プール内で遊んで遊んでいた友達に歯を強打した。 子ども連の動き全体が見えるよう確認せずに行っていた。子どもを向けたため、しゃがんだ場面と見えていたが、防がなかった。 3.対象児から離れたところで見守っていた 2.対象児の動きを見ていた ホースで遊ぶことができた。本児がいた場所を確認していたが、しゃがんだ瞬間は見えていなかった。 日頃から周囲の状況をよく確認せずに行っていた。ぶつかりたり、ぶつかりたりすることがあった。本児も含め、周囲の様子をよく見守るよう声をかけていくようにした。 周囲の状況判断が苦手に保育士が付くように、本児が声を掛けよう。 周囲の状況判断が苦手に保育士が付くように、本児が声を掛けよう。	
2652	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	8	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	23	3	2.4歳	2.女児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 5.下肢(足・足指) 右足首骨折 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 1.定期的実施	1	1.基準以上配置 先頭の職員は子ども全員階段を下りてそのまま前進した。後ろから来た子どもたちは前に注意がいかたのかもしれない。 先頭の職員は子ども全員階段を下りて待つ必要があった。危険が伴う場所では特につくつくと、ゆとりを持って心掛けた。 1.定期的実施 12	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施 12 1.定期的実施 12 1.定期的実施 12 特になし 特になし 1.集団活動中・見守り 石段自体は段数は少なく、段差、奥行きなど危険は感じない形状であったが、段の表面には多少の凹凸があった。夏だったのでバツバツにベルトの付いたサンダルを履いていた。石段の凹凸と履物の安定感の不足なども要因として考えられる。 歩いて園外に出るときはズックを着用することにした。また、階段は、少人数のグループに分けて、降りるようにした。 1.いつおりの様子であった 健康状態、身体的不都合はなかった。 2.対象児の近くで見守っていた 当該児は自分のペースで降りてきた。石段の形状から危険は感じなかった。 1.担当者・対象児の動きを見ていた 先頭職員は子どもたちを誘導して歩いた。最後方の職員は全体を見守りながらも、介助が必要な手をつないで、一緒に降りていった。 不慣れた場所である。イベントの後であった。普段は子どもたちが高揚感があったかもしれない。 楽しいイベントだったので、平常よりも高揚感があったかもしれない。 危険予知をして危険回避の声を掛ける、見守りをする。		
2653	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・家庭等) 3.2歳児クラス	14	4	4.2歳	1.男児 ダウン症候	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 5.口腔内受傷 顔面(口腔内含む) 下口唇裂傷 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 1.定期的実施	1	2.基準以上配置 転倒事故を防ぐための訓練を毎日行っているが、身についていない。支援児の動きに合わせていても、不測の事態が起こる。 支援児には、必ずつき、行動の予測をたてて支援する。 1.定期的実施 12	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施 12 1.定期的実施 12 マンホールは、じゅうたんを敷き、土で段差を埋めた。コンクリートは、撤去して、掘りかき除いた。 乳児の庭に段差が多い。マンホール蓋・コンクリートの流し・コンクリートの通路との段差。 段差を改善できなかった。職員間で注意を徹底できている。 転倒事故を防ぐための訓練を毎日行っているが、身についていない。支援児の動きに合わせていても、不測の事態が起こる。 1.いつおりの様子であった 活動が盛んになってきて、興味のあるところに移動しているので、予測がつかない動きが多い。 対象児とマンツーマンで接していた 支援児1名が他の1名の加える。常に対象児に接していた。 1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた) 他の担任14名の保育士に当たって、至近距離にいた。 子どもの動きを予測できるように、行動の特性を観察し、担任と共有する。		

2654	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15	4	4	5	2	3	3	2歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右横骨・尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 3.未実施	1.基準以上配置	マニュアルの徹底・職員間の役割を再確認し未然防止に努める。	2.不定期に実施	1	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	静的な遊びの提供と過ごし方の徹底・確認。状況に言葉がけをし、特に低年齢児の見守り等に気を配るなど事故を未然に防ぐ。	延長保育時(確認時)について対応が完全ではなかった。	環境を整えるため危険個所と危険と思われる物の移動。	1.集団活動中・見守りあり	1.集団活動中・見守りあり	園庭利用や遊ぶ場所を区分している。遊ぶスペースを決めていたので、その枠内であった。	ボールの空気は抜いていたが、幼児には硬すぎることが原因かと思われる。	柔らかいボールを使用する。	1.集団活動中・見守りあり	園庭利用や遊ぶ場所を区分している。遊ぶスペースを決めていたので、その枠内であった。	保育する職員が子どもを見守る様子を確保する。	1.いつも通りの様子であった	自ら希望した4歳児6名と5歳児1名と共に行った。	2.対象児の近所で対象児を見ていた	サッカーのゴールキックの際に、園児6名と15m程度の距離を取り、園児の方角を向いてボールを蹴った。手とボールが当たった。園児の右手に当たった。	2.対象児の動きを見ていた	他の園児を見ており、お迎えに来た保護者の対応を行った。	担当職員が甘かった。	お迎えの保護者対応がなされた。	保育士同士の連携・声かけを強化する。特に安全確保(室内の集めて利用児確認など)を行う。
2655	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	5	夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)		71	12	15	18	13	10	9	5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右横骨遠位端骨折	8.その他	1.あり 2.不定期に実施	1.基準以上配置	事故防止マニュアルは整備しているが、危機管理が十分でなかった。	職員全員で情報を共有し、危機管理を行う。	1.定期的に実施	12	3.未実施	1.定期的に実施	12	ボールの空気は抜いていたが、幼児には硬すぎることが原因かと思われる。	柔らかいボールを使用する。	1.集団活動中・見守りあり	園庭利用や遊ぶ場所を区分している。遊ぶスペースを決めていたので、その枠内であった。	保育する職員が子どもを見守る様子を確保する。	1.いつも通りの様子であった	自ら希望した4歳児6名と5歳児1名と共に行った。	2.対象児の近所で対象児を見ていた	サッカーのゴールキックの際に、園児6名と15m程度の距離を取り、園児の方角を向いてボールを蹴った。手とボールが当たった。園児の右手に当たった。	2.対象児の動きを見ていた	他の園児を見ており、お迎えに来た保護者の対応を行った。	担当職員が甘かった。	お迎えの保護者対応がなされた。	保育士同士の連携・声かけを強化する。特に安全確保(室内の集めて利用児確認など)を行う。					
2656	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)		39	20	19			5	4	3歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘の亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 1.定期的に実施	2.基準配置	・子どもがリズム遊びに慣れていないため、保育士の指導が見守りできなかった。	・子どもと一緒に遊ぶが指導不足、安全に遊んでいない保育士に気づくことができなかった。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	リズム遊びの途中立ち止まることが多くなり、周囲をよく見えていなかった。	・立ち止まることは危険であること話をし、子ども同士でぶつからないように配慮する。 ・周囲を良く見えていなかった。	1.集団活動中・見守りあり	リズム遊びの途中立ち止まることが多くなり、周囲をよく見えていなかった。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	室内を走るリズム遊びをしていた。3歳児、4歳児に分かれて交互にリズムの動きをしていた。	2.対象児の近所で対象児を見ていた	対象児の他の子どもと一緒に歩いて、転倒を見たが、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	・3歳児の担当職員は子どもと一緒に歩いていたため、4歳児の担当職員は転倒を見ていたが、リズムの曲をピアノで弾いていた間に間に合わなかった。									
2657	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15	10	5			2	2	2.5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり 2.不定期に実施	2.基準配置	事故予防や発生時の対応について、職員間で徹底周知する。	竹馬の高さを上げていく度に腐敗はないが、足場が固定されているか、強度の負荷など点検・改善をしているので継続して行く。	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	2.不定期に実施	6	竹馬の高さを上げていく度に腐敗はないが、足場が固定されているか、強度の負荷など点検・改善をしているので継続して行く。	竹馬でトラックを行進中、カーブでバランスを崩し、落下する。	バランスを崩した時の対処(前の方に倒れる、手は離さない)をもっと伝えておく。	1.いつも通りの様子であった	登所後、竹馬(高さ80cm)の縁を登り、竹馬に乗り、竹馬を揺らす。竹馬の高さを上げていくので、竹馬に乗り、竹馬を揺らす。竹馬の高さを上げていくので、竹馬に乗り、竹馬を揺らす。	4.対象児の動きを見ていた	本児を竹馬に載せてスタートさせ、第一カーブの辺りまで行進して行ったので、今度は竹馬に乗るための見守りを怠った。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	子ども達の受け入れをし、クラスの子も園庭で遊びをする見守りを怠った。	休み明けから竹馬の高さを上げた。竹馬に乗り、竹馬を揺らす。竹馬の高さを上げていくので、竹馬に乗り、竹馬を揺らす。	竹馬の高さを順次上げていくので、竹馬に乗り、竹馬を揺らす。竹馬の高さを上げていくので、竹馬に乗り、竹馬を揺らす。							

2663	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32	8	13	11	3	2.5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	4	2.基準配置	普通遊び慣れた遊具にたいこ橋での遊び方を再度注意する(人数制限、登り降り高さのある遊具には必ず職員を近くに配置する)	たいこ橋の遊び方を再度注意する(人数制限、登り降り高さのある遊具には必ず職員を近くに配置する)	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	滑りやすいが注意して同じよう遊んでいた	1.集団活動中・見守りあり	延長保育で異なる年齢と遊ぶことあり	午後は疲れも出て動きも鈍くなる為、十分に注意する(職員の間取り等)	1.いつもの様子であった	いつもと同じよう遊んでいた	3.対象児から離れたい対象児を見た	対象児と遊ばれたため、対象児が着いた際に音がなかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の遊具の様子を見ていた	職員配置数に対して園児の動きが活発で、気付くのに時間がかかった	職員配置数を増やした時に遊ぶ安全に注意する。
2664	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	134	16	22	21	25	25	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右ひじ骨折(ヒビ)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期的に実施	4	2.基準配置	ウレタン積み木は、重さが軽いため、足元が不安定になりやすくなると考える。	並べて渡る遊びの時には必ず保育者がそばに付く。また幅を広げ、安定して渡れるように積木を敷いた上には立たないようにする。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	安全チェックリストで不備がないことを確認し、みんなで立ち位置を確認し合う。	1.集団活動中・見守りあり	その場から離れた職員に声をかけて、みんなで立ち位置を確認し合う。	1.いつもの様子であった	ホールにてウレタン積み木を歩かせるよう遊んでいた	2.対象児の動きを見なかった	そばについて見て、近くで遊ぶように促した	2.担当者・対象児の動きを見なかった	一緒に乳児組ホールに職員が居るために、園児が室内へ入る。他の保育室での遊びについていたり、おやつの対応をしていた。	持ち場から離れた職員が声をかけて立ち位置を確認しよう。ホールでは必ず職員が2名以上つくようにする。				
2665	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	18				2	2.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指)	右下腿骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的実施	12	1.基準以上配置	全職員参画のもと、事故防止マニュアルを作成し周知した。各クラスでも、事故防止マニュアルを作成し、月1回確認を行うこととした。さらに、そのマニュアル等に基づいて事故防止に努め、子どもにも園舎内での安全な遊び方について話し合い約束している。	今後の老朽化なども考慮し、常時安全点検を行う。どういった危険が潜んでいるかを、子どもも保育者も認識し、未然に防止する。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	危険な場所である事を、子ども達に注意喚起している。また、園舎の入り口の土を補充し、柔らかくした。築山のまわりを走り回ると、危険箇所を認識しやすくなった。また、築山の土を補充し、柔らかくした。	1.集団活動中・見守りあり	友達と大団長ごっこをしてあそんでいた	4.対象児の動きを見なかった	築山の隣のブランコで遊ぶのを安全のため、築山への誘導がなかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	園庭の別のコーナーの安全確保を行い、指導を行った	他のクラスの保育士との連携・報告ができていなかった	園庭で遊ぶ際の連繋・一人でも多くの職員が確認できるようにする。					
2666	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成		11	13	9	4	4.4歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期的に実施		1.基準以上配置	椅子が出たことによりつまづいた。	椅子から離れる時には椅子の下にしまう。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	乳児期からの発達の発達を促す環境作りを行う。	1.集団活動中・見守りあり	環境設定を安全に設定する	室内に足をよく見よう伝えていく。	1.いつもの様子であった	室内を移動していた	4.対象児の動きを見なかった	コーナーに1人配置していただかなかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	職員から報告がなかった	情報の共有をすることで、早期に危険が気付きやすくなる。			
2667	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	20					4.2歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足第4・5趾の中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期的に実施	6	1.基準以上配置	事故発生時の様子やクラスの保育士も含め職員間で必ず振り返り対策を確認する。対策を認める具体的に出していく。	事故の大小に関らず全ての職員が認識する。	1.定期的実施	1	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	職員全体で安全な環境づくり視点でクラスや園舎全体の環境を考えていく。代表委員や安全点検委員の場面で確認していく。	1.集団活動中・見守りあり	本児の様子を見ながら興味があるところを保育活動に取り入れていく。	2.2歳児の飛び降りやクレヨンを見直し	3.いつもより活路で活動的であった(理由を記載)	常に体を動かさない	2.対象児の動きを見なかった	本児と一緒に楽しんでいた	1.担当者・対象児の動きを見なかった	上記と同じ	本児の行動を観察し、年齢的な行動を予測し未然に防ぐ。子どもたち運動機能の発達を促していく。			
2668	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)		2		33		2	2.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	4	2.基準配置	保育士自身の範囲を全体的に共有し、自分の範囲があると思う。	鉄棒を上げる際の職員全体で共通理解を徹底し、再度子ども達も鉄棒を上げる際のルール説明が必要	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	鉄棒の下の安全マットなどもしっかりとしたものを用意すべき	1.集団活動中・見守りあり	他クラスは居なかったが、しっかりルールを守って遊んでいく	鉄棒を上げる時、足掛かりをよく見て遊ぶ	1.いつもの様子であった	少しくらいの状態で	4.対象児の動きを見なかった	隣にも子どもが居るのに、足掛かりを見て遊んでいなかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	鉄棒以外の遊びを見なかった	2人で見ていた遊具は、遊びの範囲外なら見られる等、自分を知る必要がある。			

2669	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	8	1.朝(始業~午前10時頃) 2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	40	0	0	15	0	13	12	0	5	4	2歳	2.女児	天気:晴れ	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	顔面(口腔内含む) 右鼻骨折 3.子ども同士衝突によるもの 2.なし 2.不定期に実施	2.基準配置	各遊具についてのマニュアルが無く、職員間での共通理解不足であった。また、園児の行動予測が指導不足が考えられる。 全職員が正しい遊具の使い方を理解し、園児指導に繋げる研修を行う。 1.定期的 1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	295	100	職員が目が見えにくい場所に設定していた。 今回の事故が起きた遊具を職員が目が多く居る場所に移動した。 職員が全体を監視していた。しかし、一人一人遊びの行動がケガにつながる危険なことの予測が出来なかった。 遊具の傍に職員が付き、約束事を伝えたり、怪我を防止しようとしていた。 1.いつでもおどりの様子であった 5歳児と一緒に、遊具のトンネルの中を三輪車に乗っていた。 4.対象児の動きを見ていた 園児全体の様子を見ていた。怪我の発生は見ておらず、怪我を防止できなかった。 2.担当者・対象児の動きを見ていた 築山の上で座っていた園児の存在を見つけた。その後事故は発生した。また、他の場所でも他の園児の様子を見ていた。 職員が目が見えにくく、怪我の発生に気づけなかった。職員間の連携が上手に取れていなかった。	子どもが怪我を防止しようとする。
2670	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	9	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	58	0	0	20	22	16	0	5	5	5歳	2.女児	天気:晴れ	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 骨折 1.遊具等からの転落・落下 1.あり 1.定期的に実施	1.基準配置	園内研修において事故の状況と反省点を共有する 1.定期的 1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	300	施設点検には引き続き行う 1.集団活動中・見守りあり 疲れを感じていても、適度に休憩を挟むことを指導して行く。 3.いつも活発で活動的であった(理由を記載) 前転がでようとした様子を見ていたが、それを止めた(理由を記載)。 4.対象児の動きを見ていた 鉄棒につき、補助できる状態で、落下時でも見ていた。防止できなかった。 1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた) 5歳児クラス以外の保育士はいなかった。	子どもの体力や、持久力を日頃から育てることを、職員全員で改めて事故防止に努める。	
2671	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	8	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 5歳以上児	25							2	2	2.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指) 剥離骨折 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 2.不定期に実施	2.基準配置	研修を受け、事故予防を意図しているが、日常の様子に子どもを十分に観察する 研修を受け、事故予防を意図しながら、安全保育をさらに意識して子どもを十分に観察する 2.不定期 2.不定期に実施	6	2.不定期に実施	3	随時	特になし 特になし 特になし 特になし 1.いつでもおどりの様子であった 対象児が自ら、縄跳びを始める。 3.対象児から離れたところで見守っていた 全体の子どもを観察しながら、対象児を見守っていた。 2.担当者・対象児の動きを見ていた 5歳児クラス以外の保育士はいなかった。	特になし 特になし	
2672	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	5	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 3.2歳児クラス	18							3	3	3.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	3.体幹(首・腹部・臀部) 鎖骨骨折 1.遊具等からの転落・落下 1.あり 1.定期的に実施	2.基準配置	遊具に職員がついたが、立ち位置が悪くなった。 階段部に転落しよう防止の立ち位置の確認を行った。 2.不定期 2.不定期に実施	1	1.定期的に実施	1	毎日	固定遊具の使い方の徹底。 子どもをみきれない時は固定遊具を使わない。 1.集団活動中・見守りあり 友だちの帽子を引っ張るのを阻止できなかった。 子どもの様子を見るときには、滑りに子どもを残さない。 1.いつでもおどりの様子であった すべり台で楽しんでおりましたが、お友達を引っ張ってしまった。 2.対象児の動きを見ていた 帽子を引っ張らなくなったことを確認するため職員が移動していった。 1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた) 担当保育士は帽子を引っ張られた子どもの様子を確認し、もう一人の保育士はトランプル発生を感じてすべり台に近づいた。	子どもが叱られる時、職員が離れる時にすべり台より降ろす。	
2673	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	1	1.施設敷地内(室内) 5.4歳児クラス	21							1	1	1.5歳	2.女児		8.その他	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 左肘挫傷、左肘頭骨折 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 2.不定期に実施	2.基準配置	小走りや踏み切り、不明だが、踏み切りを踏む問題 クラス全員で室内小走り絶滅の取り組みをすること 1.定期的 1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	かまぼこ型レールの突起 埋め込み型レールへの変更 1.集団活動中・見守りあり 敷居を切り取るリズムがとれなかった上、小走りの勢いについて考えられる。走り癖、かまぼこ型レール 走り癖、かまぼこ型レールを埋め込み型へ 1.いつでもおどりの様子であった 活発で、話をよく聞かないで先走りする傾向がある 3.対象児から離れたところで見守っていた 廊下から室内を見透かしていたら、走り出そうとしていたのを止めた。こけた。 2.担当者・対象児の動きを見ていた それぞれの部屋・部署で任にしていた。 特になし 特になし	特になし 特になし	

2674	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13	0	0	0	4	2	7	0	1	16歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	個人の力量に応じた介助が出来ていなかった。	日々の子供の活動等について情報共有を。安全管理マニュアルの確認。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	鉄棒の下に人口芝生のマットを敷き怪我防止に努めていたが、もつと柔らかなマットがなかった	1.集団活動中・見守りあり	土曜日で園児人数が少なく、複数の保育士での見守りが必要	健康状態は良好。自分でも出来るようになった鉄棒を張り切った遊び	1.いつもの様子であった	2.対象児の動きを見ていた	本児に「見て」と言われ、視線を離れて見ているうちに園児が落下した。その後、他の職員に呼びかけ、他の職員に呼びかけ、他の職員に呼びかけてもらって、本児を事務所に連れて行き対応してもらった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の職員は呼びかけ、園児を見守る。事務所の先生は、本児を安静にし、連絡の対応をする。	土曜日で園児人数が少なく、複数の保育士での見守りが必要
2675	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	2	3	4	4	2	2	4	2	2	25歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足第1指(親指)骨折【左母趾基節骨骨端線損傷】	3.子ども同士衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	怪我をしないように一人一人の子どもの動きをしっかりと把握するが、検討し対策を。職員会など。	1.定期的 に実施	6	1.定期的 に実施	48	1.定期的 に実施	12	園児は、園舎内では走らないと、出入口では、友だちが来ているか確かめるようにしてほしいと、注意する。	1.集団活動中・子ども達ののみ	職員が建物の特徴をよくつづき、子どもの動きに注意し、声をかけ自制を促す。	1.いつもの様子であった	4.対象児の動きを見なかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	午後の集まりの後の保育なので、子どもが一言に動き出すので、そこに注意を向けることは、保育士として最低必要な姿勢かと思われまます。						
2676	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55	18	19	18	7	7	5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折 1-2か月	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	遊びに夢中になった子どもの動きを測しながら、必要な職員対応を行い遊びを進める。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	リレーごっこがままごと遊びのコーナーと近かったのかと思われる。	1.集団活動中・見守りあり	ままごととリレーのフィールドの境界を引いたり、コーンを置いたりすることで、遊びの境を一目で意識できるようにする。	1.いつもの様子であった	3.対象児の動きを見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	固定遊具やその他の遊びの対応をそれぞれで確認していた。	ままごと遊びはいつも行われており、動きも少ない遊びなので、危険が少ないと判断し、フィールドには侵入してという予測が出来なかった。								
2677	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	41	3	3	3	3	3	36歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2-3	1.基準以上配置	保育士が跳び箱の危険性を十分に理解し、子ども達が安全に跳び箱を跳べるような指導をしていく。	1.定期的 に実施	4	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	1	子どもに危険のないように、跳び箱と踏み切り板の配置を再度確認する。マットの敷きを増やすことで、より安全に活動できるようにする。	3.個人活動中・見守りあり	跳び箱を跳ぶ際は、今までの1名1名を配置して、2名も両サイドをカバーすることで落下した際に支えられようとしている。	一度跳ぶことを失敗して、もう一度挑戦した時にバランスを崩した。	1.いつもの様子であった	2.対象児の動きを見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児に補助につきながら、全体を把握していた。	子どもの様子も見ながら、焦りを感じている様子もあって、様子を見て休ませるなどして、落ちた状態に事故がなかった。							

2687	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36	4	2	2	3	7	7	11	5	45歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1~2	1.基準以上配置	スロープには三輪車等の遊具、乗り物ではない約束を再度子どもたちと確認した。	2.不定期に実施	2~3	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	スロープ部での子どもの動きに再度注意を払う。	1.集団活動中・見守りあり	子ども動きの想定を行い、職員間で連絡を密に行い空白時間を作らない。	1.いつもの様子があつた	登園後の自由遊玩で好きな遊びを行っていた	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は出勤前、お茶休憩時テラス(スロープ)で早出勤員(2名)が見守り中、そのうちの1人が泣いている本児に気づき、主任に報告し、その間に中出勤員(2名)が出た。倒れる瞬間を見ている職員はいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自由遊び後のお茶の休憩でその対応をした。	子どもの動きを的確に予測し職員間で連絡を取り合い空白時間を作らない。特に朝夕の時間になることを想定する。
2688	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	10	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)		7								2	2	1歳	1.男児	1.負傷	0.負傷	1.意識不明	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準以上配置	救命救急対応研修は、所長だけでなく、一般職員も受けるようにしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	12	1.集団活動中・見守りあり	食事の介助においては、適切なペースを確保し、子どもを把握でき、即座に対応できるようにする。	1.いつもの様子であった	事故当日の朝の体温は平熱であり、普段通り室内で遊んでいた。	2.対象児の動きを見ていなかった	一つの机に当該児童を含む4人が四方に座り、給食を食べていた。職員Aが当該児童の左隣で食べ始める様子を観察し、食事介助を行った。デザートのみりんごをみている時、4名とも眠そうにポーッとしていたため、当該児童以外の3名のみりんごを食べ始めるよう告げるように、当該児童を見るとき、1/3程度かじったのみりんごを左手に持ち、眠ってしまった。職員Aは、当該児童のみりんごを手から外し、おしぼりで口を拭き、その後おやつ	隣の机で他児の食事介助をしていたが、職員Aの「あっ！」という声で気づき、職員Aが抱きかかえていた当該児童のそばに行き、口中に自分の手(指)を入れ、口腔内に食物が残っていないか確認したが、何も出てこなかった。	抱き上げた前、口腔内に食物が入っていないか確認せずに抱きあげた。	食事中に眠くなった子は食事をやめる。又、口腔内に食べ物が残っていないか確認することマニュアルに明記する。	

2688	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18	18	6	6.5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下 1.あり 2.不定期に実施	1	2.基準配置	活動の内容をよく吟味し、子どもたちの様子をよく見ていく。年長の課題について話し合う。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	施設、遊具、玩具については、今まで通りしていく	1.集団活動中・見守りあり	様々な行動を予想し、安全面での配慮を欠かさない。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	特に活動の切れ目に注意し、目を離さないようにする。							
2690	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)		26	1	1	1.6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの 2.なし	1.定期的 に実施	1	2.基準配置	職員は基準に応じて配置できていたが、自由遊びを代替保育士に任せってしまった。	代替保育士への連絡の徹底	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	この案件は設備などによるものではないと考えられる。	1.集団活動中・見守りあり	運動会の練習続きで、子どもたちが落ち着いていない中、自由遊びを代替保育士に任せってしまう。	代替保育士に代わるときは、クラス等の状況を伝え、落ち着いていないものを準備する。	1.いつもどおりの様子であった	友達と一緒であった	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちのトラブルの対処をしていたが、その場面を見ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちと一緒に遊んでいて、その場面を見ることができなかった。	担任ではない保育士が見ていた	伝達の徹底
2691	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)		26	2	2	1.6歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの 2.なし	1.定期的 に実施	1	2.基準配置	怪我の発見の遅れ	体操講師との連絡の徹底 教室後の様子を観察	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	本案件のとび箱、マットはSG基準に基づくものを使用しており、施設、設備に関しては問題なかった。	1.集団活動中・見守りあり	なし	本案件は体操教室であったため、環境面の問題はなかった。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	とび箱の横に体操講師、教員に担当職員	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	とび箱の横に体操講師、教員に担当職員	なし	体操講師との連絡の徹底、教室後の様子を観察	
2692	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	20	2	2	2.3歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	口腔内受傷	2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 3.未実施	2.基準配置	自由に遊んでいたため、見守っていたが、危険が予測できていなかった。	マニュアルを職員会議等で周知徹底を行う。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	園庭のチェックリストの項目を増やし、より安全に遊べる環境を整える。	1.集団活動中・見守りあり	自由に遊んで欲しいが、その中でも一方通行の走りをする等、危険が生じないようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	遊具に乗ろうとして、足が遊具に引っかかり転倒した。友達と口元を強打。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	傍で対象児を見守っていた。事故発生時駆けつけたが、転倒防止に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の遊具で遊んでいて、対象児を見守っていた。	子どもの発達の特徴と予想される危険について、再度学ぶとともに、他児対応等で子どもが離れる際には、職員間で言葉掛け合い、空白の時間が生じないようにしていく。	車輪付き遊具の撤去			

2693	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	22	1	15歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手親指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	初めての太鼓教室が高まってきたことへの配慮が必要だった。	初めての太鼓教室の時は、落ちて歩いて部屋に戻るよう声をかける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	4.個人活動中・子どものみ	大鼓の準備や片づけをする。他の職員が手伝い、担任は子どもを見守る。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	初めての太鼓教室に集中して取り組んでいた。終わった後、頭を振って自信がなかった(理由を記載)	4.対象児の動きを見た	大鼓の片づけをした(廊下で待っていた)。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	3歳児クラスは、園庭で遊んでいた。4歳児クラスは散歩に出かけていた。主任は1階で業務にあたっていた。	大鼓の準備や片づけをする時は、他の職員が手伝い、担任は子どもを見守る。			
2694	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	22	4	41歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	顔面(口腔内含む)	上顎右側乳中切歯外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	食事、排泄の時間帯に職員が大きな声を出して、怪我が発生する。	排泄、食事などの職員が互いに声を掛け合い連携を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	玩具棚の上段に重い玩具を置いておいた。玩具を取り出したところバランスを崩し転倒する。	玩具棚に重い玩具を置いておいた。玩具を取り出したところバランスを崩し転倒する。	玩具棚から机まで離れた状態が長く、その間に、バランスを崩し転倒する。	玩具棚から机まで離れた状態が長く、その間に、バランスを崩し転倒する。	1.いつもより活動的であった	食事・排泄が終わる前に、玩具を取り出したところバランスを崩し転倒。	3.対象児から離れたところで見守っていた	食事後の片づけを行いながら対象児を見守っていた。	食事が終わった子供の補助を行った。	食事後の片づけを行いながら対象児を見守っていた。	玩具で遊ぶ時間帯ではなかったが、子どもも玩具に興味を持ち、声を掛けたり手を離すように配慮する。		
2695	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	5	2	21歳	1.男児	6.水遊び・プール活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	左上A外傷性亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	職員会議やケース会議でプールの注意点を話し合い確認したが、いつも上から入ると安心してしまいがちで、予測が十分できず防くことが出来なかった。	プール、水遊び時での子どもの動きを想定し、対応を担任間で考え、職員会議、ケース会議で職員全員に周知する。	1.定期的に実施	295	1.定期的に実施	295	1.定期的に実施	295	1.定期的に実施	295	アルミたらいの蓋が壊れた。アルミたらいの蓋が壊れた。アルミたらいの蓋が壊れた。	アルミたらいの蓋が壊れた。アルミたらいの蓋が壊れた。アルミたらいの蓋が壊れた。	水遊び中、タライに入ろうとしている様子を見守っていたものの、いつも上から入ると安心してしまいがちで、予測が十分できず防くことが出来なかった。	入退水時手を添えながら年齢に合った援助を行う。	1.いつもより活動的であった	たらいの外から中の友達へ、ジョウロの水をかけるなど楽しんだ後、たらいの中へ入ろうと思った。	2.対象児の姿を見ていた	横にいて見守っていたが、一瞬であっという間に入ってしまった。	1.担当者・対象児の動きを見守っていた(至近距離にいた)	たらいの横にあるプールに入っているのを確認していた。	いつも、たらいには上手に出入りできていたが、プールに手を添えたり手を離すことが出来なかった。	職員は日頃より、子どももプールに入ると安心して遊べるように配慮する。
2696	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17	3	8	6	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	6	1.基準以上配置		1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	365	1.定期的に実施	365	1.定期的に実施	365	1.集団活動中・見守りあり	玩具をケースと誤って取り合ってしまった	事前にあらかじめ設定しておく	1.いつもより活動的であった	元気で普段と変わらず活動	2.対象児の姿を見ていた	児のそばで玩具のケースを渡した	1.担当者・対象児の動きを見守っていた(至近距離にいた)	他の児も見ながら、対象児の体が見えなかった	そばで職員が手を添えたり手を離すことが出来なかった	子どもの動きに気づき、手を添えたり手を離すことが出来なかった		
2697	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	15	1	6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕部橈上骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準以上配置	危険を予測し、回避できるように具体的なマニュアルを定期的に行う。	事故を未然に防ぐため、多方面から情報を集め、マニュアルの見直しやシミュレーションを定期的に行う。	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	1.集団活動中・見守りあり	運動会練習を終え、開放的な状況の中で走る場合の事前予測を考慮し、ゴールとなる場所の配慮を考えた。	走る際は、ゴール地点の勢いも考慮し、ゴール地点が明確になるようテープを貼る。職員が立つ場所を確保する。	1.いつもより活動的であった	かけついでため切った。	3.対象児の姿を見ていた	職員はスタート位置にいて合図を吹いていた。	1.担当者・対象児の動きを見守っていた(至近距離にいた)	年中児担当職員が2名近く、4歳児に向けて運動会練習の話をしていた。	走る際は、ゴール地点の勢いも考慮し、ゴール地点が明確になるようテープを貼る。職員が立つ場所を確保する。				

2696	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	6														3	3.0歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	右下A外傷による歯根破折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	本来、事故等があった場合は施設長や他職員への報告、相談を行うが当該園児の出血を確認した際、看護師と職員1名のみで判断したため、受診するつもりで対応しなかった。	事故発生や園児に異変があった場合は、直ちに施設長や他の職員への報告を行い、情報共有し、複数で判断及び対応を行う。	1.定期的	4	1.定期的	12	1.定期的	毎日	小さなコーナーを設定することで、仕切りがなかった。立位や姿勢保持の不安定な転倒した場合は、転倒した際の周りに家具がぶつかっており、怪我に繋がることが考えられる。	発達を踏まえ、コーナーを設定した上で、子どもに合わせた怪我の防止策を行う。(ラバー敷くなど)	3.個人活動中・見守り	担当保育士ではなく、他の当該園児を見守っていた。当該園児の様子に気づいたり、確認したりするが不足していた。	元気がない、体調が悪いという状況を把握した段階で、保育士間で情報を共有し、当該園児の様子を気をつける等、注意が必要だった。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	登園した時から、元気がなく、眠いのか、いつもより静かであった。	2.対象児の近距離で見守っていた。	食事を終えた当該園児が遊び、2人の保育士が見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他2名の職員は食事コーナーで2名の園児に対して、食事介助を行っていた。	担当保育士が不在であったため、食池遊びを担任が交代して保育にあたっていた。	担当保育士が不在時は、できる限り同じ保育士が園児の代わりに行い、細かい変化にも気づき対応していく。
2699	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	95	6	16	17	18	19	19									25	18.5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	顔面(口腔内含む)	右上前歯A歯牙打撲、下口唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	5	1.基準以上配置	・子どもが落ち着かない状態の時は、玩具を踏んで転倒することも予測して、様子を見て、玩具を片づたり、スペースを確保する等の配慮をする。	・玩具の量を減らす、活動方法を、園児に伝え、危険の注意、危険はないという規範意識を育ていく。	1.定期的	1.定期的	1.定期的	毎日	・遊びが広がり、室内が狭くなった。	1.集団活動中・見守り	・室内に玩具が散らばった時、保育士が片付けを促すタイミングが遅れた。	・事故に繋がる行動は年齢に合わせた方法で、園児に伝え、危険の注意、危険はないという規範意識を育ていく。	3.いつもより活発であった(理由を記載)	対象児は、最初の落ち着き状態である。	2.対象児の近距離で見守っていた。	至近距離で見守っていたため、見守ることができた。	1.担当者・対象児の動きを見守っていた(至近距離にいた)	至近距離にいたが、他児と遊んでいた。	2名の担任が、子どもの状態から保育内容の変更ができるよう、声を掛け合うことができた。	・部屋が玩具で散らばった時点で片づけを促す。また、促すだけではなく、当該園児が落ち着きをよつ、保育士も片づける。遊す等、事故を防ぐような場面での特性の応じた対応を考える。			
2700	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25				11	14										2	2.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘関節部打撲傷・左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	2名の担任保育士が必要な園児がいる場合には、フリー保育士などに声をかけるようにする。	個別対応にあたり、目が行き届いていないところがあった。	1.定期的	12	1.定期的	12	2.不定期に実施	主に低年齢児を対象に木の球を利用した簡易的なブランコで、周囲には樹木が揺れる。あまり勢いがないものであったため、目が行き届いていないところがあった。保育士が見守っていたが、年長児が乗ったため、勢いが出た。	保育士がそばで安全を確認できる時のみ簡易ブランコを設置する。	1.集団活動中・見守り	簡易ブランコは地面からの高さも低く、勢いがつきにくいので、周囲に注意を払うことなく向かうために、家庭においても飛び出さず、安全が確保されない場合には使用しないようにする。	1.いつもどおり様子であった	本児は、普段から体を動かすことを好み、興味があることには積極的に向かい、集中しているが、注意力散漫なところも多く、興味を持つと周囲に注意を払うことなく向かうために、家庭においても飛び出さず、安全が確保されない場合には使用しないようにする。	4.対象児の動きを見守っていた	園庭全体の様子を見渡しながら保育していたが、個別対応が必要な園児がいたため、もう一人の保育士にその旨を伝え、安全が確保されない場合には使用しないようにした。	1.担当者・対象児の動きを見守っていた(至近距離にいた)	本児が転倒した様子で、別のブランコで見守っていたが、子どもと話し合ったり、その後三輪車に乗っていたため、様子を見守った。	簡易ブランコは地面からの高さも低く、勢いがつきにくいので、周囲に注意を払うことなく向かうために、家庭においても飛び出さず、安全が確保されない場合には使用しないようにする。			

2705	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	108	5	13	17	29	19	25	0	16	11	5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	事故防止マニュアルの見直しや研修の実施についても検討し、今後いかに職員の意識を高めていけるかを考えていく。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	月末の安全点検を行った上で、危険な箇所はないように思われる。	1.集団活動中・見守りあり	おやつ後、食べた子どもから帰りの準備をする中で、立ち歩く3～5歳児の異年齢が徐々に入ってくる状況が要因とされる。	1.いつもどおりの様子であった	1.グループ準備を始めるなど、流れるある保育時間を考える。	床にて、通園かばんを用意するおやつ後、日頃と変わらない様子であった。	1.いつもどおりの様子であった	保育士と副園長のチームで、おやつ後から降園準備を見ていた。	1.担当・対象児を見ていた(至近距離にいた)	保育士と副園長のチームで、おやつ後から降園準備を見ていた。	全体をチームで見守っている。保育者の再確認し、目が行き届かないようにしたい。	
2706	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5		3	1	1			3	2	4歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	上顎両側A外傷性亜脱臼	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	12	該当なし	該当なし	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	48	該当なし	該当なし	猛暑のため室内遊びが多かった夏過ぎの活動的になった時期であった。涼しくなり活動的になったが、夏の疲れや1日の疲れが出ていくなると考えられた。	1.集団活動中・見守りあり	暑さを避けた室内から遊びかたの活動的になった時期であった。同じ場所を目標に競争心を出さずよう言葉掛けは控える。	1.いつもどおりの様子であった	日中から夕方保育にかけて元気になっていた。	3.対象児から離れたところで見守っていた	ホール全体で座るよう口付近で保護者の対応と児童との別れを促していた。	2.担当・対象児を見ていた	児童が5～6名に減ったところでパート職員はおもちゃの片づけを始めた。	部屋の移動前に読み聞かせのため壁際並んで座るよう声をかけた。それにより2人の児童が同じ場所を歩いていた。	並んで座る前に促すことば掛けをする。
2707	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	9	昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	30		22					22	2	5歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨折	8.その他	1.あり	2.不定期 に実施	2.基準配置	事故予防マニュアルを年に何回か確認し、職員の意識を高め事故予防をしていく	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	毎日	安全点検を徹底し不備や危険があるところは早めに対処する。	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちも今回の怪話を話し、自分の手や足、体など痛くなるとは話しなかった。	1.いつもどおりの様子であった	給食後、床に座って絵本を見ていた。後ろに手を伸ばして座っていた時に指をそりしていた。	3.対象児から離れたところで見守っていた	子どもたちも全体の片付けをし、子どもの動きを見守っていた。怪我がつなげや友だちとのトラブルがなかった。本児が訴えてきたが、外傷が見られず、主任に相談をした。	1.担当・対象児を見ていた(至近距離にいた)	担任から連絡があり、主任が行き、本児に話を聞いたり、患部をみたりしたが外傷が見えなかった。少しづつ腫れを感じたので、園長と相談をする。					
2708	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5歳以上児	34		2					2	2	5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨(橈骨)骨折【治療に要する期間：概ね1か月】	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期 に実施	2.基準配置	保育士の配置場所を再確認する。	1.定期的 に実施							1.いつもどおりの様子であった	事前には注意点を話すとともに、普段から転倒した時の対処法について細かく指導する。	1.集団活動中・見守りあり	事前に注意点を話すとともに、普段から転倒した時の対処法について細かく指導する。	2.対象児の至近距離で見守っていた	当日マラソンを行っていたので通常の職員が児童の安全確認と声掛けを行っていた。	外部の体育指導員がいたため、基準より多い人数で見守っていたが、スタート直後ともども、普段から転倒した時の対処法について細かく指導する。	事前に注意点を話すとともに、普段から転倒した時の対処法について細かく指導する。					

2709	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	49	0	0	0	24	0	25	0	3	3	5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	右上Bから左上B外傷性歯の脱臼	3.子ども同士の間接によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	保育士の配置についてその都度声を掛け、子どもが動線を見なければならなかった。	子どもに背を向けるのではなく、子どもを見て給食の準備をする。	1.定期的	24	1.定期的	48	1.定期的	24	点検を終え不備な所、注意する所を伝えた。	1.集団活動中・見守り	排泄、手洗いをすて落ち着いて行動ができていなかった。	子どもと一緒にホールでの移動について確認をする。	1.いつもの様子であった	周りのことになってしまい、目の前のことをして行動ができていない。当日は下を見ていたのか、目が痛いのを気づいていなかった。	給食の準備をして、机を並べたり、拭いたりしてカーテンは居なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至距離にいた)	3歳児のクラスもある中で、トイレの介助や個別に動きをすることが多く、他の子どもも付いていない。	一緒に給食の手洗いなどでも移動している。一人の動きを把握できなかった。	ホールを移動するとき子どもが多いので、目撃から確認し、保育士も全体的に見守るようにつとめる。	
2710	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	202	6	10	21	57	50	58	0	32	30	3歳	1.男児	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右母指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	保育士の配置について声を掛け合い、子どもの受け入れの仕方について確認する。	子どもの受け入れの仕方について見直す。	1.定期的	24	1.定期的	48	1.定期的	24	点検後、不備、改善点を口頭で伝え合う。	4.個人活動中・子どものみ	本児の行動を把握してなかった。	子どもと室内での過ごし方、約束を再確認する。登園後の行動を把握し、外に出るまでの確認を行う。	1.いつもの様子であった	いつもどおりだったが、保護者と離れることができなかった。	3.対象児から離れたところでも対象児を見ていた	外に出ると思っていた本児が保護者を追いかけて談話室にいるのを確認し、外に出るよう声をかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	いるべきでないところに対象児がいた。	保護者がいない状態で、その様子を見守りながら受け止めた。士気が落ちた。	受け入れをし、支度が出来た子どもが遊びにいくので、その様子を見守りながら受け止めた。士気が落ちた。
2711	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	65	0	0	0	19	21	25	0	8	8	5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第2第3中足骨不全骨折	1.遊具等からの転倒・落下	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	職員間で定期的な事故予防のマニュアルについて確認し合う。	職員間で定期的な事故予防のマニュアルについて確認し合う。	1.定期的	24	1.定期的	48	1.定期的	24	点検後、不備、改善点を口頭で伝え合う。	3.個人活動中・見守り	子どもと一緒に遊ぶ様子を確認する。(土管からは飛び降り、飛降りた瞬間は見えていた。)	1.いつもの様子であった	土管登りできるようになったことを喜び、友だちと一緒に挑戦する姿が見られた。	2.対象児から離れたところでも対象児を見ていた	対象児がうんでいて遊んでいる様子が見えていたが、他の動きを見ている時に対象児が土管から飛び降りた瞬間は見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	幼児3クラスが園庭に出ており、園外に出ている職員がいる。子どもたちも園庭で遊んでいる様子が見えていた。	土管で遊んでいる様子が見えていたが、対象児が飛び降りた瞬間は見えていなかった。	子どもの発達や危険に気づいていない。土管で遊んでいる時は保育士が見守るようにつとめる。	
2712	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	36								6	6	2歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左環指指末節骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	子どもが折り返す時は、常にリスクがあることを考えながら行動する。	折り畳み式遊具機を移動する職員が近くに、他の保育士が声を掛け合う。	1.定期的	24	1.定期的	48	1.定期的	24	児童を早く、遊ばせてあげたいと思っ、部屋の中で折り畳み式遊具機を動かしてしまっった。	1.集団活動中・見守り	保育室の機で机等の配置に時間がかかり、待たなかった。	1.いつもの様子であった	朝から特別に変わった様子もなく、ふだんどおりであった。	4.対象児の動きを見ていなかった	作業をしていた職員が移動した際に、対象児が机の近くを歩いていたことが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の子どもも一緒に移動した。対象児が機を動かした。作業中の職員は、児童の動きを付けて作業を行う。	作業をしている職員が移動した際に、対象児が机の近くを歩いていたことが出来なかった。		
2713	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5歳以上児クラス	21								3	3	5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	十分配慮したつもりであったが、草が深かった事と踏んでおいたことで予想されなかった。子どもへの注意喚起がなかった。	河川敷へはよく行くので、予想される危険性について確認する。	1.定期的	12	1.定期的	12	1.定期的	随時	交通安全の危険については予想していたが、草が深かった事と踏んでおいたことで予想されなかった。子どもへの注意喚起がなかった。	1.集団活動中・見守り	河川敷までの交通や車の生きた公園での危険行動について確認しあう。	予め子どもが通る位置を声かけをして、急に体を動かさずとき足を取らないようにする。	1.いつもの様子であった	草むらの上を走っていた。担任のバールンをするよと言ったとき足を取られて転んだ。	3.対象児から離れたところでも対象児を見ていた	全員が見える位置で子どもを走らせ、次にバールンへ声をかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	集団から離れた子どもをばらばらに見守っていた。	安全には気が付かなかったが、急な声掛けで足を止めたこと、露で草が濡れていることなど状況に応じて注意していくことを全職員で確認する。	

2719	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成		4	7				2	2.2歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	前歯上3本のくらし	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	12	2.基準配置	保護者が迎えに来たため、安心して目を離してしまっていた。 職員間で安全について話し合い、安全面の見守りについて確認した。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	室内に子どもが走らなくなった。 室内環境を走り回らなくなった。 保育士が保護者から来て安心していた。 保護者が迎えに来たにもかかわらず、安心して目を離してしまっていた。 1.いつもの様子であった		3.対象児から近距離で見えた	量と床に置かれていた保育士の手で他児の手遊びをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見つけた(至近距離にいた)	量の上で年齢の小さい子どもも付いていた。	保育士が保護者から来たので、安心して目を離してしまっていた。	保護者が迎えに来たにもかかわらず、安心して目を離してしまっていた。	保護者が迎えに来たにもかかわらず、安心して目を離してしまっていた。	保護者が迎えに来たにもかかわらず、安心して目を離してしまっていた。
2720	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成		8	2	6		3	2.3歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足のすねの部分の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	退番の時間帯を、現状2部屋に分けていたところを3部屋に分けて、ゆったりとした環境で遊ぶことを提供するとともに、担当責任者保育士は、その日の保育環境に応じた見守りをしていた。しかし、保育士の見守りが不十分であった。また、床が特におすすめというものはなかった。怪我や事故を未然に防ぐ保育体制が整っていませんでした。	1.定期的実施	1	1.定期的実施	2.不定期実施	1	テーブル等を仕切り目的に使用した場合、十分に安全を確認してから設置し、近くに保育士を配置する。また、床が特におすすめというものはなかった。怪我や事故を未然に防ぐ保育体制が整っていませんでした。	対象児が、外を眺めていたこと、遊びが興味を持っていないこと、子どもが好奇心が持てる保育を提案しなかった。	1.集団活動中・見守りあり	退番の時間帯を、現状2部屋に分けていたところを3部屋に分けて、ゆったりとした環境で遊ぶことを提供するとともに、担当責任者保育士は、その日の保育環境に応じた見守りをしていた。しかし、保育士の見守りが不十分であった。また、床が特におすすめというものはなかった。怪我や事故を未然に防ぐ保育体制が整っていませんでした。	退番の時間帯を、現状2部屋に分けていたところを3部屋に分けて、ゆったりとした環境で遊ぶことを提供するとともに、担当責任者保育士は、その日の保育環境に応じた見守りをしていた。しかし、保育士の見守りが不十分であった。また、床が特におすすめというものはなかった。怪我や事故を未然に防ぐ保育体制が整っていませんでした。	職員間の危険予知力向上のため、教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインを用いて、園内研修を実施し、又園外研修も積極的に受ける。また、職員全員が、研修レポートを作成した。また、シミュレーションにもフィードバックする。	職員間の危険予知力向上のため、教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインを用いて、園内研修を実施し、又園外研修も積極的に受ける。また、職員全員が、研修レポートを作成した。また、シミュレーションにもフィードバックする。					
2721	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス		27				6	5.3歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	頭蓋骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	必ず、保育者が補助をしながら遊具を使用する	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	基礎部分のすりや、砂が流れないように改良を加えた。また、設置部分の小面積とし、砂が漏れた場合でも基礎部分が露出しないように改良を加えた。	1.集団活動中・見守りあり	保護者の参観ということもあり、落ち着いた様子があった	2.対象児の近距離で見えた	対象児は見ていたため、他児の対応を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見つけた	保護者、上り棟の近くにいる職員と監視を任せて、砂場等での遊び他児への対応を行っていた	保護者に任せず、担当職員間でしっかりと連絡を取り合い、監視、補助体制を整えていく	保護者に任せず、担当職員間でしっかりと連絡を取り合い、監視、補助体制を整えていく			

2722	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	66	6	11	13	18	18	18	15	5歳	2.女児	5ヶ月前に起きた怪我に同じ足で剥離骨折だった。前回に比べ、小さな骨が離れているため、治らななければ中学生高校生でも手術をうけないと病院で言われた。また、捻挫をしやすくなっていることだった。	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	(左足踵辺り)剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	運動会という行事があることで気持ちが浮かれています。身体が寝ているところも考えられ、普段以上に注意する	午後からの時間は、30分でもよいので、身体を横にして休む時間をとります。	1.定期的実施	2	1.定期的実施	4	1.定期的実施	2	部屋での遊び方や片付け方がマンネリ化しないようにする	部屋での玩具の出る方、遊び方、片付け方をもう一度確認する	3.個人活動中・見守り	片付けをしない遊んでいる子どもに対して、しっかりと話をし、片付けを促す	1.いつもどおりの様子であった	午前中、運動量が多かったため、疲れもあつたかもしれない。	3.対象児から離れたところで見守っていた	子ども達で遊ぶかを確認した	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	室内には、担任と支援児の代わり、2名の加配保育士が入って、子ども達の行動を確認していた	人的環境が変ったことあり、子どもが話したいことを話せるように配慮する	人的環境が変ったことあり、子どもが話したいことを話せるように配慮する
2723	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	85	7	11	12	23	32	19	10	4歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	左右A外傷性亜脱臼、左右A外傷性歯の破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1	1.基準配置	事故防止に関する研修会にはできるだけ参加するようにし、参加できない職員に対して研修会報告を実施し、事故防止に対するスキルアップに努める。		1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	2.不定期実施		当日は、雨が降っていて階段もぬれていたため、滑り止め防止策も高くとられる。	手すり等の設置または、滑り止め防止策を図る。	1.集団活動中・見守り	以上児のクラスの子も連日、この度の事故の報告をし、安全な階段の上り下りについて考えさせ、ケガをしないよう保育者と一緒に確認する。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の近況を確認していた	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	階段の途中で職員がついて、安全に上がれるよう配慮し、もし転んだ場合介助できるようにする。				
2724	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	16						3	3	2歳	1.男児	散歩に出る前は曇り空で時折小雨が降っている状態。雨が上がり、台間を見て散歩であった。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1-2	2.基準配置	予測しない状況に直面したときにその状況を察知し、安全に配慮を行えるように保育者ができることに留意して、園内研修の中でスキルアップをはかりたい	天気よっての活動の臨機応変な対応ができたこと、複数で保育している中で子どもが転倒した際の対応が鈍かったこと	朝方、雨が降っており車が濡れている状況であった。山の上で走っていた事、走って遊んでいた子どもたちに対しての保育がきちんとしていたこと、複数で保育している中で子どもが転倒した際の対応が鈍かったこと	1.集団活動中・見守り	朝方、雨が降っており車が濡れている状況であった。山の上で走っていた事、走って遊んでいた子どもたちに対しての保育がきちんとしていたこと、複数で保育している中で子どもが転倒した際の対応が鈍かったこと	1.いつもどおりの様子であった	もともと児童で遊んで意欲的ではあるが、体の力と気持ちは一致せず、転倒したりぶつかったりしがちであり、この日は探索遊びをしていて、走り回る遊びに転換していった。	はじめは本見ともで遊んでいたが、その中の子が探索遊びを始めたため、その子を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	山の下で別の遊びをしていた保育士が、本見ともで遊んでいたが、その中の子が探索遊びを始めたため、その子を見守っていた	現地について、状況把握をし、安全な体制で保育を展開できるように保育者同士の確認や声掛けをしながら、また、探索などでの遊びが分岐する際に、お互いの保育を気にしながら行う。									

2725	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先公園等) 7.異年齢構成	35	11 14 10	6	4.5歳	1.男児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 右橈尺骨遠位端開放骨折 1.遊具等からの転落・落下 1.あり 2.不定期実施	4	公園内の危険箇所が職員全体で共有されず、職員個人判断になっていた。 公園内リスクマップを作成し、危険箇所を明確に示し、共有し、事故防止に取り組む。 1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	落下地点で雲梯の高さ192センチメートル、非常に高さのある雲梯であった。 3.個人活動中・見守り 子どもの身長と遊具の高さを十分に配慮して遊ぶ。遊ぶ際は、安全を確保し、適切な補助ができるようにする。安全な環境は、遊ぶことを止める。 雲梯で遊ぶ際は、直接身体を支え、または胴回りに手を回り、緊急時にはすぐに周囲の身体を支えらるるよう補助する。 1.いつもどおりの様子であった 事故発生日、就学時検診のため給食後の降園予定であったが、興奮する様子もなく、いつも通り過ごしていた。 対象児とマンツールの状態(対象児に接していた) 落下等の緊急時もし、すぐに胴回りに手を回し、手を添える等おろす。落下する当をささぐることができた。 2.担当者・対象児の動きを見なかった 滑り台は、砂場を挟んだ反対側であり、雲梯の角度とあり、見ることができなかった。 ・園外では、5分散して遊ぶ場合は、緊急時を考慮し、職員配置や遊びの設定をする。緊急時を含め、非常動職員が1名と非常動職員で遊んでいて、緊急時にすぐに対応できるようにする。 ・園外の遊具で遊ぶ場合は、園児や保護者の目線を確保し、落下時の対応ができるようにする。 ・子どもの様子を確認し、必要に応じて適切な対応を行う。 ・子どもの様子を確認し、必要に応じて適切な対応を行う。
2726	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	25	13 12	4	4.5歳	1.男児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 右上前骨 上腕骨顆上骨折 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 2.不定期実施	随時	職員が感ずる危険(怪我)対応マニュアルを熟知し、対応できるようにする。 全職員が、危険を察知し、対応できるようにする。 1.定期的実施	12	1.定期的実施	13	1.定期的実施	12	「事故防止のための取り組み」のチェックリストをもとに職員で確認し、見直しをする。(天気が晴れて、地面が乾いていたら、水をかけ、濡らした状態を維持する。) 1.集団活動中・見守り 濡れた洗い靴が合っていたことが考えられる。 子どもの足に合った靴を履き、適切なサイズの靴を履き、保護者や子に伝える。 1.いつもどおりの様子であった いつもどおりの様子であった。 4.対象児の動きを見なかった 対象児に背中を向けた状態で、他児の集団遊子を見つけた。 1.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)		
2727	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	37 0 0 0 4 13 20	3	3.6歳	2.2女児	次の日の行事のため午後の一画にテントが設置されていた 1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 右肘の骨折(医師からの「医療の状況」が出ているので正しい診断名ではない) 3.子ども同士の衝突によるもの 2.なし 3.未実施		事故予防のために、ヒヤリハット報告をして、保育士の配置を見直す。 安全な保育体制、保育士の配置について見直す。 1.定期的実施	12	1.定期的実施	0.5	2.不定期実施	4	いつもと違った環境にある場合は、子どもの動きも変わってくるので、いつも以上に注意が必要であることを共通理解する。 3名の配置ではあったが、年長児より小さい子が目が行っていた。全体把握できなかった。 3名のうち1名は全体を見回すことが出来るよう役割分担を徹底する。 1.いつもどおりの様子であった 仲の良い友達と鬼ごっこ遊びと身体を動かすことに走り出した。 4.対象児の動きを見なかった 年長児は理解力も高まっているので、年中児ほど見守りや対応率が少なかった。 2.担当者・対象児の動きを見なかった 担当職員以外はその業務に当たって見えていない。 3名の保育士が保育に入る合同の保育の場合、全体を3名で把握できる状態にしているが、危険な動きの多い年中、年少児が多いのでそちらに向いてしまった。			

2736	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業-午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	23	0	0	0	8	6	9		6	53歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘外側の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	3	1.基準以上配置	これまで事故が起きたことから、保育環境では、遊具の設置が適切でなかったと反省している。	止に努めていく。また、どんな場所でも怪我が起きないように保育者が高い意識を持って、園内研修で保育の仕方を見直し、一人ひとりが緊張感をもって保育に挑めるようにする。さらに、運営の保育士の出勤時間を見直し早めるようにした。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	2.不定期実施	2-3	その為、ホール全体が狭くなった。子どもは環境に慣れておらず、通常の保育環境では、跳箱、竹馬、ボール、鉄棒、フープなど置き場所がなく、ホールの隅に置いてあった。	が使用できないことから、事務所の跳箱を一時移動した。発表後、物量の整理をし、跳び箱など子どもが勝手には困るような置き場所を可能限り確保する。	小ホールにもはなされた。他の子どもも同じように返すことから、保育士は壁側に置いてあった跳び箱を出した。子どもは跳び箱を壁側に戻すのではなく、他の子どもと相手をしつづけていた。	い、出来た。あれはそこで遊ばせたい。遊具や遊びの組み合わせが適切か、発達しているか、量はどうかであるかを考え、保育者は自分が見えない量の遊びをさせない。子どもたちが落ち着かなくなったら、早めに片付け、一度遊びを中断する。片付けを片付けてしまえば、子どもを落ち着かせる。子どもを落ち着かせるから遊ぶ。	子を見ていた。4・5歳児が跳び箱からいなくなり、跳び箱が開いたので本児もチャレンジャーした。しかし、飛び降りたと思われ、3・4歳児と一緒に参加できなかった。4.対象児の動きを見ていなかった	がっている間、わらわら笑っている他の子どもに対してボールを打って見せようとした。保育士は、跳び箱に子どもが来なくなると、注意の為にその場を離れ、何度もやめようとした。しかし、声が行き届かず保育士への切り返しがなかった。その最中に、本児が跳び箱に上った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	運番の出勤がなかった。	保育士は普段通りの声が出たので、保育士は、子どもへの安全な最優先し、配りに努め、保育士が見えやすい位置に立ち、子どもの遊び相手をするようにした。	
2737	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5歳以上児	25					25		2	2.5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手関節部、橈骨若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	6	1.基準以上配置	引き続き、職員間での事故防止等に関するマニュアル等の周知徹底を図るとともに、定期的な研修を実施するなど、事故防止対策に講じる。	引き続き、職員間での事故防止等に関するマニュアル等の周知徹底を図るとともに、定期的な研修を実施するなど、事故防止対策に講じる。	転倒しやすい箇所や危険箇所を十分把握し、安全確認を行う。園児を通行させない。また、走らせないなどの対策を講じる。	少し下り坂となっている不安定な地面を園児が走った。	1.集団活動中・見守りあり	集合の合図により、保育士の方を走って向かった。	2.対象児の動きを見ていなかった	2人の保育士のうち1人が集合場所となっていたため、命令ととも走ってきた園児を見つけた。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう1人の保育士から子どもについて移動していた。	職員のうち位置を十分確認するとともに、園児の転倒等による怪我や幅広の時期に限り予め止め事故が防げるように、各職員が注意を払いながら心掛ける。								
2738	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	6	夕方(16時頃-夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	13					13		1	1.3歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	下腿骨骨折(脛骨)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	引き続き、職員間での事故防止等に関するマニュアル等の周知徹底を図るとともに、定期的な研修を実施するなど、事故防止対策に講じる。	引き続き、職員間での事故防止等に関するマニュアル等の周知徹底を図るとともに、定期的な研修を実施するなど、事故防止対策に講じる。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	状況から本児はイスから跳んだと思われる。椅子の高さは、幼児用の高さ29cmである。	椅子は、活動の自由遊びや集団活動など必要に応じて室内に置かれないこととする。	椅子を室内に寄せたが、保育士が見ていないときに椅子に乗ったと思われる。	椅子に飛んで降りないなど、危険が生じそうな場所や使用方法に対する園児への声かけを再度徹底していく。	午睡を取っていたが、おやつも食べなかった。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	4.対象児の動きを見ていなかった	他の園児間の喧嘩を行ったため、本児の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスで遊んでいた。担当保育士以外には配置してなかった。	事故当時、担任の園児の喧嘩に入ってしまったため、現場での死傷を未然にするために、保育士間で連携を十分取り、必要に応じて別のクラスの保育士を一時配置するなどの措置を講じた。また、事故の再発防止のため、各クラスにメラを設置することも今後検討する。

2739	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・家庭等) 3.2歳児クラス	9	9	3	33歳	2.女児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) モンテジリア脱臼骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり	1.定期的実施 2-4	1.基準以上配置	走りながら少々興奮気味で遊んでいると、年齢的にも転ぶ等、ケガのリスクが高まるのを想定し、一旦ケルダウンさせ、安全な方法で走る遊び(また遊び)に移行するなど工夫が必要だったと考えられる。	1.定期的実施 12	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	48-60	テラス遊びでは、ハード面においては考えられる要因はなし。	特になし	1.集団活動中・見守りあり	テラスでは全体を見守る保育士と、他の子どもに対する保育士がおり、環境面では考えられる要因はなし。	特になし	1.いつも活発な様子であった 2.いつも活発な様子であった	いつも活発な様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士のうち1名は走り回っている児等を含めていた。本児が転んだで重く向こうが、本児に転んでしまった児を未然に防ぐことができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	走り回ったり遊んでいる児等を見守りつつ、他の遊びをしている児等を中心に対応していた。本児が転んだで重く向こうが、本児に転んでしまった児を未然に防ぐことができなかった。	追いかけたり遊んだり遊んでいる児等を見守りつつ、他の遊びをしている児等を中心に対応していた。本児が転んだで重く向こうが、本児に転んでしまった児を未然に防ぐことができなかった。	一旦子ども達をクールダウンさせる必要があったと考えられる。追いかけて遊んだり遊んでいる児等を見守りつつ、他の遊びをしている児等を中心に対応していた。本児が転んだで重く向こうが、本児に転んでしまった児を未然に防ぐことができなかった。	一旦子ども達をクールダウンさせる必要があったと考えられる。追いかけて遊んだり遊んでいる児等を見守りつつ、他の遊びをしている児等を中心に対応していた。本児が転んだで重く向こうが、本児に転んでしまった児を未然に防ぐことができなかった。
2740	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・家庭等)	20	2	2.5歳	1.男児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 3.体幹(首・腹部・臀部)	2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり	2.不定期実施 3程度	1.基準以上配置	怪我等があった際ケース会議で振り返る。	1.定期的実施 12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	園庭の点検を今表以上で行う。	1.集団活動中・見守りあり	園庭の点検を今表以上で行う。	鬼遊びをたしなむに気がついたら子どもたちを集めて、主体的に始めた。	1.いつも活発な様子であった 2.いつも活発な様子であった	鬼遊びをたしなむに気がついたら子どもたちを集めて、主体的に始めた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	外に出てから、普段通り遊びながら危険な遊びなど、約束を始めた。鬼遊びの様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	鬼遊びの様子を見守っていた。	普段と変わらずに遊んでいても予測不能な事故が起る可能性があることを認識し、気を引き締めて保育に従事する。		
2741	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	26	5	5.5歳	1.男児	2.室内活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指)	2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり	2.不定期実施 4	1.基準以上配置	研修など行っているが、所外に出たときの子どもの動きを予想できていなかった	1.基準以上配置	所外に行くとときには、事前の計画や子どもの動きについて共有する	1.集団活動中・見守りあり	いつもと違う環境であったため、慣れない環境での見守りに注意して取り組んでいく	3.いつも活発な様子であった(理由を記載)	所外保育時で室内遊具のマットスペースで遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	マットスペースのコーナーで対象児を含め、筒状クッションの中に入りマットスペースに転倒した。	2.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれが分かれて各コーナーを見守っていた。	特になし	いつもと違う環境の中では、気持ちは開放的になり、けがにもありうる。至近で見守ったり、けがにつながりそうになる行為と思われる場合は、声をかけていく								
2742	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・家庭等)	22	3	3.4歳	1.男児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 5.下肢(足・足指)	2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり	2.不定期実施 11	1.基準以上配置	マニュアルがあり、研修もしているが、午後の見直しをし、子どもの様子を確認	1.定期的実施 12	2.不定期実施 4	2.不定期実施 6	行事前だけでなく、定期的な所庭を整地していく	1.集団活動中・見守りあり	定期的に所庭を整地	特になし	特になし	1.いつも活発な様子であった 2.いつも活発な様子であった	ボールを転がして遊んでおり、自分がボールを投げたところからボールを飛ばした時、バランスを崩して転んだ	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任2名が児童22名をみていた。児童1名が行ったため、所庭の真ん中で転んだ本児をトイレスからみつけた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	認定児の児童に付かず本児の転ぶ様子を目撃した。	特になし	特になし				
2743	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等) 7.異年齢構成	27	14	13	3	2.5歳	2.女児	1.屋外活動中 1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指)	2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり	2.不定期実施 2	2.基準配置	マニュアル作成の手引きに基づいて法人独自のマニュアル作成途中だった	2.不定期実施 3	2.不定期実施 10	2.不定期実施 10	2.不定期実施 10	発生場所の一部に立ち入り禁止の場所があり、普段より活動可能なスペースが狭くなった	活動可能なスペースが狭くなったので、4.5歳児という年齢と人数を考え、遊び方を検討すべきであった	1.集団活動中・見守りあり	幅15mのところを全員の足が並ぶことができなかった	かけっこをする時の人数配分を考えた。かけっこの方法を検討すべきであった	1.いつも活発な様子であった 2.いつも活発な様子であった	いつものように、積極的に参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育従事者2名がスタート地点の近くで園児を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育従事者3名のうち1名は園児の目を離していた。	特になし	特になし	

2752	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	43	18	25	2	2.6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	15	2.基準配置	加速と、急転は園内ハットの事例から、年長児の主な事故原因となっており、折に当たって職員相互で注意を喚起している。バランス感覚の醸成	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1~52	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	当該遊具がやや入るも一因	遊具ゾーンのゾーニングがあってもよい	1.いつもの様子であった	機嫌よくいつも通り遊んでいた。	3.対象児から対象児を見ていた	対象児から対象児を見ていた。特に危険は感じなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	4.歳児担任1は、別の遊具の傍で、クラスを見守っていた。他の職員もそれぞれ見ていた。	プールの職員配置の面では、移動見守り・ホーム見守りをするようにする。	定点見守りではなく、移動見守り・ホーム見守りをするようにする。	
2753	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	33	0	11	8	7	7	4	4.2歳	2.女児	当該事故については、左人差し指を挟んだ後に冷やすなどの対応を行ったが、その後は痛がる様子もなく遊んでいた。お迎え時の連絡と家庭でも様子を見ることができた。指先の痛みがとれぬ。日に受診レントゲンを撮る。結果「骨折」であったことが判明するが、事故発生時、治療に要する期間が30日以上と判断できず、第1報に時間を要した。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第2指先骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	公園側の出入り口からトイレに向かう園児を見届けながら、トイレから帰ってくるのを出入り口付近で待つ。園児が帰ってきたとき、ドアを閉めようとした指が挟まりそうだったのでドアを止めようとしたが、閉まる方が早くなかった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	ドアに指を挟むという意識はあつたが、その具体的な対策がなかった。	1.集団活動中・見守り	ドアの開閉時、場合によっては事故につながることを園児に理解させた。	園児に対して安全に遊ぶためのルールを再確認すると共に、保育者同士が連携を取り合い、安全に遊ぶ保育環境を整える。	1.いつもの様子であった	体調に異常はなかった。お迎えの時間におままだと遊んでいた。	事故発生時、保育者が園児が帰ってきたとき、園児がドアを閉めようとした指が挟まりそうだったので、ドアを止めようとしたが、閉まる方が早く止まらなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	公園で活動中の他の園児の保育にあつた。	保育者は、トイレに向かう園児の近くにはいたが、他園児の活動を見守りできなかった。目と声で反応したが、ドアを止めるという行動が間に合わなかった。	ドアにクッションを挟むなどして、園児の出入り口に近づくと、園児が公園側の出入り口に近づくと、保育者が近くにいることを確認し、ドアを止めるという行動が間に合わなかった。
2754	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	39						32	32.5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首関節内骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	午後の戸外遊びでは、グループ遊びでの葛藤や子どもの疲労感が見られる場合がある。	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施	24	冬であり、発生は枯れたため比較的活発な動きが少なく、走りやすい環境である。	芝が伸び、足元が滑りやすいため、活動しやすくなる。	遊びの提供は話し合いながら、約束事は決めて、危険なく遊びが楽しめるようにしている。	1.いつもの様子であった	いつもの外で砂場やかけっこをしていて、1人で走っている際に足を滑らせた。転ぶことはなくバランスを崩したとのことであった。	バナナおにとトッチポ、砂場遊びの見守りをしていて、本児が足をひねったところは見なかった。本児は違和感を感じず保育士・友達にも話さなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	複数担任であるため、一緒にいたが、おまおに担当児をみており気がついた。	日々と変わる動きであったが、きめ細やかな観察ができて、早く気づくことができた。	日々と変わる動きであったが、きめ細やかな観察ができて、早く気づくことができた。			
2755	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	37	9	18	10	4	4.5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折、左肩挫傷、左手関節挫傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	48	2.基準配置	職員の人数より、使用する固定遊具が多かった。	1.定期的に実施	292	1.定期的に実施	292	1.定期的に実施	292	定期的に見守りを実施する。	1.集団活動中・見守り	一番低い鉄棒の下にマットが敷いていなかった。	一番低い鉄棒の下にもマットを敷いた。	1.いつもの様子であった	園庭で遊んでいた。鉄棒に興味を持ち始め、自分鉄棒をしようとした。	2.対象児の動きを見ていた	高い鉄棒の手助けをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	ジャングルジムの傍で遊んでいた。砂場で遊んでいる子に対して対応をしたら、見えていなかった。	鉄棒が大事故につながる遊具であるという職員の意識が低かった。	鉄棒は1対1で行う。園児の発達に合わせた適切な補助の仕方を職員員間で確認し合う。	

2756	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 5.4歳児クラス	24								2	2.5歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右上腕骨折	5.他児から危害を加えられたもの 1.あり	1.定期的実施	1		4歳児クラスの保育やその日の位置を全体職員会議にて分析を行う。 ・友達との遊び方に、ふざけたり身体を触るような行為が見られたときにはすみやかに止め、違う遊びに誘導していく。 ・園舎内での事故や怪我を分析し、安全点検を行う。	4歳児クラスの保育やその日の位置を全体職員会議にて分析を行う。 ・友達との遊び方に、ふざけたり身体を触るような行為が見られたときにはすみやかに止め、違う遊びに誘導していく。 ・園舎内での事故や怪我を分析し、安全点検を行う。	1.定期的実施	1	1.定期的実施	4	1.定期的実施	4	ウッドデッキが1、2階にある。	・床にクッション材を敷いたり、デッキの境目の凸凹を平らにするなど、新たな事故や怪我につないないように配慮する。 ・園舎内での事故や怪我を分析し、安全点検を行う。 1.集団活動中・見守り 身体は大切やすいという話を折って話してきているが、遊びの中で触れ合わせる遊びが見られたとき、男児は限界を超え、なかなか止まらないうえに、遊びに誘導しにくい。 ・必ず二人での保育体制を整えていく。 ・友達との遊び方に、ふざけた行為が見られるように止まらないうえに、遊びに誘導しにくい。 本児は右腕を押し、状況を他児に転がされてきたこと。痛がる腕を確認する。グーパーは、腕を前方から頭上へ上げようとした際に腕が不自然に反ったため、それ以上動かさないと告げて園長と主任で連絡する。	1.1.いつでもおりの様子であった 3.対象児から離れたところで見えていた 2.担当者・対象児の動きを見なかった サブ保育士6名が保育室で遊びをしていました。 担任は2名いたが、プールデッキと保育室に分かれて保育をしていました。 片付けなどの場面の切り替えの時は、子どもは外見より十分留意することへ、子どもたちへしっかりと伝え、危険のないように保育する。
2757	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	11								5	4.4歳	2.女児			1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右上腕骨折 8.その他	1.あり	2.不定期実施	2		引き続き、定期的な安全点検を行い、事故防止を図る。 引続き、定期的な安全点検を行い、事故防止を図る。 園の事故防止について、全職員で確認を行う。 マニュアルに沿っての遊具使用時の研修が十分ではなかった。	引続き、定期的な安全点検を行い、事故防止を図る。 引続き、定期的な安全点検を行い、事故防止を図る。 園の事故防止について、全職員で確認を行う。 マニュアルに沿っての遊具使用時の研修が十分ではなかった。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.集団活動中・見守りあり 戸板に登って降りることや、指を添えていたが、本児が降りた際に手が滑り、指を添えていた。 必ず足から降りるなど、安全使用方法について指導を徹底する。 1.1.いつでもおりの様子であった 戸板の取り組みに意図的に挑戦する様子があった。 対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた) 飛び降りるまでは、手を添えていたが、本児が降りた際に手が滑り、指を添えていた。 1.担当者・対象児の動きを見つけた(至近距離にいた) 2.対象児の動きを見つけた(至近距離にいた)	必要な子には指を添える補助を行い安全に努めるなど、子どもの特徴を再認識し、一人ひとりの発達に応じた援助を全職員で共通理解するとともに、危険が発生しそうな場面を幅広く予期し、十分に注意を払いながら動くよう各職員が安全意識を高く持つ。	
2758	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1								1	1.5歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	骨折	1.あり	2.不定期実施	1		園の事故防止について、全職員で確認を行う。 マニュアルに沿っての遊具使用時の研修が十分ではなかった。	園の事故防止について、全職員で確認を行う。 マニュアルに沿っての遊具使用時の研修が十分ではなかった。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	遊具の使用の危険な遊び方を、職員間で統一されているかの確認不足。 すべり台のあるプレイルームは、子供が勝手に入り込んでしまっているか、鍵は対象児(加配児)の届く場所であった。 鍵の場所を確認する。 1.いつでもおりの様子であった 対象児(加配児)は、折り紙に参加できず、他児の紙飛行機を壊し、プレイルームへ入った。 すべり台の側で、転下を脱く、危険な場所に乗らないうえに、声かけを待たず、一度やめたが、急いでそのまま滑って落ちてしまった。うが間に合わなかった。 対象児(加配児)の自由遊び中であつたが、午前の発表会の練習中であつたため、見ていなかった。 対象児(加配児)の自由遊び中であつたが、午前の発表会の練習中であつたため、見ていなかった。	定期的に行っているケース会議を全職員で把握できるような、周知の仕方を変えていく必要がある。	

2759	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	11	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	23	0	10	0	0	1	12	0		4	4	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	3	2.基準配置	会議や朝礼で情報共有しマニュアルの再確認を行う。年齢ごとに子どもたちにあそび方や約束を再度伝え、理解を促す。	1.定期的実施	15	1.定期的実施	16	1.定期的実施	15		鉄棒の下に衝撃吸収パターを敷いているが、鉄棒を始める前と周辺に物がなければ、ラバーにめくれが確認する。	1.集団活動中・見守り	特になし	1.いつもの様子であった	鉄棒がしたいと申し出て見守りながら前回は戻らなかった。	2.対象児の近所で対象児を見ていた	本児の鉄棒を守っていたが、そばにきた子どもの話に反応し、空を見上げて目を離れてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	他児の見守りをしていて、	日頃からの約束通り、子どもも鉄棒がしたい旨を保育者に伝え、保育者もすぐそばに付き添い本児の取り守っていたが、他児の声を聞き、目を離してしま、落下することができなかった。	いつでも対応できるよさ、目を離さない、目が離れると、その旨子どもに伝え待つよう。日頃より、固定遊具の傍に保育士が遊具を見守っている意味を子どもに伝え、理解してもらおう。
2760	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	33									28	28	5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	午後の戸外遊びは、子ども達の遊びの様子を把握し、職員の見守りや、子ども達の様子を見守り、安全な遊びを促す。	1.定期的実施	24	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	戸外の築山とフェンス間が狭くなっている。	職員の見守りにより、子どもの動きを事前に察知し、安全な遊びを促す。	午後からの戸外遊びは、解放感も活発になる。鬼ごっこからは、園庭と走りまわっていた。	遊びの約束事、子ども達の動きを再確認し、職員で見守り、安全な遊びを促す。	1.いつもの様子であった	午前中は、生活発表会をした。午後からは、園庭で友達と走りまわっていた。	保育士が子ども達と鬼ごっこを遊んでいる姿を見ていたが、築山とフェンス間に逃げこんでいる様子が見えなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	戸外遊びは、視野が広く動きがみれなかった。	子ども達の遊びの様子を職員で見守り、安全な遊びを促す。				
2761	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	37			14	12	11				3	2	5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	12	1.基準以上配置	職員・臨時職員・保育助手へマニュアル・ヒヤリハットの周知	1.定期的実施	24	1.定期的実施	24	1.定期的実施	1	鉄棒の下に敷いてあるマットでは怪我がなかった。	下に敷いてあるマットの検討。	1.集団活動中・見守り	配置基準以上の保育士、保育助手を配置しているため改善策はなし。	1.いつもの様子であった	特に変わった動きはなかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	屋外で園庭全体を覗いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	3.歳児につき職員、保育助手が他児に見守っていた。	助けられる距離に保育士はいなかった。本児が鉄棒使用時手を滑らせた。		
2762	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	24	0	0	0	9	6	9	0		3	3	5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	事故予防マニュアルを作成し今後研修を行う。	1.定期的実施	48	1.定期的実施	48	1.定期的実施	48	室内で走らないよう指導している。	室内では靴下を脱がせ、滑るのを防ぐようにする。今までは室内で活動するよう促す。	1.いつもの様子であった	普段と同じ時間帯に特別活動をしていく。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	激しく走り回っている。追いかけていくのは難しい。園庭も含めて対応していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	夕方の帰宅する園庭もいる時間帯であり、多量にいたため、他の園児も見ていた。	室内の遊具、どこに誰が居たら良いか配慮し、立ち位置、言葉かけを見直していく。					
2763	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	18									2	2	6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	24	1.基準以上配置	正規・非常勤保育士だけでなく、職種を問わず、臨時職員も合わせた全職員で事故予防についての情報共有に努める。	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	毎朝の点検、定期的な点検を行うと共に日々の目視点検を徹底していく。	引き続き定期的な点検を行うと共に目視点検を徹底していく。	1.集団活動中・見守り	子どもの年齢や活動によって必要な環境が変わる事を確認する。	運動遊びを始める前には、指先を含めた準備体操を徹底していく。	1.いつもの様子であった	活発な遊びを好む本児は、7人の友達と鬼ごっこ(氷鬼)をしていく。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこには加わらず園庭全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4名の5歳児と5歳児保育室にいた。	困った時に助けを求められ、係を日頃より構築しておく。	

2764	平成 30年 12月 28日	1.認可 6.認可保 育所	11	7.午後	1.施設敷 地内(室 内)	1.0歳児ク ラス	6			2	21歳	2.女 児	2.室内活 動中	1.負 傷 0.負傷 4.創傷(切 創・裂創 等)	顔面(口腔 内含む)	眉間の創 傷	4.玩具・遊 具等設 備の安 全上の 不備も の	1.あ り	1.定期 的に実 施	1	1.基 準以上 配置	園長はじめ職員 の危機意識が低 く、ミルク缶の 危険に気付けな かった。蓋がさ れたミルク缶を 職員が抱え、園 児が座って使用 することを想定 していたが、蓋 が外れること、 園児が立つこと ミルク缶が転が ることや逆さ になること等 想像できてい なかった。 調理職員が保 育室内に入る 際、子どもの 安全確保がで きていなかった。	1.定期 的に実施	12	1.定期 的に実施	12	1.定期 的に実施	12	1.定期 的に実施	2.定期的 に実施	ミルク缶を撤去 する。月1回ク ラス内で安全 チェックを行 っているが、 今後はクラス 外の職員が第 三者の目とし て行う。今ある 玩具につ 年齢に合っ ているか、破 損などない か等の点 検を行う。 今後新しい玩具 を購入する 際、事前に 園長・主任 に相談の 下、導入 する。手作り 玩具を作 成する際、事 前に園長・ 主任に相 談の 下、導入す る。玩具以 外の家具 や小物 (例、フック) を購入す る際も、 事前に園 長・主任 に相談の 下、導入 する。保育 室内の環 境を改善 する。例、 無駄な凹 凸を 作らな い。無駄 な物は置 かない。系 列園で同 じアーク シデン トが起こ らないよ うに、系 列園の園 長会で周 知共有す る。	ミルク缶に保 護をしていな く、そのまま の状態で使 用していた ため、大き な怪我へ とつなが ってしまった。	1.集団 中・見 守りあり	オムツ替 えを沐浴 室で行う 為、沐浴 室近くの 保育室入 口付近で 遊んでいた。	保育室入 口は職員 の出入り があるた め、遊ば ずとして 使用しな い。	3.いつ もより活 動的であ った(理 由を記載)	常に活 動に興 味があ る物 に入 ると すぐ にそ こに 駆け 寄り た。	2.対象 児の至 近対 見 てい た。	ミルクの 空き缶へ のチェ ーン入 れ、動 物の樹 脂製玩 具で遊 んで遊 びすぎ る。検 温があ ると1 名が なり、 0歳 児5名 と一 緒に玩 具を片 付け る。調 理職員 が入 るにつ き、パ ーティ ョン の園 児の 離れ るよ うな 声か けさ す。	1.担当 者・対 象児 の動 きを見 てい た(至 近距離 にいた り)	保育職員1 名、他 児の 検温 を し て い た。 (膝 に 座 ら せ た 状 態) 調 理 職 員 1 名、 保 育 室 内 に 入 り、 パ ー ティ ョン の 園 児 の 離 れ る よ う な 声 か け さ す。	歩行は安 定してい るが、咄 雑の状 況の時 、声の 誘導が あった。	誘導する 際、体 に手 を添 える 等、 転倒 しな いよ うに 配 慮す る。	固定遊 具の 安全 性に 過 保 守 が 必 要 である。
2765	平成 30年 12月 28日	1.認可 6.認可保 育所	11	2.午前中	2.施設敷 地内(室 外・園 庭・校 庭等)	7.異年 齢構 成	32 1 8 9 14	6	65歳	2.女 児	1.屋外活 動中	1.負 傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢 (腕・手・ 手指)	左肘頭骨 折	1.遊 具等 から の転 落・ 落下	1.あ り	1.定期 的に実 施	3	2.基 準以上 配置	予期せぬ 事態を 想定し た研 修も 必要 である	1.定期 的に実施	1	1.定期 的に実施	48	1.定期 的に実施	48	3.個人 活動 中・見 守りあり	固定遊 具の 安全 性に 過 保 守 が 必 要 である。	1.いつ もど か り の 様 子 あ った	固定遊 具 (その の乗 り物 高さ 約65 cm)に 乗 る う ち 、左 手 が 体 の 下 敷 き な ら ず、 上 り 棒 で 遊 び つ つ た。	4.対象 児の 動 き を見 てい な かった	2.担当 者・対 象児 の動 きを見 てい な かった	対象児の 近くにい たが他の 乳児につ いていた ため転倒 後に気が 付いた。	固定遊 具の 安全 性に 過 保 守 が 必 要 である。										

2766	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・教室等)	5歳以上児	22			3	3歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右四指中節骨骨折	3.子ども同士の間突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	今回の事故報告を職員間で周知、対応の振り返り等を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	今回の事例ではあてはまらないと考える。	1.集団活動中・見守りあり	他児3名と保育士1名は、保育室で製作あそびをしていた。	園庭には他の学年も使用していない時期等があったこと、あそびの環境(コート等)も十分確保できたが、今後ともあそびに適切な環境を考慮する。	1.いつも通りの様子であった	ドッジボールのルールを理解しておいた。	2.対象児の至近で対象児を見つけた。	子ども達の理解や、あそびの進捗に応じて対応できるよう見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		子ども達の様子や保育の状況に応じて、安全を第1に考え行動できるよう、保育士間で確認を深める。	
2767	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・教室等)	7.異年齢構成	35	7	10	18	9	9歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腰部)	右鎖骨不全骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	職員間で今回発生した事故について情報共有するとともに、事故の状況を分析し、再発防止に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	今回の事故に関して、施設・設備はなく、改善の必要はない。	1.集団活動中・見守りあり	遊ぶ前に、遊具周辺に危険な箇所がないかを、遊具が子どもに当たるのを確認する。子どもは、声かけや声かけを介助する。	1.いつも通りの様子であった	元気に登所していた。	2.対象児の至近で対象児を見つけた。	クラス全体の動きを見ていた。対象児の動きも見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	対象児を含めてクラス全体を見ていた。	遊具で遊ぶ際には、職員を介助する。子どもも介助や声をかけながら実施していく。職員同士で声をかけ合い、安全を確認する。	
2768	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	11	夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	5				2	11歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腰部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	・体操をしていた子とそうでない子がお互い、それぞれが遊べる環境作りが不十分であった。 ・1歳児はまだ身体が未熟であることなど意識・危機管理が不十分であった。 ・片手に玩具を持ちながら遊んでいた状態が、それが遊べる環境作りが不十分であった。 ・片手に玩具を持ちながら遊んでいた状態であった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	4	・活動によって、区切って遊ぶようにするが、今回のような状況下では区切りがなく、見通し良好に保って行く。 ・ついたてを利用して遊ぶ際に、便座が狭く、2つの活動を把握しづらい状況であった。	1.集団活動中・見守りあり	・体操をしていたが、遊びが移りまわることによって、片手に玩具を持って遊ぶようにするが、今回のような状況下では区切りがなく、見通し良好に保って行く。	1.いつも通りの様子であった	・体操をしてきたグループで遊ぶため、他の部屋をみていた。	・部屋を分け2グループで保育していたため、他の部屋をみていた。					
2769	平成30年12月28日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	20				2	2歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左とう骨近位部骨折、左尺骨近位部骨折、左腕骨遠位部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	5	2.基準配置	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	1.集団活動中・見守りあり	舞台横に階段が設定されていた(日頃は設定していない)	表現練習のため階段が設定されていたが、活動内容によって環境の見直しをする。	1.いつも通りの様子であった	普段どおり鬼ごっこに遊んでいた。	3.対象児から離れたところ対象児を見つけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	遊戯室舞台左側で対象児を含め子ども達が遊んでいた。対象児は転倒する場面からはメートル離れていた。	特になし	特になし

2780	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内) 5.4歳児クラス	23	2	2.5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 5.下肢(足・足指) 右第5中足骨基部骨折 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 1.定期的実施	3	2.基準配置	子どもの行動に伴う危険を予測することが不十分だった。 事故内容を職員会議において報告し、再発防止に努める。	1.定期的実施 12	1.定期的実施 12	1.定期的実施 12	1.定期的実施 12	今回の事故は、子どもが自らくじいたことによる事故のため、ハード面においての改善策は特になし。 体を動かさず遊びでもかかわらず、危険のないように遊ぶための動きを促さなかった。 体を動かさず遊びでもかかわらず、危険のないように遊ぶための動きを促さなかった。 体を動かさず遊びでもかかわらず、危険のないように遊ぶための動きを促さなかった。 1.いつもの様子であった 2日間休んだが、いつものように片手だけで遊んだ後、ドッジボールに参加した。 3.対象児から離れたところで対象児を見ていた 少し離れたところで見ながら、対象児の動きも視界に入っていたが、対象児が足を踏むと気づくことができなかった。 1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた) 全体の様子が見え、対象児の動きが止まることができなかった。		
2781	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	10	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	2	2	2.4歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 5.下肢(足・足指) 螺旋骨折 2.自らの転倒・衝突によるもの 2.なし 2.不定期実施	3	1.基準以上配置		2.不定期実施 12	1.定期的実施 13	2.不定期実施 12	3.個人活動中・見守り 昼ねの準備はしてあり、飛び降りる際は必ず、厚く布団を敷くかマットを使用すること。 飛び降りる際は必ず、厚く布団を敷くかマットを使用すること。 飛び降りる際は必ず、厚く布団を敷くかマットを使用すること。 3.いつもより活動的であった(理由を記載) 午前中の保育(散歩)で鬼ごっこをしようとしたが、そのころから、いつも興奮気味だった。 4.対象児の動きを見ていた 職員は食事の片付け等をしており、本児の様子を確認しつつも、ずっと付いた訳ではない(怪我はみなかった)また、いつも行っている遊びであり、本児は危険な行為をする子ではない為、安心感もあったかと思われる。 2.担当者・対象児の動きを見ていなかった 本児は平時より興奮気味であったが、いつもと違う動きをする可能性があることも想定し、行動を止めようとする必要もなかった。			
2782	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	12	1	1.6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 左手首骨折 1.遊具等からの転落・落下 1.あり 2.不定期実施	3	1.基準以上配置	マニュアル事項をよく理解・把握しておく必要がある	2.不定期実施 6	1.定期的実施 60	2.不定期実施 24	1.集団活動中・見守り 固定遊具に不備は無かったが、地面が乾いていた事で、滑りやすかったため、水撒きなどの必要性もあった 担任は至近距離に位置するべきだった 1.いつもの様子であった 昼食までの時間だったが、外で遊びたいと主張し、女児3人で雲梯でのオリジナル遊びをしようと、目的の場所へ行った。 3.対象児から離れたところで対象児を見ていた 雲梯へ向かったのは確認したが、普段からこなしていたので、それ程心配せず、見守るだけにしてしまっ。そこへ副園長が見えたので、報告事項を話し始めよう。 2.担当者・対象児の動きを見ていなかった 年中の担任と分談せず、行動が重なってしまった。(年一も一組に園庭へ出ていた) 優先順位を考え、園児の動きに合った行動を考えたい。			

2783	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20	7	6	7	4	23歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 上腕骨骨折 5.他児から危害を加えられたもの 2.なし	数回	1.基準以上配置	夕方まで保育士が近くになってやが気持ちは高揚していても考えられる。 本児と相手の子とも仲良しで、日頃からふざけてあつた。事故当時、直前まで保育士がついていて、その場を離れた直後に事故が起きました。今後は予想される子どもの動きに即した保育士の動きや見守りを行っていく。	1.定期的 48	1.定期的 48	毎日	1.定期的 48	48	今回は、遊具も全て片づけたマット上での事故であったが、今後に向けても室内の整理整頓、使っていない遊具の片づけ等は引き続き行う。またふざけようことは危険なことを子ども達にも随時伝えいく。	1.集団活動中・見守り	要支援児には職員に指示するよう判断も必要であった。	危険を伴う行動が予想される。傍を離れないようにする。やむを得ない場合は、近くにいる職員に見守りをしていく。	1.いつもどおりの様子であった。 いつも仲良しのふざけよう姿であった。	4.対象児の動きを見なかった	要支援児の傍にいたため、対象児に背を向けていた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	同じ室内で遊んでいたため、対象児に背を向けていた。	危険を伴う行動が予想される。傍を離れないようにする。やむを得ない場合は、近くにいる職員に見守りを行っていく。
2784	平成30年12月28日	1.認可 6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	46	23	23	4	4	15.3歳	1.男児	1.屋外活動中	2.死亡 6.その他 0.死亡	0.死亡	8.その他 1.あり	2.不定期実施 1	1.基準以上配置	園外保育の見直しを実施し、目的、引率、下見など細部にわたってマニュアルを作成し実施した。 園外保育の選定・下見・ねらい等具体的な計画が十分でなかった。	1.定期的 2	1.定期的 49	2.不定期 3	園外活動での危険個所の確認を怠った。	1.集団活動中・見守り	異年齢での園外保育であったこと、ねらいを明確にし、目的を明確に設定し、保育士全員で安全管理マニュアルを見直し、子どもたちのルールを徹底し、また職員研修を実施する。	1.いつもどおりの様子であった	広場の雑草を他と駆けて遊んでいた。	4.対象児の動きを見なかった	保育士Aは、全体を監視し、数人と一緒に移動しながら遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	保育士Bは、15人程度の園児を引き連れ周辺を遊んでいた。保育士Cは、配慮の必要な園児と遊んでいた。保育士Dは、子どもを見守っていた。	目的地的な場所から、安易に範囲を広げていき、改め注意喚起、保育士間の連携・立ち位置の確認、子どもたちの動静を把握していった。	
2785	平成30年12月28日	1.認可 7.小規模保育事業	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8	4	4	3	3	2歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり	2.不定期実施 2	1.基準以上配置	高さを出さず、テーブルの上に布団を敷いた事による危険を考慮してなかった。 室内でも子ども達が安全にかつ一人ひとりがテーブルの上を歩かせる保育を提供する。今後テーブルの上には布団を敷いて遊ぶことはしない。	1.定期的 300	1.定期的 300	1.定期的 300	高さを出さず、テーブルの上に布団を敷いた事による危険を考慮してなかった。	1.集団活動中・見守り	高さを出さず、テーブルの上に布団を敷いた事による危険を考慮してなかった。	室内でも子ども達が安全にかつ一人ひとりがテーブルの上を歩かせる保育を提供する。今後テーブルの上には布団を敷いて遊ぶことはしない。	1.いつもどおりの様子であった	対象児が遊んでいる様子を見ながら他の着替えに入っていた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	一方通行で転がる事、一人ずつ転がる事、テーブルの上には2、3人しか登らない、という事をその都度声掛けをし、危険を見守る。	普段の生活の中で手が届かない事がある事、一人ひとりが身体に無理のない遊びを提供していく。遊びの中での危険な事をもう一度職員同士で確認する。		

2786	平成30年12月28日	1.認可	7.小規模保育事業	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	15	2	6	7	0	0	0	0	5	5	2歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・臀部)	左側鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	連携施設・環境面に対するマニュアルの理解が不足していた。	当園の児童が連携園で活動する場合の連携施設における遊び場は、3歳児用の遊び場の一部に限ります。散歩等についても決められたコースを在園児のいない時とする。以上を事故防止マニュアルに反映する。	1.定期的	3	1.定期的	3	1.定期的	3	1.集団活動中・見守りあり	連携園(幼稚園預かり園児)と遊ぶ場所が重なることにご注意する。	当園の児童が連携園で活動する場合の連携園内には遊び場は、3歳児用の遊び場の一部に限ります。散歩等についても決められたコースを在園児のいない時とする。	1.いつもおりの様子であった	好奇心旺盛である。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	使用しているそのリアア内には園児が立ち入りしないよう注意したが、一瞬、園児の目を離してしまっていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	遊具近く他の場所の園児と遊んでいた。	園児の動きを全体的に把握する保育士を設け、個と全体の環境に合わない箇所については立ち入らない。	
2787	平成30年12月28日	1.認可	7.小規模保育事業	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)		2							1	1	1	1歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右側骨骨折、右足指捻挫	3.子ども同士によるもの	1.あり	2.不定期に実施	随時	2.基準配置	・玩具を出す際の子どもへの注意が不足していた。 ・ひとりの子どもを配り、動線に配慮して玩具を配置する。 ・子ども同士の衝突を予見した配慮が欠けていた。	・玩具を出す際の子どもへの注意が不足していた。 ・ひとりの子どもを配り、動線に配慮して玩具を配置する。 ・子ども同士の衝突を予見した配慮が欠けていた。	1.定期的	随時	1.定期的	12	1.定期的	随時	1.集団活動中・見守りあり	段差もなく平らな床の転倒が予測可能な子どもの動きを十分理解する必要があった。	子ども連動士が合おう状態を未然に防ぎ、または作り出す配慮する	1.いつもおりの様子であった	保育士が玩具を出す間、座っていた。保育士の高かき遊具の始末が不十分で、遊具の足が踏まれた。保育士が気づかず、遊具の足が踏まれた。保育士が気づかず、遊具の足が踏まれた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	玩具を出し、座ったまま遊んでいた。保育士が気づかず、遊具の足が踏まれた。保育士が気づかず、遊具の足が踏まれた。	1.担当者・対象児の動きを見なかった	玩具を動かす際、保育士が気づかず、遊具の足が踏まれた。保育士が気づかず、遊具の足が踏まれた。	本児は当時1歳10か月。自立歩行が開始されたばかりで、足下が安定しないところが多い。移動する際の保育士の配慮が欠けていた。	子どもの身体機能の発達に合わせて、保育士が適切な距離に配置する。
2788	平成30年12月28日	1.認可	10.事業所内保育事業(認可)	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	21	10	6	5				3	2	3歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	園外の公園で遊ぶ際は遊具を使う前に必ず点検をしてから遊ぶようにしている。また、遊具の点検方法や、危険予知の方法についても、職員が子どもたちに注意を促して遊んでいる。今後は、職員が子どもたちの動きを見守るよう行う。	いつも行き慣れた公園であるが、ゆえに注意を促しても園児たちが注意を促して遊んでいる。また、遊具の点検方法や、危険予知の方法についても、職員が子どもたちに注意を促して遊んでいる。今後は、職員が子どもたちの動きを見守るよう行う。	1.定期的	12	1.定期的	2	1.定期的	毎日	1.集団活動中・見守りあり	公園で遊ぶ前の点検では遊具の不備が確認できなかった。また、遊具の点検方法や、危険予知の方法についても、職員が子どもたちに注意を促して遊んでいる。今後は、職員が子どもたちの動きを見守るよう行う。	遊びたい気持ちに、遊具の点検方法や、危険予知の方法についても、職員が子どもたちに注意を促して遊んでいる。今後は、職員が子どもたちの動きを見守るよう行う。	1.いつも通りの様子であった	友達とブランコを、走り回っている。遊びたい気持ちに、遊具の点検方法や、危険予知の方法についても、職員が子どもたちに注意を促して遊んでいる。今後は、職員が子どもたちの動きを見守るよう行う。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	友達のブランコを、走り回っている。遊びたい気持ちに、遊具の点検方法や、危険予知の方法についても、職員が子どもたちに注意を促して遊んでいる。今後は、職員が子どもたちの動きを見守るよう行う。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	2歳児クラスから5歳児と混合である。4、5歳児の動きやスピード感との違いも考慮して見守りをしてきた。また、園児にもその注意を促すことを行った。また、園児にもその注意を促すことを行った。また、園児にもその注意を促すことを行った。	・3歳児であるので、4、5歳児と混合である。4、5歳児の動きやスピード感との違いも考慮して見守りをしてきた。また、園児にもその注意を促すことを行った。また、園児にもその注意を促すことを行った。		

2789	平成30年12月28日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先公園等)	3.2歳児クラス	60	4	2	0	0	0	0	0	4	3	15.3歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	事故当日、職員と事故防止について話し合いを行い、今後の対策を検討した。その後、全職員(2班に分かれる)と事故防止研修を実施し、事故防止マニュアルの確認と周知を行った。	1.定期的 に実施	2.不定期 に実施	1.定期的 に実施	1.集団活動中・見守りあり	突発的に子供が予測できない行動をとることがあることので、十分に注意するよう職員に注意喚起を行った。	1.いつもどおりの様子であった	元気で体調良好	1.対象児とマンツマンの状態(対象児に接していた)	本児と手をつないでいた	1.担当者・対象児の動きを見て(至近距離にいた)	後ろからついていた	保育スタッフと子供の手つなぎは基本的に1対1でつなぎ、多くとも保育スタッフの両側に子供1人ずつまでとする。また、子供同士の手つなぎを禁止。入園したばかりの園児に対しては、園に慣れておらず、その子の歩き方や特徴等を把握できていないことがあるため、入園後1ヶ月間は保育スタッフと1対1の手つなぎにする。入園したての園児にはベテラン保育士をつけて、1週間くらいは、園児の行動、くせ、性格を注意深く観察し把握する。
2790	平成30年12月28日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	11	2.午前中	2.施設敷地内(室園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	19	3	3	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準以上配置	保育士の配置人数としては、特段の問題はなかったと考えられる。ただし、園庭の活動時の保育士の役割分担が明確になっていなかった。	活動時は、個々の園児を見守る役割を明確にし、保育士同士の連携を取る。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	1.集団活動中・見守りあり	園庭使用時の注意事項が曖昧であり、園児への注意徹底が不十分であった。対象遊具への走り込みについても園児への徹底ができていなかった。園庭内では、追いつこ、遊具遊び、ボール遊び、乗り物遊びなど複数の活動が行われており、活動の動線も混雑していた。	園庭使用時の注意・ルールを明確にし、園児の使用態度を伝える。遊具使用時は走りこまない・順番に並ぶ使用する。遊具の遊び方などまた園庭内においては活動の都度、遊びエリアを区分けし、動線の混雑を避ける。その際使用する玩具も合わせて準備する。	小舎の入口が活動するエリアの方向にあり、園児が走り込みやすい環境であったと考えられる。そのため、走った勢いから開口部外に至る危険がある。	小舎を走りこまないよう、小舎の入口の向きを静の活動エリア向きに変更する。	園庭内には要配慮児が3人おり、それぞれ保育士は、園庭を見守る中心に園児を見守っていたため、他の保育士は対象児から離れた場所において、対象児の動きは見なかった。	対象児が追いつかれ、走って小屋に入るまでは見ていたが、近くに多動の要配慮児がいたため、そちらに視線を移したため小屋の対象児の動きは見えていない。	2.担当者・対象児の動きを見えていなかった	園庭内には要配慮児が3人おり、それぞれ保育士は、園庭を見守る中心に園児を見守っていたため、他の保育士は対象児から離れた場所において、対象児の動きは見なかった。	全体を見守る保育士1名、他の園児の園児を見守る役割を分担する。役割分担については、園庭前で必ず決め、全体を見守る役割の保育士を配置できない場合は、主任保育士または園長が担当する。園庭活動前に遊具利用時のルールを園児に伝える。	

2791	平成30年12月28日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	5	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5	3	1	0	0	0	0	0	3(うち1名休憩中)	3(うち1名休憩中)	9	8	か	1	男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	1.頭部	右の頭頂骨の骨折・帽状腱膜下血腫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	転倒リスクの高い子どもの見守りの際は片手間でなく専任で行うようにする。マニュアルの読み返しを(現在は1か月に1回)毎月行うようにする。ヒヤリハット事例を多く挙げ毎月検証し職員の意識の向上を図る。	最近動きが活発になってきたため、見守りしていたものの他の仕事があったので見守りに際が生じた。	2.不定期に実施	4-5	2.不定期に実施	24	床で直接遊んでいた。	クッションマットを購入し乳児スペース・ベイススペースに敷く。	3.個人活動中・見守り	テーブル付き乳児椅子に座らせようとしたが本児が立って床で遊んでしまった。	落ち着いた頃を見て再座れるよう様子を確認することできず、倒れ転倒リスクを取り除く。	1.いつもの様子であった	この頃動きが活発になり自分で体勢を変えようとした。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	午睡中の子どもを観察しながら本児が倒れておぼろげに倒れた様子を見つけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	午睡中の子どもを観察しながら日誌等の記録を記入しており、気が付くのが遅れた。	起きている子どものいる時での見守りを最優先にする。
2792	平成30年12月28日	2.認可外	17.地方単独保育施設	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2	1	1						2	13歳	1	男児	8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	手首と肘の間の骨を2本骨折。	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	ソフト面の対策としては、同園の職員への周知(掲示および口頭)を行うことと同時に他施設へも同様に実施する。具体的には「施設長会議」にて施設長へ報告により情報共有し、他園へ平衡展開し事故防止につなげた。		1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	今回についてはハード面については不具合はない。	1.集団活動中・見守り	危険箇所確認	3.いつより活動的であった(理由を記載)	保護者が来たことを知らせたこと、突然、はしゃぎながら走り始めた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2Fのドアのインターホーンが鳴ったので、玄関を開けて部屋に戻ろうとした時に本児が走り始めた。抱え取っていた1歳児を下した時に、部屋を見たところを見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園内の清掃、点検等を行った。	迎えに来てくれるうれしさを、興奮してしまつた園児の動きを冷静に受け止めて一緒に待つようにする。			
2793	平成30年12月28日	2.認可外	17.地方単独保育施設	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	1	1	2	1	0	0	0	4	4	3歳	2	女児	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	顔面(口腔内含む)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	約1	2.基準配置	積極的に事故予防に関する研修の参加を行っていき、園内として全職員が危機管理の意識を持っていくようにする。	危機管理に対する意識が低く、何かあった時に対応が明瞭化できていない。	1.定期的に実施	4	3.未実施	1.定期的に実施	4	室内の環境の整理ができていない。	遊具や玩具だけでなく安全環境の設定を日々気をつけていく。ヒヤリハット事例の把握をし、活動に際しての危険意識が低い。	保育室に残る職員をしっかりと見守り、一人ひとりの行動を共に確認していき、声をかけていき、また、職員同士の出発の準備が揃っていない。また、職員同士の声掛けが少なくない。	お迎えが来たため、本児も通りの準備が揃っていた。職員が一人での身支度準備となる。	1.いつもの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	お迎えの職員が行く準備ができていなかった。また、職員同士の出発の準備が揃っていない。また、職員同士の声掛けが揃っていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室に声掛けはしていたが、安全面に関する意識はなかった。また、職員同士の出発の準備が揃っていない。また、職員同士の声掛けが揃っていない。	子どもに対する保育室内の職員配置が上手に出来ていなかった。	保育室を離れる際には声を掛け、配置をしっかりと行っている。また、18時以降は0歳児室に移動し職員が見守れる中で過ごせる。				

2794	平成30年12月28日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17	0	0	0	10	2	5	5	5	3歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	3.体幹(首・胸部・臀部)	鎖骨にひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	マニュアルを見直し、職員間で周知していく。ひやりを活用し、研修に繋げ、職員間での事故予防、対策に対する意識を高める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	今回、設備に問題がなかったが、部屋の広さや子ども数に合わせた保育や職員の見守りを改めて職員間で共有し、事故予防の意を高める。	1.集団活動中・見守り	保育士がボールを子どもに出して遊ばせていた。	ボール数の制限や、3歳児が一人で遊んでいた状態で3歳児、4歳児以上と遊ばせて遊ばせていた。	1.いつもの様子であった	3.対象児から離れたところで見守っていた	対象児のほかに遊ばせていた	2.担当者・対象児の見守りをしていた	子どもの人数、保育士の状況に合わせて保育を改めて職員間で把握、共有する。			
2795	平成30年12月28日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19	2	6	6	5				6歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	1.基準以上配置	事故予防マニュアルの作成	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	湿度が高かったため、床が滑りやすくなっていた可能性がある。	床の状況をチェックし、滑りやすい場合は雑巾等で拭く	3.個人活動中・見守り	座って待つよう指示する。	1.いつもの様子であった	小さい子からトイレを便っていたため、待っている間に、おしり歩いていた	2.対象児の近所で対象児を見ていた	トイレの前や手洗いの場で、他の児童を見守っていた	2.担当者・対象児の見守りをしていた	職員がより一層子ども達の行動に目を配り、声を掛け注意していく。		
2796	平成30年12月28日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	26							4	1.3歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	予測しながら子ども達の安全に配慮するようしっかりと目を配る	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	破損箇所がしっかりと確認し、消毒などもしっかり行っていく。	1.集団活動中・見守り	集団遊びの中で一人一人に注意しながら危険を予測して遊びを見守る。	1.いつもの様子であった	3.対象児から離れたところで見守っていた	2.担当者・対象児の見守りをしていた	いろいろな個所が予測される場所を見ていく。					
2797	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	25							6	19.7歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	様々な状況を想定し、具体的な職員の動きを話し合う。	2.不定期に実施		2.不定期に実施	2.不定期に実施	危ないと思われる場合は、全体にわかるようニールテープで印をつけるなどしていく。	1.集団活動中・見守り	岩場には登ってはいけないことを事前に周知したが、本人が理解できていなかった。	事前には登ってはいけないことを事前に周知したが、本人が理解できていなかった。	1.いつもの様子であった	登ってはいけないが、登ってもいいと思った。	4.対象児の動きを見ていた	1回登った時、降りて困っている当該児童を見て抱きかかえ降ろした。登らないうえに、他の児童の見守りをしていた。その際に、トラブルが起きたため、対応していたため再度岩に登ることになった。	他のグループを見守る指導員は、他の児童の動きを見ていなかった	トラブルの際、他の先生に声をかけた。トラブルが起きたため見ていなかった。	全体を見守る先生も当該児童がいた遊ばせていた先生も、他の児童のトラブルで他の先生に声をかけた。トラブルの際は先生たち同士に連携をはかる。			
2798	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	20							2	18.6歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	「静かな時間」に限らず、全ての児童に対する見守りが困難となる状況下においては、集団での活動をするよう決まらざる。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	24	支援員の見守り体制が不明なため、特になし。	1.集団活動中・見守り	集団から離れた児童が一人であったことから、支援員の指示を聞き取れなかったと思われる。	当該児童をはじめ児童全てを対象に、ルールをしっかりと守る大切さについて指導する。	1.いつもの様子であった	個人活動していた児童が他にも複数いたことにより、当該児童個人活動をした。	4.対象児の動きを見ていた	「静かな時間」にして児童の見守りをしていた。	2.担当者・対象児の見守りをしていた	来館する児童が多いため、来館児童の対応を促している。	注意をしたものの、当該児童を含む児童の共通ルールを守ることができず、遊戯室で単独の活動をさせた。	「静かな時間」に限らず、全ての児童に対する見守りが困難となる状況下においては、集団での活動をするよう決まらざる。

2799	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15	15	3	3	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	転倒による前歯抜け	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	3	2.基準配置	危険に対する声かけや注意。手当てに早めに対応する。	1.定期的実施	毎日	3.未実施	3.未実施	集団遊びの気持ちはヒートアップ、周りへの注意欠落。	怪我に対する注意。危ないことの再確認をする。	1.集団活動中・見守り	障害物が無いので走り回ってしまっ。転んだ時に手が出ない。じゅんため靴下がすべったと思われ。	遊ぶ前に危険事項を説明。靴下を脱いで遊ぶ。休憩を遊ばせる。	1.いつもの様子であった	元気に仲良く遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	危険な遊びをしていないか、守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	室内に児童がいたため。又お迎えの保護者のため分かれて指導を行っていた。	保護者のお迎え時間と時間帯は遊戯室の別な保育室で実施すること、時々声かけをしながら危険の無いように遊ばせる。	
2800	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	59	59	3	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3.子ども同士によるもの	2.なし	3.未実施	40	2.基準配置	活動の場(保育室・体育館など)では常に支援員は見守る事とし、必ず不在にならぬように努める。人員が不足している時間帯には活動を制限するなどし、児童が目が行き届くように努める。	2.不定期実施	4	3.未実施	2.不定期実施	40	体育館等の広い場所では、予測できない事故があることを想定すべきであった。	体育館等の広い場所では、予測できない事故があることを想定すべきであった。	7.その他	不在にしていた時に、偶然ふざけて走って走っていき、児童への声かけ、見守りを徹底して行く。	体育館等の広い空間では、子ども同士で走ることや、後ろ向きに走ってきた児童が衝突し、左ひざがぶつかるように転倒した。	1.いつもの様子であった	プールに行く準備が終わり、体育館に座ったところから、死傷から走ってきた児童が衝突し、左ひざがぶつかるように転倒した。	4.対象児の動きを見なかった	水着に着替え終えた児童を整理させ、更衣室に残っている児童が確認したと行き体育館を不在にしまった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	女子更衣室で着替えに手間取った児童の手を握っていたため、見守りがなかった。	体育館には児童が多く集まっていたため、集合して待たせ、集合した児童の動きを確認したと行き体育館を不在にしまった。	児童が多く集まっていたため、他の支援員と連携を取りながら、必ず不在にしないように努める。
2801	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	16	16	4	20.8歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足小指骨折	3.子ども同士によるもの	1.あり	2.不定期実施	12	1.基準以上配置	事故時点を当該エリアにワーカーの見通し	2.不定期実施	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	壁の下もエアマットが置いてあるため中し、今日は降ります。子ども自身は降りるよ、と声掛けをする。	壁の下もエアマットが置いてあるため中し、今日は降ります。子ども自身は降りるよ、と声掛けをする。	4.個人活動中・子どものみ	壁の下もエアマットが置いてあるため中し、今日は降ります。子ども自身は降りるよ、と声掛けをする。	壁のぼりをしていいる時は慎重な様子で降りる見守りをしていた。対象児は全体を見守る力があった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	両サイドに配置できず、事故から見守るも不在だった。	壁下の使用の危険感が薄かった。	支援員は全体の状況を把握する。各フロアを離れる時は、声掛けをしながら見守る。壁下の使用の危険感が薄かった。				
2802	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25	25	5	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	4	1.基準以上配置	いつも遊んでいる鉄棒なので、大丈夫だと思いがあった。	1.定期的実施	4	3.未実施	2.不定期実施	48	1.集団活動中・見守りあり	上級生(6年生)で遊んでいる。他の低学年の子どもは遊ばないよう注意していた。	上級生と遊んでいる。他の低学年の子どもは遊ばないよう注意していた。	1.いつもの様子であった	上級生と遊んでいる。他の低学年の子どもは遊ばないよう注意していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	注意が他の低学年の子どもに向いていない。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	子ども全員の様子を見ていた。	危険を伴う遊びをするときは、必ず事前注意を促し、子どもに油断させないようにする。支援員も危険な行為は即注意し禁止する。			
2803	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25	25	3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期実施	48	2.基準配置	児童の至近で見守りができず、支援員の配置を手厚くする。	1.定期的実施	48	1.定期的実施	48	1.集団活動中・見守りあり	児童への声かけ(周囲の状況を確認して走らせたり、注意して走らせたりなど)を増やす。	児童への声かけ(周囲の状況を確認して走らせたり、注意して走らせたりなど)を増やす。	1.いつもの様子であった	対象児は鬼ごっこで遊んでいて、自分の速さをセーブできなかった。	鬼ごっこをしている児童を見守り、走らせようとしていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	各々好きな場所を遊んでいるところを見守っていた。	対象児へ注意を促す声かけが不足していた。	至近で児童の見守りができるよう支援員を配置し、児童へ注意を促す声かけを適切に行う。				

2804	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	43	43	5	3	22.10歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷 0. 負傷	4. 創傷(切創・裂創等) 4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕部外側切創 2か所 右肘外側軽度の切創	2. 自らの転倒・衝突によるもの 1. あり	1. 定期的に実施 2	2. 基準配置	特になし	1. 定期的に実施 240	2. 不定期に実施 3	1. 定期的に実施 240	240	普通ガラスのため、飛散防止ガラスの変更や防止フィルムを貼るなど市と協議する。	3. 個人活動中・見守り	特になし	1. いつもの様子であった 友だちと追いかけており、追いかけて逃げた 2. 対象児の至近で対象児を見ていた 他の子どもと関わらないうりながら、走り回らないように声をかけた 2. 担当者・対象児の動きを見なかった 定期的に全体を見守りつつ、他の子どもと遊んでいた	特になし
2805	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	39	39	4	2	20.8歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷	2. 骨折 4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下 1. あり	1. あり	2. 定期的に実施	2. 基準配置	保育園が分かれる際は、支援員同士の動きを確認しながら全体が見渡せるように配置する。また、遊具で遊んでいる場合は声を掛けられる場所での保育を行う。	1. 定期的に実施 240	2. 不定期に実施 3	1. 定期的に実施 240	240		1. 集団活動中・見守り ブランコに勢いがついていた。 ブランコの近くで支援員が見守りながら遊んでいる様子であった 1. いつもの様子であった 3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	1. 担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた) ブランコで遊ぶ時は、指導員は至近距離で見守っているが、突然の事故で逃げなかった。 書きもあつた。午後この時点で疲れた。 児童の様子を見ながら、外遊びの時間や休みのタイミングを調整する。	
2806	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	38	38	4	4	18.6歳	1. 男児		6. 水遊び・プール活動中	1. 負傷 0. 負傷	1. 意識不明		7. 溺水によるもの 1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	支援員の危機管理状況認識不足・人命に関わる事への危機管理不足	1. 定期的に実施 12	1. 定期的に実施 12	1. 定期的に実施 12	12		7. その他	支援員及び保護者に対する見守り位置の周知徹底。子どもへの入園(危険箇所、危険行為)を再徹底する。 支援員が全員入水したので全体を見渡せなかった。 3. いろいろな理由で活動的であった(理由を記載) 授業とは違い遊びの要素が強い。いつもより高ぶっていた。 2. 対象児の至近で対象児を見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見なかった 1年生をプールからここに連れていこうとした。他の児童に注目していた。	支援員及び保護者に対する見守り位置の周知徹底。子どもへの入園の際の安全教育(危険箇所、危険行為)を再徹底する。児童の動きに関して、随時情報共有を行う。
2807	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	43	43	4	2	18.6歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷 0. 負傷	4. 創傷(切創・裂創等) 1. 頭部	外耳道外傷、鼓膜損傷	8. その他 2. なし 3. 未実施	1. 基準以上配置	特になし 児童を広く見られる方法で支援員が話し合う。	1. 定期的に実施 1	1. 定期的に実施 毎日	1. 定期的に実施 毎日	毎日	怪我につながる可能性があるおもちゃや道具での遊びは禁止にする必要があるのではないか。 室内をエリアで区切って担当の支援員を決めて配置する。工作に支援員を一人つける。	1. 集団活動中・見守り	危険が伴うおもちゃを1名配置。 違った使えないようにの声を掛けなかった。	1. いつもの様子であった 4. 対象児の動きを見なかった 特に担当者・対象児の動きを見なかった 2. 担当者・対象児の動きを見なかった 印刷・子どもと一緒に折り紙・子どもと一緒に休みのタイムスケジュール作り等を行った。 基準配置以上ではなかったもの一人ひとりを見させていた。 室内をエリアで区切って担当の支援員を決めて配置し子どもを注意しない瞬間をなくす。		
2808	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	5	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	20	20	2	1	22.10歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷 0. 負傷	6. その他 4. 上肢(腕・手・手指)	右手薬指捻挫	8. その他 1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	様々な状況を想定し具体的な職員の見守り方法を話し合う。	1. 定期的に実施 3	2. 不定期に実施 3	2. 不定期に実施 6	6		1. 集団活動中・見守りあり	怪我をした場合は指導員に報告するように児童に伝える。 1. いつもの様子であった キャッチボールをしていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた 全体の見守りをしていました。 1. 担当者・対象児の動きを見なかった 昼食を作っている様子を見守りをしていました。	これまで以上に児童の様子に注意し見守りを行う。
2809	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	22	22	3	2	21.9歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷	2. 骨折 4. 上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8. その他 1. あり	2. 不定期に実施 2	1. 基準以上配置	児童が外遊びをしている場合は、支援員も屋外に配置する	2. 不定期に実施 3	2. 不定期に実施 3	2. 不定期に実施 6	6	今回の事故に対しては、特になし	4. 個人活動中・子どものみ	支援員が外遊びの際の危険性を再認識し、見守りを怠らないように配慮する 1. いつもの様子であった	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた 2. 担当者・対象児の動きを見なかった	児童が外遊びをしている場合は、支援員も屋外に配置する

2810	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	33						4	2	19. 7歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折(骨端線離開)	1. 遊具等からの転落・落下	1. 定期的実施	1	2. 基準配置	職員が監視位置を全体的に見渡せる場所ではなく児童への対応が遅れた。	職員が監視位置を再度学習する	1. 定期的実施	3	1. 定期的実施	12	1. 定期的実施	12	園庭・園庭に植えられた遊具の点検。害虫がいないかの確認(蜂の巣、毛虫など)	固定遊具の遊び方の指導。周囲の危険箇所を定期的な点検、確認。	1. 集団活動中・見守りあり	指導員に外遊びに於ける危険度の認識不足の為	緊急会議を呼び出した支援員が遊具の組み立てに危険の認識不足の為	1. 1. いつもの様子であった	当時は同学年の女児がお休みで遊具が遊んでいない状態であった。	監視していた支援員が遊具の組み立てに危険の認識不足の為に注意を促したが、注意直後に落下した。	2. 担当者・対象児の動きを見守っていた	室内の監視をしていたのでその場にはいなかった。	監視位置が見渡せる所ではなかった。	外遊びに対する指導、固定遊具の正しい遊び方の指導
2811	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	20						3	2	24. 12歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	3. 火傷	5. 下肢(足・足指)	- 度他の	8. その他	1. 定期的実施	12	2. 基準配置	職員1名は途中で買物に出た。	活動中にはその場を離れないようにする。	1. 定期的実施	12	1. 定期的実施	24	クッキング活動のため、フライパンで揚げ物をしていました。	フライパンのため、油鍋を使用する。	1. 集団活動中・見守りあり	油鍋を置く場所を、職員が見守りできるように1か所に固める。	1. 1. いつもの様子であった	率先してクッキング活動に取り組みました。	2. 担当者・対象児の動きを見守っていた	もう一つの油のほていを見ました。	油使用中は絶対に目を離さない、その場を離れない。					
2812	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	12						2	2	18. 6歳	1. 男児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘関節内骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. 定期的実施	1	2. 基準配置	自分で扱った帽子を脱いだ。	育成室(フローリングのスペース)では走り回らないように注意する。スタッフが見守りをしていました。	1. 定期的実施	4	1. 定期的実施		フローリング床は滑りやすい。	子ども達に意識づけをする。床が滑りやすいようにワックスを塗る。	3. 個人活動中・見守りあり	フローリングのスペースでは走り回らないように全員に話した。	1. 1. いつもの様子であった	育成室で走り回った様子が見受けられなかった。	3. 対象児から離れたところから対象児を見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見守っていた	フローリングのスペースでは走り回らないように全員に話した。					
2813	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・校庭等)	8. 学童	32						3	2	18. 6歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘関節内骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. 定期的実施	1	2. 基準配置	職員の役割分担をしっかりとらせた。	児童への安全指導の頻度を増やすほか、移動のたびに注意を促す。	2. 不定期実施		3. 未実施		2. 不定期実施		設備の不備・損傷等は今のところ無し。	1. 集団活動中・見守りあり	職員間の役割分担を確認する。	1. 1. いつもの様子であった	特段、変わった様子が見られなかった。	2. 対象児の動きを見守っていた	職員1名は室内に残る児童とともに残った。あと1名が飛び出したが、対応していた職員は注意を促した。	2. 担当者・対象児の動きを見守っていた	職員1名の役割分担を再確認する。	職員間の役割分担を再確認する。		
2814	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	34						4	2	21. 9歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手親指骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. 未実施		1. 基準以上配置	支援員等の配置は十分でなかった。	ソート面に改善策なし。	1. 定期的実施	2	1. 定期的実施	12	1. 定期的実施	2	当該事故においてハート面に問題がなかったため、改善策なし。	1. 集団活動中・見守りあり	当該事故において育成支援の状況が問題ないため、改善策なし。	1. 1. いつもの様子であった	4. 対象児の動きを見守っていた	2. 担当者・対象児の動きを見守っていた	当該事故において人的面に問題がなかったため、改善策なし。					
2815	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	45						4	3	19. 7歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	若木骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. 定期的実施	1	2. 基準配置	特になし	学校での遊び方を基準としてクラブ時の遊び方については子どもたちと再度ルールを確認し徹底する。事故や怪我が起きないように注意していく。	1. 定期的実施	1	3. 未実施		1. 定期的実施	48	遊具使用前の目視を行い、異常があれば使用しない。	特になし	学校での遊び方を基準としてクラブ時の遊び方については子どもたちと再度ルールを確認し、事故が起きないように注意していく。また配置基準に職員配置を徹底する。	1. 1. 1. いつもの様子であった	夕食のお弁当を全室内ではお友達と共有して食べていた。	1. 対象児とマンツーマン状態で遊んでいました。	支援員が足を軽く持ち上げ、手を離し、体がプランコのような状態になった。	1. 担当者・対象児の動きを見守っていた(至近距離にいた)	他の職員近くの場所にて他の児童の様子を見守っていた。	子どもたちの安全に配慮した遊びについて職員で話し合いを行い、遊び方を決める。又子どもたちにも遊び方について話を徹底させる。具体的には、支援員が児童を揺らす遊びの補助を行わないこととし、吊輪で遊ぶ際には手を離さないように児童に注意しながら見守ることとした。		

2816	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8. 学童	82	82	5	3	22.10歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指) 左横骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下 2. なし	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置			この日はたのさんの児童が自由に活動していたため、安全に遊具を使用することについて児童へ職員の声掛けが行なわれたと考える。	正しい使用の仕方をもとに児童と職員が理解し、児童に対して指導・助言を行う。	1. 定期的を実施	12	1. 定期的を実施	12	1. 定期的を実施	12	大型の遊具のため、感勢を崩し落下し、事故や怪我につながる恐れもあった。	点検等を通して、職員がその遊具の危険性や起こりうる事故を予測する。また、天候や時間帯、児童の様子等により使用について制限をなす。	使用する児童の年齢を制限している遊具のため、慣れているのは4年生の年齢の子であった。	年齢やその遊具の特性に応じて、安全に遊べるかを確認し、注意し見守る。	1. いつもおりの様子であった	普段から活発な児童であり、この日もいつもと変わらず元気な様子であった。	3. 対象児から離れたところで見守っていた	外遊びの時は職員が近くで見守っている。校庭にはいくつかが遊んでおり、この時は遊具の近くについたため、離れたところから見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見守っていた	館内でも自由に遊ばせるため、職員は館内と外に分かれ配置していた。	遊び慣れた遊具であることや他の児童と遊んでいたため、注意力が欠けていた可能性も考えられる。	職員は危険な箇所を把握し、ポイントを確認して見守りを行う。
2817	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	30	30	3	24.12歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指) 骨折	3. 子ども同士によるもの	1. あり 2. 不定期に実施	5	2. 基準配置		職員会議での見守りポイントの確認と周知	1. 定期的を実施	12	1. 定期的を実施	12	1. 定期的を実施	12	1. 定期的を実施	12	施設設備については問題なし	1. 集団活動中・見守り	子どもの行動が予見できないことを踏まえ、広く見守りを行う。職員会議を開き、児童の見守り方法について再度確認・周知を行う。	子どもが予見できない行動が混在している。特に注意を払って見守りを行った。	ホール遊びをして発生した。	3. 対象児から離れたところで見守っていた	通常の活動であったため、特別な見守りはなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見守っていた	通常の活動であったため、特別な見守りはなかった。	子どもの行動が予見できないことを踏まえ、広く見守りを行う。職員会議を開き、児童の見守り方法について再度確認・周知を行う。			
2818	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	54	54	6	20. 8歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	5. 下肢(足・足指) 右足小指骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり 2. 定期的に実施	6	2. 基準配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置等に特に関与がないため改善策はない	1. 定期的を実施	12	1. 定期的を実施	12	1. 定期的を実施	12	1. 定期的を実施	12	おやつ時間は出ていて、教室の歩行スペースが狭まっているが、食べ終わるまで片付けられない。全員の食べ終わるまで静かに遊ぶことに留意して見守る。足が当たった時に衝撃をやわらげるガードテープが、ロッカーや棚の足元に張っていない	おやつ時間は出ていて、教室の歩行スペースが狭まっているが、食べ終わるまで片付けられない。全員の食べ終わるまで静かに遊ぶことに留意して見守る。足が当たった時に衝撃をやわらげるガードテープが、ロッカーや棚の足元に張っていない	おやつは机を出して、教室の歩行スペースが狭まっているが、食べ終わるまで片付けられない。全員の食べ終わるまで静かに遊ぶことに留意して見守る。足が当たった時に衝撃をやわらげるガードテープが、ロッカーや棚の足元に張っていない	おやつは机を出して、教室の歩行スペースが狭まっているが、食べ終わるまで片付けられない。全員の食べ終わるまで静かに遊ぶことに留意して見守る。足が当たった時に衝撃をやわらげるガードテープが、ロッカーや棚の足元に張っていない	1. いつもおりの様子であった	おやつは机を出して、教室の歩行スペースが狭まっているが、食べ終わるまで片付けられない。全員の食べ終わるまで静かに遊ぶことに留意して見守る。足が当たった時に衝撃をやわらげるガードテープが、ロッカーや棚の足元に張っていない	1. 児童の動きを見守っていた	別教室にいた2名の支援員は、その支援員が別の教室にいたため、対応が不十分であった。	子どもも同様に遊べるように配慮し、安全に遊べるように見守った。	一緒遊ぶことが多い友達でも、言葉や行動が相手から不快な言葉を交わすような場面があった。また、悪口を言い合う場面があった。事故の状況から、骨折の痛みが強く、安静に過ごしていただくように見守った。			
2819	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	103	103	7	18. 6歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指) 左薬指骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり 2. 不定期に実施	1	2. 基準配置			1. 定期的を実施	6	3. 未実施	2. 不定期に実施	床が滑りやすかったため、立つ時にバランスを崩した	日頃から、移動する際には気を付けている	2. いつもおりの様子であった(理由記載)	熱はなかったが、お腹が痛い。昼食は残っていた。	4. 対象児の動きを見守っていた	別の児童と見守っていた	2. 担当者・対象児の動きを見守っていた	本児が転んだ時に声は出さなかった。スタッフがすぐ側にいて、そのまま指の痛みには気づけなかった。	子どもが「大丈夫」と言っているが、何度がその後の確認も必要。								

2826	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室内・教室等)	8.学童	40	40	6	4	18.6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 6.その他	4.上肢(腕・手・手指) 右小指打撲・右小指挫減窮	8.その他	1.あり	1.定期的実施	12	2.基準配置	職員を子どもの人教に合わせ配置し、視野を広げること。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	全ての児童の居場所が把握できていなかったこと。 いつでもスタッフが掛け合い、児童がどこで遊んでいるのかわかるように、居場所の把握を行うようにした。	1.集団活動中・見守りあり	茂みの中を除いて、外に遊ばないことを徹底すること。	外遊び前に石やガラス等の危険物を取り除く。	1.いつもどおりの様子であった	他児と一緒に外に出て、すぐ中にいった	4.対象児の動きを見ていなかった	外遊びの声を掛け、外に出始めてすぐだったので、怪我の心配は見なかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グラウンドでも子どもたちを見たいため、見ていなかった	あそびを開始する前に安全点検を行い、危険が無いかを十分確認し併せて、子どもたちを注意喚起して行く。	
2827	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	2.午午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・教室等)	8.学童	30	30	7	7	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右腕骨折 右尺骨橈上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	2	1.基準以上配置	特になし	校庭の大型外遊具の使用方法がわからず、使用がスムーズな場を学校と共有する。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	特になし	特になし	特になし	特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	児童クラブで高橋さんを見つけた	2.対象児の動きを見ていなかった	外に出て遊びを見守りながら目を離さなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	事務室にて打ち合わせをした職員以外、皆外で遊ぶため、見守りをしていなかった	入学式前の新1年生については、遊具の遊ばせ方を、特段の配慮をして対応する。
2828	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・教室等)	8.学童	105	105	8	8	19.7歳	1.男児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	10	2.基準配置	予測のない場所での遊びをする。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	特になし	児童館施設外のため、特になし	児童館後、小学校へ忘れ物を取りに行った際の落下による行動を促す。	1.いつもどおりの様子であった	児童館へ登録後、小学校へ忘れ物を取りに行った際の落下による行動を促す。	4.対象児の動きを見ていなかった	児童館へ登録後、小学校へ忘れ物を取りに行った際の落下による行動を促す。	児童館へ登録後、小学校へ忘れ物を取りに行った際の落下による行動を促す。	児童館施設外のため、特になし	児童館施設外のため、特になし	
2829	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	68	68	10	3	19.7歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 左腕・手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	職員の見守りを強化し、1人でなく2人以上で見守りを行う。	1.定期的実施	48	1.定期的実施	48	1.定期的実施	48	遊戯室での遊び方への徹底指導を行う。	1.集団活動中・見守りあり	職員が一緒に遊ぶときは、周りに気を付け、上手な力加減で遊ぶ。	1.いつもどおりの様子であった	良好であり、元気に遊んでいた。	2.対象児の動きを見ていなかった	1名の職員が複数の子を介抱していた(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	それぞれで担当の配置に立寄り、見守りを行っていた	何かあった時に1人で対応するのではなく、複数で対応できるよう、動ける体制を整えておく。		
2830	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	13	13	6	3	19.7歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	3	1.基準以上配置	想定外の事例についても事故事例として蓄積し、日々の対応に備える。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	部屋の使用や時間帯における過ごし方について、あらかじめ注意喚起する。	1.集団活動中・見守りあり	不意な児童の行動にも、注視していく。	グループに分かれ、新聞紙を遊ぶゲームの文字を探すとゲームをしていた。	2.対象児の動きを見ていなかった	同じ部屋の中でゲームの進行を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	同じ部屋の中で各グループの子どもの様子を見守っていた	子ども一人ひとりの様子を見守り、不慮な行動の予測を図る。			
2831	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・教室等)	8.学童	65	65	4	4	19.7歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	3.体幹(首・胸部・臀部) 左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2	1.基準以上配置	夏休み初めという事で、子どもたちの気分を高揚させていた。それぞれの場面で、子どもたちの様子を見守りながら遊びの交換を行う。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	特になし	1.集団活動中・見守りあり	長期休み中の一日の流れがあり、夕方から帰ったときに子どもたちが遊ぶ場所を作る。	1.いつもどおりの様子であった	夏休みが始まったばかりであり、夕方から帰ったときに子どもたちが遊ぶ場所を作る。	3.対象児から離れたところへ遊びに来ていた	遊びの見守りをより強化すべき条件であったにもかかわらず、人員不足のため、不十分であった。今後は十分な人員が配置できない場合は、外遊びをすることも考慮する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	館内での見守りが必要な児童がいたため、園内と区分けがなかった	集団活動中の全体を見る時に、ケガのしやすい箇所を見守る。		

2841	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	60	60	3	1. 18.6歳 1. 男児				2. 室内活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	5. 他児から危害を加えられたもの	1. あり 2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	10時過ぎ、3人の職員で対応していた。	当該児童と加害者児童は日常生活に注意されることが多かったが、今後見守りをしっかりとっていく。	1. 定期的に実施 12	1. 定期的に実施 12	1. 定期的に実施 12	1. 定期的に実施 12	ハード面の点検等は定期的には実施したが、1部屋の中であそぶ種類の種別、人数等に合わせ、スペースを区切るなどを改善していく。	3. 個人活動中・見守り	スタッフ2人は別々に子どもたちとクラブや玩具で遊んでいた。1人は机で事務処理中。	全体を見るスタッフが1人配置するよう考へる。	1. いつものおりの様子であった すぐつられて騒ぎやすい。	4. 対象児の動きを見ていた	勤務に入ってきたため、机で事務処理中。2人がしゃべりながら遊んでいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の2人は別々に子どもたちとクラブや玩具で遊んでいた。	支援員による見守りが十分とはいえない。	来館状況における職員体制の見直し、増員等検討が必要。
2842	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	9	8. 夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	20	20	3	2. 21.9歳 1. 男児				1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	若木骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり 3. 未実施	2. 基準配置			ドッチボールの中で転んだのですが、ドッチボールが大好きなので、それを禁止することは難しいです。	1. 集団活動中・見守り	自分で転ばないよう気を付けるよう指導します。	1. いつものおりの様子であった	2. 対象児の至近で対象児を見ていた		1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	支援員の見守りは十分であった。	児童への安全指導に努める。							
2843	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	55	55	4	2. 20.8歳 1. 男児	頭部に異常な様子		1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	本児は好奇心が旺盛で後先を考えずに行動してしまうことがある。	登ってはいけない場所のため、児童への指導を徹底する。	1. 定期的に実施 12	2. 不定期に実施 12	1. 定期的に実施 12	1. 定期的に実施 12	学校のプレハブ会場に室外機がありその周辺をフェンスで囲ってあるが、そのフェンス自体が遊び場のような感じになっている。児童保育児以外の児童にも登っている児童が見受けられる。	1. 集団活動中・見守り	普段サッカーなどをする場所とは異なる場所であるのでサッカーをさせないよう注意を徹底する。	グラウンドを使用できない状況は遊び場を制限する。	いつも通りサッカーのゴールキーパーをしていた。しかし、なかなかゴールしないので、近くの室用の欄に登り、そこから降りようとして飛び降りた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	サッカーはいつも1人で見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の遊びやバドミントン等の保育をしていた。	ボールが移動する方向に支援員の注意が行ってしまい、あまりキーパーの方を見ていなかった。	全体を確認できるように支援員の配置を考へる。	
2844	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	59	59	10	4. 18.6歳 2. 女児	特になし		1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり 2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	特になし	指導員等の配置人数の問題はなく、ソフト面のみ考慮すると防くことが可能な事故であった。	1. 定期的に実施 1	1. 定期的に実施 1	1. 定期的に実施 1	1. 定期的に実施 1	特になし	1. 集団活動中・見守り	各々が家庭にて自由に遊ぶ範囲に渡っていたため指導員等の目が届かなかった。	支援員等が子どもたちを自力で遊びたい場所を見守る。	1. いつものおりの様子であった	外遊びの時間にうんていで遊んでいた。	子どもたちが広範囲に渡って遊びたい場所を見守る。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所でも外遊びを促すため、事故現場をみなかった。	特になし	遊具を使う等の危険性の高い遊びについては、支援員の配置を変えようとする。		
2845	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	7	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	94	94	7	4. 20.8歳 1. 男児	特になし		1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	8. その他	1. あり 2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	特になし	指導員等の配置人数の問題はなく、ソフト面のみ考慮すると防くことが可能な事故であった。	1. 定期的に実施 1	1. 定期的に実施 1	1. 定期的に実施 1	1. 定期的に実施 1	特になし	1. 集団活動中・見守り	各々が家庭にて自由に遊ぶ範囲に渡っていたため指導員等の目が届かなかった。	支援員等が子どもたちを自力で遊びたい場所を見守る。	1. いつものおりの様子であった	支援員等が子どもたちを自力で遊びたい場所を見守る。	4. 対象児の動きを見ていなかった	子どもたちが広範囲に渡って遊びたい場所を見守る。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所でも外遊びを促すため、事故現場をみなかった。	特になし	広範囲に渡る外遊びについては、支援員の配置場所を全児童に目の行き届くよう配置する。	

2846	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	6	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	60	60	5	3	19. 7歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり 2. 不定期に実施	1. 基準以上配置 特になし	指導員等の配置人数に問題はなく、ハード面のみ考慮すると防ぐことが可能な事故であった。	1. 定期的に実施 1	1. 定期的に実施 1	1. 定期的に実施 1	1. 定期的に実施 1	特になし	施設等に問題はなく、ハード面のみ考慮すると発生しない事故であった。	1. 集団活動中・見守りあり	各々が校庭にて自由に遊び、園庭に渡ったため指視員等の目が行き届かなかった。	支援員等が子どもを自配りしやすく場所に配置する。	1. いつもの様子であった 外遊びの時間にサッカーで遊んでいた。	4. 対象児の動きを見なかった	子どもたち範囲の広さから直接見えなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	他の場所でも外遊びのため、事故現場を見なかった。	特になし	広範囲に渡る外遊びについては、支援員の配置場所を全児童に目の行き届くように配置する。
2847	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	26	26	3	2	19. 7歳	2. 女児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし 3. 未実施	1. 基準以上配置 なし	準備体操を行うことで怪我の発生を予防する。	1. 定期的に実施 290	1. 定期的に実施 290	1. 定期的に実施 290	1. 定期的に実施 290	なし	なし	1. 集団活動中・見守りあり	児童が外遊びのため興奮していた。	興奮しすぎないように指導を行う。	1. いつもの様子であった	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	ドッチボールの様子を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	室内遊びをする児童を見なかった。	足をひねった後、対象児童を室内に連れ戻して行き、他の支援員と配置を行った。対象児が遊んでいたが、安静的な状態を維持し、保護者に引き渡した。	なし
2848	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	23	23	2	20. 8歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨 肱骨上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり 2. 不定期に実施	2. 基準配置 なし	室内では、高学年の学習と教名の女の子のお給かきをした。そのお迎え、外遊び、室内遊びと支援員が1名で対応していた。	子ども達とはとて魅力的な場所であるが、しっかりと管理されていない為、子ども達も入りたがるという心理になると考えられる	1. 定期的に実施 3	1. 定期的に実施 12	2. 不定期に実施 3	口頭注意だけでなく、コーンを置く	1. 集団活動中・見守りあり	子ども達にとって魅力的な場所であるが、しっかりと管理されていない為、子ども達も入りたがるという心理になると考えられる	1. いつもの様子であった	友達と3名で、遊んでおり事故現場にいた	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	学校の先生方の帰宅時間という事もあり、車の動き等を外の児童に注意しながら、本人にも注意する。少し背を向けていた時にブロックかたようだが、ブロックの上で泣いていた児童に話を聞く。	1. 担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	玄関口・スロープから室内に見ていた。	お迎え・学習・外遊びと各自活動をしていたため、1人ばかりの子どもの動きを見ることが出来るが、1名は不十分と考えられる	時間帯を考慮し、外遊びを行う		
2849	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	66	66	5	21. 9歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	5. 下肢(腕・手・手指)	左足首 剥離骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり 1. 定期的に実施	2. 基準配置 なし	特になし	1. 定期的に実施 240	2. 不定期に実施 3	1. 定期的に実施 240	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1. いつもの様子であった	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	サッカーとして参加。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	サッカー以外の場所にて保育。	特になし	常に危険予知を考慮して、事故緊急対応マニュアル等を常に確認する。		
2850	平成30年12月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	13	13	2	20. 8歳	1. 男児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり 3. 未実施	2. 基準配置 特記事項なし	職員が見ている中で起きたが、けがに繋がらないよう注意を徹底する。	1. 定期的に実施 1	3. 未実施 1	2. 不定期に実施 1	特記事項なし	児童が使うものに点検の徹底	3. 個人活動中・見守りあり	職員2名で13名の児童を見守っているから、育成支援の問題はないと判断したため、改善策はなし。	1. いつもの様子であった	普通と変わらず、クラブ室内で遊んでいた。	3. 対象児の至近で対象児を見ていた	児童を見ていたが、あつ間から来たため、手を差し伸べないまま時間が経過した。	1. 担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	担当職員同様、対象児から離れたところで対象児を見ていたが、あつ間からの出来事であったため、手を差し伸べる時間がなかった。	特記事項なし	職員2名が児童の見守りを行い、職員の問題はないと判断したため、改善策はなし。		

2851	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	50									6	18.6歳	1.男児	特記事項なし	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	特になし	子どもが活動する場所には必ず人員を配置し、本児のように特に配慮を要する子がいた場合は人員を増やし、注意深く見守る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	ボール遊びなどはスペースがとれる場所で行うよう指導する	1.いつもの様子であった 4.対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	特になし	児童への安全指導と環境整備を徹底する。
2852	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	43									3	21.9歳	2.女児	週1回、通級学級を利用	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 3.未実施	1.基準以上配置	通級指導を受けている児童であり、外遊びの際には見守りを強化していく	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施					1.集団活動中・見守りあり	今回の事故は小学校のグラウンドで発生した。水はけもよく、障害物も無いことから、ハード面で改善すべき点はない。	1.いつもの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で1人が外遊びに出なかった児童対応を、2名が他の児童の対応をしていなかったため、他の児童を見ていなかった。	外遊びの際、職員が全ての児童の見守りができるように、人員に限られる場合は遊具・区域を限定して見守りを行うようにする。	
2853	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	39									2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 3.未実施	2.基準配置	今回の児童は助走を誤り遊具に衝突したことから、遊具に起因した事故ではない。遊具の安全性に問わず事故の回避は難しく考えた。	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	2.不定期に実施				1.集団活動中・見守りあり	クラブで管理する遊具以外にも、クラブで使用する可能性のある遊具についてはクラブ職員から点検・確認を行う。	1.いつもの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児を介して遊んでいた児童数名の前で進行していった。児童の安全な動きを確認し、登る前に斜面へぶつかるとは想定外であった。	この児童の見守りを怠らなかつたため、他に直接対象児を見ていた職員はなかった。	外遊びを行う際には引き続き職員の見守りを行いたい。		
2854	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	44										20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部骨折	1.遊具等からの転落・落下 2.不定期に実施	1.あり 2	2.基準配置	固定遊具を使用する際は、安全に留意して正しく使うことを周知しており、都度注意しているが注意不足であった。 戸外遊びを行う場合は、支援員の休憩、出入り等の体制を調整しておく。	2.不定期に実施						危険性が高い活発な遊びは、その都度支援員が注意しているが確認不足であった。	児童の運動面の得手不得手を共有する必要がある。 児童の運動面の得手不得手を共有する必要がある。	危険性が高い活発な遊びは、その都度支援員が注意しているが確認不足であった。	児童の運動面の得手不得手を共有する必要がある。	1.いつもの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	室内遊びをしている児童を中心に見守りをおこなっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は休憩中、もう一人は屋外を巡回中であつた。	屋外巡回中の職員配置であったが、当該箇所をその時点では見えていなかった。	活発な活動的な戸外遊びをする場合は、支援員の巡回を強化する。

2858	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	27	27	3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 左ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下 1.あり 1.定期的実施	2.基準配置	マンユアル、研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的実施 3.未実施 2.不定期に実施	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、危険を未然に防止することに努める。	引き続き、屋外での遊びは支援員がつきそい、危険な遊びはよき指導をしていく。	1.いつも通りの様子であった	鉄棒で遊んでいる1年生5名が支援員1名がつきそいだったが、事故の瞬間は鉄棒で感ない遊ばをしていた別の児童を注意していたため、特に行動をとって来た児童については見届かなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた 2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員うち1名は児童クラブの室内に残っており、もう1名は校庭の少し離れた別の遊具で遊んでいる児童についていた。	見守り体制については適切に実施していた。			
2859	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	12	12	2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 5.下肢(足・足指) 左足首骨折	2.自らの倒れ・衝突によるもの 1.あり 2.不定期に実施	2.基準配置	子どもの運動能力を把握して、危険を予知できるようにする	1.定期的実施 1.定期的実施 1.定期的実施	足元をよく見るように等、声かけを増やす	1.集団活動中・見守りあり	足元をよく見るように等、声かけを増やす	1.いつも通りの様子であった	段差の低い階段なので、飛び降りれり込んでしまった	4.対象児の動きを見ていなかった 校庭への引率は、職員が先頭立っているため。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラブ室に残っており、児童の動きを見守っていたため	子どもの引率方法の再検討、子どもの意識を高める安全教育に取り組む。	
2860	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	7	7	3	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 左ひじ複雑骨折	1.遊具等からの転落・落下 2.なし 2.不定期に実施	2.基準配置	当該児童は学校等支援はついていないが、普段から支援が必要なのではないかと感じていた。特に気をつけて見守りをしていく。	1.定期的実施 2.不定期に実施 2.不定期に実施	事故のあった場所は、ここで登れなように閉鎖し、物置として活用するようにした。小さな子ども目線で日々安全を確認をしておく。	日頃から高さは高くはないが、特に気をつけて見守りしていた。支障がなければ、安全確保をしておく。	1.いつも通りの様子であった	特になかった	4.対象児の動きを見ていなかった 他の児童と対話しながら、対象児に見える場所を活動していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった 担当者が見えていたが、児童は見えていなかった。	広いスペースでできるだけの視野に入るところで活動する。			
2861	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	40	40	5	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 6.その他 1.頭部 外傷性くも膜下出血、脳挫傷、頭がけい骨折、左足擦過傷	8.その他 2.なし 1.定期的実施	2.基準配置	センター前の道路の横断の際、集団での横断に職員(2人)が付き、その後の個人の横断に職員が付けなかった。	1.定期的実施 1.定期的実施 1.定期的実施	見通しが悪い場所の改善(ミラーの設置・植栽の刈り込みなど)や、壁障となるフェンスの撤去、ストップマークの設置、道路と区切るフェンスの設置	安全を確認しないで急いで渡ろうと来た車には、急いで渡ってしまった。	1.集団活動中・見守りあり	・横断の前、安全確認の徹底。 ・車の経路の変更	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	先に公園に行き、遊んでいる方々へ気をとり、左右の横断の確認を急いで渡ってしまった。	3.対象児から離れたところへ対して対応しなかった 受け入れの児童と出かける児童がおり、声かけの対応しなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった 館内の活動するため、個々の指導に付いた。	児童の行動に時差があり、集団行動中に行動できない場合に職員が十分であった。	「安全第一」を優先して、職員の配置を行うこと。
2862	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	92	92	5	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 左橈骨遠位端線維損傷	1.遊具等からの転落・落下 1.あり 2.不定期に実施	2.基準配置	利用人数に対して指導員の配置人数が少なく、室内が利用人数に対して狭い。	1.定期的実施 3.未実施 1.定期的実施	定期的に行っている特になし。	1.集団活動中・見守りあり	コーナー(読書、学習)づくりの際、できるだけ余裕をもたせる配置に努める。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ハイテンションで落ち着かなかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた そのコーナーの担当者には、注意を懸けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった 全体を見守る指導員が、椅子が倒れる音に気がつきた。	利用人数のわりに室内が狭い。	利用人数の適正、抑制を図るため、来年度より就労証明書を出してもらうこと。利用回数も就労状態とあわせてチェックすることとした。	

2863	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃~夕食提供前項)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	92					5	2	18.6歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足くるぶし剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	利用人数に対して指導員の配置人数が少なく、室内が利用人数に対して狭い。	椅子の安全な適切な使用方の指導。	1.定期的 に実施	12	3.未実施		1.定期的 に実施	12	なし	定期的に行っているため特になし。	1.集団活動中・見守り	コーナー(読書、工作、学習)づくりに際し、できるだけ余裕をもたせる配置につとめる。	3.いつも活動で活動的であった(理由を記載)	ハイテンションで落ち着かなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	工作指導に集中していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本人の訴えにより、足を冷却した。	利用者のわりに室内が狭い。	利用人数の適正、抑制を図るため、来年度より就労証明書を出し、利用回数も就労状態とあるか、チェックすることとした。
2864	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃~夕食提供前項)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	14					3	23.11歳	1.男児	児童にアレルギーがある。	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 6.その他	3.体幹(首・胸部・臀部)	喘息	8.その他	1.あり	1.定期的 に実施	6	1.基準以上配置	外傷・病気などの救急対応とは違い、砂単位での対応が必要なため発症した場合は、支援員が複数要する。	日常的に、対応するための医薬品の点検職員同士で情報を共有する。							1.いつでもおりの様子であった	いつでもおりの様子であった。	2.対象児の近所で対象児を見ていた	支援員1名が近くで見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていない(至近距離にいた)	鉄棒・鬼ごっこ複数遊んだため、別に近くで見守り。	運動誘発性アフラキシーが発症したと思い対応した。	発症した場合、砂単位での対応が必要なので迅速に対応するため、支援員からはアフラキシーに対する理解・研修が必要。					
2865	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	99					9	4	20.8歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首外側じん帯剥離骨折	3.子ども同士での衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	48	2.基準配置	サッカー遊びでの特別ルールの徹底を図っている	児童の見守りと事故防止のための児童への注意を徹底する。	1.定期的 に実施	44	1.定期的 に実施	45	1.定期的 に実施	44	安全点検に努め危険箇所を発見し、修繕を行っている。	3.個人活動中・見守り	児童の見守りと事故防止のための児童への注意を徹底する	1.いつもおりの様子であった	2.対象児の近所で対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童館ホールやクラブ室での見守り等で、館庭で遊んでいた児童は見えていなかった。	突然の危険な行動による事故防止のため、日頃から注意を徹底する。				
2866	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃~夕食提供前項)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	50					7	6	19.7歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 に実施	1	2.基準配置	今回の事故は、登ってはいいところに登ろうとしたことによるもの。	遊具の使い方や遊び方の違いで事故となった。	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	毎日	遊具の使い方や遊び方の違いで事故となった。	1.集団活動中・見守り	巡回しながらの見守りや遊びの指導を行う。	1.いつでもおりの様子であった	外遊びを遊んでいて範囲外(サッカーゴール付近)で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	外遊びの範囲外(サッカーゴール付近)に該児の動きを見つけた。戻ると同時に足が絡まり落下した。	外遊びのエリア内では遊んでいたが、区域外に出たことにより見守りができなかった。	外遊びのルール内で遊んでいたが、エリア内での動きを見守りができなかった。			
2867	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃~夕食提供前項)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	39					5	2	18.6歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	夕方長い時間になり、児童数が減った際、保育室が広く使える為、児童の運動での制止をしなかった。	どんな場合においても室内では、座って遊ぶことを再確認する。	1.定期的 に実施	257	1.定期的 に実施	50	1.定期的 に実施	50	狭い室内での過剰な遊ばせや遊びが、動きが激しい児童にとっては、難しいこともあった。	3.個人活動中・見守り	雨が降ったため外遊びができなかった。多少の運動はあっても大丈夫なことをご案内した。思いが原因か。	どんな場合においても座って遊ぶことを再確認する。	1.いつでもおりの様子であった	同学年児童数人とも遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	所要所に支援員を配置し、何かあった際には、児童に報告できる。また支援員がその場にいる状況である。	それぞれの支援員の周りの児童を見守っていた。	より多くの支援員が必要となる。	担当者が付けられるようになる。	

2868	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	80	80	4	20.8歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の間での衝突によるもの	2.不定期に実施	2～3年に1回	1.基準以上配置	事故発生時の対応等に関する研修の実施頻度を検討。	2.不定期に実施	10～12	2.不定期に実施	10～12	2.不定期に実施	10～12	事故の多いサッカー等があるため、キープやフロッグクワターの購入等を検討。	1.集団活動中・見守り	外遊びの中でも、特に事故の多いサッカー等については見守りを強化。	1.いつもの様子であった	普段と変わった様子なかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	外遊び中、当該児童を特に注視していたわけではない。そのため、児童が接触した瞬間を見ていたわけではない。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の集団または個人を見守っていた。	外遊びの中でも、特に事故の多いサッカー等については見守りを強化。また、サッカーで遊ぶ際のルールを整備し、児童に周知。		
2869	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	40	40	4	20.8歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.不定期に実施	1	2.基準配置	遊具付近に職員は、広範囲に見守りを行う。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	12	対象児が日頃から遊んでいる遊具でも危険があるため、クラブの全児童に伝え、全職員もそのことを再認識する。	1.集団活動中・見守り	対象児が一人で遊んでいたため、補助員は、近くにあった他の遊具で遊んでいた児童達を見ていた。	遊具で遊んでいる児童数に気づかず、近くで見守りをし、一緒に遊ぼうと見守りを行っていた。	1.いつもの様子であった	日頃と同じようだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れた場所での児童達を見ていた。対象児が落下する瞬間は見なかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	運動場の場所で見守っていたため、見えていなかった。	対象児が一人で遊んでいたため、補助員は、近くにあった他の遊具で遊んでいた児童達を見ていた。	一人で遊んでいる児童にも、声掛けをしたり注意を払ったりして行く。
2870	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	11	11	2	20.8歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	3.体幹(首・胸部・腰部)	第10胸椎・第1腰椎圧迫骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.定期的に実施	1	2.基準配置	施設や遊具については学校設備などで、放課後児童クラブでは点検を行っていたが、クラブでも点検を行うようにする。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	施設や遊具については学校設備などで、放課後児童クラブでは点検を行っていたが、クラブでも点検を行うようにする。	1.集団活動中・見守り	雲梯などの高所では遊具が近づくように見守りをする。	1.いつもの様子であった	普段と変わらない様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体に対し、外遊びから室内に移動するよう声をかけ、対象児が離れたところから児童達を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	室内への移動を促しており、担当者・対象児の動きを見なかった。	全体への動きを促すものと、遊具で遊んでいる児童を見守るものと役割分担をする。		
2871	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	114	114	12	20.8歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.不定期に実施	5	2.基準配置	職員会議での見守りポイントの確認と周知	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	施設設備について問題なし	1.集団活動中・見守り	子どもの行動が予見できないことを踏まえ、広く注意し見守りを行う。また、児童全員が一輪車での遊び方について事故の無いよう注意と説明を行った。	1.いつもの様子であった	一輪車遊びをしていない様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	通常の活動であったので、特別な見守りをしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	通常の活動であったので、特別な見守りをしていなかった。	子どもの行動が予見できないことを踏まえ、広く注意し見守りを行う。職員会議において、見守り方法について再度確認・周知徹底を行った。		
2872	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	74	74	7	19.7歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	5.他児から危害を加えられたもの	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	おやつまでの間は宿題の時間をその間にしないように声をかけていたが、あやふやになり出てきた為が。	行事以外はそのような時間帯には室内では走らず、テーブルに着くか、座って遊ぶ事を再確認する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	学習時間、友達とトラブルが生じた室内全体にテールがある環境の中で追いかけられ足を出された。	1.集団活動中・見守り	一つの時間帯に、学習と遊びを合わせたことが原因か。	1.いつもの様子であった	学習時間があつたが、宿題をせず、ふらふらと歩いたり、走っていたため支援員が見守っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	集中できない為、支援員が注意をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	支援員から通う児童の担当の職員以外の支援員は、その児童を見守っていた。	児童人数の多さと、施設数の広さから、担当者同様の、行動が激しい児童を見る必要がある。	

2877	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40	3	1.18.6歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	なし	事故予防に関する研修の実施	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	遊具、玩具と点検を定期的実施し、その使用についても日々児童に安全指導をしていた。今後は支援員間で密に連絡を取りながら安全に過ごせる点検を継続していく。	児童の人数の推移を見ながら、室内と建物外で利用児童が多く配置して見守っていた。室内と建物外で緊急連絡を利用して密に連絡を取っていた。今後とも徹底的に点検を徹底させていく。	1.いづれもどおりの様子であった	保護者から体調不良等申し送り事項はなく、いつも通り元気な様子であった。	4.対象児の動きを見なかった	お友達とソフトボールを投げている事では、児童クラブに在籍していない児童が来ていた。注意深く見守っていた。砂場で遊んでいた児童クラブ在籍児童が呼ばれたので振り返って話を聞いた。視線が転倒した事を見守っていた。	サッカーゴールの前で1人だけ児童クラブ在籍児童のキャッチボールが相手から全手を離れて見守っていた。対象児の動きを見なかった。	運動場での児童見守りの際は児童の居場所や遊びの配置等、視野を広く見守ることを意識して見守っている。また、外部から来る児童クラブ在籍児童以外の来客も注意して見守っている。支援員2名で見守る時は、対角線上で連絡を必要時に情報交換しながら見守っている。今後とも児童の安全をより意識しながら見守っていく。	
2878	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	37	3	1.19.7歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕 肘から手首の間においての骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.不定期に実施	1	2.基準配置	支援員の数が足りない中で、運動場での遊びという選択をした気の緩み	支援員の増員、支援員一人ひとりのスキルアップ	1.定期的に実施	6	2.不定期に実施	1.定期的に実施	6	場所が雲梯でしたが、雲梯が壊れたわけではありませぬ。ハード面において安全点検は学校、学童もできていたと考えられます。	安全点検には今以上に気を引き取り組んでいきます。	2.集団活動中・子ども遊びのみ	支援員の数が足りない中で、運動場での遊びという選択をした気の緩み	1.いづれもどおりの様子であった	活発な女の子。おやつの子供の間で流れていた管理する。1年生女子の異変には気がなかつた。	運動場で活動していた支援員は一人だけだった。広く大目で見守るため、1年生女子の異変には気がなかつた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	怪我をした後、室内に入った対象児童。机に伏せるの「どうしたの？」と尋ねると、対象児は「腕が痛い」と答える話を聞いた。	対象児童に対して、もっと丁寧に話を聞いた。	子どもや些細なコミュニケーションを取るように研鑽したい。
2879	平成30年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	57	7	2.24.12歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第5指基節骨転位性骨折(全治約6週間)	3.子ども同士の間での衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	新任職員が増えている中で、事故予防に関する意識が薄れていることと必要と考える。注意力や想像力を養うことを目的として、毎年定期的な研修や勉強会を計画する	注意力や想像力を養うことを目的として、毎年定期的な研修や勉強会を計画する	1.定期的に実施	6	6年生主体で活動的であった(理由を記載)	3.いづれもどおりの様子であった	3.いづれもどおりの様子であった	6年生主体で活動的であった(理由を記載)	4.対象児の動きを見なかった	トラック偶発にいた職員は、パトゾーンで5名全員がパトゾーンに入っていた。当日は、リレー練習を6年生主体で行うこととを計画しておき、対象児童も張り切って練習に臨んでいた。	6年生主体で活動的であった(理由を記載)	1.集団活動中・見守りあり	6年生主体で活動的であった(理由を記載)	トラック偶発にいた職員は、パトゾーンで5名全員がパトゾーンに入っていた。当日は、リレー練習を6年生主体で行うこととを計画しておき、対象児童も張り切って練習に臨んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	奇数側パトゾーンに1名、2カ所のコーナーに付いた児童も、もう1名は具合いが悪い子に戻っている最中だった。	職員の見守り範囲に死角ができてしまいがち、注意喚起を児童共に行なった。また、学年でパトゾンの受渡り技術の再確認を職員と行なった。また、職員配置については奇数側・偶数側に指導員を複数入れ、危険な状況を見守ることができるよう体制を組む。	

2880	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19	2	6	1	5	5	3	3	14.2歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切削・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左目眼球角膜損傷	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	異年齢の児童を合同にて保育していた	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	異年齢の児童を1つの教室で合同にて保育していた	1.集団活動中・見守り	異年齢の児童が複数のエリアに分けて遊んでいたが、相互に行き来が可能な状態であった。	上記のとおり異年齢の児童を1つの教室で合同で保育する場合、必ずしも厳密にエリアを分けて相互に行き来することを禁止すべきではないと思われ、異年齢の児童を1つの教室で合同にて保育する場合には、今回のような事故が生じる危険があることを踏まえ、次のような改善策を実施する。 ・玩具が子ども達が遊んでいるうちに、色々な種類が混ぜてしまっていた。遊ぶ場所ごとに玩具をきちんと決めようようにし、玩具の混入が無い様に徹底する。 ・年齢にあった玩具を提供する。 ・玩具遊びコーナーごとに職員を配置する。 ・玩具を持って走り回らない様に遊ばせる。	色々な事に興味関心を示していることから年上の園児にも自らがわかる姿が見られる	1.いつもの様子であった	他の子どもたちと接しながら遊んでいる職員や、対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	降園準備(持ち物の整理等)をし、職員がいた	降園の時間帯においては、荷物点検や保護者の対応等も必要であった	保育者が降園時に保護者とのコミュニケーションをとることもより良い保育を行うために必要であるものの、それによって児童の危機管理が疎かになることは避けなければならないことから、次のような改善策を実施する。 ・保育が行われる空間内には職員がいて、特に登降園等のタイミングには、自らの必要な活動を伝える職員間の声かけを徹底する。 ・合同保育を行う子ども達にしっかりと話をし、落ち着かせてから合流する
------	-----------	------	---------------	----	-------------------	-------------	---------	----	---	---	---	---	---	---	---	-------	------	---------	------	------	--------------	-------------	----------	------------------	------	---------	---	--------	-------------------	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	-------------------------	-------------	---	---	--	--------------	--	----------------------------	-----------------------	---------------------------------	---

2883	令和3年5月12日	1.認可 1.幼保連携型認定こども園	11	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	7	4	3	2	2	17.5歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指) 右足背骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置 1.基準以上配置	延長で職員が遊びの内容や選択を検討する必要があったと考える。 事故を職員間で話し合い、なぜ事故が起きたか検討したり、今後の対応を考える。	1.定期的実施 毎週	1.定期的実施 毎週	1.定期的実施 毎週	1.定期的実施 毎週	回転しながら落下した先が遊戯室の固い床であり、衝撃による負傷も起こりえる可能性や速い速度により吹き飛ばされることが考えられる。 マットなどを敷き、落下しても衝撃を軽減する工夫を行う。 1.集団活動中・見守り 回転速度が速すぎたこと、保育士が本児を支えきれずに倒れてしまったため本児の手を離れてしまった際に助けることができなかったと認められる。	対象児が怖がる様子もなく楽しんでいたこと、まさか手を急ぐとは思ってなかった。そのため、速度を緩めることやしっかりと本児を抱きかかえながら安全な方法で行う。				
2884	令和3年5月12日	1.認可 1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	3	3	3	3	15.3歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右ひじ骨折、脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	1.基準以上配置	通常保育が終わり、夕方園庭で遊びながらお迎えを待つ時間帯の教も減り始め全員の目が行き届かなかった。 保育教諭の配置と連携を確し、特に危険箇所には目を配ることを再確認をする。	2.不定期実施 毎週	1.定期的実施 毎週	1.定期的実施 毎週	1.定期的実施 毎週	まだ上手ができない3歳児の近くに目を配る職員がいなかった。年齢や発達段階に合っていない遊びにチャレンジした子が危険認識を高めるような援助や指導を行う。	一人は門番、一人は砂場も最初は近くで見ているが、他児と共に移動し傍にいないかった。	すぐそばに年中児のクラスの職員がいたが背中を向けて他児を取りやめていた気がなかった。	個々に子どもと遊んでいると全体を見回すところがあるのが全体の配置を確認する。			
2885	令和3年5月12日	1.認可 1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	55	4	4	4	18.6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右橈骨尺骨近位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	1.基準以上配置	跳び箱使用時の保育士配置補助の仕方の確認	1.定期的実施 48	1.定期的実施 48	1.定期的実施 48	48	週一回の職員による点検の他、器具管理会社による年2回の設備点検	補助の方法は形とすると近いこともあり跳び箱の取り組んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	跳び箱の横で跳び箱をしていて見守っていたが、落下する瞬間に手をさする間に間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他児の跳び箱の補助をしていた。	跳び箱補助の仕方の確認、落下を防げる位置での補助
2886	令和3年5月12日	1.認可 1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	88	23	35	30	4	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	3.体幹(首・胸部・臀部)	骨折	3.子ども同士によるもの	1.あり	2.不定期実施	1.基準以上配置 2.基準以上配置	職員について、配置職員を増やし事故防止に努める	1.定期的実施 3	1.定期的実施 1	1	1	園庭で鬼ごっこを友達と遊んでいる時に他の園児と接触したため事故が発生したことを知る	園庭に3名の職員がいたが他の園児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	職員について、連携をとり死角等の無いような配置になるように園児についても注意をするよう指導する	

2887	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10.2.午前中	1.施設敷地内(室内) 3.2歳児クラス	14	3	3	14.2歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 2.不定期に実施	1.基準以上配置	運動中の見守りについて職員間で注意喚起する。当該園児の休み中等のフォローを行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	今回は直接の原因ではないが段差や滑りやすい箇所等が点検を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	体を動かすため転倒も考慮し、つまづきやすいマット等は予め除去しておく。	3.いつもより活路で活動であった(理由を記載)	動物に扮し、体を動かさず活動していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見守っていた	いるんな動物に扮して走るため、スタートとゴールに職員を見守りしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	スタートとゴールの職員以外で散らばり見守りしていた。	実際に走るコースの中間に職員をもう1人配置する。	
2888	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内) 6.5歳以上児クラス	35	3	3	17.5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 3.未実施	1.基準以上配置	職員に周知し、より順序だてて練習計画をたてる。	1.定期的に実施	数	1.定期的に実施	数	1.定期的に実施	数	ゴムチップ製の地盤で練習していたが、運動会当日のため、慣れのために室内練習をした。	1.集団活動中・見守りあり	練習前に園児全体を促す。	1.いつもどおりの様子であった	一輪車の練習中、パラソルを崩し、手をついて転倒。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員は園児を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていた	他児の動きを見て後で音がしたので振り返った。	より順序だてて練習計画をたてて練習させる。	
2889	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 6.5歳以上児クラス	44	5	6	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1.遊具等からの転落・落下 2.なし	1.定期的に実施	職員数は十分に満たしていたが、戸外遊びでの配置(立ち位置)に片寄りがあった。	職員同士で、戸外で特に注意を要するところを共通理解しておく。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	安全面等考慮して、芝生の上に鉄棒を設置していた。しかし、鉄棒による加重や使用回数が増えることにより芝生の痛みが激しくなってきたことから、鉄棒の設置場所を土の上に移したため、より衝撃が強かったと思われる。	1.集団活動中・見守りあり	昼食後の遊びの時間は、満腹感がなくなり開放的に遊んでいるため、いつもより注意散漫になっている。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒での前回りの経験が少なく、普段は逆手で前回りをしていたため、頭が下になった状態で地面に落下したため、手を伸ばさず、間に合わず、落下を防げなかった。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	本児の後回りの様子を見守っていたが、頭が下になった状態で地面に落下したため、手を伸ばさず、間に合わず、落下を防げなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員も近くで見ていたが、一瞬の出来事であったため、対応ができなかった。	慣れない鉄棒に取組んでいる本児は、失敗することも大いに考えられた。	鉄棒は落下の危険性が高いことを踏まえ、保育者が子どもの様子を見守り危険性を予測しながら、特に経験の少ない子ども、必要に応じて手を支えたり手を添えたりして落下を防止する。
2890	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10.7.午後	1.施設敷地内(室内) 4.3歳児クラス	19	3	3	15.3歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 1.定期的に実施	1.基準以上配置	常に危険(事故)が起こり得ることを想定し、事故予防策の徹底を図る	2.不定期に実施	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	特になし	1.集団活動中・見守りあり	見守りが不十分であった	常に全体を注意深く見守れる体制を構築するように注意していく	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	他の園児に対応していたため、対象児を見守ることができなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の業務をしていたため、対象児を見守ることができなかった	保育者同士の連携が不十分であった	常に周囲の状況を把握し、保育者同士の連携を密にする	
2891	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 5.4歳児クラス	30	1	1	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右モンテジリア骨折尺骨開放骨折・橈骨頭脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり 1.定期的に実施	1.基準以上配置	各遊具の近くに職員を配置	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	落下時の衝撃を和らげるようシッションのあるマットを敷く	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒運動不足がある	各遊具の安全な使い方指導を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	経験は少ないが友達と遊んで取り組んでいたようだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見守っていた	体操教室で鉄棒の使い方や、体験もしていたが、手をつかずに遊んでいたため、危険な様子もなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にいたが他児の加わっていただけで、見守りができなかった。	鉄棒使用時は必ず職員がついて行なう。
2892	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1.朝(始業時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	65	4	4	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ脱臼・右腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり 1.定期的に実施	1.基準以上配置	園庭に配置する職員を見直す。危険な遊びの園児への指導。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	園庭の整備を含めた危険箇所の見直し。	1.集団活動中・見守りあり	活発な遊びが盛況を過ぎて注意散漫になる。	園児への安全教育の徹底	1.いつもどおりの様子であった	天候がよく活路に遊んでいたため、感化された。	2.対象児の至近で対象児を見守っていた	かけっこをしていたのは見守っていたが危険な様子もなかったため、止めていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にいた保育者が対象児の動きを見ていなかった。	危険な遊びはヒヤリハット場面について話し合い対策を検討。園庭のどこに職員を配置するか再検討する。

2897	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭等)	7.異年齢構成	70	23	23	24	10	10	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	3	跳び箱に個別でついていたが支えきれなかった	体操教室にて安全な跳び箱の補助の仕方について講習を受ける	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.集団活動中・見守り	着地を失敗した場合のクッションを考える必要がある	跳び箱が高い時はウレタンマットにする	1.いつもの様子であった	自信を持って近づいた	1.対象児とマンツマンの状態(対象児に接していた)	2.担当者・対象児の動きを見なかった	全体や他の遊具などそれぞれの配置で子どもの様子をみていた	補助の付き方が必要であった	実技指導を高める
2898	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前提中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	32	2			2	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎A A B外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	2	安全な遊び方を繰り返し子どもたちに伝えていく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	砂場用の玩具は外の倉庫の子ども用の高さの低い玩具を設置してあるが、用具を下げた後、子どもだけで遊ばないようにする。	1.集団活動中・見守り	数人の子どもの通しで分けて遊んでいく	玩具を子どもが通しで必ず保護者の監視が十分できる見守りで行う。	1.いつもの様子であった	順番を守って二組になり遊んでいた。	4.対象児の動きを見なかった	残りの玩具の入った籠を下ろして、対象児を見なかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	三輪車で遊ぶグループを監視していた。	砂場で使用する玩具の入った籠を運搬する時には、保育士が通るか、保育士と子どもと一緒に運び、子どもだけでは運ばないようにする。	
2899	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前提中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	30	3			3	16.4歳	2.女児	体操の時間に遊戯室で、運動会に向けてカラーマットを使用して側転の練習をしていた。	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	2	基本的な運動を十分にさせるとともに、安全な運動の仕方を繰り返し伝えていく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	カラーマットを使用する時は、カラーマット(セーフティマット)から出ないように、繰り返し注意を行う。	1.集団活動中・見守り	複数の保育士が指導する時は、連帯の仕方や指導の立つ位置などについて十分確認をしてから行う。	1.いつもの様子であった	順番を守って運動していた。	2.対象児の至近で対象児を見つめた	側転をするグループに順番にさせていた。	1.担当者・対象児の動きを見つめた(至近距離にいた)	他のグループの園児の体操指導にあたっていた。	体操で出来る技の精度を上げる練習や新しい技を取り組むときなど、考えられる危険性について保育者同士で確認を行う。		
2900	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前提中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	16	3			3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	2	事前の安全指導を徹底するとともに、マラソンの折り返し位置と職員の見直しをする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	廊下は日々清掃しておりマラソンだけの十分な長さがある。コース上には障害物はなく、床板にも問題は無い。ハード面の改善はできない。	1.集団活動中・見守り	左回りでマラソンを行う場合は、折り返し地点のコーナー設置場所を廊下の中央からやや右にずらして、折り返しのコーンを通過した後の走路コースのふくらしみに対処する。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	運動が大好きで、入園できたら大変喜んで入園初日でのマラソンに大変張り切っていた。	2.対象児の至近で対象児を見つめた	折り返しのコーンの横付近で、全ての園児の走る様子を観察しながら、励ましの声掛けを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見つめた	それぞれの位置で、そこを通過する様子を観察しながら声掛けを行っていた。	保育士の立つ位置をコーン正面または折り返した時に園児がコーンから振り返るため、そのふくらしみに対処する		

2904	令和3年5月12日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	13	1	15. 3歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	5. 下肢(足・足指) 左脛骨骨折 8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	事故防止、事故予測についての見直しを図る。	就業規則第4章第28条と事故後の対応マニュアルに基づいて事故防止マニュアルを作成する。	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	3	2. 不定期に実施	12	床に楽器を置くのではなく、机を用意する。 楽器の正しい扱い方を子どもに確認する。	1. 集団活動中・見守り	活動の間、準備の間でも子どもが行動に注意する。	子どもの突如とした行動をよく把握しておく。	3. いつもより活動的であった(理由を記載)	いつもは練習にあまり興味を示さないが、この日は喜んで楽器の向きを練習したが、練習が止まっていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ている。	対象児のクラシック楽器を準備していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ながら、対象児の動きを見つけた。	楽器を準備する上で声をかけ全体を見ながら対象児の動きを見つけた。	慌てないで行動するように、全体に指示を出していた。	子どもたちが落ちていく様子に、目を配り、声をかける。
2905	令和3年5月12日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	43	3	18. 6歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指) 右第五指基部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	配置を満たすように、職員が対角線になるよう常に意識し、声を掛け合う。	1. 定期的に実施	12	木製フロアで特に問題は無かった。	特になし。	1. 集団活動中・見守り	試合途中で他児が投げたボールを取り損ね、小指にぶつかった。	事前に体擦を十分に行い、十分に防げるように、怪我発生時にすぐ視察をする	1. いまもおりの子であった	年長組でドッジボールの試合をしており、活発に動いていた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ている	本児からも訴え、確認することができた。	1. 担当者・対象児の動きを見つけた(至近距離にいた)	ホールにてボールの試合を、各配置していた	ホール内には規定の職員がおり、コーナについてお人形の問題はなかった。	特になし。			
2906	令和3年5月12日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	46	5	17. 5歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指) 左橈骨若木骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置 2. 基準以上配置	下見をした後、子どもの活動時間(昼食後)の活動などに沿った保育教諭の動きや立ち位置などを職員間で把握しあい、共通理解していく。	1. 定期的に実施	12	園外保育前に下見をして環境の安全確認をしていたが、不十分であったことを反省する。 遊び場所を東屋付近でなく、広場で遊ぶことで、子どもの様子を把握しやすく危険が無かった。	園外保育中で、環境の変化や開放感により、子どもたちと落ち着いて行動したりできるような遊び方を工夫して、安全な遊び方を欠けていた。 東屋で遊ぶ場合は、広場で遊ぶこととを職員間で共通していき、	1. 集団活動中・見守り	園外保育中、環境の変化や開放感により、子どもたちと落ち着いて行動したりできるような遊び方を工夫して、安全な遊び方を欠けていた。	3. いつもより活動的であった(理由を記載)	昼食後の片付けや排泄も終えた子どもも、東屋で遊ぶのを嫌がる様子が出てきた。	2. 対象児の至近で対象児を見ている	保育教諭は、近くで見守っていたが、つまずき倒すような動きがなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見つけた(至近距離にいた)	近くで見て、つまずき倒すような動きがなかった。	職員は子どもの排泄(トイレ)場所を2名、昼食後の片付け場所を2名に2名ずつ見守りに任じた。遊具の見守りに2名しかなかった。	排泄や昼食の片付けを済ませた後、遊具の間を回り、職員6名もついで遊具が見守りに任じていく。				
2907	令和3年5月12日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	1. 朝(始業時～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	48	5	17. 5歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷 0. 負傷 5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む) 左下の歯の打撲	3. 子ども同士衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	ホール内の環境の安全確認をしていたが、段ボールハウスの動きや立ち位置などを職員間で把握しあい、共通理解していく。	子どもの遊びに合わせた保育教諭の動きや立ち位置などを職員間で把握しあい、共通理解していく。	1. 定期的な実施	12	ホール内の環境の安全確認をしていたが、段ボールハウスの動きや立ち位置などを職員間で把握しあい、共通理解していく。	段ボールハウスの入り口付近で遊ばないことやドアを外に見通すこと、また、靴を脱いで中に入ることなど、靴を履くなどの対応を考えた。	3. 個人活動中・見守り	段ボールハウスの入り口付近で遊ばないことやドアを外に見通すこと、また、靴を脱いで中に入ることなど、靴を履くなどの対応を考えた。	1. いまもおりの子であった	段ボールハウスの入り口付近で遊ばないことやドアを外に見通すこと、また、靴を脱いで中に入ることなど、靴を履くなどの対応を考えた。	2. 対象児の至近で対象児を見ている	保育教諭は、近くで見守っていたが、段ボールハウスの入り口付近で遊ばないことやドアを外に見通すこと、また、靴を脱いで中に入ることなど、靴を履くなどの対応を考えた。	1. 担当者・対象児の動きを見つけた(至近距離にいた)	同様に近くで見守っていたが、段ボールハウスの入り口付近で遊ばないことやドアを外に見通すこと、また、靴を脱いで中に入ることなど、靴を履くなどの対応を考えた。	保育教諭4名、保育補助2名がおり、子どもの遊びに合わせて保育者間で声を掛け合い、職員全体で余裕をもって遊具の見守りに任じていく。				

2914	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24														1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕打撲傷、右肘関節打撲傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	12	2.基準配置	園庭で遊ぶ際には、保育教諭の立ち位置に留意する。	1.定期的実施	60	1.定期的実施	60	1.定期的実施	毎日	・事前に園庭を見回り、危険が予想される場合は取り外す。 ・前年度から下がっていたロープは必要であれば再確認する。危険が予想される場合は今までも直ぐに取り外す。	1.集団活動中・見守りあり	柵には登らない事を常に伝えると同時に、柵に足が掛かるとして落下してしまったり、柵の下にぶら下がっているロープにつかまるとして遊具を倒したりしてしまったりした。	3.対象児から離れたところで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れた場所でも他の子どもに対応していたため見えていなかった。	子ども一人一人に対する発達の把握と遊びに対する安全について検討する。				
2915	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	17.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	45													2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右下腿骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2-5	1.基準以上配置	教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン・園児を事故・災害から守る安全対策の手引き等を使用した研修を引き続きより内容を定着していく。	1.定期的実施	3	1.定期的実施	264	1.定期的実施	12	より慎重な備品の使用をする。体操指導・環境設定の園内研修を実施する。	1.集団活動中・見守りあり	見守りもしくは指導をする状況で教育・保育を継続する。	1.いっぽもどおりの様子であった	保護者から気になる様子もなく、担任もいっぽもどおりの様子を確認していた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	本児と担任の1対1での体操指導で、手をすくばずフォローできない状況になっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じフロアで、本児以外の44名を2名で体操指導をしていた。	担任の指導力不足が原因として挙げられる為、体操指導・環境設定の園内研修を実施する。		
2916	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	43	22	21											1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	BAAB不完全脱臼(下前歯)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	3	1.基準以上配置	園児の動きを予測した声掛けをしていた。	1.定期的実施	4	1.定期的実施	4	2.不定期実施	4	木製遊具は高さや開放感があり、より活発になる事が考えられ、手元に対する危険度を声掛けて指導すべきだった。	1.集団活動中・見守りあり	木製遊具は高さや開放感があり、より活発になる事が考えられ、手元に対する危険度を声掛けて指導すべきだった。	園児の行動しながら、声掛けや手を貸す等、緊張感を保つて保育する。	1.いっぽもどおりの様子であった	性格的にも明るく、友達との交流も上手に出来ているが、外での遊びに開放感を持って、自身の危険感が予測できなかった可能性がある。	木製遊具がある為、保育士は常に落下などに注意していたが、マンツーマンでなかった事で、事故を防げなかった。	園庭にはもう1人配置していたが、別と交流して、直視していなかった。	職員のうち位置を考へるべきだった。	広い園庭での活動は子どもも散らばり、目が行き届かないように、その時々で職員の配置人数を増やし、子どもに約束事を話す等対応が必要だった。		
2917	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	44	4	8	7	7	4	8	6						8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆状骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	数回	2.基準配置	対象児はその日より座って遊ぶ時間があるという思い込みを無くして対応する	1.定期的実施	月1回	1.定期的実施	使用前必ず点検	1.定期的実施	使用前必ず点検	朝は異年齢の子と交流を持っているので、動きの速い一層気を付ける	7.その他	自己での回避、遊び慣れた場所でも事故が起きることを理解する	危険な遊び等もわかるよう今後も伝えたい	1.いっぽもどおりの様子であった	毎日朝が早く、その日の日曜日でもあった	3.対象児から離れたところで見守っていた	転倒して座り込んでいた対象児に今日は元気のいい日なんだという目で見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	転倒して座り込んでいた対象児に今日は元気のいい日なんだという目で見ていた	対象児が年長児ということも、怪我等は伝えるだろうと想っていた	どんな園児であってても座り込んでいる時には声をかけていく

2918	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	17.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	44	2	2	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外側顆骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施 2-5	2.基準配置	ヒヤリハットの活用・環境設定の園内研修を実施する。	1.定期的実施 3 1.定期的実施	264	1.定期的実施	12	ヒヤリハットの活用・環境設定の園内研修を実施する。	1.集団活動中・見守り	サッカーをしていいた園児の活動量・勢いに対するスペースの広さとはいえなかった。	遊びの内内容や設定の精度、ヒヤリハットの更新をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	保護者から気になる様子の連絡もなかった。	4.対象児の様子を見なかった	園庭で自由遊びという設定をし、5つの遊びができるようにした。大型遊具で遊ぶ園児の様子を見なかった。	2.担当者・対象児の様子を見なかった	園庭で、他3つの遊びに付く設定であった。本児の活動を見ていた。	子どもも運動量と合わない活動の誤設定をした。	ヒヤリハットの活用・環境設定の園内研修を実施する。
2919	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	63	17	34	12	8	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折(左前腕)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	腫れが見られなくても、痛みが続くようであれば若木骨折を疑う対応を取る	1.定期的実施 290 1.定期的実施	290	1.定期的実施	290	雨天後や、霜で滑りやすい時は使用を控える。	1.集団活動中・見守り	職員や子ども人数に、園庭内の遊び場所や玩具を制限し全体を把握する	1.いつもおりの様子であった	通常と変わった様子は見られず、活動は意欲的に参加していた。	3.対象児から離れたところでは遊んでいた	全体を把握するため、山には離れた場所で行っていた	2.担当者・対象児の様子を見なかった	1歳児の担任の対応、他の職員も他児の対応を見ていた。	山を下りる時に最初は一瞬にその方法を教える。身を守る転倒の保育、遊びの中で子どもも指導を行う。		
2920	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22	2	2	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	3.体幹(首・胸部・臀部)	軽度骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1.基準以上配置	・跳び箱指導時の、保育者の危機管理意識 ・跳び箱における危険防止の研究と実践	1.定期的実施 12 1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.集団活動中・見守り	・運動場全体で、子どもが遊んでいた。	・跳び箱等の危険な運動遊びの際は、保育士が十分指導できるような環境を整えて行う。	1.いつもおりの様子であった	・運動が好きである	3.対象児から離れたところでは遊んでいた	・跳び箱を中心に、全員の見守っていた。	2.担当者・対象児の様子を見なかった	・支援対象児への対応をしていた	・危険性の高い運動遊びに細い指がはさまるような指導方法を行って、研修・実践する。		
2921	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	18	1	1	17.5歳	1.男児	8.その他	1.負傷 0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足薬指、中指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	会議にて内容の確認、共通理解を図る。	1.定期的実施 12 1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎週	1.集団活動中・見守り	声掛け・見守りが十分でなかったため、並ぶ所にテープを貼っているが、テープの位置が前過ぎた。	全体で話をし意識付けをする。テープの位置をずらし安全に並ぶようにした。	1.いつもおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	トイレと室内を見ている。室内にいる他児に対しては、見ていなかった。	声掛けが十分でなかったため、見守りを怠らない。					

2922	令和3年5月12日	1.認可	1. 幼保連携型認定こども園	1. 朝(始業7～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	17											26	19	15. 3歳児	2. 女児	日中は暑くなり園庭で遊ぶことが出来にくい時期となっており気温が上がりが始める前に外遊びをしていた。担任の一人が園庭の園児の姿全体が見える場所(テラス付近)にて見守っていた。	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕上腕骨頸上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	朝の時間帯であるから、園児の動きがまだ慣れていない時間帯であったことが考えられる。また、2人担任体制であったが、もう一人の担任がまだ出動しなかったため、目が行き届きにくい状況であったことも考えられる。	1. 基準以上配置	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	遊具の配置が園児の動きを予測した配置となっていたか検討する。今回は、遊具が死角となり互いがぶつかった。	1. 集団活動中・見守り	2人の担任がそり目配りしやすい状況になつてから広い場所での活動を行うように配慮する。	1. 1.いつも通りの様子であった	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	他の職員が協力できる状況(時間帯)ではなかったこと必要因として考えられる。	他の職員の協力のもと、全体でできる体制を検討する。
2923	令和3年5月12日	1.認可	1. 幼保連携型認定こども園	1. 朝(始業10～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2. 1歳児クラス	17	4	4	13. 1歳児	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施	2. 基準配置	保育教諭間の連携等を再確認し事故防止対策を再検討した。	1. 定期的に実施	250	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	1. 集団活動中・見守り	戸外遊びで保育教諭が児童に対しての見守り方。遊ばせ方について再度見直しをした。	1. 1.いつも通りの様子であった	数日前は体調不良であったが、当日は変わりなく元気であった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	他の子どもが、対象児の様子も見ていたが、他の子どもへ対応していた時に対象児の転落が起きてしまいが間に合わなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見つけた(至近距離にいた)	他の子供をしていて、援助が間に合わなかった。	保育教諭の戸外での位置を再度確認し、子どもへの死角がない様に体制を検討した。以前から固定遊具には必ず2名の保育者がつくようになっているが、遊具に登った子どもを見届けるまで遊具から降りきるまで責任をもって見守ることとした。										
2924	令和3年5月12日	1.認可	1. 幼保連携型認定こども園	1. 朝(始業7～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	38		11	11	16	2	2	17. 5歳児	2. 女児								2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右小指基礎骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	遊びに合った職員数を配置できない場合、鉄棒と跳び箱の1つだけか一方にずらして遊ばせていく。朝の受付時で人の動きが多い時間帯の遊び方としては適切ではなかった。 ・3.4.5歳児が同じ跳び箱で跳んでいたので、年長児は少し高さが低かったこと、年齢ごとこの活動時に行うようにする。 ・遊びに合った職員数を配置できない場合、鉄棒と跳び箱の1つだけか一方にずらして遊ばせていく。 ・異年齢で遊ぶ際は、発達に合った遊具を用意し、年齢の異なる子が跳ぶことができるようにする。年齢ごとに活動時に行うようにする。	1. 集団活動中・見守り	登園後、いつも通りのような運動遊びコーナーで遊んで、跳び箱は2回目に跳んだときに負傷。	1. 1.いつも通りの様子であった	3歳児や4歳児には補助が必要な子がいるため跳び箱のそばにいた。 本児は4回目で逆さまの状態にはなっていたため、見守っていたが、降りる際にバランスを崩し、手をさしのべようとしたが、間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見つけた	鉄棒遊びの補助をしていたため、見ていなかった				

2925	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	57	13	16	28	10	10	15.3歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部) 右鎖骨骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	基準配置だったが年齢別によって遊ぶ場所をわけていなかった。 年齢別によって遊ぶ場所を分ける必要がある。 年齢別によって遊ぶ場所を分ける必要がある。	1.定期的	1.定期的	1.定期的	毎日	毎日	普段から滑り終えたら、すぐよける事・移動する事を声かけして、本児が瞬時によける事が出来なかった。 子どもは瞬時によける事は出来ない為、遊ぶ方の確認又は場所を区分けする。 1.集団活動中・見守りあり 保育部と教育部が同じ場所で遊んでいた為。 保育部と教育部が遊ぶ場所を分ける必要がある。	1.いっしょの様子であった 元氣よく遊んでお遊びを楽しんでいた。 2.対象児の至近で対象児を見ていた	雪山の下に職員がいたが、上から滑ってきた5歳児との衝突を防ぐ事が出来なかった。 2.担当者・対象児の動きを見なかった	他に職員がいたが、手の届かなかった。	衝突するかもしれないと想定していたが、いざ起ってしまった。	基準配置でも年齢に合わせた大きさや遊び方を確保する必要がある。					
2926	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3.昼食・おやつ時	1.施設敷地内(室内) 2.1歳児クラス	18				5	6	13.1歳	2.女児	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷 0.負傷 2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部)	鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	クラスでの日課、育児の手順については職員会議、園内研修等を通して意思統一を図る。クラス担任は日頃よりコミュニケーションを図りながら保育課題や反省についてはその都度改善していく。 食事の場面では、園児が集中できるように、日課の流れや育児の手順等について意思統一を図り、クラス職員はコミュニケーションを図りながら保育していく必要がある。	1.いっしょの様子であった 本児は10時から給食を食べ始め、通常通り進めていた。	同じ食事テーブルには他児がおり、担当保育教諭2名について、2名の園児の援助を行っていた。	担当制を行っているため、食事中は担当保育教諭が行っており、他の保育教諭は本児に関わっていない。	食事の際には食事の援助のみならず、子どもも注視する必要がある。	食事の際には食事の援助のみならず、子どもも注視する必要がある。				
2927	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	32	10	10	10	2	10	14.2歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足薬指第二関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	・砂遊び中で、いっしょでもよりコンクリートで砂が滑りやすかった。 コンクリートに人工芝を設置すると共に、飛び出した砂はすぐに集めて戻す。 どこでも事故が起こるといって危機管理意識を持つ	1.いっしょの様子であった	中庭だけで遊ぶのは危険なため、十分遊ぶための必要と判断し、2・3歳児に南園庭も開放した。	砂遊びに加わろうとお血を持って走っていたと思われる。	お血を持って走ると危ないという考えで、コンクリートで足を滑らせた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	山で遊ぶ子、カートに乗る子を見守っていた。	室内の片付けをし、職員もいっしょで遊ぶ子、カートに乗る子を見守っていた。	見守りの位置や場所を、より明確に職員間で行っていた。
2928	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10.1.朝(始業時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 4.3歳児クラス	4				4	4	15.3歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	事故予防マニュアルを作成し職員間で確認し合う。	1.定期的	3.定期的	6.2.不定期	12	1.いっしょの様子であった	自由遊びの時間が子どもに注ぎすぎている。 1.いっしょの様子であった	園庭に居たが他児で遊んで、側に居なかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他児と遊んで、側に居なかった。	鉄棒のあたりに、子どもも居なかった。	鉄棒のあたりに、子どもも居なかった。				
2929	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11.6.午睡中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	137	69	35	33	5	6	17.5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部)	右鎖骨骨折・外傷性歯の脱臼	8.その他	1.あり	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	1.定期的	特になし。今回は施設や設備のハード面の不備が原因で発生したと見做す。 特になし。今回は施設や設備のハード面の不備が原因で発生したと見做す。	1.いっしょの様子であった	戸外遊び中、友達と追いかけっこをして遊んでいた。大型遊具の向かって走った際に、職員と衝突してしまっ	他児と鬼ごっこをして遊んでいた。大型遊具の向かって走った際に、職員と衝突してしまっ	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他児の遊びを見守り、対応していた。	見通しの悪い場所での、保育者と子どもとの衝突は、保育者は常に周囲に気を配り、子ども達の間をこまめに確認する。鬼ごっこ等の運動遊びは、見通しの良い場所で行うよう指導する。	見通しの悪い場所での、保育者と子どもとの衝突は、保育者は常に周囲に気を配り、子ども達の間をこまめに確認する。鬼ごっこ等の運動遊びは、見通しの良い場所で行うよう指導する。		

2933	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	43							2	2	16.4歳	1.男児					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施		2.基準配置		マニュアルの確認・職員同士の連絡の徹底	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	2人乗りしやすいタイヤブランコ	タイヤブランコを廃止した	1.集団活動中・見守り	子どもたちの状況を確保するようになる	1.いつもどおりの様子であった	高いところから飛び降りることを好んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	高いところから飛び降りることを最了近に傾向がある
2934	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	27	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	16							2	2	16.4歳	1.男児	療育機関を利用。				2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	1.頭部	急性硬膜外血腫	8.その他	1.あり	1.定期的実施		2.基準配置	教育・保育等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインを全職員で再度確認し、必要に応じて危機管理マニュアルを見直す。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	1	1.定期的実施		3	ヒヤリ・ハットで事故発生を確認し、全職員で情報を共有するとともに、危機管理意識を高める。	1.集団活動中・見守り	保育の状況、時間帯により配慮すべき点も異なっている。状況に応じて、どのような注意が必要か、もう一度話し合い確認していきたい。	3.いつもどおりの様子であった(理由を記載)	対象児は、他児の準備をしている間、室内をウロウロしていた。目撃者から保護者の飛んでいる様子を見た。対象児の対応の遅さから、子どもを想定して、周囲に気を配ることができなかつた。	担当職員の後方から出てきて、他児の対応に飛ぶようになった。対象児の対応の遅さから、子どもを想定して、周囲に気を配ることができなかつた。	他の職員は、他児の着替えや準備に忙しかった。対象児の対応の遅さから、子どもを想定して、周囲に気を配ることができなかつた。	常に、職員同士で連携をとりながらも、子どもたちの動きを見守ることができてきた。送迎時には、必ず閉めておくことを徹底し、子どもたちが安全に過ごせるように配慮する。	
2935	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃~夕食提供前)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6	2	1	3			3	3	15.3歳	1.男児					2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施		1.基準以上配置	発生事故を職員間で共有し、園児に対しても注意喚起をする。	1.定期的実施	1	1.定期的実施	1	1.定期的実施		3	夕方5時頃、遊戯室の職員が遊戯室の片側を掃除していた。この時間帯には、職員が遊戯室を巡回していた。	夕方5時頃、遊戯室の職員が遊戯室の片側を掃除していた。この時間帯には、職員が遊戯室を巡回していた。	とても元気な様子であった。2.対象児の動きを見ていなかった	この時間帯は、みんな遊戯室で遊んでおり、片付けの準備をしていた。	遊戯室は2階にあり、他の職員は下の職員室で仕事をしていた。	新園舎であるからこその、古い園舎の時には考えられない程度に整備がなかったが、幼児園児である事を充分配慮し共に見守る必要があった。				
2936	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	67	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	18						3	3	16.4歳	2.女児					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施		1.基準以上配置	発生事故を職員間で共有し、園児に周知する。	1.定期的実施	1	1.定期的実施	1	1.定期的実施		3	事前に手すりであることを説明し、遊ぶものではないの事を周知する。	園庭に出る時は、手すりを持って歩くことと説明し、遊ぶものではないの事を周知する。	事前に手すりであることを説明し、遊ぶものではないの事を周知する。	クラス外の先生は各クラス、職員室などで業務を行っている。	クラス以外の先生は各クラス、職員室などで業務を行っている。	外に出る時の職員の位置、1番先に出る人、1番後にいる人、最後に出る人、というように役割分担が必要である。				

2937	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	12						3	3	14. 2歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	職員会議で何度も話し合い、鉄棒のぶら下がりを十分にしてから雲梯に移行する。月齢差の大きいクラスなので、全員がしっかりと鉄棒にぶら下がれるまで雲梯を使わない。2歳児は雲梯を使わない。固定遊具では必ず大人が側にいるようにする。ということを職員全体で共通認識する。	1.定期的 に実施	6	1.定期的 に実施	6	1.定期的 に実施	6			3.個人活動中・見守りあり	活発な園児に不安定なところがたが、見守りがなかった。	2歳児はぶら下がりが十分でないの雲梯はやらない。	1.いつもの様子であった	前週に母親と雲梯がぶら下がって遊んだので、出来なかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	同じ園庭にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くにいたが、ぶら下がっているのは見えていなかった。泣いたので気が付いた。	未就園児クラスの親も園庭に大人が多く見失ってしまった。	幼児クラスを含め、園庭で遊んでいる子どもが多い時は、特に固定遊具に気を付け、必ず大人が見守りがあるようにする。遊びに入らなず安全を見守る職員を配置する。
2938	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	27	午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	52	10	16	26			7	7	16. 4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右親指若木骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準以上配置	教育時間が終わり、預かり保育中に異年齢(3歳~5歳児)が屋上で遊んでいたときに起きた。	1.定期的 に実施	3	1.定期的 に実施	3	1.定期的 に実施	3		1.集団活動中・見守りあり	異年齢での活動中	3歳児A児は最近5歳児のB児と仲良しで2人で遊ぶことが多かった。この日も屋上に行くことごとく遊んでいて、A児は右の手を踏まれて訴えたので、保育者B、E、Fに伝え、水で冷やしながら付き添った。	1.いつもの様子であった	3歳児A児は最近5歳児のB児と仲良しで2人で遊ぶことが多かった。この日も屋上に行くことごとく遊んでいて、A児は右の手を踏まれて訴えたので、保育者B、E、Fに伝え、水で冷やしながら付き添った。	2.対象児の動きを見ていなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	保育者Cから伝えられた保育者がすぐ水を取りに行き、A児の患部にあるようにした。他の保育者は、他児が遊んでいる様子を見ながら声かけを行った。	当日は未就園児集まりがあり、園庭で遊んだため、この日は園庭での遊ばすこととなった。屋上の遊ばすから園庭で遊ばすようにした。通常は園庭(地上部分)で遊ぶが、事前確認すると共に、活動中にも適宜声かけを行い安全に遊ばすように促す。			
2939	令和3年5月12日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	27	午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	25						2	2	17. 5歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手第一指中手骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	不可抗力の為、改善策なし。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	48	2.不定期に実施			3.個人活動中・見守りあり	経験不足、不注意	移動時は落ち着いて行動するよう、日頃から声掛けをしていく。	1.いつもの様子であった	友達と遊んでいる様子で、早く行きたいという思い。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	自由遊びをしている子ども達全体をみており、対象児に近くでいく姿を見ていたが、手をひねるとは考えられず、見守るのみとなった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応で出ていた。	特になし	不可抗力の為、改善策なし。	

2940	令和3年5月12日	1.認可	1. 幼保連携型認定こども園	2.2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23	2	2	18.6歳	2. 女児	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	2. 顔面(口腔内含む)	顔面挫傷 外傷性えくぼ	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基以上配置	4	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	1. 集団活動中・見守りあり	1. いつもの様子であった	鬼のシルエットを見たこととクラスの子5名ほどの驚く声聞き動揺していた。動揺したまま階段を昇っていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	本児の後方から階段を昇っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	母によると自宅でも大きな音などに敏感で耳をさくさくするが、気がついてきたり、安心していること。	恐怖心の強い園児に対し、部分のよう鬼の予備行事や大きな音の予備行事はと一緒に行事をする等、安心できるよう配慮する。
2941	令和3年5月12日	1.認可	1. 幼保連携型認定こども園	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	23	2	2	17.5歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	口腔歯牙損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	1	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	24	1. 集団活動中・見守りあり	本児が最後の片付けをしていない状況であったことから、本児の片付けが完了する前、本児の近くから机を置き始めた。	本児がまだ終わっていない状況から、本児と離れた場所から机を置き始めた。本児は机が置かれることに気が付かなかった。	本児が机が置かれることを意識して行動できるように、事前にわかりやすく声を掛けさせていた。当日も、食後の活動をいつも通り取り組んでいた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員2名がクラス内を把握し、子どもたちの動きを予想して声を掛け合うこと体制を構築していた。		
2942	令和3年5月12日	1.認可	1. 幼保連携型認定こども園	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18	8	10	17.5歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手中指第二関節骨折	5. 他児から危言を加えられたもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	4	職員の見守り方、諸注意の方法の再検討	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	1. 集団活動中・見守りあり	・広い視野で見守ることができていなかった可能性があった。・ブロックの使い方や約束の再確認、片付けの気付けなければならないことを伝えてからブロック遊びを行う。繰り返し伝える。	・広い視野で見守る工夫をし、危険を察知して、回避できるような間でも話し合う。・他のクラス職員とも話し、共にお互いがルールを守って遊ぶような声掛けを全てのクラスで徹底する。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一人一人の動きに目を配り、また危険を事前防げるよう声掛けを行う。		
2943	令和3年5月12日	1.認可	1. 幼保連携型認定こども園	3.7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	39	2	2	17.5歳	2. 女児	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	0-1	経験のある5歳児が出す際には、落下の危険性を考慮し、付き添い指導する。	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	2	2. 不定期に実施	鉄棒に苦手意識もあり、また恐怖心もとれていない状況であった。	全体の遊びの様子を見守りながらも、鉄棒を出す時には落下の危険性を考え、マットの位置を考える。	鉄棒での遊びは危険性が高いので、個別対応をすることが必要である。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児は鉄棒が苦手だったが出た。自信がなくなった。しかし恐怖心や身が十分でなかったため、不安定な形での落下であった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	苦手意識をもっていた鉄棒に、鉄棒で遊ぶ際には個人差も意識する。	

2962	令和3年5月12日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	23	3	4	8	6		5	3	14. 2歳	2. 女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	脱臼・骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	今までは事故等のマニュアル、研修などが行われていた。また、職員についても、曖昧になっていた。	今後は事故等についてのマニュアル作成、研修を行い、職員を人として、見まわすようにする。	3.未実施	3.未実施	3.未実施				総合遊具が古い。最新の総合遊具の見合っ	総合遊具の老朽化もあり、今年度中に撤去をしい基準に合っている総合遊具を購入を検討中である。	1.集団活動中・見守りあり	園児数に保育者の見守り制が整ってなかった。	園児数に保育者の見守り制を整えていく。	1.いつもおりの様子であった	園児は、いつもおりの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見た	園児の付添いも、対象児を見守っていたわけではない。他の園児を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の職員も、部屋で待機していた。対象児から離れた場所から、園児を見守っていた。	担任は別の園児の対応をしており、別の職員を呼んでいた。	今後は、担任が責任を持ちクラスを守るのちろんであるが、他の園児に対しては、見守りの体制をとっていく。
2963	令和3年5月12日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53	8	12	14	19		8	8	17. 5歳	1. 男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘脱臼骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置		1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施			1.集団活動中・見守りあり	預かり保育の園庭での自由遊び中		1.いつもおりの様子であった	4.対象児の至近で対象児を見た	園庭で全体把握に努めていたが、事故発生時は見えていなかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	園庭で全体把握に努めていたが、事故発生時は見えていなかった	職員の見守り配置が上手に取られていなかった	職員の見守り配置の見直し			
2964	令和3年5月12日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)		23							3歳	2. 女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折		上腕骨顆状骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置							1.集団活動中・見守りあり			・朝から目が腫れており、体調が万全ではない様子が見られた。 ・午睡に落ちたため、いつも転倒リスクが高かった。	2.対象児の至近で対象児を見た											
2965	令和3年5月12日	1.認可	5.幼稚園	11	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	6	1	2	3		1	1	17. 5歳	2. 女児		8.その他	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	園内の危険箇所は共通理解していた。	太鼓橋の遊びについて、預かり職員も含めて共通理解する。最上段まで登らない遊び方を徹底する。	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎朝			1.集団活動中・見守りあり	目の行き届かない時間帯があった。	園庭で遊ぶ態勢がなかった。	1.いつもおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見た	預かり保育参加者6名指導員1名でみた	2.担当者・対象児の動きを見なかった	1名のため、十分に見えていなかった	園庭遊戯で遊んでいるときに目の行き届いていなかった時間帯があった。	園庭遊戯で遊んでいる時は、目を離さないようにする。特に高所に登ろうとしている時は、注視しておく。		
2966	令和3年5月12日	1.認可	5.幼稚園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)							2	2	16. 4歳	1. 男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	職員間で安全に対する共通確認を定期的に行い、意識を高める。未就園児の安全管理については、今後も丁寧に伝えていく。安全管理ができるように職員を配置する。	職員間で安全に対する共通確認を定期的に行い、意識を高める。未就園児の安全管理については、今後も丁寧に伝えていく。安全管理ができるように職員を配置する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	7.その他		安全な遊具の使い方を、保護者に丁寧に伝える。安全管理ができるように職員を配置し、気を付けて遊ぶように保護者に依頼する。落下による怪我を予防するために、衝撃軽減となるマットを敷く。	安全な遊具の使い方を、保護者に丁寧に伝える。安全管理ができるように職員を配置し、気を付けて遊ぶように保護者に依頼する。落下による怪我を予防するために、衝撃軽減となるマットを敷く。	1.いつもおりの様子であった	事業終了後、降園していき親子やボランティアさんに対応していた。園庭で遊ぶ姿を見つけた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	事業終了後、降園していき親子やボランティアさんに対応していた。園庭で遊ぶ姿を見つけた。	安全な遊具の使い方を、保護者に丁寧に伝える。安全管理ができるように職員を配置し、気を付けて遊ぶように保護者に依頼する。					

2967	令和3年5月12日	1.認可	5.幼稚園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	78	40	38	7	6	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指) 右足頸部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	10	1.基準以上配置	配置以上置くことで、安全対応や連携を図りながら対応することができる。今回も、担任が本児の傍にいて、状況を把握していたことで、未然防止までは行かなかったが、最善をすることができた。 しなやかな身体作りができる運動的な保育内容カリキュラムの構成。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	150	1.定期的実施	150	安全点検の振り返りを丁寧に行い、考えられる事故等のリスクマネジメントを行う。 3.個人活動中・見守り 職員配置を行い、死角のないようにする。 再度確認し、日々の声かけや連携を高める意図ももつて、振り返りを行う。 1.いつも通りの様子であった 気の合う一組に遊んでいた。 4.対象児の動きを見ていなかった 学年活動を行ったため本児の動きを見ていなかった。 1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた) 遊んでる様子を見ていた。	逃げたり追いかけてきたりすると周圍の子を傷つけるような指導や声かけをする。
2968	令和3年5月12日	1.認可	5.幼稚園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	26	13	13	3	3	18.6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指) 右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	20	2.基準配置	職員間で安全に対する共通確認を定期的に行い、意識を高める。安全な体制を整えられるように職員を配置する。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	毎朝、環境を点検し危険が予測される箇所についてはその都度修復していく。 1.集団活動中・見守り 地面のぬかるみや窪みがないか等、保育が始まるまでに安全点検を行い、怪我につながりそうな箇所については修復を行うようにする。 1.いつも通りの様子であった 他の子どもと一緒に遊んでいた。 2.対象児の動きを見ていた 他の子どもと一緒に遊んでいた。 1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた) 本児の近くで、他の子どもと遊んでいた。	預かり担当職員と保育を振り返り、怪我に対して今後の方策を考える。子どもの遊び方を見ながら、必要に応じて注意を促すを行う。
2969	令和3年5月12日	1.認可	5.幼稚園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5			4	3	17.5歳	2.女児	8.その他	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	保護者に園庭開放中の安全な過ごし方について口頭、文書等で繰り返し啓発する	1.定期的実施	12	7.その他	毎日使っている遊具は、安全点検だけでなく、毎日点検する 1.いつも通りの様子であった 保護者に園庭開放の事故が多いことを伝え、子どもの安全確保について繰り返し啓発する 保護者の責任のもと、園庭開放を行ったため、対象児の動きを見ていなかった。 2.担当者・対象児の動きを見ていなかった 保護者の責任のもと、園庭開放を行ったため、対象児の動きを見ていなかった。 園庭開放時の幼児の安全確保について保護者に注意喚起する。一輪車に乗るのに慣れたころ、注意力が落ちたり、勢いが足りなくなったりすることがあることを保護者に伝える				
2970	令和3年5月12日	1.認可	5.幼稚園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 5.4歳児クラス	17			2	2	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 左腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	4	2.基準配置	非常勤職員は、側にいたが他児に気をとれず目を離してしまっただ。 鉄棒遊びの時には、必ず職員が側につき目を離さない。常に安全指導を行う。	1.定期的実施	200	1.定期的実施	200	1.定期的実施	200	園庭の遊具が職員室から見えにくい。 鉄棒遊びの時には、必ず職員が側につき目を離さない。 3.個人活動中・見守り 職員が側にいたが、他児に気をとれず目を離してしまっただ。 1.いつも通りの様子であった 他児が挑戦している姿を見て、自分も挑戦しようとした。 2.対象児の動きを見ていた 他児の危険な行動がみられたのでその幼児を指導していたため、落下の際に手を差し伸べられなかった。 2.担当者・対象児の動きを見ていなかった 他の幼児の指導をしていたため、見ていなかった。 目を離し、予期せぬ体の動きに対応できなかった。 目を離さず、予期せぬ体の動きに対応できるようにする。	

2971	令和3年5月12日	1.認可	5.幼稚園	12.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	80	29	33	18	7	4	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腰部)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	12.2.基配置	他児がうんていを進み出た。	園児に遊具の遊び方を再確認する。	1.定期的に実施	12.1.定期的に実施	13.2.不定期に実施	12.うんていの高さは145cmから130cmに傾斜している。本児は身長が116cmで足を使用するため、落下時の姿勢が不適当と思われる。	幼稚園児の身長に合った遊具を使用することにつながると考え、担当中であった。また、施設のマットの磨耗状態の確認も必要である。	3.個人活動中・見守り	雨上がりの遊具を拭いたが、不十分。	今までよく触れて確認をしていた(理由を記載)	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	朝、雨が降り、園庭がぬかるんでいたため、普段より出た時間が遅かった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ている	他の遊びに対応して見えていなかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の遊びに対応して見えていなかった	うんていをしている園児のそばに職員がいなかった。	園児の遊ぶ位置と状況が合う。	
2972	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	1.朝(始業~午前10時頃) 2.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	59	26	16	17	4	4	6歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	保育士は規定どおり配置されたが、朝の園児受入れと時間帯重なったことから、比較的保育士の目が行き届かなかった可能性がある。	・朝の園児受入れは手短かにするようになり、周りに子どもを向けるよう意識統一した。 ・その場を離れるときには声をかけ合っており、安全に子どもの遊びができるようにする。	1.定期的に実施	48.1.定期的に実施	48.1.定期的に実施	48.1.定期的に実施	48.しっぽ取りゲームをするための広さ不足の可能性はある。	・準備運動をしっかりと遊ぶ。 ・活動場所を持った遊びの内容を検討する。	1.集団活動中・見守り	・しっぽ取りゲームは室内活動なので考慮し、人数が多いため体力の差も考えた。 ・ちゃんと言葉を聞いて歩くことを働きかけた。	登園後、職員が揃ったままの全体的な活動について、別の遊びを行うことも検討する。	1.いつも通りの様子であった	(具体的内容記載欄)健康状態は良好、登園後、いつも通り他児との遊びを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ている	一緒にゲームに参加していた職員もいた。	1.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	朝の受入れをしていた職員もいた。	室内での活動であるため、目が行き届いていないことから、安全な遊びと捉えが適切であった。	朝は異年齢で活動しているため、前日に活動内容を保育士が共有し、一人ひとりの動きに気を配っていく。
2973	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	6.1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	10	3	5	2	1	1	4歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1.基準以上配置	基準以上の配置をしているが、8:00~8:30までは1つの部屋で幼児10名程度を一人で見ている。隣の部屋の保育士と更に連携をとり、丁寧に見ていく。	安全点検の回数をさらに増やしていく。(2か月に1回程度目安)又、遊具の安全確認はしているが、遊具の周知の確認はしていない。	1.定期的に実施	4.1.定期的に実施	4.1.定期的に実施	4.1.定期的に実施	4.施設遊具・玩具の安全点検はしているが、遊具の周知の確認はしていない。	子どもたちが自由に遊べるような環境にしているが、危険要素があった。	1.集団活動中・見守り	動きが大きい遊びはもう一人保育者が行うなど、考えていく。	1.いつも通りの様子であった	(具体的内容記載欄)いつもプラフグを出し、遊び始めた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ている	対象児に手は届かないが、声が届く位置にいた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他室にて別クラス保育中だった。	遊び慣れた遊具であったが、遊び方を決め、決まっていたり、決まっていたり。	遊具の遊び方について子どもたちに再度話をし、守っているようにする。	
2974	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	11.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	95	4	12	14	19	21	25	0	21	16.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	前腕骨折(右橈骨骨折・右尺骨骨折)	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1.基準以上配置	会議やミーティングを行い共通認識を持ち、同じことが起こらないように話し合う。職員間で全体を見渡せる位置はどこかを確認し、見落としのないよう連携をとる。	遊ぶ前に危険物が確認して安全をはかる	7.その他	どこに子どもたちが遊んでいるかを保育士がしっかりと把握し、引き継ぎ保育士として見守る	1.いつも通りの様子であった	(具体的内容記載欄)付いているロープの上に登っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ている	誰がどこで遊んでいるかを把握する為、目視の端まで歩いて確認していた。	1.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	遊具のあるところ(うんてい・ブランコ)の近くにいて、園児の様子を見守っていた。	職員同士連携を取り、見落としのないよう十分に気をつけ、全体を確認できるように工夫する。					

2979	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	8.2.午前中	1.施設敷地内(室内) 7.異年齢構成	43 0 0 0 0 21 22 0	2	2.5歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷 2.骨折 5.下肢(足・足指) 右第5趾基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	特になし	1.集団活動中・見守りあり	・全体を見る職員はフリスビーの動きに集中せず、園児の動き全体が見えるように位置を調整する。 ・園児同士がぶつからないよう遊び方を工夫する。(外野をエリア(両サイド、バックなど)に分け、園児がフリスビーを取るエリアを決めて、多数の園児が集まらうとする等。)	・フリスビーの動きにあまのり、園児たちの周りを見る余裕がなかった。	1.いつものおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 朝の状態は著変なく、活気も良かった。ドッチのゲーム中、フリスビーの動きが集中したため、近くにいた園児同士で衝突してしまっ	4.対象児の動きを見ていなかった	本児の転倒時、フリスビーは反対方向にあり、フリスビーのある場所に園児が集まっていたため、そちらを見ていた。音で音の方向に視線を向けたところ、本児が床に手をついて倒れていた。本児にすぐ「大丈夫？痛い？」と声をかけたところ「痛くない」と返事があり、本児の動きに変わったことを目視で確認した。	事前の説明だけでなく、ゲーム開始後も人が集まりすぎた時には本児に注意を伝える。ヒートアップしすぎた時には、ゲームを中断して、落ち着いてゲームができるようになってから再開する。	
2980	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	6.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	10 0 1 3 4 1 1 0	5	5.3歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右腕骨頸上骨骨折	1.遊具等からの転落、落下	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	・鉄棒の箇所(1箇所)だけでなく3箇所)に、使用しないうる。	・靴をはいたテラスには出入り口が狭い為、2人ずつしか靴をはけないので、はきた子が待たされたこと、はきた子から順次砂場へと移動した。	・3歳以上児組の子も連は、全員が靴を履いて待つことができた。テラスへ移動し、保育士が全員を見守りながら一緒に園庭へ出る。	・靴をはいたテラスには出入り口が狭い為、2人ずつしか靴をはけないので、はきた子が待たされたこと、はきた子から順次砂場へと移動した。	1.いつものおりの様子であった	(具体的内容記載欄) ・本児より先に靴をはいた4歳児が鉄棒に行き、すぐに鉄棒へ出る。	4.対象児の動きを見ていなかった	・靴をはいたテラス側には職員は、本児が靴をはくのを確認し、次に控えていた子が靴を履くよう対応しようとしたところ、その子がテラスを移動したので、靴をはく場所を呼び止めるようその子と移動した。	・テラスで順番に靴を履き終わるまで待つようにし、遊ぶ場に移動する。
2981	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	3.昼食7時～おやつ時	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 5.4歳児クラス	19	1	1.4歳	1.男児	8.その他	1.負傷	5.口腔内受傷 顔面(口腔内含む)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1.基準以上配置	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	3.個人活動中・見守りあり	保育士がトイレの中が見通せるまで、付き添い、安全に配慮した言葉掛けを行うようにした。	保育士がトイレの中が見通せるまで、付き添い、安全に配慮した言葉掛けを行うようにした。	1.いつものおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 落ち着いて給食を食べていることか、保育室の入り口からテラスに体を乗り出して、トイレに入っていくのを確認していた。	対象児が落ち着いて行動できていることか、保育室の入り口からテラスに体を乗り出して、トイレに入っていくのを確認していた。	トイレを使用する時間帯には、トイレの入り口付近に保育士を配置し、トイレの中も見守るようにする。		

2982	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	5.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	45	11 16 18	7	7.5歳	1.男児	1.屋外活動中 1.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指)	1.遊具等からの転落・落下 1.あり 2.不定期に実施 2.基準配置	1.定期的に実施 1.定期的に実施 1.定期的に実施	必要と思われる改善には、子どもの安全を優先にその都度取り組む。 3.個人活動中・見守りあり	子どもは、不意の行動をできるとあることを、再認識して、再発防止に努めるべきである。 1.いつもの様子であった (具体的内容記載欄)入所3年目だが、固定遊具での遊びは少ない方である。普段から、牛乳は嫌いなので、飲めないで、カルシウム不足が心配される。 2.対象児の至近で対象児を見ていた 本児は支援児枠での入所なので、クラス担任の他、支援児担当保育士がいる。当日は、支援児担当保育士は、他の支援児に付いて付いたので、滑り台にフリー保育士が見守りをしていました。	固定遊具の教育的価値(運動面・精神面)を十分に理解した上で、安全に考慮し、個別にも配慮し、再発防止に努める。
2983	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	1.朝(始業8時～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内) 7.異年齢構成	42 0 0 0 0 20 22	22	12.4歳	1.男児	2.室内活動中 1.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指)	1.遊具等からの転落・落下 1.あり 2.不定期に実施 2.基準配置	1.定期的に実施 1.定期的に実施 1.定期的に実施	毎月の安全点検に加え、その都度環境整備を行い、危険箇所については迅速に対策を講じる。また、子どもの発達に応じ、保育環境を整え、安全に遊べるようにする。 3.個人活動中・見守りあり	ゲームボックスからの飛び降りや、ジャンプ遊びは巧技台を使用する。危険が伴うコーナーには、必ず保育士が見守る。 1.いつもの様子であった (具体的内容記載欄)高いところからの飛び降りなどを楽しく遊んで、挑戦したい気持ちが強かった。 2.対象児の至近で対象児を見ていた これまででも繰り返して遊んでいた遊具は、危険と判断し子ども達に任せ、一瞬の出来事で助けられなかった。	高いところからの飛び降りは、危険が伴うことをしっかりと意識する。遊具の適切な使用方法についてしっかりと話し合い、職員全員が共通理解する。	
2984	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	8.2.午前中	1.施設敷地内(室内) 7.異年齢構成	24	11 13	4	4.5歳	2.女児	2.室内活動中 1.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指)	1.遊具等からの転落・落下 1.あり 1.定期的に実施 1.基準以上配置	1.定期的に実施 1.定期的に実施 1.定期的に実施	エアータンブルを使用するとき、周りにマットを敷く。 1.集団活動中・見守りあり	すぐに介助できる場所に保育士配置する。 1.いつもの様子であった エアータンブルを利用したサーキットトレーニングで何回も前転を行っていた。 3.対象児から離れたところで対象児を見ていた 保育士が対象児を見ていたが、4mほど距離があったので制止することができなかった。	エアータンブルを使用するときは、両側面に保育士を配置する。
2985	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	6.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)				4歳	1.男児	7.登園・降園中(来所・帰宅中) 1.負傷 2.骨折 4.上肢(腕・手・手指)	1.遊具等からの転落・落下 2.なし 1.定期的に実施 1.基準以上配置	1.定期的に実施 1.定期的に実施 1.定期的に実施	接続部分の錆など多少の経年劣化は見られるが、事故につながる危険な箇所は見られない; 7.その他	保育中以外でもルールを守り、気をつけて遊ぶよう子どもに伝えるとともに、保護者にも子どもが目を離さないようおたよりでお願ひする。 1.いつもの様子であった (具体的内容記載欄)活発な対象児が隣所前に入った様子であった。	普段の遊びから遊具の危険な遊び方が無いよう事前の指導を徹底する。

2986	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	8.2.午前中	1.施設敷地内(室内) 3.2歳児クラス	14					2歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	4.創傷(切割・裂創等) 5.下肢(足・足指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	柵の配置	1.集団活動中・見守りあり	・担当職員を1人決め、本児が興奮している時や危険を感じた時にはそばにつくようにする。 ・各クラス、改めて危険個所の洗い出しを行う。 ・形だけの重大事故訓練や安全チェックでなく、こういう動きがあるような危険が生じる等の予測が出来るような研修を行う。 ・職員の危機意識の甘さを指摘し、何が危険につながるかを指導していく。	1.いつもの様子であった (具体的内容記載欄) 柵の周りを回っていた	4.対象児の動きを見ていなかった	誰かが見ているだろうと思ってしまう。	気にするだけでなく、具体的にどのようにその子を動かすようにするか話しあい、決定する。
2987	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	8.2.午前中	1.施設敷地内(室内) 4.3歳児クラス	13					4歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折 4.上肢(腕・手・手指)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	なし	1.集団活動中・見守りあり	ルールマツトを活動場所に置きっぱなしにしない。 3.いつもの様子であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄) 朝から大好きなボール遊びをしたこともあり、いつもより元気で活発であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	副担任は、テープ付けたために部屋を離れていた。	同じ空間、至近距離だとしても、2つのグループがある場合には、それぞれに保育士が付く。目視できる距離だからと油断しない。
2988	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	9.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 3.2歳児クラス	11					3歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折 4.上肢(腕・手・手指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	1.集団活動中・見守りあり	走って止まる、パランスをとる遊びを入れていく。	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄) 砂遊びと遊びを交互に楽しんでいた。砂場から虫探しへ向かう途中に転んだ。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児との虫探しをしていた為。	必ず全体を見る職員を一人決めておく。目を離す時は、声を掛け合う。

2996	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	8.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	15	0	0	0	0	5	10	0	0					5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	想定される遊びと園児の動き、それに伴う想定されるリスクを軽視していた。	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	1.集団活動中・見守りあり	転倒しづらい地盤で遊ばせる。約束事を反復し守らせる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)土曜日の午前中の園外保育での事故。平日保育士と担当保育士が違うこと、異年齢児と遊ぶこと等で気持ちが高ぶっていた。	2.対象児の至近で対象児を見つけた	大型遊具の上において、土遊びをしていた他の児童を注視していた。	さらに1名保育士を配置し、走っている園児を別の遊びに誘導する。
2997	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	8.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	11												5歳	1.男児	6.水遊び・プール活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	3.子ども同士による衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1.基準以上配置	事故後の対応マニュアルは整備できていたが、予防マニュアルの作成や保育士同士の立ち位置の確認、指さし確認が不十分だった。	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	1.集団活動中・見守りあり	ビニールプールに遊ぶ人数を決める等配慮する	1.いつもおりの様子であった	(具体的内容記載欄)プール内で周囲の様子を全く気にせず、突如しゃがんだ。プール内で座っていた友達の後頭部に歯を強打した。	3.対象児から離れたところで対象児を見つけた	ホースで子ども達に水をかけながら、一緒に遊んでいた。本児がいた場所を確認していたが、しゃがんだ瞬間、ぶつかった瞬間は見えていなかった。	周囲の状況判断が苦手な園児の傍に保育士が付くようにし、本児が気が付く様こまめに声掛けを行う。	
2998	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	8.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	23					11	12						4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	先頭を歩く職員は階段を下りてそのまま前進した。後から来た子どもたちは前に注意がいかなかったのかもしれない。	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	1.集団活動中・見守りあり	歩いて園外に出るときはズックを着用することを促した。また、階段は、少人数のグループに分けて、降りるようにした。	1.いつもおりの様子であった	(具体的内容記載欄)健康状態、身体的な不都合はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見つけた	先頭職員は子どもたちを誘導して歩いていた。最後方の職員は全体を見守りながらも、介助が必要な子どもを手をつないで、一緒に降りていた。	不慣れた場所である。イベントの後であった。普段と違った状況の中では子どもたちに対して普段以上に危険予知をして危険回避の声掛けと、見守りをする。	
2999	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	4.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	14												2歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	転倒事故を防ぐための体幹の訓練を毎日行っているが、身につけていない。支援児の動きに合わせてついても、不測の事態が起こる。	1.定期的実施	1.定期的実施		1.集団活動中・見守りあり	転倒事故を防ぐための体幹の訓練を本児が楽しんでできるように工夫する。	1.いつもおりの様子であった	(具体的内容記載欄)活動が盛んになってきて、興味のあるところに常に移動している、予測しづらい動きが多い。	対象児とマンツールの状態(対象児に接していた)	他の担任は他の14名の保育に当たっていて、至近距離にいた。	子どもの動きを予測できるように、行動の特性を観察し、担任で共有する。	
3000	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	7.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15	4	4	5	2								2歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	1.基準以上配置		2.不定期実施	1.定期的実施	1.集団活動中・見守りあり	静かな遊びの提供と過ごし方の徹底・確認。状況に応じた言葉かけをし、特に低年齢児の見守り等に気を配るなど事故を未然に防ぐ。	1.いつもおりの様子であった	(具体的内容記載欄)興味のある方に気がついてしまし、落ちついて座ることが出来なかった。	2.対象児の至近で対象児を見つけた	廊下で降所児・保護者対応をしたため見えていなかった。	保育士同士の連携・声かけを強化する。特に未満児の安全確保(室内の一角所に利用児確認など)を行う。		

3001	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	5.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	71	1	12	15	18	12	13										5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	8.その他	1.あり	2.不定期に実施											1.基準以上配置		1.定期的に実施		3.未実施						1.集団活動中・見守りあり		保育する職員が、子ども全頭を見る。	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄)自ら希望し、対象児を含めた4~5名と職員1名と共にサッカーを行った。	2.対象児と近距離で見守っていた							他の園児を見たり、お迎えに来た保護者の対応を行っていた。				お迎えの保護者対応を、はつきりとした担当者で行う。
3002	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	8.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	39		20	19												3歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施									2.基準配置		1.定期的に実施		1.定期的に実施					1.集団活動中・見守りあり		・立ち止まることは危険であることを話し子ども同士でぶつからないよう配慮する。 ・周囲を良く見ながら走って遊ぶよう指導する。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)室内を走るリズム遊びをしていた。3歳児に交互に同じリズムの動きをしていた。	2.対象児と近距離で見守っていた				・3歳児の担当職員は子どもと一緒にリズム遊びのたけまわっていた。・4歳児の担当職員は転倒を見ましたがリズムの曲をピアノで弾いたため間に合わなかった。											
3003	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	9.1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15			10	5											5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施							2.基準配置		1.定期的に実施		1.定期的に実施					1.集団活動中・見守りあり		バランスを崩しこけそうになった時の対処(前に倒れる、手は離さない)をもっと十分に伝えておく。	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄)登所後、竹馬(高さ80cm)の練習をして、バランスを崩し、落下した。	4.対象児の動きを見なかった																	
3004	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	9.1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	4		1	1	1											3歳	1.男児	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施							1.基準以上配置		1.定期的に実施		1.定期的に実施				1.集団活動中・見守りあり		滑り止めの付いた靴下を履かせてもらうよう保護者に協力してもらおう。滑り止めが付いていない靴下を履いているときには室内では靴下を脱ぐなどの対策をとる。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)普段登園する時間帯より、更に早くの登園だったので、家庭において十分な食事・水分が取れていなかったのではないかと懸念される。普段より元気で落ち着かない感じではあった。	2.対象児と近距離で見守っていた																		
3005	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	7.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	10	0	4	6	0	0	0										2歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施							2.基準配置							1.集団活動中・見守りあり		落ち着いて歩き出すように声をかけていくと共に、予断できる行動にすぐに対応出来るようにして行く。	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄)自我の芽生えの様子はあり、聞き分けは出来るが、歩きたいという意思が強かった	対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)																		

3006	令和3年5月12日	認可	6.認可保育所	7.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12	1	6	5														5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり 2.不定期に実施	2.基準配置											7.その他	園庭全体に目が届く場所であるように徹底する	1.いっぽんもどおりの様子であった (具体的内容記載欄) 4歳児とトラブルになり、らせん滑り台の上で直に押し込まれ、押されて落下した。	4.対象児の動きを見なかった
3007	令和3年5月12日	認可	6.認可保育所	2.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	29																	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし 1.定期的実施	2.基準配置											1.集団活動中・見守りあり	今回の事故は要因なし。	1.いっぽんもどおりの様子であった (具体的内容記載欄)	2.対象児の至近で対象児を見ていた
3008	令和3年5月12日	認可	6.認可保育所	7.朝(始業時頃~10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	54	14	20	20														4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	3.子ども同士による衝突によるもの	1.あり 2.不定期実施	1.基準以上配置										3.個人活動中・見守りあり	自由あそびの場、あそびの検討をする。保育士の立つ位置、子どもへの声かけを共通理解する。	1.いっぽんもどおりの様子であった	巧技台からのジャンプにおもしろさを感じ、繰り返して遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた
3009	令和3年5月12日	認可	6.認可保育所	9.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32	8	13	11														5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり 2.定期的実施	2.基準配置									1.集団活動中・見守りあり	午後は疲れて出てきた動きも鈍くなる為、十分注意する。(職員の見守り、園庭の配置、園庭の管理等)	1.いっぽんもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 同じように遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	
3010	令和3年5月12日	認可	6.認可保育所	8.朝(始業時頃~10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	134	16	22	21	25	25	25											2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり 2.不定期に実施	2.基準配置									1.集団活動中・見守りあり	その場から離れる際にはほかの職員に声をかけて、みんなで立ち位置を確認し合う。	1.いっぽんもどおりの様子であった	ホールにてウレタン積み木を長く並べた上で歩いてあそんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	
3011	令和3年5月12日	認可	6.認可保育所	9.朝(始業時頃~10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	18																	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	1.遊具等からの転落・落下	2.なし 1.定期的実施	1.基準以上配置									1.集団活動中・見守りあり	築山のまわりの草刈りをして、危険箇所を認識しやすくなった。また、築山の土管の土を補充し、柔らかく平らにした。	1.いっぽんもどおりの様子であった	友達と大ジャンプを走らせて、戻ってあそんでいた。	4.対象児の動きを見なかった	
3012	令和3年5月12日	認可	6.認可保育所	5.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	33	11	13	9														4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 2.不定期に実施	1.基準以上配置									1.集団活動中・見守りあり	室内は足をよく見て歩くよう伝えていく。	1.いっぽんもどおりの様子であった (具体的内容記載欄)	4.対象児の動きを見なかった		

3013	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	6.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・教室等)	3.2歳児クラス	20													2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)		2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施		1.基準以上配置													1.集団活動中・見守りあり	2.2歳児の飛び入りによる見直し。	3.いつより活発な活動であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)常に体を動かして安定的ではない	2.対象児の至近で対象児を見ていた	
3014	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	9.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・教室等)	3.3歳児	33													4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)		1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施		2.基準配置													1.集団活動中・見守りあり	鉄棒をする子を見るときは、1人ずつ見守るようにしていく	1.いつより活発な活動であった	(具体的内容記載欄)少しづつ鉄棒が得意になりつつあった	4.対象児の動きを見ていなかった	
3015	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	8.1.朝(始業時~午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・教室等)	7.異年齢構成	40	0	0	15	0	13	12	0						2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	顔面(口腔内含む)		3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期実施		2.基準配置													1.集団活動中・見守りあり	遊具の傍に職員が付き、約束事を伝えたり、怪我を防止出来るよう話したりしていく。	1.いつもどりの様子であった	(具体的内容記載欄)5歳児と一緒に、遊具のトンネルの中で三輪車に乗っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	
3016	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	9.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・教室等)	7.異年齢構成	58	0	0	0	20	22	16	0						5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)		1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施		1.基準以上配置														1.集団活動中・見守りあり	疲れを感じていなくても、適度に休憩を挟むことを指導していく。	3.いつより活発な活動であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)前転ができるようになったことを認めていたが、それに伴って疲労度についての見通しが甘かった	4.対象児の動きを見ていなかった
3017	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	8.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・教室等)	5歳以上児	25													5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)		2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施		2.基準配置													1.集団活動中・見守りあり	特になし	1.いつもどりの様子であった	(具体的内容記載欄)対象児が縄跳びを始める。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	
3018	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	5.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・教室等)	3.2歳児クラス	18													2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腰部)		1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施		2.基準配置													1.集団活動中・見守りあり	子どもを見るときには、滑り台の上で子どもを残さない。	1.いつもどりの様子であった	すべり台であそんでいたが、友達を引っ張ってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	
3019	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	1.7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	21													5歳	2.女児		8.その他	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)		2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施		2.基準配置														1.集団活動中・見守りあり	走り癖対策、かまぼこ型を埋め込み型へ	1.いつもどりの様子であった	活発で、話をよく聞かないで先走りする傾向がある	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた

3020	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	1.朝(始業8時~午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13	0	0	0	0	4	2	7	0			6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)		1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置			1.集団活動中・見守りあり	土曜日で園児人数が少なくても、複数の保育士での見守りが必要	1.いつもおどりの様子であった	(具体的内容記載欄)健康状態は良好。自分で出来るようになったため鉄棒を張り切って遊ぶ	2.対象児の身近で対象児を見ていた
3021	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	2	3	4	4	2	2	4				5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)		3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1.基準以上配置		2.集団活動中・子ども達のみ	職員が建物の構造をよくつかち様子もの動きに注意し、声をかけ自制を促す。	1.いつもおどりの様子であった	(具体的内容記載欄)	4.対象児の動きを見なかった		
3022	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	9.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55				18	19	18				5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)		3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置		1.集団活動中・見守りあり	ままごと遊びとリレーのフィールドの境界を引いたリレーを重いたりすることで、遊びの境を一目で見えないようにする。	1.いつもおどりの様子であった	(具体的内容記載欄)リレーで渡すことに集中して、他児の存在を意図できなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた		
3023	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	1.朝(始業8時~午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	41										6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)		1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置		3.個人活動中・見守りあり	跳び箱を行う際は、今までの1名プッシュも1名を配置して、2名で両サイドをカバーすることで落下にも支えらるようになっている。	1.いつもおどりの様子であった	(具体的内容記載欄)一度跳ぶことを失敗して、もう一度挑戦した時にバランスを崩した。	2.対象児の身近で対象児を見ていた		
3024	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	9.7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	15										4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)		4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置		3.個人活動中・見守りあり	安全面に留意して惜みずに降所準備をするよう、クラス全体で約束し、また個別に言葉かけが必要な場面では、個別に声をかける。	1.いつもおどりの様子であった	(具体的内容記載欄)降所前の片づけをしている際、本境の近くにいた児童がピアノの椅子にぶつかかり、椅子が転倒する。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた		

3025	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	5.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	11																		6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置												1.集団活動中・見守りあり	転んだ時にすぐに両手をつくことが身につくよう両手を床につく運動遊びを行っていく。	1.いつものおどりの様子であった	(具体的内容記載欄)友だちとの遊びを楽しみ、夢中になって遊んでいた。遊び上がる姿も見られた。	4.対象児の動きを見なかった
3026	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	9.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	12																		5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置												1.集団活動中・見守りあり	跳び箱の高さがそれぞれの園児にあっているか確認が必要である。	3.いつもの活発な活動であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)興奮気味で体探っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた
3027	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	8.7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	23																	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	顔面(口腔内含む)	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置												7.その他	保育士の話が聞ける環境を整えていくようにしていく。	4.具合が悪くなった(熱発・頭痛・風邪気味等を記載)	他児は歯磨きをつけて廊下で待っていたが本児は部屋に入った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	
3028	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	7.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	23			15	8													4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準以上配置													1.集団活動中・見守りあり	保育室で落ち着いて過ごせる環境・玩具の工夫をすすめる。	1.いつものおどりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつも快活な様子であるが、特別興奮しているわけではなかった	4.対象児の動きを見なかった
3029	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	9.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	20			8	9	3												4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置													1.集団活動中・見守りあり	落ち着いてゆっくり進むよう声をかける	1.いつものおどりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつも快活な様子であるが、特別興奮しているわけではなかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた
3030	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	1.朝(始業8～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)		2																	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折		2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準以上配置													1.集団活動中・見守りあり	・鬼ごっこや追いかけてっこ等の遊びは広いスペースで楽しむよう指導する。	1.いつものおどりの様子であった	(具体的内容記載欄)・鬼ごっこをしていて、他児を追いかけていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた
3031	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	3.7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	18																	2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折		2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置													3.個人活動中・見守りあり	広いところでもぶつかったり、転んだりすることもあるので危険性を考えながら遊ぶようにしていく。	1.いつものおどりの様子であった	(具体的内容記載欄)友だちと走ってあそんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた

3032	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	8.7.午後	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	20																5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折													2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 1.定期的に実施	1.基準以上配置								1.集団活動中・見あり	縄跳び遊びの経験で、縄に絡む機会ももてばよかった。	1.いつもの様子であった	縄跳びに興味を持ってみたいという意欲が強かった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた
3033	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	8.1.朝(始業時~午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36	4	2	2	3	7	7	11										5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折											2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 2.不定期に実施	1.基準以上配置						1.集団活動中・見あり	子ども動きの想定を行い、職員間で密に行い空白時間を作らない。	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄)登園後の自由遊びで好きな遊びを行っていた	4.対象児の動きを見ていた			
3034	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	3.昼食(10時~おやつ時)	1.施設敷地内(室内)		7																1歳	1.男児	食事中(おやつ含む)	1.負傷	1.意識不明											8.その他 1.あり 2.不定期に実施	2.基準配置						1.集団活動中・見あり		1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄)事故当日の朝の体温は平熱であり、普段通り室内で遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた				
3035	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	9.2.午前中	1.施設敷地内(室内)		18					18											5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折										1.遊具等からの転落・落下 1.あり 2.不定期に実施	2.基準配置						1.集団活動中・見あり		1.いつもの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた (具体的内容記載欄)						
3036	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	9.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)		26																6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折										3.子ども同士の間際の衝突によるもの 2.なし 1.定期的に実施	2.基準配置						1.集団活動中・見あり		1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄)友達とじゆうあそびをしていた	4.対象児の動きを見ていなかった					
3037	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	2.2.午前中	1.施設敷地内(室内)		26																6歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折										2.自らの転倒・衝突によるもの 2.なし 1.定期的に実施	2.基準配置						1.集団活動中・見あり		1.いつもの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた (具体的内容記載欄)						
3038	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	12.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)		20																3歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	5.口腔内受傷										2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 3.未実施	2.基準配置						1.集団活動中・見あり		1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄)遊具に上るうとして、足が遊具に引っかかり転倒。近くにいた友達の手で遊具で口元を強打。	2.対象児の至近で対象児を見ていた					

3039	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	5.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	22								5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折					2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置									4.個人活動中・子どものみ	3.いつまでもで活動的であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)初めての太鼓教室に集中して取り組んでいた。終わった後の開放感を楽しんだ。自分で自信がついて、転をしようとはなかった。	4.対象児の動きを見なかった
3040	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	12.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	22								1歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	6.その他					2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施		1.基準以上配置							1.集団活動中・見守りあり	1.いつまでもの様子であった	(具体的内容記載欄)食事・排泄が終わる準備を行う前に、玩具棚に行き玩具を取り出したところバランスを崩し転倒。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた		
3041	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	8.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	5							1歳	1.男児	6.水遊び・プール活動中	1.負傷	5.口腔内受傷					2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置					1.集団活動中・見守りあり	1.いつまでもの様子であった	(具体的内容記載欄)たらいの外から中の友達へ、ジョウロの水をかけるなど楽しんでた後、たらいの中へ入ろうと思った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた				
3042	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17	3	8	6				2歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折					8.その他	1.あり	1.定期的実施		1.基準以上配置					1.集団活動中・見守りあり	1.いつまでもの様子であった	(具体的内容記載欄)元気で変わりなく活動	2.対象児の至近で対象児を見ていた				
3043	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	9.7.午後	2.施設敷地外(園庭・校庭等)	5歳以上児	15							6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折					2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施		2.基準以上配置					1.集団活動中・見守りあり	1.いつまでもの様子であった	(具体的内容記載欄)かけっこで1番になるため張り切っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた				
3044	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	9.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	6							0歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷					8.その他	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置					3.個人活動中・見守りあり	2.いつまでも元気がなかった(理由を記載)	登園した時から、元気がなく、眠いのか、いつともと比べ静かであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた				

3045	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	95	6	16	17	18	19	19			5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)																					1.集団活動中・見守りあり				3.いつもより活発であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)対象児は、週初めは落ち着かない状態である。	2.対象児の至近で対象児を見ていた		
3046	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地外(園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25				11		14			5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折																					1.集団活動中・見守りあり				1.いつもの様子であった	本児は、普段から体を動かすことを好み、興味があることは積極的に向かい楽しているが、注意力散漫なところも多く、興味を持つと周囲に注意を払うことなく向かうために、家庭においても飛び出すことがありヒヤッとすることが幾度かあったと聞いており、今回も木のぼりをしようと思いつき、急に走り出した。	4.対象児の動きを見なかった		
3047	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	2.1歳児クラス	13									2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折																							1.集団活動中・見守りあり				3.いつもより活発であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)初めての遊具に喜び、意欲的に挑戦していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた
3048	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	25									4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折																												担任以外の保育は極力避ける。止む追えず保育する場合は、事前担任との打ち合わせを十分に行うこと。	いつもどおりの様子であった

3061	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	4 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24																																		4歳	2.女児			1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	右尺骨近位端骨折・右橈骨頭部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置								1.集団活動中・見守りあり			1.いつもおりの様子であった	(具体的内容記載欄)元気もよく、鉄棒がしたいと担任に申し出た他の子どもたちと一緒に、ぶら下がる等楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見た
3062	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	10 1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	4	1	2	1																														2歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置				1.集団活動中・見守りあり			1.いつもおりの様子であった	(具体的内容記載欄)持っていた物を職員にも見せようとした際、玩具を踏んで滑ってしまい転倒に繋がってしまった	4.対象児の動きを見ていなかった					
3063	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	10 7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	13																															5歳	2.女児			1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	左尺骨近位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施		2.基準配置			1.集団活動中・見守りあり			1.いつもおりの様子であった	(具体的内容記載欄)園庭で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった								
3064	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	10 2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	35				15	20																									4歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	左肘頭骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置			1.集団活動中・見守りあり			1.いつもおりの様子であった	よるこんでゲームに参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた									
3065	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	9 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11																															2歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	前歯上3本のくすりつき	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施		2.基準配置			1.集団活動中・見守りあり			1.いつもおりの様子であった	(具体的内容記載欄)健康であった。	3.対象児から至近距離で対象児を見ていた								
3066	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	10 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8																															3歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	右足のすねの部分の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施		2.基準配置			1.集団活動中・見守りあり			1.いつもおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつもと変わらず、一人でブロックをとり、お友達とけんかなどせず遊んでいた。比較のおとなしい園児だが、出口付近のところで外を眺めていたが、教室の奥で広がっていたブロックのところに急ぎ足で	2.対象児の至近で対象児を見ていた								

3067	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業10~午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・教室等) 3.2歳児クラス	27								3歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	頭蓋骨骨折	1.遊具等からの転落・落下 2.不定期に実施	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	1.集団活動中・見守りあり	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄) テーブルを避けるよう角度をつけて向きを少しつけたとき、足を滑らせて転倒し、すぐに泣き出した。 2.対象児の至近で対象児を見ていた 3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)
3068	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設敷地内(室内) 7.異年齢構成	66	6	11	13	18	18			5歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	(左足踵辺り)剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの 3.不定期に実施	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	3.個人活動中・見守りあり	1.いつものおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 午前中、運動量が多かったため、疲れもあったかもしれない。 3.対象児から離れたところで対象児を見ていた
3069	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午手中	2.施設敷地外(室外・園庭・教室等) 7.異年齢構成	85	7	11	12	23	32			4歳	1.男児	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	5.口腔内受傷	左右A外傷性亜脱臼、左右A外傷性歯の破折	2.自らの転倒・衝突によるもの 3.不定期に実施	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	1.集団活動中・見守りあり	1.いつものおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 2.対象児の至近で対象児を見ていた
3070	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午手中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等) 3.2歳児クラス	16								2歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	左 上腕骨外顆骨折 2.自らの転倒・衝突によるもの 3.不定期に実施	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	1.集団活動中・見守りあり	1.いつものおりの様子であった	(具体的内容記載欄) もともと活発な児童で遊びに対して意欲的ではあるが、体の力と気持ち一致せず倒したりぶついたりしがちな面があり、この日もはじめは探索遊びをしていくが、走り回る遊びに転換していった。 3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	

3071	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等) 7.異年齢構成	35			11	14	10						5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	右機尺骨遠位端開放骨折 1.遊具等からの転落・落下 1.あり 2.不定期に実施	1.基準以上配置													3.個人活動中・見守りあり	1.いつもの様子がなかった (具体的内容記載欄) 事故発生日、就学前時検診のため給食後の降園予定だったが、興奮する様子もなく、いつも通っていた。	対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)
3072	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	25		13	12							5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	上腕骨頸上骨折 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 2.不定期に実施	2.基準配置											1.集団活動中・見守りあり	1.いつもの様子がなかった (具体的内容記載欄) いつもと変わりなく元気であった。	4.対象児の動きを見なかった			
3073	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	37	0	0	0	4	13	20				6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	右肘の骨折 (医師からの「医療の状況」が出ていないので正しい診断名ではない) 3.子ども同士の衝突によるもの 2.なし 3.未実施	1.基準以上配置									1.集団活動中・見守りあり	1.いつもの様子がなかった (具体的内容記載欄) 仲の良い友達と鬼ごっこ等のびのびと身体を動かすことに走り出した	4.対象児の動きを見なかった					
3074	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	11									3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	6.その他	外傷性歯牙脱臼 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 2.不定期に実施	2.基準配置										1.集団活動中・見守りあり	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載) (具体的内容記載欄) 大好きな遊戯で遊んでいた。 3.対象児から離れたところで見ている						
3075	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	36	0	0	0	10	12	14			3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	左尺骨骨折 3.子ども同士の衝突によるもの 1.あり 1.定期的に実施	2.基準配置										1.集団活動中・見守りあり	1.いつもの様子がなかった (具体的内容記載欄) 遊具を使ったり、友だちと一緒に行動したりして	4.対象児の動きを見なかった					
3076	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等) 5歳以上児	8									5歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	2.骨折	右上腕骨骨折 2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり 1.定期的に実施	2.基準配置										7.その他	1.いつもの様子がなかった (具体的内容記載欄) いつもと変わらず登所し、日中の活動も変わらず通っていた。	4.対象児の動きを見なかった					
3077	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等) 5.4歳児クラス	41									4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	左脛骨々幹部骨折 1.遊具等からの転落・落下 1.あり 1.定期的に実施	1.基準以上配置										1.集団活動中・見守りあり	1.いつもの様子がなかった (具体的内容記載欄) 特に音段なく遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ている					

3086	令和3年5月12日	認可	6.認可保育所	9.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 5歳以上児	20																														5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置				1.集団活動中・見守りあり	鬼遊びを楽しむためには何に気をつけたらよいかを子どもたちと話し合う。	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄) 鬼遊びを子どもたちが集まって主体的に始めた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた
3087	令和3年5月12日	認可	6.認可保育所	11.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先公園等) 5歳以上児	26	0	0	0	0	0	0	0																						5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	右肘剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置				1.集団活動中・見守りあり	慣れない環境での見守りに関してはより意識して取り組んでいた(理由を記載)	3.いつもより活発であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄) 所外保育時で室内遊具のマットスペースで遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	
3088	令和3年5月12日	認可	6.認可保育所	10.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 4.3歳児クラス	22																												4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置				1.集団活動中・見守りあり	特になし	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄) ボールを転がして遊んでおり、自分で投げたボールを追いかけようとした時、バランスを崩して転んだ	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた		
3089	令和3年5月12日	認可	6.認可保育所	10.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先公園等) 7.異年齢構成	27						14	13																					5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置				1.集団活動中・見守りあり	かけっこをする時の配分を考え、かけっこの方法を検討するべきであった	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄) いつものように、積極的に参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた		
3090	令和3年5月12日	認可	6.認可保育所	11.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 2.1歳児クラス	11																												2歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	上腕骨上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置				1.集団活動中・見守りあり	主活動のねらいをしっかりと押さえ、遊びの範囲が広がってしまわないようにする。	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄) 活動中はいつも通りであったが、本児の興味がまわらなかつた。	4.対象児の動きを見なかった		
3091	令和3年5月12日	認可	6.認可保育所	10.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	1	1	4	2			14	22																					1歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	鎖骨骨折(左側)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置				1.集団活動中・見守りあり	年齢にあった遊具を準備し、大きい年齢の子が遊ぶ場合にはそそげないように誘う。	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄) よく動きまわった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた		
3092	令和3年5月12日	認可	6.認可保育所	9.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 5歳以上児	23																												5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	6.その他	骨端先損傷の疑い	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置				3.個人活動中・見守りあり	遊具を使う場所の範囲を保育士の近くに戻すように指示する。	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄) フラフープで遊んでいた。(転倒後)座り込んでいた。	4.対象児の動きを見なかった		

3100	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33	0	0	0	11	8	7	7	4	4	2歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	左第2指先骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	1.集団活動中・見守りあり	園児に対して安全に遊ぶためのルールを再確認すると共に、保育者が連携を取り合いながら、安全に活動できる保育環境を整備する。	1.いつもどおりの様子であった	体調に異変は見えなかった。クラスとの仲間とおままごとで遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	事故発生時、保育者が帰ってきたとき、園児がドアを閉めようとする時に指が挟まったので、ドアを止めようとしたが、閉まる方が早く止まらなかった。
3101	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)		39								32	32	5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	左足首関節内骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	3.個人活動中・見守りあり	遊びの提供を話し合いながら、約束事は必ず決めて、危険なく遊ばせていく。十分な遊び環境づくりを心がける。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつも外で砂場やかけっこをしていた。1人で走っている際に足をひねった。転ぶことはなくバランスを崩したとあった。	3.対象児から離れたところで見守っていた。本児は違和感を感じず、痛みを訴えず、保育士・友達にも話さなかった。	
3102	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37		9	18	10				4	4	5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	左上腕骨顆上骨折、左肩挫傷、左手関節挫傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	1.集団活動中・見守りあり	一番低い鉄棒の下にもマットを敷いた。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)園庭で遊んでいた。鉄棒に興味を持ち始め、自分で鉄棒をしようとしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	高い鉄棒で別の子の手助けをしていた。
3103	令和3年5月12日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24								2	2	5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	右上腕骨折	5.他児から危を加えられたもの	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	1.集団活動中・見守りあり	・必ず二人での保育体制を整えていく。 ・友達との遊び方に、ふざけたり身体を触るような行為が見られたときにはすみやかに止め、遊ぶのを誘導していく。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)本児は右腕を押さえており、状況を聞くと他児に倒されたことがわかった。痛がる腕の様子を確認する。グーできたが、腕を前方から頭上へ上げようとした際に腕が不自然に反ったため、それ	リーダー保育士は4歳児18名が2階プールデッキにて積み木やボールで遊んでいるところについていた。プールデッキは片付けを始める。リーダー保育士は片付けの援助をしていたところ本児が泣いていることに気付く。保育	

3109	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	9 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	24	0	0	0	0	9	6	9	0	3	3	3歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	3.個人活動中・見守りあり	室内では靴下を脱がせ、滑っての転倒を避けるようにする。今までは室内で活動するように促す。	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄)普段と同じ時間帯に特別楽しい活動をしていくのではなく、普段と遊ばせていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	激しく走り回って追いかけてこをしようという訳ではなかったので他の園児も含め、対応していた。
3110	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	11 2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	18									2	2	2歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	1.集団活動中・見守りあり	運動遊びの前には、指先を含めた準備体操を徹底していく。	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄)活発な遊びを好む本児は、7人の友達と鬼ごっこ(水鬼)をしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこには加わらず園庭全体を見ていた。
3111	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	11 7.午後	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	5	6	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	顔面(口腔内含む)	眉間の創傷	4.玩具・遊具等施設設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	1.集団活動中・見守りあり	保育室入口は職員があるため、遊びスペースとして使用していない。	3.いつもより活発であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄)常に活発に動く、興味のある物が入ると、すぐに駆け寄る。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ミルクの空き缶へのチェーン入れ、動物の樹脂製玩具で遊ぶ園児を見える。検温があたり、0歳児5名と一緒に行ける。調理職員が入ったため、パーションから離れるよう声がけする。
3112	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	11 2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32	1	8	9	14					6	6	6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	3.個人活動中・見守りあり	固定遊具の安全性に過信せず、見守りが必要である。	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄)固定遊具(ぞうの乗り物、高さ約65cm)に乗り降りして滑り落ち、左手が体の下敷きになりながら転倒した。	4.対象児の動きを見なかった	固定遊具の高さが高すぎず、普段は対象児が問題なく乗り降りできていたもので、そばにつかず、上り棒で遊ぶ幼児がついていた。

3127	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内) 5.4歳児クラス	23	23	2	2	25歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折 5.下肢(足・足指) 右第5中足骨基部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの 1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	今回の事故は、子どもが自ららくらくしたことによる事故のため、ハード面においての改善策は特になし。	1.集団活動中・見守り	体を動かして遊ぶ前に、注意喚起をし、子どもたちに安全に遊ばせる。	1.いつものお様子であった (具体的内容記載欄)2日間休んだ後久しぶりに登園したが、いつものように片づけした後、遊戯室でドッジボールに参加した。	少し離れたところで見ながら、対象も視界に入っていたが、対象をくすぐる瞬間に足がでかかった。 3.対象児から離れたところで対象児を見ていた 1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の様子を見ながら、対象児の動きを見ていたが、対象児が足元をくすぐる瞬間に気づけなかった。
3128	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	10	3.昼食10時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	2	2	2	24歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折 5.下肢(足・足指) 螺旋骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの 2.なし	2.不定期実施	1.基準以上配置	2.不定期実施	12	1.定期的実施	13	2.不定期実施	職員は食事の片付け等をしており、本児の様子を確認しつつも、ずっと見ていた訳ではなかった。(怪我はみなかった)また、いつも遊んでいる本児は危険な行為をしない為、安心感もあったかと思われる。	3.個人活動中・見守り	飛び降りをする際は必ず、厚く布団を敷くかマットを使用すること。	3.いつもより活動的であった(理由を記載) (具体的内容記載欄)午前中の保育(散歩)で鬼ごっこをしたことが楽しく、いつもより興奮気味だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった 1.担当 以外の職員はどの部屋にはいなかった。	職員の見守りが出来ない状況の場合は飛び降りはさせない。職員も他クラスの様子も気にかけて、危険な場面にも担任をすること。	
3129	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 5歳以上児	12	1	1	16歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折 4.上肢(腕・手・手指) 左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下 1.あり	2.不定期実施	1.基準以上配置	マニュアル事項をよく理解・把握しておく必要がある	2.不定期実施	6	1.定期的実施	60	2.不定期実施	固定遊具は無かったが、地面が乾いていた事で、滑りやすくなっていたので、水撒きなどの必要性もあった	1.集団活動中・見守り	担任は至近距離に位置するべきだった 1.いつものお様子であった 昼食までのわずかな時間だったが、外で遊びたいと主張し、女児で雲梯でのオリジナル遊びをして、目的の場所へ行った。	雲梯へ向かったのは確認したが、普段からこたえていたので、それ程心配する事なく見守るだけで済ませ、3人で雲梯でのオリジナル遊びをして、目的の場所へ行った。そこへ副園長が見えたので、報告事項を話し始める。	年中の担任と分担相談せず、行動が重なってしまった。(年中と一緒に園庭へ出ていた)	優先順位を考え、園児の動きに合った行動を考えるべきだった

3130	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20	7	6	7	4	2.3歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	2.不定期実施	数回	1.基準以上配置	夕方子ども達も疲れていたり、お迎え時間が近づいてやがやが持たせたりと高揚していたと考えられる。	本児と相手の子とも仲良く遊んで、日頃からけんかを繰り返して多かったです。事故当時、直前に保育士が傍にいたが、その場を離れた直後に事故が起きてしまった。今後は予想される子どもの動きや見守りを行っていく。	1.定期的実施	48	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	48	今回は、遊具も全て片づけたマット上で事故があったが、今後でも室内の整理整頓、使っていない遊具の片付け等は引き続き行う。またふざけ合うことは危険に繋がることが多いため、子ども達にも伝える。	1.集団活動中・見守りあり	危険を伴う行動が予想されるときは、傍を離れないようにする。やむを得ず離れる場合は、近くにいる職員に声をかけて見守るようにする。	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄) 同じように仲良しふざけ合う姿であった。	4.対象児の動きを見なかった	要支援児について、対象児に向けて、対象児を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同じ室内で、遊びを見守っていた職員が、事故当時を見守っていた。	危険を伴う行動が予想されるときは、傍を離れないようにする。やむを得ず離れる場合は、近くにいる職員に声をかけて見守るようにする。		
3131	令和3年5月12日	1.認可 6.認可保育所	22	午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	46	23	23	4	4	15.3歳	1.男児	1.屋外活動中	2.死亡	6.その他	0.死亡	0.死亡	8.その他	1.あり	2.不定期実施	1.基準以上配置	園外保育実施計画書の見直しを実施し、目的、引率、体制基準、下見など細部が十分でなかった。	園外保育実施計画書の見直しを実施し、目的、引率、体制基準、下見など細部が十分でなかった。	1.定期的実施	2	1.定期的実施	49	2.不定期実施	3	園外活動での危険個所の確認を怠った。	下見を実施し、危険個所等を特定し、引率時に共有し実施する。	1.集団活動中・見守りあり	異年齢での園外保育であったこと、ねらいを明確にして目的地を選定しなかったこと、保育士全員で下見や確認をせず、また子どもたちのルールを徹底しなかったこと、安易に遊び場を拡大したこと、その結果、子どもたちの動線を把握できない状態となっていた。	園外活動における安全管理マニュアルを見直し、きちんと遵守していく。また職員研修を実施する。	1.いつもの様子であった	広場の雑草を他の園児と駆けて下りて遊んでいた。	4.対象児の動きを見なかった	保育士Aは、全体を監視しつつ、数人の園児と一緒に移動しながら遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士Bは、15人程度の園児を引き連れ周りを遊んでいた。保育士Cは、配属の必要な園児と遊んでいた。保育士Dは、子どもの位置の確認を怠っていた。	目的の地点となる場所から、安易に範囲を広げて遊びを区切らなかった。その際に、改めて注意喚起、保育士間の範囲・立ち位置の確認をせず、子どもたちの動線を把握できていなかった。
3132	令和3年5月12日	1.認可 7.小規模保育事業	32	午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	15	2	6	7	0	0	0	0	0	2	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・臀部)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1.基準以上配置	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	1.集団活動中・見守りあり	当園の児童が連携する際の連携における遊び場は、3歳児用の遊び場の一部に限定する。散歩等についても決まったコースを在園児のいない時間帯にする。	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄) 好奇心旺盛で活発である。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具近くの砂場や他の園児と遊んでいた。	園児の動きを全体的に把握する保育士を1名、個と全体の把握に努める。また、年齢環境に合わない園所については立ち入らない。							

3138	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	38						21.9歳	2.女児	-	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 2.不定期に実施	1.基配置 2.基配置 特になし	特になし	1.定期的に実施	250	1.定期的に実施	250	1.定期的に実施	250	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り 誰かと接触した訳ではなく、本人だと同時に訴えてきた。 遊び・ゲーム等常に児童の動きを確認すべき活動については、支援員配置を考慮する。 1.いっときの様子であった スポーツ好きで活動的な児童、昔より通所と通所していた。 3.対象児から離れたところで対象児を見ている 声掛けしなかつた。 2.担当者・対象児の動きを見なかった 対象児の他の児童を見守っていた。 ドッチボールゲームでボールを走っていたが、これに外遊びについて注意深く見守っていたことはいくことではない。 自らの転倒に気づいたが、これに外遊びについて注意深く見守っていたことはいくことではない。
3139	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11.8.夕方(16時頃～夕食提供前項)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	54					18.6歳	2.女児	-	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指) 右足甲小指側の骨3本骨折(ひび)	1.遊具等から転倒・落下 見守りができない範囲で遊んでいた。 見守りのできる範囲で遊ぶようにする。	1.あり 2.不定期に実施	1.基配置 2.基配置	広範囲で遊ぶ子ども達を見守りできなかった。 見守りのできる範囲で遊ぶようにする。	2.不定期に実施	4	2.不定期に実施	4	2.不定期に実施		支援員が他の子ども達と遊んでいたため、見守りできなかった。 ジャングルジムで遊ぶようになって危険なことも話をされる。 1.集団活動中・見守り 鬼ごっこで遊んでいるうちに夢中で慌てた。 ジャングルジムの遊び方について危険なことも話をされる。 3.いっときの様子であった(理由を記載) ジャングルジムで鬼ごっこで遊んでいるうちに夢中になり、バランスを崩した。 4.対象児の動きを見なかった 他の子ども達と遊んでいたため、気づかなかった。 2.担当者・対象児の動きを見なかった 対象児の他の児童を見守っていた。 必ず支援員が近くにいるように注意を促す。			
3140	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40					19.7歳	2.女児	-	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 2.不定期に実施	2.基配置 3.基配置	事故後の指導員の連携の確認 見守りのできる範囲で遊ぶようにする。	1.定期的に実施	240	2.不定期に実施	3	1.定期的に実施	240	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り 特になし 特になし 友だちと遊んでいる時の事 2.対象児の至近で対象児を見つけた こけたのを見つけた 2.担当者・対象児の動きを見なかった 部屋へ連れてきた児童の様子を確認し処置をする。 特になし 特になし	
3141	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10.8.夕方(16時頃～夕食提供前項)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	101					21.9歳	2.女児	-	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷 0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指) 左足小指の第2関節とつねの骨折	3.子ども同士の間で衝突によるもの	1.あり 2.不定期に実施	12.基配置	特に問題なし。 特に問題なし。	1.定期的に実施	12.3.未実施	-	1.定期的に実施		柱の角を丸くする木材に足を打った。 木材は堅いので、クッション性のあるコーナークッションの方が良いのではない。 1.集団活動中・見守り 特に問題なし。 特に問題なし。 1.いっときの様子であった	4.対象児の動きを見なかった	1.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた) 不運な事故が重なって起きた。たまたま足を出した時にコーナークッションに入ってきた児童が足を引いたので、特になし。		
3142	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9.8.夕方(16時頃～夕食提供前項)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	2					21.9歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右手中指骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり 2.不定期に実施	1.基配置	土曜日の夕方はいつも、慣れた2名で遊んでいるが、ふざけて遊んでいた。 危険に気づかずに、早めに行き止めるようにする。	1.定期的に実施	4			土曜日で、サッカーチームが校庭を遊んでいた。普段遊ばない場所であった。 安全な遊具の場所に、移動させる。 1.集団活動中・見守り 石が落ちて、気がつかなかった。 石に気が付く必要があった。 3.いっときの様子であった(理由を記載) 室内遊びでは、静かに遊ぶが、戸外に出ると活発になる。 3.対象児から離れたところで対象児を見つけた 子どもの人数が少ないこともあり、危険を感じなかった 2.担当者・対象児の動きを見なかった 室内で待機していた 遊ぶ場所を考案する。					
3143	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10.8.夕方(16時頃～夕食提供前項)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	267					20.8歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 骨折(左手小指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 2.不定期に実施	2.基配置	安全に遊ばせることができないように、職員が役割分担を工夫する。 特になし。 安全に遊ばせることができないように、職員が役割分担を工夫する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施		館庭の広さに対し、遊んでいる児童が多かった。 広さに対する児童の動きを抑制するため、職員が役割分担を工夫する。 秋休み中から遊んでいたため、疲れがでていた。 疲れしていないように見えても、しっかりと休ませる必要がある。 1.いっときの様子であった 朝から利用していたが、いっときの様子であった。 3.対象児から離れたところで対象児を見つけた 審判としてキックを指示している児童を見つけた。 2.担当者・対象児の動きを見なかった 他の職員はキックのペースを調整して遊ばせていた。 全体を見守っていたが、細かい職員と分けられないように遊ばせていた。 全体を見るか、見守るまで分かれる。			
3144	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	112					21.9歳	1.男児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅)	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 2.不定期に実施	2.基配置	登館する前に経路上で遊んでいた。 登館時や下館時に遊んで帰らないよう注意喚起。 1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施		登館時や下館時の危険な場所。確認。 4.個人活動中・子どものみ 登館時や下館時の危険な場所。確認。 登館時や下館時の危険な場所を確認。 4.対象児の動きを見なかった 2.担当者・対象児の動きを見なかった 登館する前に経路上で遊ぶ。 登館時や下館時に遊んで帰らないよう注意喚起。				

3145	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	70									6	4	19.7歳	2.女児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位骨折(左手)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3.基準配置	-	職員を増やす必要性と、年度の職員の入れ替わり等があるため、過去の事故事例の検証を定期的に行う必要がある。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	-	特に遊具の異常は見られなかった。引き続き安全検査を行う。	4.個人活動中・子どものみ	-	全体を見ているもの、貸し出しの遊具等で遊ぶことが多かった。貸し出し等状況を見て、制限をかける必要がある。	1.いつもの様子であった	4.対象児の見えなかった	校庭の中央に配置していたが、近くの児童等と関わっていた	2.担当者・対象児の動きを見なかった	巡回等して見えていなかった	落下する可能性のある遊具への職員配置が手薄になった。	落下の可能性がある高い遊具に職員配置が必要であった。		
3146	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26									6	4	21.9歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準配置	特になし	来館者対応職員を絞り込み、職員不在の部屋がないよう職員配置を工夫する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	12	引き戸の出入り口をゴムで固定していたが、不十分であった。	「指はさみストッパー」を設置し、未然に防ぐ。	4.個人活動中・子どものみ	特になし	延長利用時間中、児童の過剰な遊具を固定化し、職員の見えにくくする。	1.いつもの様子であった	読書をしようにと図書室へ行った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童クラブ登録に係る申込書配付のため、来館者対応していた	2.担当者・対象児の動きを見なかった	延長時間帯の主に過剰な遊具(集会室)で、他児の見守っていた	特になし	事前の打ち合わせで、職員配置を確認する。
3147	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	14									3	3	21.9歳	1.男児	-	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足中指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準配置	-	危険な要素を把握できない、日々の点検をしっかりと行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	12	-	怪我が多い遊具や玩具を使用するかどうかも含め、検討する。	1.集団活動中・見守りあり	-	危険な事を察知するスキルを向上させ、児童が安全に遊べるように配慮を努める。	1.いつもの様子であった	遊戯室で友だちとブロック(大型ブロック)で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室で対象児のいるグループをしながら見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見なかった	利用児童のほかに児童クラブ(ラブラブ室)と事務室で来館者対応をしていた	児童が受けた。職員間が周知出来なかった。児童が帰宅時に受診部の確認を十分に入らなかった。	児童の怪我が事故は職員間で周知徹底する。		
3148	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	81									15	6	20.8歳	1.男児	-	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足中指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	-	事故が起きたときに、事故防止マニュアルの整備ができていた。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	-	特になし	特になし	特になし	1.対象児とマンツールの状態(対象児に接していた)	1.対象児の見守り状況(対象児に接していた)	1.担当者・対象児の動きを見ながら近づいていた	全体の見守りの中で、当該児童も見守っていた	支援員が見守りをしていたが、注意を配っていたが事故が起きてしまった。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。						
3149	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	135									11	4	20.8歳	1.男児	-	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹部(首・胸部・腰部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2.基準配置	-	事故が起きたときに、事故防止マニュアルの整備ができていた。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	-	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	-	特になし	1.対象児の見守り状況(対象児に接していた)	1.担当者・対象児の動きを見ながら近づいていた	全体の見守りの中で、当該児童も見守っていた	支援員が見守りをしていたが、注意を配っていたが事故が起きてしまった。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。					
3150	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	26									3	1	20.8歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	危険予知できるような常に児童の行動観察を怠らない。	2.不定期に実施	-	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	-	危険性があがる遊具は、市に口頭で報告・相談している。	学校を通じて市へ報告し、必要であれば撤去をお願いする。	1.集団活動中・見守りあり	外遊び児童に対する支援員数は、適切な人数であった。個々の児童の性格や体力に把握して、早期に対応する。	1.いつもの様子であった	小柄ではあるが運動神経の良い児童で、体操教室に通っており、倒立・側転・鉄棒運動は慣れている。事故当時は、やや高い鉄棒にぶら下がっていた。	2.対象児の見守り状況(対象児に接していた)	2.担当者・対象児の動きを見なかった	サッカーを遊んで合流した直後、サッカーは取り返りに駆け寄っていた。	時折、児童クラブ内の生活環境が、ストレスがたまり、室内遊びの工夫など対策が必要。	最近室内遊び(特今年度は熱中症対策の為に、児童側からストレスがたまり、室内遊びの工夫など対策が必要。				

3151	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	20	20	4	22.10歳	1.男児	-	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右第3中手骨不全骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり 2.不定期に実施	1.基準以上配置	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施	室内遊び時の見守りの方法を改めて確認。 1.集団活動中・見守りあり	1.いつもおどりの様子であった 外遊びが好きな児童で活発な様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童全体を見ていた(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	多くの児童が室内で遊んでおり、全体を見守ることが必要であった。	子ども達の関係をよく見て、喧嘩がひどくなるような時は別室で過ごさせ冷静さを取り戻す必要。支援員全体で共通理解を持つ。						
3152	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	19	19	3	18.6歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左肩鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 2.不定期に実施	1.基準以上配置	指導員の見守りの方を話し合い、子供たちにも走って遊ぶ時の注意を促す。 追いかけた友達の接触はなく、自分で転んでしまった。	1.定期的に実施	2.不定期に実施	12	12	12	12	なにかにつまずいて転んだわけではない、逃げようとして転んでしまった。肩からこぼるんで手をつかっていた。 クラブで生活している間は、常に子供たちの動きをしっかりと見守り、声掛けを促していく。 1.集団活動中・見守りあり	遊び方について子供たちに指導し、声をかけて注意を促すようにしていく。	1.いつもおどりの様子であった 1年生の友達と2人で遊んでいた際、逃げたところまで転んでしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	この日は、運動会の振替休日であるにもかかわらず、午前中で帰る児童もあり、児童15名に対して指導員は午前午後3人ずつ交代して勤務。事故発生時は、北側に見守っていた。小学校区3つのクラブが一組に遊んでいて、人数が多かったため、対象児が走っているのは見ただけには気づかなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くに他の支援員もおり、走っているのは見ただけでは気づかなかった。	見守りの強化をし、ちよっと転んだら、ケガをしたことについて、本人への声掛け確認を促す。こどもたちへの注意を促す。
3153	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	25	25	3	18.6歳	2.女児	-	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり 2.不定期に実施	1.基準以上配置	定期的な事故予防マニュアルを確認。頻りに事故予防の打ち合わせを行なう。	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施	危険箇所等の確認を、児童の遊具の遊び内容を把握して見守っていた。 3.個人活動中・見守りあり	児童への事故予防に関する注意喚起。安全に遊ぶためのルール作り。	1.いつもおどりの様子であった 不調を訴える様子があった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	別の児童の対応中。当該児童の遊び内容は把握し見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の児童の対応中。	遊具遊びの集団に、常に職員を配置。			
3154	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45	45	9	20.8歳	1.男児	-	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり 2.不定期に実施	2.基準以上配置	こま遊びのとき職員を配置する。	1.定期的に実施	12	12	12	12	こま遊びの場所を厳重な場所を検討し、決める。 1.集団活動中・見守りあり	こま遊びの片付けまで見守る。 1.いつもおどりの様子であった 友人とコマで遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	正規指導員の指導中、死角(背後)での出来事のため目が行き届いていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつ後の片付けでキッチンで洗い物をしていたため見ていなかった。	こま遊びをしているときは、できるだけ重点的に見守る。		

3155	令和3年5月12日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	10. 7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	13						3	1. 19. 7歳	1. 男児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指) 右肘脱臼及び肘上部骨折	2. 自らの転倒・衝撃によるもの	3. 未実施						1. 定期的に実施	ほぼ毎日	1. 定期的に実施	ほぼ毎日	ほぼ毎日	1. 集団活動中・見守り	場所の制限により通常の遊び(ドッジボール)ができない。児童全体が他に興奮しやすいう状況であった。 児童が年齢に合わせた遊びを配り、必要に応じて指導する。 マット等、やわらかな素材のものを敷く。 児童が年長に合わせた遊びを配り、必要に応じて指導する。 マット等、やわらかな素材のものを敷く。 児童が年齢に合わせた遊びを配り、必要に応じて指導する。	児童の遊び方から事故となる危険が予測できなかった。 子どもが転倒する可能性のある遊びは、転倒しても衝撃を吸収できる場所で行うようにした。	児童の遊び方から事故となる危険が予測できなかった。 子どもが転倒する可能性のある遊びは、転倒しても衝撃を吸収できる場所で行うようにした。	この事故を踏まえ、より一層職員同士連携し、児童全体に危険な行動がないうかが気を配りながら支援していく。
3156	令和3年5月12日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	11. 6. 午睡中	2. 施設敷地外(園庭・校庭等)	8. 学童	28						2	2. 21. 9歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	2. 顔面(口内含む) 鼻の骨折、歯茎のずれ	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	3. 未実施						2. 基準配置	-			1. 集団活動中・見守り	遊具を利用しているが、遊具の安全点検は関係ないと思われる。 事故が起きた時、他の児童を助けていた。音がしたので急いで駆けつけたが、児童が遊具から落下して、児童は3年生で、学校の遊具で遊んでいたため、手を滑らせると落下するのではとの支援員も思わなかった。 突発的な予想できない事故であったので、対応が難しい。	どんな時でも事故が起こってしまうことがあることを考えて保育する。児童が、高い位置で遊ぶ遊具を使用している時は、他の児童にも目を配りながらも、できるだけ近くで保育する。支援員は、児童がどの位置にいてどんな遊びをしているかを常に頭においておく。	どんな時でも、どの事故が起こる可能性があるという事を頭に置き保育をする。注意を呼び掛ける。	突発的な予想できない事故であったので、対応が難しい。
3157	令和3年5月12日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	11. 8. 夕方(16時頃～夕飯提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	30						4	3. 20. 8歳	1. 男児	-	1. 屋外活動中	1. 負傷 0. 負傷 2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指) 両腕橈骨頭骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施						1. 基準以上配置	2. 不定期に実施		1. 集団活動中・見守り	当施設敷地が建物の軒下し今春に再販市役所と家屋の図面にて確認していた。わずかなスペースで外遊びできるも近隣の保育施設建設や住宅建設の駐車場となり外に出ることもままならない日が続いている。動きの活発な4年生以上の子供たちについて日々の活動に頭を痛めていた。 狭い施設内の子供たちの遊びの遊ばせ方、一日のスケジュールを見直す。 公園、外遊びの時の支援員の担当を決める。遊びの具的ルールを子ども達に伝える。(職員間でも把握)	遊具利用の注意喚起を職員、子供たちに促して遊ばせるようにした。	公園、外遊びの時の支援員の担当を決める。遊びの具的ルールを子ども達に伝える。(職員間でも把握)	一言、注意を促すだった。	

3158	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	9	9	3	22.10歳	2.女児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折 左肘部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	-	-	-	1.定期的に実施	250	-	定期的な点検を実施するとともに、学校遊具も使用は安全確認を行い使用する。	3.個人活動中・見守りあり	外で順番を待たせながら遊んだ。学校でのブランコは許可されていたが、事故を機にクラブでは禁止とした。	宿題が終わって高学年がブランコで遊んでいた。(靴をはかずに立ちこぎをした。)	3.いっしょに活動的であった(理由を記載)	ブランコ、滑り台、鬼ごっこなど広範囲で遊んでいた子どもを支援員等2名で見守っていた。支援員等1名はブランコ前に居た時、手が出せなかった。	1.担当者・対象児の動きを見守っていた(至近距離にいた)	1名は室内の子を、2名は外遊び(ブランコ、滑り台、鬼ごっこ)を見守っていた。	外遊びは必ず支援員等3名で見守る。				
3159	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	54	54	4	18.6歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	-	-	-	2.不定期に実施	4	-	使用可能な遊具と、不可の遊具について、施設のルールを周知し、常に確認する。	1.集団活動中・見守りあり	事故直前に、他児連が鉄棒の前でどんぐりを投げ始めた時、当該児童から目を離した。	至近に居る支援員だけでなく、他の児童も子どもの行動や遊具の使用状況に注意して見守る。	1.いっしょの様子であった	久しぶりの外遊びで、走り回ったり、元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見守っていた	事故直前まで当該児童と遊んでいたが、鉄棒の前で他児連が、どんぐりを投げ始めたのを注意する為、目を離した。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	低い鉄棒の辺りで1名、施設出入口付近で行っていた。ドッジボールをしている子ども達の見守り。	遊具をどう使用しているかに注意する。子どもの行動だけでなく、他支援員の行動にも配慮して、死傷を作らないようにする。		
3160	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31	31	3	21.9歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	-	-	2.不定期に実施	1	1.定期的に実施	-	-	4.個人活動中・子どものみ	1.いっしょの様子であった	一度児童クラブにたのびた後、学校に忘れ物を取りに児童クラブ室に戻る途中で、予期せずグラウンドで学校の児童のドッジボールの輪に加わったことによる出来事。当時児童クラブとしてグラウンドを利用する時間では無かった。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	一度児童クラブにたのびた後、学校に忘れ物を取りに児童クラブ室に戻る途中で、予期せずグラウンドで学校の児童のドッジボールの輪に加わったことによる出来事。当時児童クラブとしてグラウンドを利用する時間では無かった。	-	-					
3161	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	89	89	11	18.6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	-	-	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	特になし	引き続き研修を通して事故の予防に努める。	1.集団活動中・見守りあり	児童に室内で走らないよう徹底する。	1.いっしょの様子であった	他の児童より場所が遠めだったので、少し急ぎ気味の様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見守っていた(至近距離にいた)	他の児童の倒れを防止するため、転倒時に気が付いたら、怪我の予防に努める。
3162	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	49	49	8	20.8歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	捻挫及び剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	-	-	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	定期的な環境整備点検遊具点検小学校内施設でもあつたので、定期的な周辺木々の落ち葉の溜りやすい。	1.集団活動中・見守りあり	遊び前の約束確認や振り返りの指導を行う人数配置や活動を見守り必要な支援や指導をする	1.いっしょの様子であった	足をひねったと申し出たので冷やして様子を見て過ごした。	2.対象児の至近で対象児を見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見守っていた(至近距離にいた)	外遊びでの活動を見守り、時々本児に足の痛み具合を確認する。	遊び前の準備体操・ストレッチを取り入れるマニュアルを確認し、職員間で安全管理や対応について学ぶ機会を定期的にもつ

3168	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12 7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	31						4	19.7歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	-	1.基準以上配置	-	事故防止を目的として安全管理マニュアルの整備、研修の実施	1.定期的実施	毎日	3.未実施	-	1.定期的実施	毎日	-	各遊具の使用方のルールを徹底していく。	1.集団活動中・見守りあり	-	保育ミーティングで、その日の支援員の配置を確認する。	1.いつもどおりの様子であった	すべり台をすべりおりにいる途中で、下に飛び降りようとして足がひっかけ、地面に落ちて右手をついた。	4.対象児の動きを見ていなかった	すべり台をすべりおりにいる場所が、落ちる瞬間は見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児をみていなかった。	-	危険な場所や事故が起こりそうな場所に、重点的に人を配置する。
3169	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12 7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	43						1	19.7歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	1.頭部	脳震盪、擦り傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1~3	1.基準以上配置	-	研修を定期的に開催し、事故発生時にスタッフがより落ち着いた対応ができるようにする。	1.定期的実施	1	1.定期的実施	1	1.定期的実施	1	-	外遊びに校庭を利用していた学校の工事の件で、よく利用している公園であるが、定期的な危険な場所や、立ち入ってはいけない危険な場所などについて、子供達に話をす。	1.集団活動中・見守りあり	-	公園遊びの際に、スタッフがすべり台の子供達に目が行き届き、見ていない児童がいないように、役割分担を決めるなど、スタッフ間の連携をより強化する。	1.いつもどおりの様子であった	公園での外遊びで、鬼ごっこをしており、いつも通り生活していた。	スタッフ1名が、鬼ごっこをしていて、木につかるところに落ちて、怪我をした。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のスタッフについては、他の子供達と遊び、直接は対象児を見ていなかった。	他のスタッフも自分の遊んでいる児童について、広い視野をもって、観察、見守りできるように日頃から研修を行う。	
3170	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1 2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	15						2	21.9歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘関節骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1~3	1.基準以上配置	-	研修を定期的に開催し、事故発生時にスタッフがより落ち着いた対応ができるようにする。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	-	よく利用している児童施設であるが、定期的な危険な場所や、立ち入っては危険な場所などについて、子供達に話をす。	1.集団活動中・見守りあり	-	野外活動の際に、すべての子供達に各自が持ち帰るよう、予め担当フロアや、担当グループを決めておくなど、事前準備をしっかりと行う。	1.いつもどおりの様子であった	入室時から変わった様子はなく、事故発生時はスラックで元気に遊んでいた。	スタッフ1名が、遊びを守っていたので、アスレチックから落下した際に気づき対応した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のスタッフについては、他の子供達と遊び、直接は対象児を見ていなかった。	他のスタッフも自分の遊んでいる児童について、広い視野をもって、観察、見守りできるように日頃から研修を行う。	
3171	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12 8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	63						3	20.8歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右母指中手骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	-	2.基準配置	-	今回の事故は学校の校庭で起こったものなので、施設・設備の安全点検に関しては学校に依頼し、外部研修でも危機管理に関する内容への参加を促していく	-	-	-	今回の事故は学校の校庭で起こったものなので、施設・設備の安全点検に関しては学校に依頼し、外部研修でも危機管理に関する内容への参加を促していく	1.集団活動中・見守りあり	-	サッカーをしていた際の転倒のため、サッカーを行う際には支援員より児童へ注意喚起を行い児童の見守りから確認し、怪我への認識を高める	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子で、外遊び時は必ずサッカーを行った日でもサッカーを行った	サッカーには補助支援員1名が見守っていたが、転倒には気づき見ていなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭での外遊びと見守りしていた3名の支援員がいたが、校庭の端にてサッカーのため、他の支援員からは遠く位置に置かれた。	近くで見守っていた補助支援員が児童の転倒に気づいたので、研修や日々の指導で児童の見守りスキルと意識の向上を行う					

3172	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	68			68	8	8	22.10歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手指骨折	8.その他															柔らかいボールとして、ドッジボールを使ったが、強さが予想以上に強く、骨折になる予見できなかった	よりかなボールを扱うことを検討する							
3173	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	81			81	8	8	21.9歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手指骨折	8.その他		2.不定期的に実施		1.不定期的に実施		2.不定期的に実施	3-									サッカーが子ども達に人気があった。体力面、技能面で差を気にかけた矢先の怪我となつてしまった。	同学年や近い学年であっても、体力・技能差のある児童による活動に制限やルールを加えて事故をなを徹底する。						
3174	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	25			25	4	20.8歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	鎖骨骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	2.不定期的に実施		2.基準配置		支援員間で注意喚起、自己分析を行うこと。		1.集団活動中・見守りあり		なし	児童に対して、事故防止について繰り返し安全指導を行う。	1.いつもおりの様子であった	2.対象児童の至近で対象児を見つけた	運動場で保育活動中に発生した事故であり、当の注意を促す。相手を監視していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	上記に同じ。	運動場での保育活動について、都度児童に対して、注意喚起を行う。							
3175	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	55			55	4	20.8歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期的に実施		2.基準配置	遊びの展開がエスカレートする事がある	時々、声かけをし、安全を促す	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施		1.定期的に実施		異年齢で遊ぶ中で体力差がある事を考える	遊ぶ前、子ども達に声かけをする	1.集団活動中・見守りあり	異年齢集団の中で危険を回避する事を学ぶ	遊ぶ前にルールの確認をする	1.いつもおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見つけた	常に目を離さず見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	常に目を離さず見ていた(至近距離にいた)	子どもの身の伏があることを見る	常にミーティングで子どもの状態を把握しておく
3176	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	17	午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	16			16	5	22.10歳	1.男児	-	2.室内活動中	1.負傷 0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期的に実施		3.基準配置	児童に対しての目配りを強化する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日					"のったものはおとってもらう"という表示をロッカーの上に置く。ロッカーの上にもたせかけない。	本来、量で過ごす時間だったが、ホールで遊び始めようとする児童がいた。食べ残した児童片付けしてほしい児童食べ残など全体を見つ、個別に声をかけることが多い時間帯だった。	早めの声掛け。全体を見守る。支援員を複数配置。ロッカーの上には絶対に子どもを置かないように促す。	1.いつもおりの様子であった	見たいテレビ(もしくはゲーム)があったようで、もつとゆつくりと登所したかった。	ホールへ行こうとしたが、すぐに戻ってきてくれた。思い、ずつと見てはいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	台所でトランプ対応していた。見ていなかった。	子どもが場所を離れた時点で、どのような動きをするかを見守るように改善。支援員にも子どもへの声掛けを徹底する。

3177	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	49	49	5	6	20.8歳	2.女児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨遠位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	1.定期的実施	12	1.定期的実施	外遊びの都度	外遊びの都度	館庭での鬼ごっこ等で遊ぶ場合の人数が適しなかったかどうかが交代制にするなど、十分なスペースがとれ、遊ぶことが出来るように対応していく。	職員間で事故を未然に防ぐ事を意識し、お互いに声を掛け合ったり連携体制の向上を図る	1.定期的実施	24	館庭での鬼ごっこ等で遊ぶ場合のスペースの確保	1.集団活動中・見守り	子ども運に目を配り、遊びに夢中になり過ぎていないかと思われ、声をかけようとする。	1.いっもりの様子であった	鬼ごっこで夢中周りを様子を見ていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこ全体を見ていたが、本児もぶつかった相動きのすくすく音が聞こえていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	2.対象児の動きを見ていた	外遊びの終了時、他の児童を頼るため、鉄棒の集合できなかった。	冬休みに入る事から、児童全員で朝の会で、外遊びのルールを話し合った。今後必ずする時、支援員(補助員)全員が、外に出る事を徹底する。
3178	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	45	45	5	22.10歳	2.女児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	1.定期的実施	15	1.定期的実施	外遊びの都度	外遊びの都度	児童全員で、朝の外遊び(鉄棒)等話した。また、支援員(補助員)全員で、危機管理を徹底した。	支援員(補助員)で、毎日の清掃後、全体ミーティング等、今一度、外遊びの危険性を話し合い、全員が外に出る見守りとす。	1.定期的実施	1.集団活動中・見守りあり	外遊びは、支援員(補助員)が全員の目、心、意配りをしていく。	1.いっもりの様子であった	鉄棒がしたかったことでも、活発に元気で遊んでいた。	2.対象児の動きを見ていた	鉄棒付近で、気を付けて、声掛けを、何度かしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	外遊びの終了時、他の児童を頼るため、鉄棒の集合できなかった。	外遊びの終了時、他の児童を頼るため、鉄棒の集合できなかった。						
3179	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	55	55	5	21.9歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折(左足くるぶし)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	1.定期的実施	4	3.未実施	-	1.定期的実施	-	芝生で走り、芝を取られた。	芝生の上での遊びの内容や工夫する。	1.集団活動中・見守りあり	1.いっもりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	つまずき転ぶという一瞬の動きには、手が差しのべられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	他児の見守りの為、気がなかった。	支援員の声の届く範囲内で声を掛ける。								
3180	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	36	36	4	21.9歳	1.男児	-	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	2.不定期実施	10	2.不定期実施	10	2.不定期実施	10	2.不定期実施	今回の事案については、ハード面が原因ではないので「該当なし」。	今回の事案については、ハード面が原因ではないので「該当なし」。	1.集団活動中・見守りあり	1.いっもりの様子であった	2.対象児の動きを見ていた	子供たちは色々な動きをしていて、対象児が転倒した場所まで距離が近づかず、間に合わず転倒を防ぐことができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれが担当する児童の近くで見守っていた。	子供たちは色々な動きをしていて、お互いが気を付けて、互いに安全なスペースを確保できるように注意して見守る。	各々の子供たちがお互いに安全なスペースを確保できるように注意して見守る。						
3181	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	33	33	4	20.8歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	1.定期的実施	2	1.定期的実施	12	1.定期的実施	2	2	当該事故に置いて育成支援の問題がないため、改善策なし。	当該事故に置いて育成支援の問題がないため、改善策なし。	3.個人活動中・見守りあり	1.いっもりの様子であった	2.対象児の動きを見ていた	校庭でサッカーの開始を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	校庭の各所で全体の見守りを実施していた。	当該児童が転倒したことは確認したが、外傷や腫れ・赤みが見られず、痛みもありません。本人も痛みを訴えなかったため、特段の処置はせず遊びを続け、その後もいっもり過ごした。	外傷や腫れ・赤みが見られず、痛みもありません。本人も痛みを訴えなかったため、特段の処置はせず遊びを続け、その後もいっもり過ごした。						

3182	令和3年5月12日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12. 2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	26	3	1. 20. 8歳	2. 女児	無し	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首関節の骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	無し	外遊び引率職員は2名配置で配置基準は満たしていた。	1. 定期的実施	随時	3. 未実施	-	1. 定期的実施	随時	無し	児童育成クラブの遊具の設置はされていないので、日々の保育の中で、遊具で遊ぶ機会が限られている。そのため、遊具利用時は、ルールや利用時に気を付けるべき事を基本的な事から伝えていく必要がある。	当日、プランコは高層待ちをする児童も居たため、スムーズに交代出来るよう、しばらくの間はプランコに指導員が居たが、個々に好きな遊びを増えたいため、指導員も全体的に見守りをしていた。	1. 集団活動中・見守りあり	外遊びの際、子ども達の行動範囲が広い時は、遊んで良い範囲を制限する必要がある。	1. 自宅から被っていた帽子を元気づけようとして外遊びに行く	1. 1. いつもの様子であった	3. 対象児から離れたところで見守っていた	個々に好きな遊びをしていたため、全体的に見守りをしていた	2. 担当者・対象児の動きを見守っていた	他方面で遊ぶ児童も居たため、他方面の見守りをしていた	プランコの子、ジャンブルやボール遊び等の行動範囲は広がった。	外遊びの際、子ども達の行動範囲が広い時は、遊んで良い範囲を制限する必要がある。
3183	令和3年5月12日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12. 7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	59	6	4. 20. 8歳	1. 男児	-	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足外果骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的実施	2. 基準配置	特になし	校庭に遊びに行く人数や学年に合わせて支援員を配置していたため、ソフト面における改善点はなし	1. 定期的実施	開所の都度	2. 不定期に実施	校庭に遊びに出る都度	1. 定期的実施	開所の都度	当該事故に関係なし	当該事故に関係なしのため、ハード面における改善点はなし	1. 集団活動中・見守りあり	・普段サッカーをしない子だったので、声掛けをまめにしようとしていた。児童の遊びを十分に把握し、適切な声掛け・注意喚起を行っていき、危険行為がなないようにする	1. 1. いつもの様子であった	3. 対象児から離れたところで見守っていた	一番近い支援員は全体的に見守っていた	2. 担当者・対象児の動きを見守っていた	3か所に分かれた見守りしていた。近辺・体育館の側面・施設出入り付近(見回り)	個々に声を掛けが十分であった	各支援員が子ども1人1人の特徴・個性を捉え、話し合いを話し、共通認識を持って、また個人面から聞き取った特徴・個性も把握する。		
3184	令和3年5月12日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	1. 7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	36	4	2. 21. 9歳	1. 男児	-	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	危険予知に対する研修など行っていた。支援員は、当時、鉄棒付近で遊んでいることを把握していた。近くで遊んでいる児童は、鉄棒付近で遊んでいて、走り出した時に鉄棒に気が付いた。	1. 定期的実施	6	1. 定期的実施	6	1. 定期的実施	6	小学校の校庭の鉄棒。周りで遊んでいて、走り出した時に鉄棒に気が付いた。	学校の事故の報告。安全管理の観点から、定期的に行う安全確認を行い、安全な環境を整える必要がある。	3. 個人活動中・見守りあり	負傷した児童は、鉄棒付近で遊んでいて、走り出した時に鉄棒に気が付かず、顔面に鉄棒の先端が当たった。	3. 1. 1. いつもの様子であった(理由不明)	冬休み明けの学童だったので少し落ち着きがない様子であった。	2. 対象児の全体的な様子を見守っていた	2. 対象児の全体的な様子を見守っていた	2. 担当者・対象児の動きを見守っていた	支援員A: 外遊び雲梯近くにいたが連絡を受けてケガの確認をし、室内へ連絡。そのまま外遊びの子ども達を見守っていた。支援員B: 室内で連絡を受けて校庭へ向かいケガを確認し、室内へ移動中に知らせた。連絡	外遊びは校庭で、全体的に見守っていたが、鉄棒に向かっていたことには気づかなかった。	外遊び中の危険予知を意識して見守っていた。必要であれば、遊ば場所を制限する。		

3185	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先公園等)	8.学童	28	28	4	20.8歳	2.女児	療育手帳0判定	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右膝骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	1.基準以上配置	特になし	特になし	施設敷地が狭く、外遊びの場所が少ない。舗装部分と砂利、草地の境目を誘発しやすい。	草むらの方へ行く時は滑りやすいので気を付けて声をかけるようにする。	舗装されている所が限られているので、その他の部分と段差が来ます。	1.集団活動中・見守り	舗装されている所が限られているので、その他の部分と段差が来ます。	1.いつもどおりの様子であった	いつも子どもと一緒に遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一輪車やパドミン等も遊んでいた。近くにはいなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びを見守っていた	同じ遊びに複数で見守ることができないよう配置していく。						
3186	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	54	54	6	22.10歳	1.男児	-	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・臀部)	打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2.基準配置	特になし	事故予防に関する研修への積極的な参加をしていく	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	2.不定期に実施	児童への遊具玩具の安全な使用や安全な行動のしかたの指導を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りでしたが、急に二名の児童を見つけた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	外から施設に戻るため最終確認をし、対象児の後ろから見ながら見つけた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	先に次の遊びの準備のため部屋に戻っていました	部屋に戻る際の玩具の指導を徹底する						
3187	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	17	午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	25	25	6	19.7歳	1.男児	-	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	下肢骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的な実施	1.基準以上配置	3	防止対策だけでなく、実際に事故が起きたことを想定した訓練が必要。	1.定期的な実施	33	3.未実施	1.定期的な実施	児童の発達状況健康状態などを把握し、適切な援助を行う。	1.集団活動中・見守り	児童の発達状況健康状態などを把握し、適切な援助を行う。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	若干、体重が増えたり、積極的に体を動かしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	直接、児童4人の運動していた職員は1人だった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他、3人の職員が制作や遊びを見ていた	休憩をとらずに活動している場合があるので水分補給、休憩をこまめに取るように指導し、ケガのリスクを少なくする。				
3188	令和3年5月12日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	61	61	4	20.8歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口腔内打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的な実施	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的な実施	240	3.未実施	0	1.定期的な実施	52	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	1.いつもどおりの様子であった	一輪車に乗るのには久しぶりであったためプランクがあった	4.対象児の動きを見ていなかった	近くには支援員がいたが、見えていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くには支援員がいたが、見えていなかった	特になし	特になし

3189	令和3年5月12日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8. 学童	70	12	7. 20. 8歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折、じん帯損傷	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的実施	1. 基準以上配置	特になし。	職員配置上は基準以上の人数を確保していた。	1. 定期的実施	日常	1. 定期的実施	12	1. 定期的実施	12	遊具としての劣化、破損などは特になし。	設置が小学校であることから、変更は難しいが、本件について小学校へ報告する。	室内へ移動する前に、もう一度遊びたいとの児童の心算で遊具を使って遊具を使った可能性がある。	3. 個人活動中・見守り	室内へ移動する前に、もう一度遊びたいとの児童の心算で遊具を使って遊具を使った可能性がある。	1. 1. いつもの様子であった	室内へ入り廊下も一度遊ぼうと思って、遊び箱の蓋を閉じた。	4. 対象児の動きを見なかった	(担当職員配置上の事故現場周辺にいた指導員)子ども達全員を校庭から室内へ移動させるべく、校庭を巡回し声かけを行った。その後、校庭にいた指導員はサッカーチームの練習を行っていたが、サッカー以外の児童は見なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	(上記担当職員1名以外=他の職員として)校庭にいた職員1名も全員を校庭から室内へ移動させるべく、校庭を巡回し声かけを行った。その後、校庭にいた指導員はサッカーチームの練習を行っていたが、サッカー以外の児童は見なかった。	巡回しながら声かけを行う職員と、子どもも室内へ移動し声かけを待たずに、常時見守りを行うようにした。
3190	令和3年5月12日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	1	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	67	9	2. 20. 8歳	1. 男児	-	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的実施	2. 基準配置	児童が動き回る遊び、且つ、職員も児童とコミュニケーションを図る為に参加していた。その為職員配置が固定されていた。その為職員配置が固定されていた。その為職員配置が固定されていた。その為職員配置が固定されていた。	・1階体育館に配置された職員のうち必ず1名は、遊びに参加せず固定の場所から児童全体に目を配る。 ・お互いに他職員を把握し、目の届かない児童がいよう職員配置に考慮して動く。	1. 定期的実施	ほぼ毎日	3. 未実施	0	1. 定期的実施	ほぼ毎日	大勢の児童が一緒に走り回っていた。遊具の注意喚起が徹底できていなかった。	危険行為が頻りに発生する。児童の遊びを十分に把握し、適切な言葉掛けを行って危険行為を取り除く。	1. 集団活動中・見守り	危険行為が頻りに発生する。児童の遊びを十分に把握し、適切な言葉掛けを行って危険行為を取り除く。	1. 1. いつもの様子であった	体調良好。友だちと談笑して登室。おやつも食べて完了。1階体育館では、音段と変わらぬ走り回りが続いていた。	3. 対象児から状況を確認し、対象児の動きを見なかった	対象児が座り込んだまま泣いている所を見、全体に声を掛けて遊ばせようとした。他の職員2名に指示を出し、対象児と関係なく、対象児の動きを確認する。状況を確認し、対象児の動きを見なかった。	1. 担当者・対象児の動きを見なかった	担当職員により、対象児以外の児童33名を2階育成室へ移動させる。うち1名は、担当職員により対象児の状態を確認し、対象児を連れて他児より先に2階育成室へ移動を行う。	・児童の活動する全ての場所を巡回し、危険な場合は遊びを中断し、当該児童だけを連れて行く。 ・児童の活動する全ての場所を巡回し、危険な場合は遊びを中断し、当該児童だけを連れて行く。	
3191	令和3年5月12日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8. 学童	52	5	6. 19. 7歳	2. 女児	-	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的実施	1. 基準配置	・職員間で事故を未然に防ぐ事に対する意識の向上を図るよう会議などで話していく。	1. 定期的実施	12	1. 定期的実施	24	・館庭で鬼ごっこ等で遊ぶ場合の人数を分ける、交代制にする等十分なスペースをとって遊ぶように、状況に応じて対応していく。	・子どもに夢中になり、遊具の隙間に入り込んでしまった。	1. 集団活動中・見守り	・鬼ごっこに夢中になり逃げたことになってしまった。	1. 1. いつもの様子であった	逃げることに夢中になって走り回っていた。	3. 対象児から状況を確認し、対象児の動きを見なかった	本児の急な動きを予測できず、手を伸ばさなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	片付けはじめて室内に帰った。対象児の動きを見なかった。	・外遊びの終了を知らせる時に子ども達と一緒に遊ぶ時間を決めて遊ぶようにする。				

3199	令和3年5月12日	2.認可外	17.地方単独保育施設	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	1	1	4	2	1	0	0	0	3歳	2.女児	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	顔面(口腔内含む)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	危機管理に対する意識が低く、何かあった時の対応が明確化できていない。	1.定期的 に実施	3.未実施	1.定期的 に実施	7.その他	保育室に残る職員をしっかりと受け、一人ひとりの行動を共にし通る様子をみていく。また、声を出して共通理解の中で子どもや現状の把握が出来るようにしていく。	1.いつものお様子であった	(具体的内容記載欄)お迎えが来ている間はいつも通りに準備ができていた。職員に促されて一人での身支度準備となる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	思ったが間に合わなかった。	保育室に声掛けはしていたが、安全面への意識はなかった。また、職員同士の声掛けが徹底しておらず本児の行動に對しての声掛けができていなかった。	保育室を離れる際には声を掛け、配置をしっかりと行ってから離れる様にす。また、18時以降は荷物を持って0歳児室に移動し職員が見守れる中で過ごせる様にする。
3200	令和3年5月12日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	7.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19		2	6	6	5		6歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的 に実施	1.基準以上配置		1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	床の状況をチェックし、滑りやすい場合は雑巾等で拭く	3.個人活動中・見守り	座って待つよう指示する。	1.いつものお様子であった	(具体的内容記載欄)小さい子から順にトイレを使っていたため、待っている間、静になり歩いていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	同上	職員がより一層子ども達の行動に目を配り、声を掛け注意していく。	